

ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校 報告書

平成27年度道徳教育総合支援事業

平成28年3月

福島県教育委員会



はじめに

本報告書は、「ふくしま道徳教育推進プラン」として、県内7地区における小・中・高等学校7校の推進校が実践研究を行い、1年間に取り組んだ道徳教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、①道徳教育を学校全体でどのように推進していくのか、②道徳教育推進教師はどのような役割を果たしていくのか、③道徳の時間の授業をどのように展開していくのかについて、その取組の実際を次のプロットに従って報告しております。

なお、道徳の時間の授業については、ふくしま道徳教育資料集「第Ⅰ集『生きぬく・いのち』」「第Ⅱ集『敬愛・つながる思い』」「第Ⅲ集『郷土愛・ふくしまの未来へ』」を活用した実践を多く紹介しております。

1年間で取り組んだ各校の実践のテーマは、次のとおりです。

福島市立北信中学校	一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか
須賀川市立第三小学校	豊かな心を持ち、ともに関わりあって生きる子どもの育成
鮫川村立鮫川小学校	豊かななかかわりの中で、自己を見つめ、共によりよく生きようとする子どもの育成
福島県立大沼高等学校	道徳教育における多様で効果的な指導方法の工夫
只見町立只見小学校	人とのなかかわりの中で自己を見つめ、ともによりよく生きようとする児童の育成
相馬市立中村第一中学校	自他のよさを認め、お互いを大切にして、より良く生きようとする生徒の育成
いわき市立小川中学校	ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか

【報告書のプロット】

- 1 学校紹介
- 2 研究テーマ
- 3 テーマ設定の理由
- 4 研究計画
- 5 児童生徒の実態及び地域の課題
- 6 道徳教育における校長の指導の方針
- 7 平成27年度 道徳教育の全体計画について
- 8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について
- 9 平成27年度 学級における指導計画について
- 10 道徳教育推進教師の実践について
- 11 道徳の時間について
- 12 成果と課題

《道徳教育推進教師の役割》

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
 - イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
 - ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
 - エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
 - オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
 - カ 授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
 - キ 道徳教育の研修の充実に関すること
 - ク 道徳教育における評価に関すること
- (「学習指導要領解説道徳編」より)

《目次》

はじめに

1 道徳教育推進校報告

(1) 県北地区	福島市立北信中学校	5
(2) 県中地区	須賀川市立第三小学校	23
(3) 県南地区	鮫川村立鮫川小学校	43
(4) 会津地区	福島県立大沼高等学校	59
(5) 南会津地区	只見町立只見小学校	75
(6) 相双地区	相馬市立中村第一中学校	99
(7) いわき地区	いわき市立小川中学校	117

2 資料

○ 「ふくしま道徳教育推進プラン」	136
○ 道徳教育推進校の役割について	137
○ 道徳だより「道徳のかけ橋」第6～8号	139

はじめに

本報告書は、「ふくしま道徳教育推進プラン」として、県内7地区における小・中・高等学校7校の推進校が実践研究を行い、1年間に取り組んだ道徳教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、①道徳教育を学校全体でどのように推進していくのか、②道徳教育推進教師はどのような役割を果たしていくのか、③道徳の時間の授業をどのように展開していくのかについて、その取組の実際を次のプロットに従って報告しております。

なお、道徳の時間の授業については、ふくしま道徳教育資料集「第Ⅰ集『生きぬく・いのち』」「第Ⅱ集『敬愛・つながる思い』」「第Ⅲ集『郷土愛・ふくしまの未来へ』」を活用した実践を多く紹介しております。

1年間で取り組んだ各校の実践のテーマは、次のとおりです。

福島市立北信中学校	一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか
須賀川市立第三小学校	豊かな心を持ち、ともに関わりあって生きる子どもの育成
鮫川村立鮫川小学校	豊かなかかわりの中で、自己を見つめ、共によりよく生きようとする子どもの育成
福島県立大沼高等学校	道徳教育における多様で効果的な指導方法の工夫
只見町立只見小学校	人とのかかわりの中で自己を見つめ、ともにによりよく生きようとする児童の育成
相馬市立中村第一中学校	自他のよさを認め、お互いを大切にして、より良く生きようとする生徒の育成
いわき市立小川中学校	ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか

【報告書のプロット】

- 1 学校紹介
- 2 研究テーマ
- 3 テーマ設定の理由
- 4 研究計画
- 5 児童生徒の実態及び地域の課題
- 6 道徳教育における校長の指導の方針
- 7 平成27年度 道徳教育の全体計画について
- 8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別業」について
- 9 平成27年度 学級における指導計画について
- 10 道徳教育推進教師の実践について
- 11 道徳の時間について
- 12 成果と課題

《道徳教育推進教師の役割》

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
 - イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
 - ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
 - エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
 - オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
 - カ 授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
 - キ 道徳教育の研修の充実に関すること
 - ク 道徳教育における評価に関すること
- (「学習指導要領解説道徳編」より)

「ふくしま道徳教育資料集」実践事例一覧

校種	学年	資料名	内容項目	実践校	ページ
小学校	2年	あいづの三なき（第Ⅲ集）	思いやり・親切	第三小	36
	3年	たいこの音（第Ⅲ集）	勤勉努力	第三小	39
	5年	きぼうの水族館 ～アクアマリンふくしま～（第Ⅰ集）	希望・勇気、努力	第三小	41
	4年	がんばらやんばい（第Ⅱ集）	尊敬・感謝	鮫川小	55
	3年	クリスマスのおくりもの（第Ⅰ集）	思いやり・親切	鮫川小	57
	3年	たいこの音（第Ⅲ集）	不撓不屈・努力	只見小	94
	6年	きぼうの水族館 ～アクアマリンふくしま～（第Ⅰ集）	希望・勇気・不撓不屈	只見小	96
	中学校	1年	あこがれの消防団（第Ⅲ集）	強い意志・希望	北信中
2年		五〇〇人の大家族（第Ⅱ集）	温かい人間愛 思いやり・感謝	北信中	14
3年		それでも僕は桃を買う（第Ⅲ集）	公正公平	北信中	16
2年		命のおにぎり（第Ⅲ集）	思いやり	中村一中	111
2年		家路（第Ⅱ集）	感謝の心	中村一中	114
1年		それでも僕は桃を買う（第Ⅲ集）	公正公平	小川中	122
2年		水道部隊の軌跡（第Ⅲ集）	勤労の意義 奉仕の精神	小川中	125
高校学校		2年	もう一人の八重 ～日本のマザーテレサ「井深八重」～（第Ⅱ集）	人間愛	大沼高校
	2年	私の明日（第Ⅱ集）	家族愛	大沼高校	73

【県北地区】福島市立北信中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学校名	福島市立北信中学校
所在地	福島市鎌田字御仮家20番地
校長名	小針 伸一
学校の教育目標	確かな学力を身につける生徒 豊かな心を身につける生徒 たくましい活力を身につける生徒
学級及び生徒数	31学級 885名
学校教育にかかる取組の概要	豊かな心と道徳性の育成を目標に、「道徳の時間」を中心に以下の手立てに重点をおいて道徳教育を実践する。 ○ ふるさを題材にした資料など、心に響く資料の選択と活用の工夫 ○ 生徒一人ひとりの考えをゆさぶる発問構成の工夫 ○ 心と向き合う振り返り活動の工夫

2 研究テーマ

「一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか」

3 テーマ設定の理由

現代日本は、国際化や情報化、科学技術の発展等により物質的に豊かで便利な社会生活を手に入れることができた。同時に、環境問題や経済格差の増大、家庭や地域の教育力の低下、自然体験や社会体験の不足など子どもたちを取り巻く環境も大きく変化している。このような状況の中、学校においては不登校やいじめ、反社会的な行為など様々な問題が、山積しており、それらの課題解決のためには、豊かな人間性の育成が求められている。とりわけ道徳教育の充実強化を図ることはきわめて重要であると考え。そこで、学校教育法の改正や学習指導要領の改正もふまえながら、より深く、より内面に根ざした道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養っていくことを目標に、「一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか」をテーマに研究を進めることにした。また、道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、道徳教育の充実を図りながら「生きる力」を育てていきたいと考える。

特に今年度は、福島県の中学校教育研究会道徳部会のテーマとの関連も図りながら、以下のような手立てを講じ研究を進めることとした。

○ ふるさを題材にした資料など、心に響く資料の選択と活用の工夫

東日本大震災から4年が過ぎたが、いまだに福島の復興は道半ばである。この困難な状況を乗り越えていくことのできる、力強く、たくましい人材が今求められており、そのためにも、愛するふるさと福島を取り扱った資料を通して、生徒一人ひとりの心に響く道徳の授業を行っていくことが必要である。そこで、どんな資料を、どのように活用し、提示していくのか

について研究していく。

○ 生徒一人ひとりの考えをゆさぶる発問構成の工夫

道徳の授業において、いわゆる展開前段では、中心価値の追求・把握をすることによって、登場人物の心情に迫ったり、その心情に共感して考えを深めたりしていくことになる。その際、生徒の考えをゆさぶるような主発問やそれをささえる補助発問をどう構成していくかについて考えることは大変重要である。発問によって、生徒の道徳的価値の自覚が深まるかどうかが決まってしまうことがある。そこで、より効果的な発問構成はどうあればよいかについて研究していく。

○ 心と向き合う振り返り活動の工夫

道徳の授業において、いわゆる展開後段では、展開前段で話し合ってきた中心価値と、これまでの自分、今の自分を照らし合わせ、自分自身はどうだったのか、一人ひとりに内面的自覚をさせることによって、自己を振り返らせていくことがポイントになる。これが道徳の最大の特徴とも言える。自分自身をどう振り返らせていくのか、その内容や方法について研究していく。

4 研究計画

4月2日	第1回研究協議会 ・研究主題・副主題，研究仮説，研究の方向性，学習指導案形式等の提案 ・学校訪問時の教科等の決定（各学年で道徳の授業を） ・学習指導案(学校訪問用)提示 ・「道徳教育推進校」としての1年間の計画提案
9日	中教研との連携（道徳部会に各学年から2名所属） （各学年の研究推進委員と道徳担当者）
20日	道徳パイロット授業（道徳教育推進教師）
5月15日	第1回研究協議会 ・学習指導案(学校訪問)完成 ・道徳公開授業 授業者（各学年1名）決定 ・道徳公開授業 資料検討（中心価値[内容項目]等）
28日	学校訪問 道徳分科会での指導助言
6月18日	具体的な手立ての検討・決定
19日	全校での道徳アンケート調査，HUMANⅢの実施（各学年抽出学級）
7月下旬	◎ 教師向け道徳教育講演の講師依頼 ◎ 全校での道徳アンケート集計・分析 ◎ HUMANⅢの結果分析 ◎ 研究授業日程，学級の決定 ◎ 指導案の作成（全教員対象） ◎ 道徳公開授業指導案作成・検討開始（公開授業者を中心に学年全体で）

8月下旬	◎ 全教員による研究授業の実施（～11月） ◎ 道徳公開授業指導案提出 ◎ 教師向け道徳教育講演（28日）	
9月上旬	◎ 道徳公開授業指導案検討 研究授業実施（公開授業者以外で） ↓ 検討・改善 ↓ 完成 ◎ 全校生対象道徳講演会の講師依頼	
10月中旬	◎ 道徳公開授業指導案での研究授業	
11月上旬	◎ 全校生対象道徳講演会の実施 ◎ 公開授業〔各学年1授業〕（11月12日） ◎ 全校での道徳アンケート調査（2回目） ◎ HUMANⅢの実施（2回目）	
12月上旬	◎ 全校での道徳アンケート集計・分析 ◎ HUMANⅢの結果分析 ◎ 研究のまとめ（学校全体で1冊に）	

5 生徒の実態及び地域の課題

本校は福島市の北部に位置し、1年生10学級、2年生9学級、3年生10学級と特別支援学級2学級があり、全校生885名の県内でも有数のマンモス校である。そのため、学校での問題を抱えた生徒だけでなく、様々な家庭での問題を抱えた生徒も多く、個々の生徒を取り巻く環境はとても複雑であり、多様化している。

本校生徒は、委員会活動や清掃活動などに意欲的に取り組む生徒が多い。また、部活動も盛んで、各種大会やコンクールでも結果を残している。一方で、自律心や規範意識が低く、基本的な生活習慣が十分に確立していない生徒も目につく。

本校独自に行った道徳意識調査では、「道徳の時間は好きか」という質問に対し、「大好き」「好き」と答えた生徒は全校生の約74%にのぼり、全体的に道徳の時間が好きな生徒が多いことがわかる。特に、1年生では約21%の生徒が「大好き」と回答しており、道徳の時間に対する小学校からの良い影響もあると思われる。2年生、3年生で「大好き」と回答した生徒はどちらも約14%となっており、中学校に入学してから道徳が好きな生徒が減ってきていると考えることができる。また、「学校行事やクラスの行事に積極的に参加し、励まし合い、よりよい学級生活を作ろうとしている」「いじめを見たりすると放っておけない」という質問に対して、「そう思う」「どちらかというと思う」と回答している生徒の割合が他の質問項目に比べ低く、わかっているにもかかわらず実践に移せない生徒が多く、道徳的行為を行うための意欲や態度の育成も課題の1つであると考えられる。そのため、道徳の授業を中心に道徳教育の充実を図り、道徳的価値についての自覚を深め、道徳的実践につなげていきたい。

6 道徳教育における校長の指導方針 ※資料1

(1) 豊かな心、道徳性の育成について

- ① 生命を尊び、大切にす態度と道徳的実践力の育成に努める。
- ② 道徳の時間の時数確保と教材、実践例の共有化を図る。
- ③ ボランティア活動の指導充実を図り、奉仕、社会貢献への心の育成に努める。
- (2) 体力向上、保健安全指導の充実について
 - ① 人格形成の場として部活動をとらえ、健全な心身の育成に努める。
 - ② 健康教育や教育相談を計画的に実施し、望ましい生活習慣を身につけさせる。
 - ③ 心理的要因による不適応生徒の早期発見・早期指導に努める。
- (3) 生徒指導の充実
 - ① 学年・学級経営を基盤として、生徒理解と教育相談を中核とした生徒指導に努める。
 - ② 生徒一人一人の自己実現をめざす活動を援助し、学校生活に満足感・成就感をもてる指導・援助に努める。
 - ③ 生徒活動の場を保障し、体験を通して学ぶ機会の拡充に努める。
 - ④ 小中接続をふまえて不登校傾向、問題行動の早期発見と早期指導に努め、楽しい学校生活ができるように指導・援助する。
 - ⑤ 生命尊重を基盤とした安全指導・安全管理に努める。

7 平成27年度 道徳教育の全体計画について ※資料2

- (1) 学校として道徳教育の組織的な取組ができるように道徳教育推進部の教師を中心に作成した。
- (2) 時代や社会の要請や家庭や地域社会などとの連携を考慮しながら、発達段階に応じた各学年の重点目標を設定した。

8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について ※資料3

これまでの道徳教育の全体計画を見直し、道徳と各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関わりを明確にした「道徳教育別葉」を作成した。今年度の取組を基に、変更や修正を加え、より効果的なものにしていきたい。

9 平成27年度 学級における指導計画について ※資料4

道徳教育全体計画を柱にし、学級活動や総合的な学習の時間との関連を図りながら、指導の重点を明確にした。また、価値項目の配列を工夫し、より生徒にとって効果的な指導となるよう配慮した。

10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 道徳教育推進のための組織と推進教師の役割

本校では、校長・教頭・教務主任・研究主任・道徳教育推進教師を中心とした研究推進委員会を組織し、月3回程度開いている。道徳教育推進教師は第1・2・3学年道徳教育担当の代表者である。この会議を通して、道徳教育推進教師は生徒の実態把握のための道徳意識調査の作成、授業研究の方向性の確認、全体計画別葉の作成、道徳授業の課題の確認などを行った。

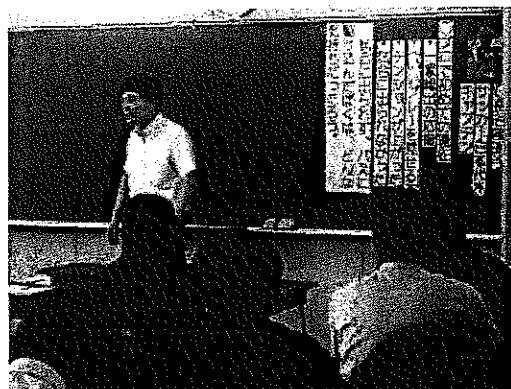
(2) 道徳意識調査について

生徒の実態把握のための道徳意識調査は、生徒用と教師用の2つを作成した。それぞれ15の項目を設け、各項目は生徒用と教師用ともに同じ視点についてのものであ

る。6月と11月に実施し、それぞれの項目の変容を分析した。結果は次年度の学校全体の道徳教育推進計画に反映させることを目指している。

(3) 授業研究のあり方について

授業研究については、研究主任が作成した研究計画に基づき、全教師が一人一回の授業研究を進めてきた。4月の研究協議会において、今年度の研究の進め方について確認した後、道徳教育推進教師によるパイロット授業を行った。



学習指導過程については、導入・展開前段・展開後段・終末の4つの段階についてそれぞれ具体的に確認した。導入では、中心価値に対する方向付けをしっかりと行うこと。

展開前段では、資料を通して生徒に一番考えさせたい場面を中心発問とし、発問の精選を図ること。展開後段では、資料から離れた生徒自身の振り返りの時間を確保し、価値の一般化を図ること。終末では、映像や歌、詩などを活用した価値の深化を図ること。こうした確認事項を協議会やパイロット授業を通して、基本的な道徳の時間の進め方について共通理解を図った。本校がこれまでに取り組んできた道徳の時間の考え方や進め方を全教員で確認し、今年1年間の道徳教育のスタートを切った。

(4) 全体計画別業について

全体計画別業は、道徳教育推進教師が総合学習・特別活動・各教科主任と協議して作成した。各教科・領域と道徳の時間との関連を考慮し、本校の実践と結びつくよう配慮して作成した。

(5) おわりに

本校の研究テーマは、「一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか」である。道徳教育の要である道徳の時間の充実を目指し、授業研究に取り組んできた。道徳教育推進教師はその中心として、道徳の時間の取組に対するサポートを行っている。授業研究を通して、教師間のコミュニケーションが図られ、共通の意識をもって道徳教育に携わる体制を作り出すことができた。

1.1 道徳の時間について（別添参照）

1.2 成果と課題（成果○ 課題●）

【手だて1】 ふるさとを題材にした資料など、心に響く資料の選択と活用の工夫

- 「ふくしま道徳教育資料」を活用し、東日本大震災や当時の福島を振り返り、関心をもたせたりするようにした。震災当時の写真や資料を提示したことで、さらに生徒たちは興味をもって資料を読み、当時の状況や心境について思い出し、資料の内容の理解や価値を深めることができた。また、目標に向かって努力している福島市出身のアスリートを紹介することで、生徒たちは強い関心を示した。アスリートの考え方や生き方を伝えることで、生徒たちは希望やあきらめない心をもつことの大切さを感じ、

価値を深めることができた。

- ふるさとを題材とした資料を活用することで、資料を身近なものに感じさせることができるが、一人ひとりの震災での体験や震災後の状況、考え方等が違うこともあり、十分配慮が必要だと感じた。事前に家庭環境や生活環境など実態を把握することも必要だと考えられる。

【手だて2】生徒一人ひとりの考えをゆさぶる発問構成の工夫

- 資料の展開に沿って、登場人物の気持ちの変化がとらえられるような発問を準備したり、その変化が視覚的につかめるよう、板書を構造的にすることにより、生徒は登場人物の生き方や考え方を理解しながら共感することができていた。自分の内面と向き合うような発問や自分の経験を振り返る発問をすることで、生徒は「自分だったらこうする」「自分はできる（できない）」などと自分のこととして考えようとすることができていた。
- 中心価値にさらに深く迫るための、中心発問の吟味、発問に対する生徒の考えや発言の取り上げ方が課題である。補助発問の準備もふくめ、発問を工夫したり、生徒の意見の取り上げ方を工夫することで、一人ひとりの思考が深まると考えられる。それによって、自分のこととしてとらえ、「行為」だけではなくその「行為」の裏付けとなる内面についての考えも深まり、主体的な学びが可能になると思われる。

【手だて3】心と向き合う振り返り活動の工夫

- 心情円盤や心情グラフとワークシートを併用することで、自分のこれまでを振り返る場を設け、考えさせることができた。特に色分けされた円盤・グラフを用いて表現させることは、視覚的にとらえやすく、他の生徒との比較や教師が生徒の心情を理解することにも役立てることができた。また、心情曲線で主人公の思いを視覚的にとらえることができ、生徒同士が考えを共有したり、教師側が追指導していく際の資料として活用したりすることができた。
- 振り返りの時間の確保と価値の一般化を図るための工夫が課題として挙げられる。資料から考え、学んだ価値、他の生徒とのかかわりの中で深められた価値を、これまでの自分、今の自分を照らし合わせ、自分自身はどうだったのかを考える時間を十分に保証することが必要である。また、資料の読みとりにとどまらず、資料を離れ自分自身のこととして自覚させるような効果的な活動の工夫について研修を深めていく必要があると思われる。

1 1 道徳の時間について

中学校第1学年 道徳学習指導案

日時：平成27年11月12日(木) 第3校時
 授業者：福島市立北信中学校 瀬尾 純子

授業テーマ	一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか。
-------	---------------------------

- 1 主題名 『強い意志・希望』 1-(2) 強い意志・希望
- 2 資料名 『あこがれの消防団』
 (出典：ふくしま道徳教育資料集 第三集「郷土愛・ふくしまの未来へ」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人としてよりよく生きていくためには、目標や希望をもつことが大切である。「目標」には、将来を見据えて、進路を決めていくものと、日常的な努力によって達成できる身近なものがある。小さな目標であっても、それが達成できたときは、喜びや満足を感じ、自信につながっていくものである。このような達成感、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓いていく原動力となり、さらに高い目標を目指そうとする勇気や意欲を引き起こすことになる。

中学生の時期は、自分の好きなことに対しては、意欲的に取り組もうとする態度が育ってくるものの、困難に直面すると簡単にあきらめてしまうことも多い。困難に屈せず、ねばり強くやり抜く強い意志と態度を育てたい。

(2) 生徒の実態

男子14、女子13、計27名の学級である。明るく素直な生徒が多く、日常生活の中では前向きな姿が見られる。HUMANⅢ(新道徳性検査)によると、1-(2)「強い意志」の「失敗や障害にはくじけずにやりぬく。」は全国が38%に対して、本学級は52%と高い。しかし、日々の生活の中で、やらなければならないことに対して、面倒になってやらなかったり、困難にぶつかるとあきらめてしまったりする姿も見られる。

(3) 資料について

消防団にあこがれを抱いていた主人公が、東日本大震災での消防団の悲劇を目の当たりにし、くじけそうになる。同じ年、主人公の自宅が豪雨による土砂災害にあい、その復旧作業で地元消防団に支えられる。その姿を見た主人公が、再び消防団へのあこがれを取り戻す姿が描かれた資料である。主人公の心の変化が丁寧に描かれており、希望をもちながらも挫折しそうになる主人公の姿に、生徒自身は共感しながら読み、くじけないでやりぬこうとすることの大切さについて考えるのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

本時では、消防団へのあこがれをもっていた主人公が、いったんはくじけそうになるものの、豪雨災害での消防団の活躍を目にして、再び消防団へ入ることを目指すようになる心情の変化を読み取ることを通して、くじけずにやりぬくことの大切さに気付かせたい。


その際、主人公の心情をつかむために、ペーパーサート(吹き出し等)を用い、イメージしやすくする。また、自分を振り返る時間を十分に確保し、自分について実際の体験や気持ちを見つめ直すようにさせる。

さらに、くじけずにやりぬこうとすることが自分を成長させることや、目標をもつことが、日々の生活を充実させることにもつながっていくことの例として、福島市出身のアスリートを紹介し、価値の深化を図る。

4 本時のねらい

主人公の消防団に対する心情について考えることを通して、困難に直面し挫折しても、それを乗り越え、希望と勇気をもってやりぬこうとする態度を育てる。

5 板書計画

<p>今までのあきらめず、がんばったことやがんばれなかったこと、そのときの気持ちについて振り返ろう！</p>	 <p>僕の絵</p>	<p>僕は消防団の姿を見てどのよう なことを考えた のだろうか？</p>	<p>豪雨災害での消防団の姿</p>	<p>あこがれの消防団 消防団はヒーロー 消防団に入りたい！</p>
			<p>東日本大震災 無念の涙を見て 消防団はつらい思いを するのだ</p>	

段階	学習活動・学習内容	時間 形態	○ 留意点 ◆ 評価 ◎研究主題とのかかわり
導 入	1 問題の意識化・価値への方向付け (1) 将来の夢や希望について、事前アンケートの結果を知る。	7 一斉	○ 小学生のときに抱いていた将来の夢や希望についてのアンケートの結果を提示することで価値の方向づけを図り、また、題名や登場人物の説明をすることで、興味をもって資料を読み、考えるようにさせる。
展	2 価値の追求・把握 (1) 資料「あこがれの消防団」の朗読を聞く。 (2) 消防団にあこがれを抱いていた主人公が、震災での消防団の悲劇を目の当たりにしたときの心情について考える。 ・困難な状況を目にして、くじけそうになる主人公。 (3) 再び消防団員になることを希望する主人公の心情の変化について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">主人公は消防団の姿を見て、どのようなことを考えたのだろうか。 (中心発問)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・困難な状況でも消防団員ががんばっていること。 ・消防団員が献身的に作業してくれているので、自分たちは助けられていること。 ・自分たちに声をかけてくれて、気持ちまで救ってくれるのが消防団の仕事だということ。 ・自分も消防団の一員になり、困っている人を助けたいということ。 	25 一斉 一斉 個人	○ ペープサートを活用することで、場面の様子を理解させる。 ○ あこがれの存在であった消防団員の無念の涙に着目させることにより、理想とは違うつらい現実を意識する主人公の心情をとらえさせる。 ○ ワークシートに書かせることで、自分の考えをもって、しっかりと話し合えるようにさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◎ 「これが消防団か……」に着目させ、「……」に込められた主人公の心情を考えさせる際、イメージしやすくするため吹き出しを提示し、多様な意見を引き出したい。 【手だて2】</div> <p>◆ 主人公の心情の変化から、困難に直面しても、希望をもってやりぬこうとする心情を理解することができたか。 (ワークシート・発表)</p>
開	3 価値の内面的自覚 (1) 今までに、あきらめずにがんばったことやがんばれなかったことやそのときの気持ちについて振り返る。	12 一斉 個人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◎ あきらめなかったことの割合を、心情グラフを活用し振り返ったあとで、その中で一番心に残っていることとそのときの気持ちについて、ワークシートに記入させる。 【手だて3】</div> <p>◆ これまでの自分について、実際の体験や気持ちを振り返ることができたか。 (ワークシート)</p>
終 末	4 価値の深化 (1) 教師の説話を聞く。 ・強い意志・希望 ・あきらめない心	6 一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">◎ 福島市出身のアスリートの話を伝えることで、本時のねらいを振り返り、意識の継続化を図る。 【手だて1】</div>

7 成果と課題

- ペープサートの活用により、生徒が主人公の気持ちを想像することや変化をとらえるためのサポートをすることができた。生徒から出された意見を生かしながら、構造化した板書をする中で、さまざまな考えを知らせ、くじけないことや希望をもつことの大切さに気付かせることができた。
- 資料から離れ自分を振り返る場面では、心情グラフを用いることと、ワークシートに書かせることの2つの活動を取り入れたことにより、今までの自分を総合的に見つめ直したり、心に残っている経験をじっくりと振り返ったりすることができた。
- 分科会では、中心発問に対する生徒の考えがプラスのものばかりであったため、マイナス的な意見も取り上げることで、さらに生徒の心を揺さぶり、深く価値に迫ることができたのではないかという意見が出された。今後は、中心発問、さらには補助発問を吟味し、葛藤の場面を意図的に設定するとともに、生徒の考えやつぶやきをうまく吸い上げ、価値の追求、深化を図れるようにしていきたい。

授業テーマ	一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか。
-------	---------------------------

- 1 主題名 『温かい人間愛』 中心価値：[温かい人間愛・思いやり・感謝 2－(2)]
- 2 資料名 『五〇〇人の大家族』（出典：ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

私たちは、豊かで恵まれた毎日の生活の中で、ややもすると人間関係が希薄になり、自分たちの生活が互いの支え合いや助け合いによって成り立っているという大原則を見失いがちである。

中学生のこの時期は、とかく利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走ってしまう場合がある。しかし、人は他との関わりなしで生きていくことはできず、今の自分があるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚することで、人は自ずと他者への感謝の念を抱くようになる。この感謝の念が他者への温かい人間愛の精神へと結び付いていくのであり、この価値を身に付けることは人としてきわめて大切なことである。そして、これが自覚できるようになると、自然と他者の立場を尊重し、人間愛としての「思いやり・いたわり・励まし・感謝」といった行動や生き方となって、表に現れてくるようになるのである。

(2) 生徒の実態

授業や休み時間などの様子を見ると、穏やかな雰囲気の学級である。男女問わず相手の立場を尊重し、励ます言葉をかけることができる生徒もいる。一方で、考えずに発した言葉で相手を傷つけてしまう生徒や、自己中心的な行動が目立ち、なるべく面倒なことには関わりたくないという無関心を装う生徒もいる。アンケートによると「人には親切にし、困っているときは、進んで助けている」の項目で29人中6人の生徒が「そうしたいと思うが、なかなかできない」と答えており、1人の生徒は「他人が困っていても気にならない」と答えていた。自分が現在あるのは、多くの人によって支えられてきたからであることを自覚させたい。

(3) 資料について

本資料は、大震災発生の翌日、地盤が固く、被害が少なかった会津の温泉旅館が被災者たちの無料受け入れを決断し、実行した感動の実話である。原発事故の混乱がいつまで続くかわからない中、主人公は、震災で温泉街の観光客が激減するのが目に見えているのに、なぜ、被災者である自分たちが、無償で被災者たちを受け入れなければならないのかと、父の判断に不安を募らせる。そんな時、同じ福島県に住む者同士が互いに助け合い、思いやりながら生きている姿を目の当たりにする。さらに、受け入れを決めた父の思いを知ること、避難してきた人たちを支えていた自分もまた支えられている存在であるということに気付いていく。他を思いやり感謝する心が「温かい人間愛」へ、そして生きる喜びへと通じていくことを伝えてくれる資料である。



(4) 指導にあたって

中学生の時期は、誰かと人間的な関わりを強く望む一方で、自分の力でなんでもできる、干渉しないほしいと思う矛盾した気持ちをかかえている。また、自分の立ち位置からしか物事が見えず、時として自分のことを優先してしまいがちでもある。この時期に、本資料「五〇〇人の大家族」を通して、「他者とのかわり、支え合い、思いやり、感謝、人間愛」について考えさせたい。震災後の混乱の中で経営危機を省みずに被災者救済を真っ先に決断した父の温かい人間愛について考えさせることを通して、自分の日々の生活がいかに多くの友達や周囲の人々に支えられているかということに気付かせるとともに、身の回りの人々を思いやり、行動しようとする態度を育てたいと考える。

4 本時のねらい

どんなときでも、人は互いを思いやり、支え合いながら生活していることに気づき、身の回りの人々を思いやり、行動しようとする態度を育てる。

5 板書計画

<p>私</p>  <p>心情円盤</p> <p>私たちも被災者 無料なんて旅館がつぶれる</p>	<p>三階の食事は私が運びます</p> <p>父や兄の仕事を手伝おう 自分も支えられて生きている 自分ができる恩返しをしよう わたしもできることをしよう</p>	<p>父親</p>  <p>心情円盤</p> <p>今までに自分が 人を支えて感謝された経験 人から支えられて感謝した経験</p>	<p>五〇〇人の大家族</p> <p>東日本大震災 翌日</p> <p>温泉旅館</p> <p>被災者を無料で引き受けよう 五〇〇人の大家族 お客さんは家族同然 多くの人に支えられてきた 恩返し</p>
--	--	--	---

6 指導過程

段階	学習活動・内容	時間形態	留意点 ◆評価
			◎研究主題とのかかわり
導入	1 問題の意識化・価値への方向付け (1) 東日本大震災の時の写真を見て、当時の様子や心境について思い出す。	5 一斉	○ 4年前の震災当時の状況が分かる写真や、復興に携わっている人たちの写真を見せ、本時の価値の方向付けを行う。
展 開	2 価値の追求・把握 (1) 資料「五〇〇人の大家族」の朗読を聞く。 (2) 父が被災者を無料で引き受けると言ったときの私の気持ちを考える。 ・ 私たちも被災者だ ・ 旅館の経営が成り立たなくなる (3) 「五〇〇人の大家族」という言葉から父の思いと決意を考える。 ・ 三代にわたって旅館を運営できたことへの感謝 ・ お客さんは家族同然 ・ 今が恩返しするとき (4) 私の心情の変化について考える。 私はどんな気持ちで「3階の食事は私が運びます」と言ったのでしょうか。 (中心発問) ・ 父や兄の仕事を手伝おう ・ 自分も支えられて生きている ・ 自分ができる恩返しをしよう	30 (8) 一斉 (5) 一斉 (12) 一斉 (5) 一斉	◎ ふるさと福島を題材にした実話資料であることを伝え関心をもたせる。【手だて1】 ○ 今後の旅館の経営や、家族も同然の従業員たちの生活を心配していることに気付かせる。 ○ 父の「後悔したくない」という言葉にも目を向けさせる。 ◎ 被災者を支えているつもりの自分も、実は支えられていたことに気付かせる。【手だて2】 ○ 身のまわりの人々を思いやり行動しようという気持ちにかわっていったことに気付かせる。 ◆ 自分のことしか考えていなかった私が、周囲の人たちの言動や父の心情に触れて、人は互いに助け合い、支え合って生きていることに気づくことができたか。 (ワークシート・発表)
	3 価値の内面的自覚 (1) 今までに、自分が人から支えてもらい感謝した経験や、自分が人を支えてあげて感謝された経験について振り返る。	10 個人	◎ 心情円盤を活用し、相手を思いやり、行動する気持ちを表現し、自分自身をしっかり見つめさせる。【手だて3】 ◆ これまでの自分について、価値と照らし合わせて振り返ることができたか。 (ワークシート・発表)
終末	4 価値の深化 (1) 「OMOIYARIのうた」を紹介する。	5 一斉	○ 日常生活の中でも、常に身の回りの人を思いやり、行動しようとする態度が人として大切であることを詩を通して再認識させ、価値の深化を図る。

7 成果と課題

- ふるさとを題材にした資料を使い、さらに同じ中学生が書いた作文であることが、生徒の興味を引き、自分だったらと身近に考えることができた。また、心情円盤を用いることで、気持ちの変化を自他ともに確認でき効果的であった。感謝の気持ちを自分から表したいと考える生徒もおり、ギブアンドテイクではなくそこに思いやりの気持ちが加わった心の交流を考えさせることができた。公開授業後の分科会でも「支えられて」という言葉が多く出ていましたという評価もいただいた。また、資料タイトルを伏せておき最後に見せたことや、資料の前半と後半を分断したがそれが生徒にとって考える時間を確保できたことは効果的であった。
- ふるさとを題材にした資料は効果があるが、まだ震災に対して心が落ち着かない生徒がおり、原発・放射線の言葉に敏感な生徒もいるので十分配慮したい。分科会では、登場人物の心情の変化は否定から肯定になることは予想できるので、父親の言葉を聞く前・後の自分の気持ちの変化を確認してもいいのではないかとご意見をいただいた。また、登場人物の中のおばあさんの存在に視点を置いたり、父や兄だったり立ち位置をそれぞれに置くことで資料から離れ、心の葛藤をさせることもできるという意見をいただいた。
これからの授業では、話し合い活動や問題解決的な活動を取り入れ、さまざまな考えや価値観と触れ、自己を振り返りさらに自分の考えを深めさせていくことが重要であると思われた。

授業テーマ	一人ひとりの心に響く道徳の授業はどうあればよいか。
-------	---------------------------

- 1 主題名 『差別・偏見の克服』 中心価値：[公正公平 4 - (3)]
 関連価値：[思いやり 2 - (2)]
- 2 資料名 『それでも僕は桃を買う』
 (出典：ふくしま道徳教育資料集 第三集「郷土愛・ふくしまの未来へ」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

この項目内容は、私心にとらわれて事実をゆがめることや、偏ったものの見方・考え方を避け、社会的な平等を目指す生徒を育てようとするものである。中学生になると、理想を求める気持ちや正義感も強くなっていく。その反面、周囲の目を意識し、多くの意見や考えに左右されたり、自己中心的な考え方や行動をとったりしがちとなる。そこで、自己中心的な考え方から抜けだし、集団のことに自分とのかかわりや社会の中における自分の立場に目を向け、社会をよりよくしていこうとする気持ちを育てていくことが大切である。

(2) 生徒の実態

本学級は31名(男子16名、女子15名)であり、何事もしっかりと取り組む姿勢がある。今年の6月に行われた新道徳性検査(HUMANⅢ)の結果は全国の平均とほぼ同じであった。その中で、「正・不正を判断し、正を愛し不正を憎む」と解答した生徒は、学級の60%に当たり全体としては正しい判断をし、公平公正に接しようという姿勢が見られる。しかし、実際の学校生活からは、わがままな態度やその場にふさわしくない態度をとっている友人がいても、見て見ぬふりをしてしまう場面も見られる。内心ではよくないと思っても、それをやめさせることには消極的になってしまうことも多い。

(3) 資料について

本資料は、全国人権作文コンテストの中学三年生の作文である。筆者が福島産という理由で桃を買おうとしなかった親子に出会ったことがきっかけで、筆者が「黙れ、中国人。」と過去に差別されたことを思い出す。差別された側の気持ちを知る筆者は、大きな決意をもって桃を買うという内容である。身近にも差別や偏見が存在していることに気付かせ、差別・偏見に左右されず、公正公平な社会を実現するためには、どのような行動をすべきかということを考えさせることができる資料である。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、まず導入で事前に実施したアンケートを基に血液型によるステレオタイプな分類や、血液型に対する偏見的な見方など日常にある潜在的な差別・偏見に気付かせる。

展開前段において、「福島産の桃」、「中国人の私」という根拠のない一方的な偏見・差別にさらされていることに触れ、主人公を通して差別される側の心情を考えさせたい。展開後段では自分が差別したり、偏見をもったりしたときの気持ちを振り返る。さらに自省することによって、差別や偏見をなくすように努力し、公正公平な明るい社会の実現を目指そうとする態度を育てたいと考える。

4 本時のねらい

福島産の桃に対する実態と、中国人である私の体験に基づく主人公の強い決意を考えることで、身近な差別や偏見に気付き、正義を重んじ公正で公平な社会を作り上げていこうとする態度を育てる。

5 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さいけれど大きな僕の決意 ・ 差別をされて嫌な思いをしたので、差別を絶い対しないようにする ・ 差別のない世界を築いていこうとする決意 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心の中で差別されていた ・ 中国ということでは色々思われていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嫌な気持ち ・ 福島産の差別 ・ 黙れ 中国人 ・ 黙れ 中国人 	<ul style="list-style-type: none"> それでも僕は桃を買う
--	--	---	--

6 学習過程

段階	学習活動・内容	時間形態	○ 留意点 ◆ 評価	◎ 研究主題との関わり
導 入	1 問題の意識化・価値への方向付け (1) 事前アンケートの結果を見て、血液型によるイメージや体験について話し合う。 ・A型は几帳面である。 ・B型は変わり者が多い。	5 一斉	○ アンケート結果を掲示し、血液型という身近な話題の潜在的な偏見に気付かせ、ねらいとする価値への方向付けをする。	
展 開	2 価値の追求・把握 (1) 資料「それでも僕は桃を買う」を読む。 (2) 私がサービスエリアで、「だってこの桃、福島産だよ。」という言葉聞いたとき、どんな気持ちだったかを考える。 ・差別的で嫌な気持ち。 ・生産者のことを考えると暗い気持ちになる。 (3) 私が友達とけんかした際に、「黙れ、中国人。」と言われたときの私の気持ちを考える。 ・自分ではどうすることもできないことを責められ、壁を感じた。 ・特殊な目で見られていたことを自覚し、悲しい。 ・国を馬鹿にされて悔しい。 (4) 私が桃を買おうと決意したのはどのような思いからなのだろう。(中心発問) ・桃を買うことは小さなことだが、これからは傷つく人がいることを考えると差別しないようにする。 ・どんな小さな差別や偏見にも立ち向かう勇気を持ちたい。	5 一斉 7 ペア 8 ペア 10 個別 (2) ↓ 班 (2) ↓ 発表 (6)	○ 教師が範読し、資料の概要を確認する。必要に応じて板書で補足する。 ◎ ふるさと福島を題材にした実話資料を提示し、関心をもたせる。【手だて1】 ○ こうしたやりとりは生徒にとっては桃に限らず耳にしたことがあると考えられる。主人公の気持ちを自分の経験に重ねて考えさせる。 ◎ 「福島産」「中国人」ということだけで、桃も私も差別されていることに触れ、主人公の憤りを理解させる。【手だて2】 ○ あえて桃を買う意味をグループとの意見交換を通じて深めさせる。 ◆ 差別や偏見を経験してきた主人公だからこそ、できる決意について考えることができる。 (発表・ワークシート)	
終 末	3 価値の内面的自覚 (1) あなたは今までに、差別や偏見をもって、人に接したことはあるか。そのときの気持ちを振り返る。	10 個別	○ 差別や偏見をもって人と接した経験について問うことで、これまでの生き方を振り返り、差別や偏見について今後とるべき姿を考えさせる。 ◆ 周囲との関係から自己を形成する中学生だからこそ、その過程でどのような差別や偏見があったのか、それによってどのような感情が芽生えたのかを自覚できている。 (観察・ワークシート)	
終 末	4 価値の深化 (1) W杯優勝を通して、人種差別問題を乗り越えたラグビー南アフリカ代表のエピソードを聞く。	5 一斉	○ 実際に差別を乗り越え、団結した話を聞くことで価値の深化を図る。	

7 成果と課題

- 前後左右でのペア学習、個人からグループ活動への形態の工夫が参考になった。
- グループ活動での教師の働きかけが的確であった。
- 差別するというのはマイナスなことであり、生徒にとって抵抗があると考えられる。
- 振り返りの時間で、まず教師の体験談として差別してしまった事柄を話してもよかった。

- 確かな学力を身につける生徒
- 豊かな心を身につける生徒
- たくましい活力を身につける生徒

地域の人材力

- 地域の人材活用、協力
- 地域の自然環境活用
- 地域の文化、史跡の利用
- 施設の利用

家庭・地域の教育力

- 規則正しい家庭生活の連携
- 学校と家庭・地域の連携
- 日常生活のしつけ
- 早寝、早起き、朝ご飯

求める教師像

- ◇ 研修で磨かれ、授業で勝負する教師
- ◇ 生徒に敬われ、一枚岩で実践する教師
- ◇ 時代を読んで読んで研修に励み、変容する教師

求める学校像

- ◇ 生徒、保護者の信頼に応える学校
- ◇ 地域から愛され、地域に開かれた学校

整然とした秩序の中で、生徒と教師がはたらきつと活動し、生きる力をはぐくむ学校

求める生徒像

- ◇ 自分で課題を解決する生徒
- ◇ 豊かな人間性に富んだ生徒
- ◇ 健全な心身と活力にあふれた生徒

教師の授業力

板書の工夫
(めあてとまとめの整合性)

ノート指導

発問の工夫

習熟の場・学び合いの場の設定

家庭学習の充実
(授業と関連、自主学習)

読書の充実

確かな学力の向上

- 1 3年間を見通したゆとりある指導計画の1層の充実
- 2 わかる・できる授業の進め方と個に応じた指導の工夫
- 3 学習の継続性を図る家庭学習習慣

心の教育の充実

- 1 道徳教育の1層の充実
- 2 学級活動、総合的な学習の時間の学習活動と関連づけた指導の工夫
- 3 心に寄り添う教育相談の1層の充実

授業の充実

生徒指導の充実
○ 生徒支援委員会
○ 発達障害対応

進路指導の充実
(キャリア教育)

保健安全指導の充実
○ 自転車通学の安全
○ 東日本大震災対応

環境教育環境の整備・充実

北信中学校区 幼・保・小・中連接推進事業

北信の子ども五つのやくそく

- 1 元気にあいさつをかわします
- 2 しつかり話を聞き合います
- 3 正しいことばづかいで話します
- 4 きちんと時間を守ります
- 5 進んで清掃をします

交流活動、連携

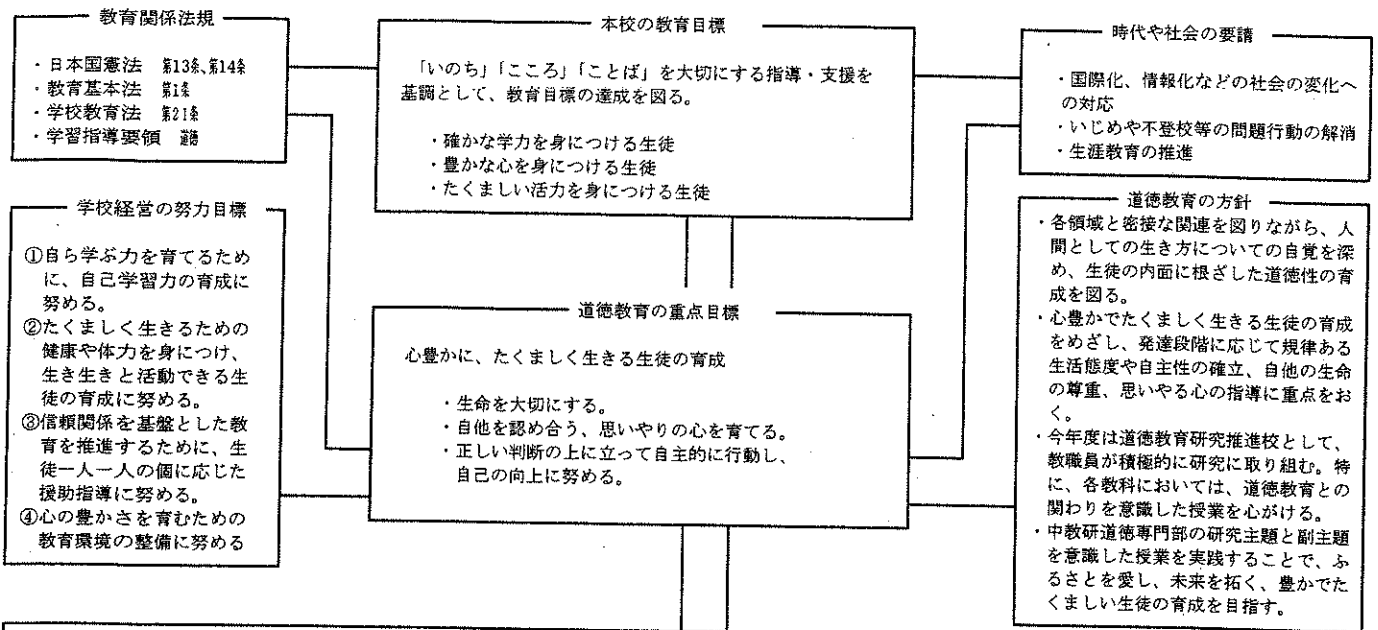
- 1 小・小、小・中の交流活動
- 2 生徒指導の連携
- 3 地域学校保健委員会活動
- 4 地域・家庭との連携

確かな学力の向上

- 1 めあてとまとめの整合性を図る板書の構造化
- 2 わかる・できる授業づくり
- 3 共有できる指導の工夫

地域に開かれた学校、情報発信、説明・結果責任、学校評価、目標管理制度、不祥事根絶、いじめ・不登校解消

道徳教育全体計画 資料 2

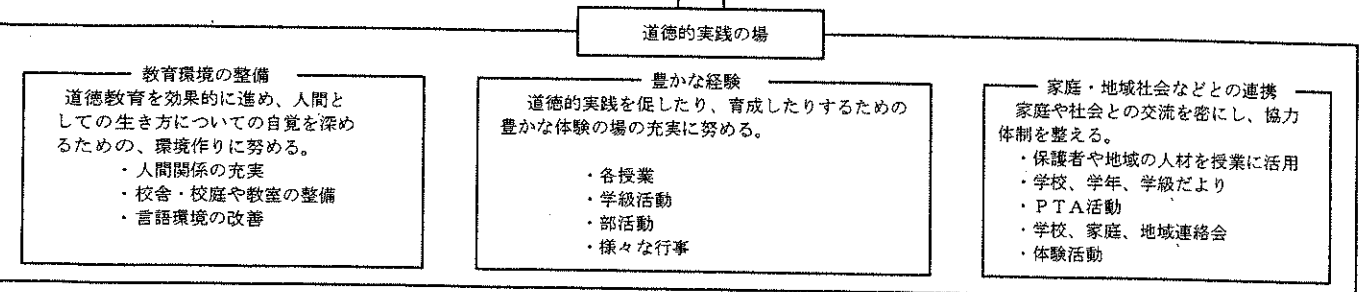


学年別指導の重点目標		
1 学 年	2 学 年	3 学 年
<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣を身につけ、節度と調和のある生活をするとともに、自主的・自律的に行動できるようにする。 ・生命の尊さを理解し、かけがえない生命を大切にするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅学年として自主的自律的に行動するとともに、個性を伸ばして充実した生き方を求めるようにする。 ・他の人々に対して敬愛の念を深め、思いやりの心を持って生活するようにする。 ・自然との関わりを深めるとともに、生命の尊さを理解しかけがえない自他の生命を尊重するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての自覚を深め、より高い目標を立て、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志を持つようにする。 ・温かい人間愛の精神を深めるとともに、謙虚に学ぶ広い心を持つようにする。 ・自然を愛し、生命に対する畏敬の念を深め、人間として強く生きること喜びを見いだすようにする。

道徳の時間の指導方針

- ・全体で行う道徳教育を補充・深化・統合する「かなめ」の時間。
- ・道徳的価値及び人間としての生き方について自覚を深める。
- ・生徒一人一人の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上をめざすことにより、道徳の実践力から「道徳的实践」につなげる。
- ・体験的な活動と密接に関連させ、指導する。
- ・読み物資料の他、チームティーチングや役割演技、写真・VTR・DVDの使用、保護者や地域の人材の活用など創意工夫ある指導をする。

各 教 科	特 別 活 動	総合的な学習の時間	生 徒 指 導	進 路 指 導
各教科の目標達成に努める中で、道徳的実践力の指導に留意する体験的な学習や問題解決的学習を重視する	集団生活を通して集団の一員としての自覚を高め、自主的実践的な活動を通して、人間としての生き方についての自覚を深める。	問題を主体的に解決する力、情報収集や発表、討論する力を身につけたり定着させていく。 自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うとともに、自分なりの価値観を育めるよう援助する。	共感的な人間関係の育成を図るとともに、生徒一人一人が目標を持って将来を展望し、自己実現が図れるよう援助する。	自分の特色や将来の生き方を考え、自分にふさわしい進路を選択するとともに、その実現に向けて努力する。



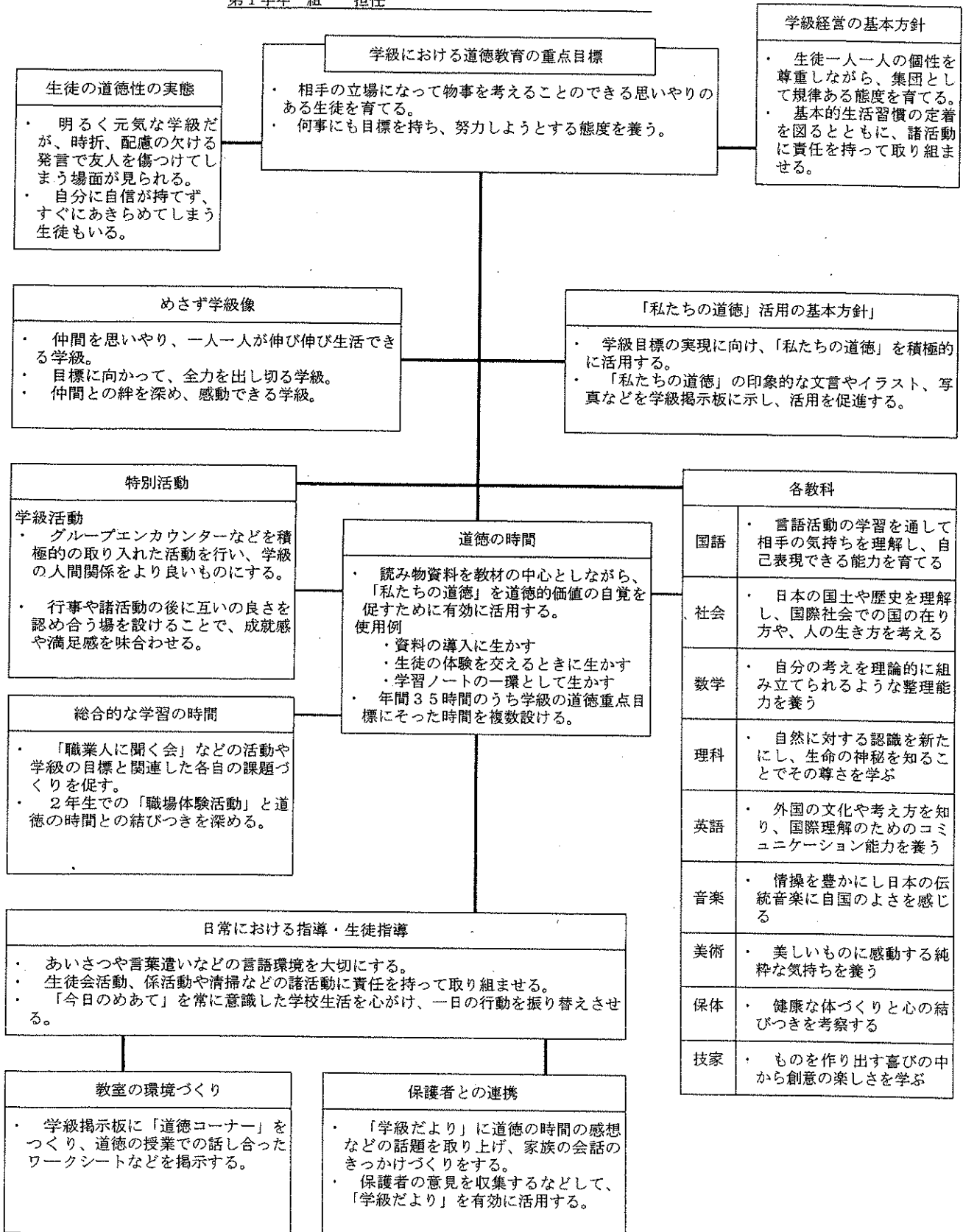
福島市立北信中学校 道徳教育 別業 第1学年 【資料3】

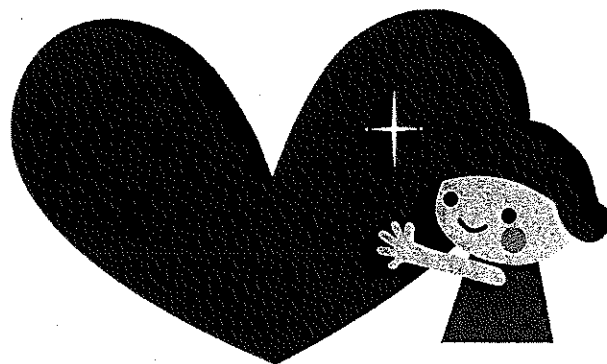
内容項目	資料名	特別活動	総合的な学習の時間	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語
1-(1) 基本的な生活習慣/節度	5 出船の位置に	等級目標を設定する(4月)学級組織を作る(4月)				正負の数(4月) 文字と式(6月)					食生活と栄養 樹立作りと食品の選択	
1-(2) 強い意志/不機嫌	9 目標は小刻みに 3 5 木箱の中の鉛筆たち					正負の数(4月) 文字と式(6月) 正負の数(4月) 文字と式(6月) 方程式(9月)				陸上(4,5,8,9月) 水泳(7月)		
1-(3) 自主自律/誠実・責任感	8 アキラの選択 2 5 取組のできごと			少年の日の思い出(1月)		方程式(9月) 比例と反比例(10月) 空間図形(1月)						
1-(4) 理想の実現/真実	2 8 米屋の奥さんの足音					方程式(9月) 比例と反比例(10月) 空間図形(1月)	身のまわりの物質(9月)					
1-(5) 個性の伸長	6 ぼくの性格をつくった友人	自分について理解する(11月)				方程式(9月) 比例と反比例(10月) 空間図形(1月)						
2-(1) 礼儀	1 5 半分おとな 半分子ども											
2-(2) 思いやり	2 おばあちゃんの指定席 1 9 夜のくたも屋 3 3 旗	集団の一員としての心構え(1月)		星の花が降るころに(9月)					生活を愛おむに(5月)			
2-(3) 友情	1 8 雨の日の届け物	友達の良さを認めて発表する(1月)		星の花が降るころに(9月)						球技(6,10,2,3月)		
2-(4) 異性理解	1 0 アイツ	男女の理解と協力(1,2月)		星の花が降るころに(9月)		比例と反比例(10月) 平面図形(12月) 空間図形(1月)						
2-(5) 謙遜な心/寛容の心	2 2 殿さまのちやわん											
2-(6) 感謝の心	7 人のフリマで			大人になれなかつた弟たちに(9月)		大塚式(9月)比例と反比例(10月)平面図形(12月)空間図形(1月)		卒業式歌(2月)				
3-(1) 生命の尊重	3 自分の番 いのちのバトン 2 9 あなたはすごい力で生まれてきた	放課後について理解を深める(1,10月)		大人になれなかつた弟たちに(9月)								
3-(2) 自然愛護/畏敬の念	1 7 「あつ、トロロの森だ!」			流水と私たちの暮らし(12月)		平面図形(12月)空間図形(1月)	植物の世界(5月)				生物育成	
3-(3) 生きる喜び/弱さの克服	1 1 いつものバイオリン 2 3 銀色のシャワーペンシル											
4-(1) 法やまもりを守る	2 0 人に迷惑をかけるはばいはいのか?			少年の日の思い出(1月)		資料の散らばりと代表値(3月)					コンピュータと情報	
4-(2) 公徳心/社会連帯	1 3 高耕作 ある朝の出来事 1 4 バスと赤ちゃん					資料の散らばりと代表値(3月)					生活の問題と実践	
4-(3) 正義/公正・公平	1 6 私もいじめた一人なのにな... 3 2 ある日のバッターボックス			少年の日の思い出(1月)		方程式(9月)				球技(6,10,2,3月)		
4-(4) 集団生活の向上	1 2 小さな一歩					資料の散らばりと代表値(3月)						
4-(5) 勤労と奉仕の精神	2 6 午前一時四十分	進路について考える(1月~3月)	職業人に聞く会(1月)									
4-(6) 家族愛	4 三六五×四分のありがどう 2 7 語りかける目 3 1 ふたりの子供たちへ			大人になれなかつた弟たちに(9月)		資料の散らばりと代表値(3月)						
4-(7) 愛他心	3 4 二枚の写真	学校祭に参加しよう(10月)生徒会選挙準備(5月,2月)	ピクチャー制作(10月)			方程式(9月)						
4-(8) 郷土愛	2 4 娘のふるさと			江戸からのメッセージ(7月)		文字と式(6月) 方程式(9月)	大智の進化(2月)					
4-(9) 日本人としての自覚	2 1 負けへん〜川本幸民〜			セツに思う(10月)		文字と式(6月) 方程式(9月)						Unit 11 1年の思い出(2月)
4-(10) 国際理解/人類愛	3 0 リヤカーは海を越えて			雷とペイナップル(7月)		文字と式(6月)						Let's Read Over the Horizon(3月)

学級の道徳指導計画

福島市立北信中学校

第1学年 組 担任





【県中地区】須賀川市立第三小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	須賀川市立第三小学校
所 在 地	須賀川市朝日田53番地
校 長 名	麻 生 能 孝
学校の教育目標	心身ともに健康で豊かな情操と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成
学級及び児童生徒数	普通学級 20 特別支援学級 2 児童数 573名
学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 深く考える子ども ○ 明るく思いやりのある子ども ○ 強くたくましい子ども
道徳教育にかかる 取組の概要	<p>道徳教育を実践するにあたり、次の点を重点目標として掲げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よく考え、自分の力で判断し、約束やきまりを守って行動できる子どもを育てる。 ○ 相手のことを思いやり、互いに協力し合って、進んで仕事ができる子どもを育てる。 ○ 生命を尊重し、自然環境や社会福祉などに目を向け、これらを大切にすることを育てる。

2 研究テーマ

豊かな心を持ち、ともに関わりあって生きる子どもの育成
～「ふくしま道徳教育資料集」や「私たちの道徳」の効果的な活用の在り方～

3 テーマ設定の理由

今日の子どもを取り巻く環境は、情報化の広がりや国際化の流れなど、社会生活の急激な変化により、家庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少などの中、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下など、子ども心の活力が弱っている傾向が見られる。将来を担う子どもたちは、このような社会の中で自立し、さまざまな人と関わり合いながら生活する「生きる力」を育成していくことが強く求められている。

本校では、「心身ともに健康で豊かな情操と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成」を目指している。「生きる力」の核となる豊かな人間性を育てていくためには、道徳教育が重要となる。道徳の時間はもちろん、教育活動全体を通じて行い、よりよく生きようとする心の育成を目指したいと考える。そのために、今年度は、現職教育を通して道徳教育を推進していくこととした。道徳の時間において、豊かな心を培う道徳の授業の質的改善と、指導法の充実に図り、授業を充実させていくことで、子どもたちが人とよりよく関わることのできる力を育む。そのために、視点の一つとして、「ふくしま道徳教育資料集」や「私たちの道徳」に目を向け、これらの効果的な活用を図り、児童が自己を振り返ったり、自己の心情や判断などを表

現したりする機会を充実させ、自らの成長を実感できるようにしていくことで、本校の教育目標の実現につなげていく。さらに、家庭や地域と連携して実践していくことによって、より豊かな道徳教育が推進できると考え、上記のテーマを設定して取り組むことにした。

4 研究計画

月 日	主 な 内 容
4月14日	・研究推進委員会（今年度の研究について）
4月17日	・第1回授業参観 保護者への道徳授業公開 4年3組
5月15日	・今年度の研究について （推進委員会の内容伝達）
5月27日	・研究推進委員会（今年度の研究の方向性について）
6月 5日	・全体会（今年度の研究についての確認と共通理解）
6月19日	・学年部会（今年度の見通しについて） ・各学級道徳指導計画の作成
6月24日	・第2回授業参観 保護者への道徳授業公開 3年3組
9月 4日	・岩教研特別委員会（三中授業研究会）
9月～11月	・学年及びブロックでの授業実践（一人一実践） （事前研究会・事後研究会）
10月 9日	・授業研究会（福島大学附属小学校 伊藤貴史先生を招聘して・出前授業と講話）
10月13日	・第1回授業研究会（5年3組）
10月15日	・第2回授業研究会（2年2組・3年2組）
10月24日	・地域開放型授業参観（保護者・地域の方への道徳授業公開） 1年1組 1年2組 1年3組 2年2組 2年3組 3年4組 6年1組 6年2組
10月27日	・講演会（ゲストティーチャー） 講師：須賀川警察署ウルトラ警察隊
11月20日	・公開授業並びに研究協議（3分科会） 授業学級（2年2組・3年2組・5年3組） ・FCT「ふくしまチャレンジ情報館」番組の取材（12月20日放送）
12月18日	・全体会（研究のまとめについて）
1月15日	・研究のまとめ
2月 5日	・今年度の反省 ・各学級道徳指導計画の反省 ・別業の見直し
2月12日	・研究推進委員会（今年度の反省と来年度の研修の検討）
2月19日	・全体会（今年度の反省と来年度の研修について）

5 児童生徒の実態及び地域の課題

素直で明るく、定められた活動に熱心に取り組むことができる。あいさつの上手な学校になろうと全校生で取り組み、校内だけでなく、校外での活動や地域の中でも、気持ちのよいあいさつをすることができる児童が多くなった。一方、自ら目標を見つけて解決しようとする主体的な態度にやや欠ける面がある。

学習場面においては、自分から学び取ろうという意識が薄く、自分の持つ個性や能力を十分に発揮できない傾向がある。特別活動のクラブ活動以外にも、サッカー・ミニバスケットボール・陸上・水泳・合唱・吹奏楽などの特設クラブを設け、課外活動によって能力・個性の伸長に努力している。

本校は、須賀川駅の東南4 kmにあり、須賀川市街地に位置する。また、東洋一の「牡丹園」に隣接した自然に恵まれた環境でもある。地域全体が学校教育に期待感を持っている。

6 道徳教育における校長の指導の方針 (資料1)

- (1) 全職員の共通理解のもとに、本校の教育目標の具現化を目指し、道徳の時間を要として、児童が実践できるような道徳指導を進める。
- (2) 豊かな心を培う道徳の授業の質的改善と、指導法の充実を図る。
- (3) 「私たちの道徳」・資料集を弾力的に活用し、児童が自己の心情や判断等を表現する機会を充実させ、自らの成長を実感できるようにする。
- (4) 児童・家庭・地域社会の実態を考慮し、家庭や地域との連携を図りながら実践する。
- (5) 児童が自分の考えを基に書いたり、話し合ったりするなどの表現する機会を充実させるように努める。

7 平成27年度 道徳教育の全体計画について (資料2)

- (1) 学校教育目標を受け、道徳教育の重点目標を3点設け、さらに、児童の実態と発達段階をもとに、ブロックにおける指導の重点目標を設定した。
- (2) 全教育活動において道徳教育の推進を図るため、道徳と他の領域との関連を示した。
- (3) 豊かな体験活動における指導や、家庭・地域との連携を推進する取組について示した。

8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について (資料3)

道徳と各教科、特別活動、総合的な学習の時間などとの関わりや、「私たちの道徳」との関連、効果的な場面での活用方法について学年ごとに作成した。

9 平成27年度 学級における指導計画について (資料4)

道徳教育全体計画を柱にし、学年や学級の実態から、目指す児童像・学級像を明らかにし、学級における道徳の指導が効果的に行えるよう担任の視点からの道徳教育の推進方針を作成した。

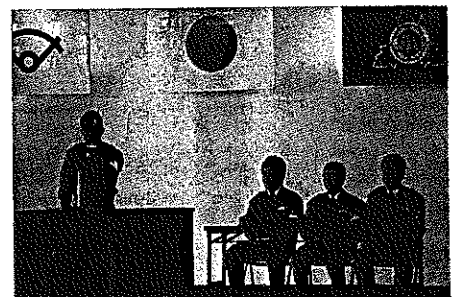
10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 授業参観での積極的公開

授業参観日、地域開放日などに道徳の時間を設定し、保護者や地域の方々への学校での取組を参観してもらえるようにした。

(2) 外部講師を招聘しての講演会の運営

東日本大震災後、福島県内の治安維持にあたるために組織されたウルトラ警察隊の方々を講師に招き、職



<ウルトラ警察隊の講演会>

務についての誠実さや責任感、ものの見方や考え方を聞くことで、児童・保護者・中学生・教職員がともに地域でできることを考え、よりよい地域づくりを目指す中で、学校の道徳的実践意欲・態度を高められるようにした。

<子どもたちの講演会の感想>

- ウルトラけいさつたいのみなさんのお話を聞いて、まだ大しんさいの時のままで自分の家に帰れない人がたくさんいることを知りました。そのみなさんが早く帰ってこれるといいです。
- ぼくは、けいさつたいの人は見えない場所で仕事をしていると思いました。大しんさいできけん中、ぼくたちのために人々をすくったけいさつたいのやさしさがかっこいいと思いました。
- 人を助ける警察隊は、自分の命に関わることもあるのに、人を助けるためにがんばっているところがかっこよかったです。警察隊のように、大きな仕事で人を助けなくても、身近で人を助けることをがんばりたいです。
- 「福島県を助けてい」という思いで、ここまで来てくれたことがありがたいです。私は、誰かに感謝されるような、そして自分も他の人に感謝できるような人になりたいです。

(3) 目指す児童像がより具体的に見える別業づくり

これまでの別業を見直し、教育活動全体を見渡し、見取りたい子どもの姿が具体的なものになるように工夫・改善をした。また、道徳年間指導計画に「展開の大要」(資料5)を加え、「私たちの道徳」の具体的活用場面や、「ふくしま道徳教育資料集」の単元計画の組み入れを行ってきた。



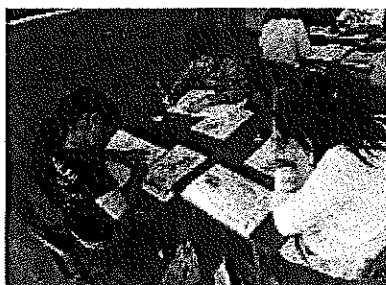
<中学校との並行授業>

(4) 積極的な小中連携を目指して

研究授業の相互参観や、講演会や文化祭など各種行事の連携を密にしていくことで、より健やかな子どもの育成を目指し、児童の情操を養ってきた。

1.1 道徳の時間について (資料6)

道徳の時間の授業を充実させていくための「ふくしま道徳教育資料集」や「私たちの道徳」の活用について、学年・ブロックを中心とした研究授業を行い、各学年の実態に応じた、道徳の時間における指導・活用の在り方を検証した。同一資料を読み合ったり、研究する価値を絞ったりして実践を重ねることで、ねらいに沿った発問や流れになるよう研修を進めることができた



<『私たち道徳』を使用している授業>

きた学年も見られ、大規模校の特性を生かした実践を行うことができた。資料の活用については、扱う資料の有効性や「私たちの道徳」との関連、効果などを中心に研究を進めた。授業研究の際には、互いの授業を積極的に参観し合い、意見を交流させていくことで、授業におけるよさや改善点を洗い出し、よりよい授業の実践へとつなげた。



<第5学年の話し合いの授業>

また、福島大学附属小学校の先生や、県中教育事務所や須賀川市教育委員会の指導主事を招いての授業研究会を行い、全職員参加のもと研修を深めることで、道徳の時間の本質や授業を改善していくための視点などを学ぶことができ、教員一人一人の指導力の向上を図ることができた。

1.2 成果と課題

(1) 成果

- 研究を通し、年間35時間の道徳の時間の確実な積み重ねが大切であることも再認識することができた。1時間の実践を積み重ねていくことで、より子どもの成長を感じ取り見守っていくこと、道徳の時間を要として教育活動全体へとつなげていくことができると考えている。
- 授業の中で子どもたち同士がお互いに関わりあうことのできる場を設定することにより、より多様な価値にふれることができた。人と関わりあう時間を道徳の時間の中で位置づけ、時間を十分にとることで、これまでの自己を見つめ、ねらいとする価値のとらえ方を広げることができたと考える。
- 授業の展開後段部分や、終末での「私たちの道徳」の活用は、本時でおさえたいねらいへと軌道を修正してくれる有効な手立てであった。「ふくしま道徳教育資料集」は、資料によっては、ねらいとする価値が多様に混在している場合もあるので、授業の中でおさえたいねらいを達成させるためには、「私たちの道徳」との併用も有効である。
- 学年便りなどを通して活動の様子をお知らせしたり、「私たちの道徳」を家庭に持ち帰って記入してもらったりしながら、家庭とのつながりを持つことができた。



<話し合いを行う児童>

(2) 課題

- さらに互いを高め合えるようにしていくために、一つ的手段として、アクティブ・ラーニングのような、子どもたちが自主的・能動的に自由に自分の意見を伝えられる雰囲気作りや、考えを深めたり、議論したりできるような場を設定していくことなども視野に入れ、「特別の教科 道徳」への移行に向けた実践につなげていきたい。
- 「ふくしま道徳資料集」や「私たちの道徳」の活用を図ることで、資料の扱いの難しさを感じた部分もあった。これらをより効果的に活用するには、目指す児童像がより具体的に見える別葉とのつながりが大切であると考えます。
- 家庭や地域との道徳教育における連携を推進するためには、双方向からのやり取りが重要である。家庭や地域の声はどう受け止め、今後の道徳教育に生かしていくのが課題である。



<第3学年の授業>

教育目標

心身ともに健康で豊かな情操と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成

支え合い

励まし合い

高め合い

◎深く考える子ども ◎明るく思いやりのある子ども ◎強くたくましい子ども

- ・第6次福島県長期総合教育計画
- ・福島県教育委員会27年度重点指導事項
- ・県中教育事務所27年度重点指導事項
- ・須賀川市総合計画
- 「須賀川市まちづくりビジョン2015」
- ・須賀川市教育委員会基本方針・重点施策

- ・家庭、地域の願い
- ・家庭、地域の実態
- ・児童の実態

◎めあてをもち、筋道を立てて考えながら学習する子どもの育成

◎確かな学力の向上に努めます。

- ◆ 学習の基礎となる力をつけます。
 - 多くの本に親しませ、読書への関心を高めます。
 - 家庭学習を通して、漢字力・計算力をつけます。
 - 学年に応じた家庭学習のやり方・内容を示し、学年×10分以上できるようにします。
 - ◆ 学力向上への授業改善に取り組みます。
 - わかりやすい授業目標（めあて）を立て、達成状況の評価を次時に生かします。
 - 個人差に応じて学習の進め方・手立てを工夫します。
 - 共同研究を推進し、一人1回以上の研究授業を実施します。学年代表授業（全体授業）を実施し、学年・ブロックを軸に授業研究をすすめます。
 - 学力テストの正答率（国語4観点・算数4観点）が全国平均より上回ります。
 - 須賀川スタンダードカードプログラムを活用した小・中一貫教育の推進に努めます。

友だちのよさを認め、ともに力を合わせて行動する子どもの育成

◆ 温かい人間関係を重視した学級集団作りをします。

- 学習や学習以外の時間で、友達と触れ合う場を多く作ります。
- 自分の良いところ、友達の良いところに気づかせるとともに、子どもを認める機会を多くします。
- ◆ 豊かな体験により思いやりの心を育成します。
 - 道徳の時間を中心に教育活動全体で、思いやりの心や善悪の判断力を育てます。
 - 毎日の生活の中での手伝いや奉仕活動、人のためになる活動を奨励します。
 - 清掃活動にしっかりと取り組み、きれいな学校にします。
 - ◆ 生活指導を充実し、態度ある生活態度を身につかせます。
 - 「三小っ七つのちかひ」をもとに、特色ある生徒指導の推進に努めます。
 - 「三小よいの生活」を指針に、約束を守って生活できるようにします。
 - 休みがちな子どもにも積極的にほらきかけ、不登校をなくすとともに、不登校の兆しの発見・早期指導に努めます。
 - 情報交換を密にした小・中一貫教育の推進に努めます。

耐えぬく心と体力のある体をつくる子どもの育成

◆ 走力を中心とした体力を向上させます。

- 走力を高めるため、体育の時間において3～5分でできる継続的な活動を取り入れます。
- 体育の時間は、学習カードを活用してめあてを持って運動できるようにします。
- 休み時間の運動を奨励し、体力の向上に結びつけます。
- ◆ 健康な生活の習慣づくりをする。
 - 保健指導計画をもとに、季節や学級の実態に応じて保健指導を行います。（手洗い、うがい等）
 - 家庭と連携して「早寝早起き朝ごはん」を習慣化させます。
 - 給食の意義を理解させ、好き嫌いをなく食べられるように努めさせます。
 - 小・中学校連携を強化し、健康教育の充実を努めます。（朝立大防止など）

信頼される学校づくりの推進

- ◆ 開かれた学校を目指します。
 - 学校情報を学校通信やHPを利用して、保護者や地域に伝えます。
 - 外部講師を積極的に活用するとともに、学校外へ出かけて行く活動も多く取り入れます。
 - 保護者・児童を対象としたアンケートを年1回実施し、学校評価を行います。結果についても公表します。
 - ◆ 安全・安心な学校を目指します。
 - 安全教育計画に基づいて、毎月1回の安全点検・年2回の交通安全教室・年4回の避難訓練を行います。（防災教育の充実）
 - 児童の病気やけがに対しては、『疾病事故発生時の対応マニュアル』に基づいて速やかに対応します。
 - 服務倫理委員会を機能させ、教職員の不祥事を発生させないようにします。
 - ◆ 小・中一貫教育の推進を目指します。
 - 義務教育9年間を見通した教育の実現に努めます。

「家庭・地域から信頼される安心・安全の学校経営」

道徳教育全体計画

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
地区教委の教育目標

学校の教育目標

- 深く考える子ども
- 明るく思いやりのある子ども
- 強くたくましい子ども

時代や社会の要請
児童の実態
保護者や地域のねがい
教師のねがい

特別活動

○学級生活の充実と向上にかかわる活動を通して、進んで問題を解決し、温かい人間関係を築こうとする態度と集団の中で自己を正しく生かす能力や態度の育成を図る。

(学級活動)

○児童の意見、発想を大切に、学校生活における諸問題の解決を図ることにより、自主的、実践的な態度や協力性、思いやりの心を育てる。

(児童会活動)

○共通の興味関心を追及する活動を通して、個性を伸ばし、豊かな人間関係を育てる。

(クラブ活動)

○豊かな体験の場を設けて、主体的に参加させることにより、集団への所属感を深め、協力性、責任感、勤労意欲等を育成する。(学校行事)

道徳教育の重点目標

- よく考え、自分の力で判断し、約束やきまりを守って行動できる子どもを育てる。
- 相手のことを思いやり、互いに協力し合って、進んで仕事ができる子どもを育てる。
- 生命を尊重し、自然環境や社会福祉などに目を向け、これらを大切にすることを育てる。

各教科

- 指導内容・方法の改善、充実を図り、児童一人一人の感じる力、考える力の育成に努める。
- 児童一人一人の個性、能力に応じた指導の展開に努めるとともに、相互に協力し合い、励まし合う学習態度の育成に努める。
- 各教科の指導内容、教材等で道徳教育に深くかかわるものを通して、道徳性の啓発を行う。
- 見学、実験、観察、グループ学習、共同製作などの学習方法や学習形態を通して、道徳性の啓発を行う。
- 指導する教師の行動や態度を通して、望ましい人間関係のあり方を感化していく。

各学年の指導の重点

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣 ○ 善悪の判断 ○ 社会生活上のルール ○ 自己の心情や判断等を表現する力を育てる。 ○ 生命尊重の心を養う 	} を身につける。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主性 ○ 規則尊重・公徳心 ○ 協力し助け合う態度 ○ 生命尊重の心 ○ 自己の心情や判断等を表現する力 	
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立心 ○ 国家・社会の一員としての自覚 ○ 生命尊重の心 ○ 自己の心情や判断等を表現する力 	} を育てる。

総合的な学習の時間

- 自然体験、ボランティアなどの社会経験を通して、自ら問題に積極的に取り組む態度を養う。

生徒指導

- 児童相互、児童と教師の心の交流を図り、望ましい生活習慣を身につけた児童の育成に努める。
- 児童の行動面のみでなく、内面に働きかける指導の手だてを工夫する。
- 児童が意欲をもって取り組むことができる実践目標を設定する。
- 学校、家庭、地域が一貫した指導姿勢をもつための方法を探る。

道徳の時間の指導

児童が、ねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め、豊かに感じ、いきいきと表現して、よりよく生きようとする意欲を自らはぐむような時間を旨とする。

- ・資料の選択・活用の吟味、資料提示の工夫、体験活動・ボランティア活動とのかかわりの工夫
- ・ゲストティーチャー、チームティーチング等指導方法の工夫
- ・私たちの道徳を活用する。
- ・情報モラルの指導

外国語活動

- 外国人講師や外国語に堪能な地域の人々などの協力を得て、外国語にふれたり、外国の文化に親しんだりする体験を充実する。

教育環境の整備

児童の豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるよう、心にひびく環境づくりをする。

- ・児童と教師、児童相互の望ましい人間関係づくり
- ・言語環境の改善、充実
- ・校舎、校庭の美化
- ・地域清掃・「ふくしま道徳教育資料集第Ⅰ集・第Ⅱ集」「私たちの道徳」等の活用と資料の整備

豊かな体験

全教育活動において、道徳的実践を促したり、道徳的実践力を培ったりするための豊かな体験の場を充実する。

- ・人、物、自然とのふれあい
- ・各教科の学習
- ・特別活動の学習
- ・総合的な学習の時間の学習
- ・道徳の時間に生かす。

家庭・地域等との連携

学校、家庭、地域三者の相互理解を深め交流を密にし、協力体制をととのえる。

- ・保護者、地域の方々からの人材活用
- ・地域連絡会
- ・PTA新聞、学年、学級だよりの発行
- ・地域公開型授業
- ・幼稚園、中学校との連携

道徳 指導計画 別業

○みんなんで考える道徳 ☆ふくしま道徳教育資料集 ◎わたしたちの道徳 須賀川市立第三小学校第2学年

資料 3 (全学年作成 その1部)

月	指導内容	主題名	私たちの道徳との関連	他教科等との関連	備考
4	1-(4) 明朗・誠実	はっきつたええ○	すなおにのびのびと	学活「2年生になって」	自分のことを自分で自主的に解決し、明朗な生活を送る姿。
	3-(1) 生命尊重	ほんとうのせいぎ○	いのちを大切に	生活「みんなともだち」	平和を大切に、思いやりをもってすべての生命を尊重しようとする姿。
	4-(2) 協力・勤労	じぶんたちのしごと○	はたらくことよさをかんじて	生活「みんなともだち」	仕事にやりがいや喜びを持って取り組み、みんなの役に立ちようとする姿。
5	1-(2) 勤勉努力	ぼくのわたしのよいところ○	自分でやることほしかりと	生活「あしたへダツシュ」	向上心を持って努力し、自分でできることは自分でやろうとする姿。
	1-(3) 善悪の判断と勇気	ともだちのじょうずなえ○	よいと思うことはすすんで	図工「大ききなたからもの」	善悪の判断ができ、よいことを進んで行おうとする姿。
	3-(2) 自然愛と動植物愛護	いきものがあぶない○	生きものにやさしく	国語「読んで考えたことを話そう」生活「生きもの大すき」	自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする姿。
6	1-(1) 基本的生活習慣	もののおさばしよ○	きそく正しく気もちのよい毎日	学活「きそく正しい生活をしよう」	自分の身の回りを、常に整頓しようとする姿。
	2-(1) 礼儀	気もちのよいふるまいを◎	気もちのよいふるまいを	生活「まちはたからばこ」学活「気持ちよい言葉づかい」	正しい言葉や、きちんとした態度で、明るく人に接しようとする姿。
	2-(3) 友情	おなじかなちがうかな○	ともだちとなかなかよく	国語「音読げきをしよう」学活「男の子の子」	人には皆違いがあることを認め、お互いを尊重して生活しようとする姿。
	2-(3) 友情	ないたともだち○	ともだちとなかなかよく	図工「ならべてつないでつんで」学活「男の子の子」	友達といつも仲良く、明るく生活しようとする姿。
	2-(4) 尊敬・感謝	かぞくにありがとう○	お世話になっている人にかんやして	生活「あしたへダツシュ」	父母を敬愛し、進んで家族のために働き、役に立ちようとする姿。
	4-(5) 郷土愛	町の大きき木○	ふるさとに親しみをもち	生活「まちはたからばこ」「ハートをつなごう」	郷土の文化や生活に親しみをもち、生活しようとする姿。
8	1-(2) 勤勉努力	自分でやることはしかりと◎	自分でやることはしかりと	学活「かかり活動を反省しよう」	自分でやるべきことを、しっかりと行うことができる姿。
9	2-(3) 友情	よいところをつたえあう○	ともだちとなかなかよく	生活「みんなともだち」「あしたへダツシュ」	人には皆、長所があることを知り、自他を肯定して生活しようとする姿。
	4-(1) 規則の尊重・公德心	みんながつかうもの◎	みんながつかうもの	学活「学級集会について話し合おう」「こまごま話合おう」	学級生活を気持ちよくするために、自分や周囲を尊重して話し合った約束を決めようとする姿。
	3-(3) 感動と畏敬	しげんのすこさ○	すがすがしい心で	生活「生きもの大すき」	自然の美しさや崇高さを感じ取りようとする姿。
	4-(3) 家族愛	家族のやくに立つことを☆	家族のやくに立つことを	国語「じんぶつと自分をくらべて話そう」生活「あしたへダツシュ」	父母などの温かい心に気づき、感謝や親愛の心を持って生活しようとする姿。
10	1-(3) 善悪の判断と勇気	しつぱいをしたとき○	よいと思うことはすすんで	学活「2年生になって」	失敗したときに、進んで謝ろうとする姿。
	2-(2) 思いやり	あたたかい心で親切に☆	あたたかい心で親切に	生活「みんなともだち」	身近にいる人に、温かい心で接しようとする姿。
	1-(1) 基本的生活習慣	みのまわりのせいり○	きそく正しく気もちのよい毎日	学活「きそく正しい生活をしよう」	自分の身の回りを、常に整頓しようとする姿。
11	4-(3) 家族愛	かぞくのてつだい○	家族のやくに立つことを	国語「じんぶつと自分をくらべて話そう」生活「あしたへダツシュ」	家族の一員として、進んで家の仕事に参加し、働こうとする姿。
	4-(4) 愛校心	学校のすきなばしよ○	学校の生活を楽しく	音楽「校歌」行事「愛校作業」	学校を愛し、友達や先生とともに楽しい学校生活を送ろうとする姿。
	3-(1) 生命尊重	いのちをまもる○	いのちを大切に	生活「あしたへダツシュ」	授かった命の大切さと、その命を自分で守っていくようとする姿。
12	4-(1) 規則の尊重・公德心	きままりをまもって○	やくそくやきまりをまもって	学活「交通ルールをまもろう」	約束や社会のきまりを守り、安全に生活しようとする姿。
	1-(4) 明朗・誠実	すなおにのびのびと◎	すなおにのびのびと	国語「うれいことば」学活「気持ちよい言葉づかい」	過ちを素直に認め、気持ちよく生活しようとする姿。
	3-(2) 自然愛と動植物愛護	生きものにやさしく◎	生きものにやさしく	国語「お話をきこう」「あしたへダツシュ」	自然に親しみ、優しい心で動植物をかわいがり、世話をしようとする姿。
1	4-(2) 協力・勤労	みんなのためにかんがえる○	はたらくことよさをかんじて	学活「学級集会について話し合おう」	一人一人、皆思いや願いがあることを理解し、わかり合おうとする姿。
	1-(1) 基本的生活習慣	よいことわるいこと○	きそく正しく気もちのよい毎日	学活「楽しい夏休み」「交通ルールをまもろう」	自分でできることは自分で行い、安全に気持ちよく生活しようとする姿。
	4-(5) 郷土愛	ふるさとに親しみをもち◎	ふるさとに親しみをもち	生活「まちはたからばこ」「ハートをつなごう」	郷土の文化に親しみ、愛着を持って生活しようとする姿。
2	2-(1) 礼儀	まごころのこもったことば○	気もちのよいふるまいを	国語「うれいことば」学活「気持ちよい言葉づかい」	いつも気持ちのよい、真心のこもった応対を心がけようとする姿。
	2-(2) 思いやり	こまごまのこもったことば○	あたたかい心で親切に	学活「楽しい給食」	困っている人を見かけたらずささのべ、自分のできることを精一杯あげようとする姿。
	3-(1) 生命尊重	たべものがたりない子どもたち○	いのちを大切に	生活「あしたへダツシュ」	世界には、飢餓で食べられない子どもがいることを理解し、命を大切にしようとする姿。
	2-(4) 尊敬・感謝	ありがとうをつたえよう○	お世話になっている人にかんやして	生活「あしたへダツシュ」	身近な人の優しさかわかり、感謝の気持ちで接しようとする姿。
3	3-(3) 感動と畏敬	しげんのうつくしさ○	すがすがしい心で	音楽「夕やけこやけ」	すがすがしい心で、美しいものを感じ取りようとする姿。
	4-(4) 愛校心	ずつとなかなかよく○	学校の生活を楽しく	学活「お別れ会の計画を立てよう」行事「愛校作業」	学校を愛し、友達や先生とともに楽しい学校生活を送ろうとする姿。

【学校の教育目標】
 ○深く考える子ども
 ○明るく思いやりのある子ども
 ○強くたくましい子ども

【道徳教育の重点目標】
 ○よく考え、自分の力で判断し、約束やきまりを守って行動できる子どもを育てる。
 ○相手のことを思いやり、互いに協力し合って、進んで仕事ができる子どもを育てる。
 ○生命を尊重し、自然環境や社会福祉などに目を向け、これらを大切にしている子どもを育てる。

【学年の指導の重点】
 ○自主性
 ○協力し助け合う態度
 ○生命を尊重する心
 を育てる

【学級の実態】
 ○困っている友だちに進んで声をかけたり、手伝ったりするなど相手を気遣いながら勉強や運動に取り組むことができる
 ○全体的に自己主張が強く、人の話に耳を最後まで聞けない傾向があり、折り合いをつけて自分たちで問題を解決することが難しい。
 ○約束やきまりを重視し、助け合いながら生活することができる。

【目指す児童像】
 ○相手の話をよく聞き、自分の考えを分かりやすく話せる子ども
 ○相手の気持ちを考え、良さを認め合い、協力し合える子ども
 ○めあてをもち、あきらめずに最後までやりぬく子ども

【目指す学級像】
 ○よく考えてから自分の考えを話し、一人ひとりの良さを認め合える学級
 ○相手の立場を思いやり、協力し合うことの良さを感じあえる学級
 ○決まりを守り、進んで仕事をし、最後までやり遂げる学級

【道徳の時間を充実させるための工夫】
 ○自分の考えを素直に話せるように、「話し合いの時間」を十分確保する。自分の考えだけでなく、友達の話にも耳を傾けるような雰囲気をつくる。
 ○児童の実態やねらいに応じて指導過程や資料の提示のしかた等を工夫し、児童が自分の問題としてとらえることができるようにする。

【6月】
 主題名：「いじめ」を考える
 ねらい：友だちと互いに理解し合い、思いやりを持って生活できるようにする。

【10月】
 主題名：尊敬、感謝
 ねらい：日頃自分たちの生活を支えている人々やお世話になった人々を尊敬し感謝する心情を育てる。

【2月】
 主題名：自分をまもるためのルール
 ねらい：自分の命を守るのは自分であることを自覚させ、交通ルールや社会の決まりを守ろうとする意欲を育む。

【今年度の道徳教育に関する反省】
 ○
 ○

ページ	内容項目	学年	資料名など	活用場面	活用方法・内容
6	これが今の私(5年)	5	14. 話し方・聞き方の基本を学ぼう	展開前段	「これが今の私」に記入し、次のスキルトレーニングでは、記入した内容を基に話す。
7	これが今の私(6年)				
10	自分の一日は自分でつくる	5	1. キツパリ！今日からこれをやってみよう	導入	導入で読み聞かせ、「基本的な生活習慣」について知る。
11	基本的な生活習慣について考えてみよう	6	2. キツパリ！自分を褒めよう	導入	データをみて思ったことや、自分の生活習慣について考えたことを記入する。
12	健康や安全のために	5	1. キツパリ！今日からこれをやってみよう	展開前段	「キツパリ！今日からこれをやってみよう」を記入し、望ましい生活習慣には他にどんなものがあるかを考え記入する。
13	規則正しい生活のために	5	1. キツパリ！今日からこれをやってみよう	展開前段	「キツパリ！今日からこれをやってみよう」を記入し、望ましい生活習慣には他にどんなものがあるかを考え記入する。
14	節度ある生活について考えてみよう	6	2. キツパリ！自分を褒めよう	展開後段	資料を読み、節度ある生活習慣ができなかったときを想起し記入する。
15	節度ある生活をする(5年)	5	1. キツパリ！今日からこれをやってみよう	展開後段	節度ある生活ができなかったときを想起し記入する。
15	節度ある生活をする(6年)	6	2. キツパリ！自分を褒めよう	展開後段	資料を読み、節度ある生活習慣ができなかったときのことを想起し、記入する。
16	自分の生活をふり返ってみよう	5	1. キツパリ！今日からこれをやってみよう	展開後段	家庭に持ち帰り、記入する。保護者に目を通してもらったことで、家庭の協力を得ることも期待できる。
17	「もったいない」を世界共通の言葉に	6	13. 「ほしい」ってなに？	導入	導入で読み、「もったいない」の意味について知る。その上で「ほしい」と「必要」について問いかけ、価値への導入を図る。
18	希望と勇気が夢に近づき力になる(5年)	5	6. わたしの夢	導入	今、自分がえがいている夢を記入する。
18	希望と勇気が夢に近づき力になる(6年)	5	18. まほうの水鏡編～アリアマリオンくま～(ふくしま道徳資料集)	導入	今、自分がえがいている夢を確認する。(「6. わたしの夢」で記入済み。)
19	内村航平	6	5. ヘレンと共にアニー・サリバン	導入	自分の夢や希望を記入し、発表する。
20	目標に向かって努力を重ねた人たち	5	18. まほうの水鏡編～アリアマリオンくま～(ふくしま道徳資料集)	導入	自分の夢や希望を記入し、発表する。
21	私が学びたい人物	5	18. まほうの水鏡編～アリアマリオンくま～(ふくしま道徳資料集)	終末	説話の一部として、目標に向かって努力した4人を紹介する。
22～25	ヘレンと共にアニー・サリバン	5	18. まほうの水鏡編～アリアマリオンくま～(ふくしま道徳資料集)	終末	説話の一部として、目標に向かって努力した4人を紹介する。
26・27	夢に向かって誰か的一步を	6	18. まほうの水鏡編～アリアマリオンくま～(ふくしま道徳資料集)	授業後	家庭学習などで、「わたしが学びたい人物」を記入する。
28	自由は「自分勝手」とはちがう	5	5. 「目の前」にあることを一生懸命やる」と資料を差し替える	資料	
29	自由とは何だろうか(5年)	5	6. わたしの夢	展開後段	自分の夢について考える前に、読み聞かせる。資料最後文。「自分の夢の字を見つけてみましょう。」に答えるかたちで自分の夢について考える。
29	自由とは何だろうか(6年)	5	4. うばわれた自由	導入	自由に対す自分の考えを記入する。
30	自由だからできること	5	4. うばわれた自由		
31	本当の自由とは何だろうか	5	4. うばわれた自由	展開後段	自由だからこそ気をつけなくてはいけないことを記入し、話し合う。
32	自分を律すること・責任をもつこと	5	4. うばわれた自由	展開後段	自由だからこそ気をつけなくてはいけないことを記入し、話し合う。
33	自律と責任について	5	32. インターネットの掲示板	展開後段	自由だからこそ気をつけなくてはいけないことを記入し、話し合う。
34～37	うばわれた自由	6	32. インターネットの掲示板	終末	文や言葉を読み、インターネットの使い方を自覚し、自由の関連を考えたさせる。
38	良心と向き合おう	5	4. 「こんな人なきがせ！」は精神を「手品師」に差し替える	資料	終末に読み聞かせ、インターネットを使用するにあたって、自律と責任が必要であることを意識づける。
39	「誠実である」ということ	6	3. 「だから私はがんばる！」は精神を「手品師」に差し替える	導入	文を読み、感想を発表する。
40	明るく楽しい毎日過ごすために	6	3. 「だから私はがんばる！」は精神を「手品師」に差し替える	終末	教師の説話の一部として読み聞かせ。
41	いいわりのない誠実な心をもつために	6	3. 「だから私はがんばる！」は精神を「手品師」に差し替える	展開後段	文(P40)を読み、偽りのない誠実な心について記入(P41)する。
42	好奇心が出发点	5	32. 天からの手紙	展開後段	文(P40)を読み、偽りのない誠実な心について記入(P41)する。
43	好奇心から何かが生まれる	5	32. 天からの手紙	導入	言葉を読み、好奇心に関する自分の考えを発表する。
44・45	新しいものを求めるとのこと	5	32. 木の中のいのち	展開後段	自分の経験を振り返って「あったらいいな」を実現するための自分のアイデアを記入する。
46～49	天からの手紙	5	32. 木の中のいのち	展開後段	「自分の生活の中で工夫しようと思うこと」を考える前に読み、具体的に工夫する多様な方法について知る。
50	自分らしさって何だろう	5	12. トマトとメロン	資料	
51	自分の良い所を見付けよう	5	12. ラッキーガール	導入	導入で読み聞かせ、自分らしさ(長所・短所)について考える。
52	こんな自分を変えたいな	5	12. ラッキーガール	導入	導入で読み聞かせ、自分らしさ(長所・短所)について考える。
53	自分らしさを発揮して(5年)	5	12. トマトとメロン	展開後段	資料「トマトとメロン」を読んで話し合う前に、自分の良い所を考えたり、周りの人に聞いたりして記入する。
53	自分らしさを発揮して(6年)	5	12. ラッキーガール	展開後段	資料「トマトとメロン」を読んで話し合う前に、自分の良い所を考えたり、周りの人に聞いたりして記入する。
56	心と心をなぐあいさつ	5	18. オトコからヤルル	終末	終末で読み聞かせ、自分らしさとは他人と比較するものではないという認識をもてるようにする。
57	礼儀とは真心の表れ	5	3. 一秒の言葉	展開後段	自分らしさをもっと輝かせるためにはどうすればよいかを考え、書き加える。
58・59	江戸しぐさに学ぼう	6	21. 親しき仲にも礼儀あり	導入	短い言葉であっても、人と人をつなぐ大切な言葉があることを確認する。
60	思いやりの心があるから共に生きられる	5	16. 外国からのメッセージ(ふくしま道徳資料集1)	展開後段	気持ちを伝える方法、言葉や態度など様々なことであることを知り、他にどのようがあるかを考え、記入する。
61	思いやりの心があるから共に生きられる	5	7. 最後のおくり物	導入	導入で読み、だれにでも礼儀正しくできているか振り返る。
		5	7. 最後のおくり物	導入	「江戸しぐさ」についての資料を読み、日本人は昔から道徳を大切にしてきたことを知る。
		5	7. 最後のおくり物	導入	イラストの場面と同じような体験を振り返り、そのときの自分の行動について話し合う。
		5	7. 最後のおくり物	導入	親切にたくても行動できないのはどうしてかを記入し発表する。
		5	7. 最後のおくり物	展開後段	イラスト場面では、どのように行動すると思いやりの心を表せるのかを考え、話し合う。

月	時	主題・資料名	ねらい	指導展開と主な展開例	資料5② (金学年作成 その一部) 〔言語活動/ICT・地域素材活用〕
4月	1	目標をもって 1. 日付とコトバ ※資料差し替え 〔27. 目の前にあることを一生懸命やる〕 (日本標準社・6年)	1-②理想、勇気、努力 日付を意図することで、その日を目標にして努力しようとする心構えをもつ。	(1) 3ページの日付を考える。 (2) 青木さんの作品を見て、話し合う。 ○ 「日付をつけると、コトバは強くなる」とは、どういう意味でしょう。 (3) 5ページに日付とコトバを入れ、自分の目標を考える。	○ 学校行事・他教科との関連 ◎ 心のノートとの関連 ※ 他社の資料 〔言語活動〕学習を通して考えたこと、感じたことを発表させる。 ○ 学校活動「最学年年になって」 1年間の目標について話し合い、めあてを守ろうとする姿 ※ 夢をつかまえよう! (東書)
		差し替え案 主題名・今、自分のやりたいこと 資料名・「目の前にあることを一生懸命やる」 (日本標準社・6年 P18～22)	1-②理想、勇気、努力 夢の実現のために、目の前にあることを一生懸命やることを一生懸命努力しようとする意欲を養おう。	(1) 自分の夢について考える。 (2) 「目の前にあることを一生懸命やる」を読んで話し合う。 ○ 宇宙飛行士になった山崎さんが、自分を振り返って恐れていることはどんなことですか。 (3) 目の前にあることを一生懸命やるということは、具体的にどんなことか話し合う。 (4) 「日本標準社副読本 (P5)」に自分の目標を考え、記入する。	〔言語活動〕学習を通して考えたことや感じたことについて、発表させる。 ○ 家庭科「早稲そう 食事と生活のリズム」 自分の生活のリズムを見直し、望ましい生活習慣に改善しようとする姿 ※ 散らかし豚 (東書)
	2	自分を見つめ直して 2. キツパリ! 自分を変えよう	1-①望ましい生活習慣、思慮・節制 自分の生活を直直し、望ましい生活習慣に改善しようとする意欲を高める。	(1) 望ましい生活習慣について話し合う。 (2) 「キツパリ! 自分を変えよう」を読んで話し合う。 (3) 今の自分を変えようと思おうと思うこと、思っていること、書きましよう。 (4) 学習を通して考えたことや感じたことを書いて、発表する。	〔言語活動〕「だから私はがんばられる!」を読んで話し合わせる。 ○ 自分の仕事だけでなく、学校のために職業に仕事をしようとする姿 ◎ まじめであることはわたしのほこり ※ 手品師 (東書)
	3	前向きな心 3. だから私はがんばられる! ※資料差し替え 「手品師」 (文部省資料)	1-④明朗・誠実 常に誠実に行動し、向上心をもって明るく、いかに楽しく生活しようとする心構えを育てる。	データを見て思ったことや、自分の生活習慣について考えたことを記入する。 資料を読み、節度ある生活習慣ができなかったときのことを想起し、記入する。 ※ 「私たちの道徳」で振り返った後、「あなたが自分を变えるためにやろうと思うことを、まんがにしてみよう。」(副読本)の活動に入る。 (1) 自分が今まで、長い間続けてきているものに、どんなことがあるか考える。 (2) 「だから私はがんばられる!」を読んで話し合う。 ○ 19年間作り続けてこられたのは、どうしてですか。 (3) 自分に置きかえて、自分のしていることを考える。 (1) 「私たちの道徳 (P38)」を読み、感想を発表する。 (2) 資料「手品師」を読んで話し合う。 ○ 友人から電話がかかってきたとき、手品師はどのようなことを考えたか? ○ 手品師はどのように約束を守ったのか? ○ 手品師は、どのような気持ちで男の子の前で手品をしていたか? (3) 「私たちの道徳 (P40)」を読み、「私たちの道徳 (P41)」に飾りのない誠実な心について記入する。 (4) 教師の説話を聞く。 ※ 「私たちの道徳 (P39)」を、説話の一部として読み聞かせる。	〔言語活動〕「だから私はがんばられる!」を読んで話し合わせる。 ○ 自分の仕事だけでなく、学校のために職業に仕事をしようとする姿 ◎ まじめであることはわたしのほこり ※ 手品師 (東書)
	4	差し替え案 主題名・誠実に 資料名・「手品師」 (小学校道徳の指導資料とその利用・文部省)	1-④明朗・誠実 誠実に明るく、いかに楽しく生活しようとする心構えを育てる。	文を読み、感想を発表する。 文 (P40) を読み、飾りのない誠実な心について記入 (P41) する。 教師の説話の一部として読み聞かせる。	〔言語活動〕「だから私はがんばられる!」を読んで話し合わせる。 ○ 日常生活 友達同士で、信頼し合ったり、注意し合ったりする姿 ※ 言葉のおくりもの (東書)
5月	4	本当の友情とは 4. ロレンゾの友だち	2-③信頼・友情と男女の協力 互いに信頼し、理解し合ったり、助け合ったりすることと意欲を高める。	(1) 友だちがいてよかったですと思ったときは、どんなときだったか話し合う。 (2) 「ロレンゾの友だち」を読んで話し合う。 ○ 3人の友情についての考え方のどれに、あなたは賛成しますか。 (3) 「本当の友だち」とは、どのような友だちであるか話し合う。	〔言語活動〕「本当の友だち」とは、どのような友だちであるか話し合わせる。 ○ 日常生活 友達同士で、信頼し合ったり、注意し合ったりする姿 ※ 言葉のおくりもの (東書)

価値項目対応表

高 学 年

旧		新	
1	(1) 望ましい生活習慣, 思慮・節制	A	(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任
1	(2) 理想, 勇気, 努力	A	(2) 正直, 誠実
1	(3) 自由, 自律・責任	A	(3) 節度, 節制
1	(4) 明朗・誠実	A	(4) 個性の伸長
1	(5) 真理の尊重, 創意工夫	A	(5) 希望と勇気, 努力と強い意志
1	(6) 個性伸長	A	(6) 真理の追究
2	(1) 礼儀	B	(7) 親切, 思いやり
2	(2) 思いやり	B	(8) 感謝
2	(3) 信頼・友情, 男女の協力	B	(9) 礼儀
2	(4) 寛容・謙虚	B	(10) 友情, 信頼
2	(5) 尊敬・感謝	B	(11) 相互理解, 寛容
3	(1) 生命尊重	C	(12) 規則の尊重
3	(2) 自然愛, 環境保全	C	(13) 公正, 公平, 社会正義
3	(3) 感動, 畏敬	C	(14) 勤労, 公共の精神
		C	(15) 家族愛, 家庭生活の充実
4	(1) 公德心, 規則の尊重, 思慮・節制	C	(16) よりよい学校生活, 集団生活の充実
4	(2) 公正・公平	C	(17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度
4	(3) 集団への参加と責任	C	(18) 国際理解, 国際親善
4	(4) 勤労, 社会奉仕		
4	(5) 家族愛	D	(19) 生命の尊さ
4	(6) 愛校心	D	(20) 自然愛護
4	(7) 郷土愛・愛国心	D	(21) 感動, 畏敬の念
4	(8) 国際理解, 親善・人類愛	D	(22) よりよく生きる喜び

第2学年2組 道徳学習指導案

日時：平成27年10月15日(木) 第5校時

場所：2年2組教室 教諭 小川 澄江

授業テーマ 小集団の話し合いを通して自分の考えを深め、道徳的心情を高める授業

- 1 主題名 あたたかい心で親切に 2-(2) 思いやり・親切
 2 資料名 「あいづの三なき」(出典：ふくしま道徳教育資料集 第三集)
 3 主題設定の理由

お互いが相手の気持ちを押し量り温かい人間関係を築いていけるように、誰に対しても優しく接し、親切にしようとする気持ちを持ち、思いやりの気持ちをもった児童を育てようとする内容項目である。ともすると自分と家族だけの生活になりがちな現代において、地域の人びとや学校内の児童との交流によって温かい気持ちになり、誰に対しても優しい気持ちで生活できる心情を育てていくことが必要である。

自分の祖父母は、自分をかわいがってくれて、何か買ってくれる優しい存在であるという意識をもっている児童は、多い。若い祖父母と一緒に遊びに行くが、一緒に農作業をすとか何かを作ったりする経験をしている児童は少ない。また、誰かのために何かしてあげようと気付きがある児童と、優しい気持ちがあっても何をしたいのか気付かなかったり、自分の満足しか考えられないで行動する児童がいたりして個人差が大きい。

震災後、主人公と母親が、南相馬から会津の山間部にある母親の親戚の家に避難し、その隣家のよしこばあちゃんに会う。よしこばあちゃんは、主人公を孫のように思い温かく見守り、野山を見せてくれたりした。その交流に「あいづの三なき」の話をたどえたものである。温かい心の交流と相手を思いやる気持ちが描かれた物語である。

自分が親切にしてもらってうれしいこと・自分が相手にしてあげられることを考えさせ、お互いに心があたたかくなるようなことに視点を置いていくようにする。その際、読み物教材から考えられる心の相互交流だけでなく、自分がした行動が、相手に対しても自分に対しても温かい心をもたらすことに気付かせるようにする。

4 本時のねらい

手紙に込めた二人の思いを考えることを通して、身近にいる人に対する思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

5 授業テーマにせまるための手立て

- (1) 事前に学級内で、してもらってうれしかった経験について記入させる。(手立て①)
 (2) 3～4人のグループで考えを出し合うことにより、友達の良さに気付いたり、新たな別の考えに気付いたりできるようにする。(手立て②)

6 板書事項

うれしい だいじようぶ？	あいづの三なき	絵 ひなん	絵 じゅもん	手紙(よしこさん) わかれてかなしい 元気づけたい	手紙と絵(えみさん) あいてを元気にしたい 気持ちがおなじ	◎してもらっても、 してあげてもうれしい気 持ちがある。	ピンクどうとくP
-----------------	---------	----------	-----------	---------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	----------

7 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	○ 教師の支援 評価
導 入	<p>1 誰かに、親切にされたことを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保健室に行ったとき ○ 大丈夫と言われたとき <p>2 誰かに喜ばれた経験を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 待っていてあげた。 ○ お手伝いをした。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に親切にしてもらった経験を発表させ、本時の価値への方向性を図る。(手立て①) ○ いいことをやったときの気持ちを聞き、親切にしてもらっても、やってあげても、心があたたかくなることを意識させる。
展 開	<p>3 資料「あいつの三なき」を読んで話し合う。</p> <p>(1) あらすじをとらえる。(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 避難してきて、一緒に行動してもらった。 ○ 泣かなくなって会津がいいところだとおもえるようになった。 <p>(2) 宅配便にこめられた気持ちを考える。(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 元気づけたい。 <p>(3) 手紙と絵に込められた気持ちを考える。(グループの話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ あいたいな。 ○ よしこばあちゃんに心配をかけないようにしたい。 ○ よしこばあちゃんを元気にしたい。 	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難してきて、友達もいない状況・じゅもんによって涙が止まった状況を補足する。本当の ○ よしこばあちゃんも本当の孫のように思ってくれたことを補足する。 ○ 3～4人のグループで意見を交換することによって友達のよいところに気付いたり新たな別の考えに気付いたりできるようにさせる。(手立て②) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お互いを思いやる気持ちを感じることができる。 (話し合い記録) (発表)</p> </div>
終 末	<p>4 相手が喜んでくれそうな親切について考える。</p> <p>(1) わたしたちの道徳P66を活用しできそうな親切について考える。</p> <p>(2) 今日の学習の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 親切にすると自分も相手もうれしいことが分かった。 	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵をたよりにできそうな親切を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相手の気持ちを考えて行動しようとする気持ちを持つ。 (ワークシート)</p> </div>

授業について

【自評】

3～4人グループでの話し合いで、多様な考えを引き出せればと考えた。しかし、本時では「主人公がどんな思いを込めて手紙を書いたか。」という問いに対し、どのグループからも「うれしい。」という言葉しか出なかった。語彙を多く持たない低学年では、表現のしかたが難しい。また、資料を扱う時間を短くしたが、資料の持つよさを十分に味わわせることができず、児童の心情を深めることが難しかったのではないかと感じる。



【協議内容】

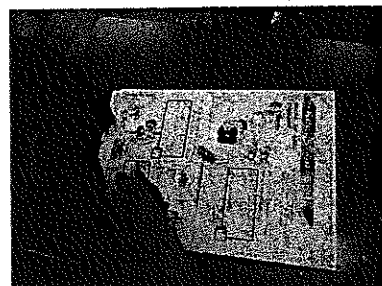
- ・ 導入で、アンケートの結果から意図的に発表させたことはよかった。
- ・ ややグループでの話し合いの時間が短かかったので、児童が十分に考えることができなかつたのではないか。また、発問を明確にできるとよりよい。
- ・ 先に自分の考えをまとめてから話し合いに入ってもよいのではないか。
- ・ 話し合いの内容をスケッチブックに記録して蓄積していく方法がよい。
- ・ 児童の発表から、新たなよさを見つけられるように手立てを工夫したい。

学年での取り組みから

2学年では、公開学級以外の学級でも、公開学級と同じ資料を使用して授業研究を行った。また、「わたしたちの道徳」を効果的に活用するためにはどうすればよいか、それぞれ授業実践から研究を行った。

2学年1組の実践

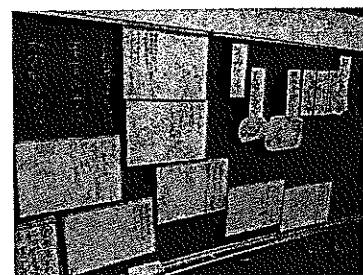
- ・ 導入で、アンケート「これまでに親切にしてもらった経験について」の結果から、数名の児童に発表させた。
- ・ 主人公になったつもりで、よしこばあちゃんに手紙を書いた。
- ・ 「わたしたちの道徳」P66を読み、自分たちができそうなことについて考えさせることで、本時のまとめとした。



《「わたしたちの道徳」の活用》

2学年3組の実践

- ・ 資料を扱う時間を短くし、話し合いに時間をかけた。
- ・ 自分が主人公だったら、よしこばあちゃんにどんなことをしてあげたいか、グループで意見の交流をさせ、さらに全体でも交流することで、多様な考えに気づかせるようにした。
- ・ 「私たちの道徳」P66を読み、自分たちができそうなことについて考えさせることで、本時のまとめとした。



《話し合いの内容》

→ 2学級の実践をもとに、発問を吟味したり、学習形態について検討したりすることができた。「私たちの道徳」については、3学級とも同じ使い方となった。資料と「私たちの道徳」への時間配分は20分程度にし、比重を同じにした。

指導内容

資料は、読みたい気持ちを待たせるように、切って提示した。しかし、資料の良さがあるので、切らずに提示した方がよい。また、急ぐあまり、黒板板書を児童に背を向けて行ったが、発表児童の目を見て、受容してから板書した方がよい。

成果と課題

成果・・・○ 課題・・・●

- 事前に短作文を書いていて、コメントがあったので、児童が自信を持って発表することができた。
- 時間を有効に使うために、発問を精選し、何について話し合っていくのか、短い言葉で伝えていくようにする。

第3学年2組 道徳学習指導案

日 時：平成27年11月20日(金) 5校時

場 所：3年2組教室 授業者：伊東 伸也

授業テーマ	伝え合いから、目標をもってくじけずにやり遂げようとする心情を育てる授業
-------	-------------------------------------

- 1 主題名 やりとげる気持ち(1-(2) 勤勉努力)
- 2 資料名 たいこの音(ふくしま道徳資料集 第Ⅲ集)
やろうと決めたことは最後まで(わたしたちの道徳)

3 主題設定の理由

現代社会において子どもたちは困難を避けなるべく楽をして生きていこうとする傾向が強い。だからこそ、自分の意思でやろうと思ったことを、目標をもって、失敗や困難にくじけずに粘り強くやり遂げる気持ちを育てていくことは重要なことである。

この時期の子どもたちは、行動範囲が広くなり、活動的に何でも興味を示すが、少しでも困難なことがあると、すぐにくじけてしまうことがある。また、勉強や運動についても面倒くさいと考えてしまう子も少なくない。そこで、今よりも向上したいと願って、諦めずに努力することによって、得られた喜びの体験を数多く実感させることも意義のあることである。そのためには、まわりの励ましや賞賛も大切になってくる。

男子12名、女子13名、計25名の学級である。4月に初めてのクラス編成替えを経験し、新しい友だち関係を構築してきている。みんなの笑顔と担任のおでこがいつも輝くように、また、ハン担任にディキャップがあるため自分のことは自分でやろうと「笑顔ぴっかり・元気に・自立」を学級のめあてにし、達成できた日を「ぴっかりの日」として歩んできた。明るく素直な児童が多い一方、自我が芽生え、強い自己主張のためトラブルが起こることもある。目標を立てることはできるものの意識を持ち続けることやさらに高い目標に向かうことには個人差が見えてきている時期でもある。

また、総合的な学習の時間に「松明太鼓」について保存会の方から話を聞き、太鼓に寄せる思いや音を合わせて練習することの大変さや、伝統を引き継ぐことの大切さについて学んでいる。

本資料は、あまり関心のなかった地域のお祭り(白河提灯祭り)にふとしたきっかけで参加することになった主人公が、失敗や困難を乗り越えていく過程を描く。前向きに努力を続ける主人公の姿に共感させながら、自らの目標への取り組みについて深く考えさせたい。

指導にあたっては、なかなか上手にできなかった経験から想起させる。そこから本時の資料に入っていきたい。資料を読んで話し合う活動では、松明太鼓の視聴体験を生かしながら、黒板に挿絵を提示し主人公の気持ちについて考えさせたい。また、自分の考えを整理しやすいようにワークシートに記入させてから、ペアで班でと交流した上で、主人公の気持ちの変化について全体で深められるように、話し合い活動を進めていくようにしたい。さらに、自分自身を振り返る場面では、「わたしたちの道徳」を活用し、「今よりもよくなりたい」という心を大切にすることを考えさせたい。そこから、目標に向かって努力し続ける心情を育てていきたい。

4 本時のねらい

- やろうと決めたことを、目標をもってくじけずにやり遂げようとする気持ちを育てる。

5 授業テーマにせまるための手立て

- 主人公の気持ちに迫るためにワークシートに記入させる。(手立て①)
- 多様な価値観にふれさせるために小集団で意見交流させる。(手立て②)
- 「わたしたちの道徳」を活用し、価値にせまらせる。(手立て③)

6 板書計画

<p>絵</p> <p>たいこの音が わつてきたよ</p>	<p>絵</p> <p>おはやしなんて やらなければ</p>	<p>写真</p> <p>たいこの音</p>	<p>なかなかうまくいかない 時は、 □ が大切</p>
-----------------------------------	------------------------------------	------------------------	--

7 学習過程

段階	学習活動・予想される反応	時間	○教師の支援 評価
導入	<p>1 自分の活動を振り返り、なかなかうまくできないことについて話し合い、本時の自分を見つめ直す視点をもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なかなかうまくできない時には、 □ が大切。</p> </div>	5	<p>○ はじめに、自分が運動や学習や習い事などの活動で、なかなか上手くいかないことを発表させる。その時にはどうするか、子どもたちに、□に入る言葉を自由に考えさせることで、価値への導入を図るようにする。</p>
展 開	<p>2 資料「たいこの音」を読んで話し合う。</p> <p>(1) わたしは、どんな気持ちでお囃子をやろうと決めたのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちにさそわれたから。 ・やってみてもいいかな。 <p>(2) 「おはやしなんてやらなければよかった」と思ったのはなぜか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくあわせられないから ・自分だけができない気がするから <p>(3) 「たいこの音が、変わってきたよ。」と言われるようになったのはどうしてか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日練習にはげんだから ・お父さんにはげまされたから ・あきらめなかったから <p>3 なかなかうまくいかないときに、どうしてきたか自分を振り返る。 (「わたしたちの道徳」P. 22、23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①よくできている自分 ②まだまだな自分 ③目標のもちかた <p>4 本時の感想を書く。</p>	3 5	<p>○ 松明太鼓の体験を思い出させ、資料に入る。</p> <p>○ 友だちにさそわれて、ふとしたきっかけで参加することになったことをとらえさせる。</p> <p>○ 子どもたちが自分の気持ちを整理しやすいようにワークシートに書かせる。(手立て①)</p> <p>○ その後、班で話し合うことを通して、考えを深めさせたい。(手立て②)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>やろうと決めたことを、くじけずにやり遂げようとする意欲が持てたか。 (発表、ワークシート)</p> </div> <p>○ 「わたしたちの道徳」を活用し、目標に向かって努力する秘訣を提示する。(手立て③)</p> <p>○ よりよくなりたいと考える子どもの思いを見取り、賞賛し励ます。</p>
終末	<p>5 教師の説話を聞く</p>	5	<p>○ 教師の体験を紹介し、意欲づけとする。</p>

第5学年3組 道徳授業学習指導案

日 時：平成27年11月20日(金) 第5校時
場 所：5年3組教室 授業者：矢作 英明

授業テーマ	教材文の主人公の行動する姿に自分を重ね合わせて話し合うことを通して、希望や勇気の大切さに気づき、目標や理想に向かって行動しようとする意欲を高められる授業。
-------	---

- 1 主題名 目標を立てて努力する [1- (2) 希望・勇気, 努力]
- 2 資料名 「きぼうの水族館 ～アクアマリンふくしま～」(ふくしま道徳教育資料集 第I集)
「希望と勇気をもってくじけずに」(「私たちの道徳 小学校5・6年 18-20頁」)

3 主題設定の理由

私たちがよりよく生きることを考える時、そこには自分の目標や理想が存在している。目標や理想に到達した時の達成感や達成感、次の活動の原動力となる。ただ、目標や理想に到達するまでには、困難を伴うことが多い。困難にどのように向き合い、乗り越えていくのか。これは、よりよく生きるためには抜き差しならない課題である。本時で取り上げる「希望・勇気、努力」について、高学年の指導内容として「様々な生き方への関心を高めるとともに、計画的に努力目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その理想に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力を育てる必要がある(学習指導要領解説・道徳編より引用)」とある。今、この時期に、希望と勇気を持ち、その理想に向かって努力する態度を育むことは、重要なことである。

第5学年3組は、男子16名、女子17名、計33名の学級である。4月から高学年として、学習活動、あいさつや返事、無言清掃、児童会委員会活動等に意欲的に取り組んでいる。活動全般に対し、素直に意欲をもって取り組むことができるよさがある一方、困難なことに対したときには初めからあきらめたり、後ろ向きの気持ちで臨んだりすることも多い。約半年後には、最高学年として学校を代表する子どもたちである。目標や理想に向かう中で困難に出会っても、くじけず、希望や勇気をもって物事に取り組んでいこうとする態度を養うことが大切である。

本時の中心資料となる「きぼうの水族館 ～アクアマリンふくしま～」は、東日本大震災における地震・津波・原発事故による甚大な被害を受けたアクアマリンふくしまを、困難な状況にもくじけず、短期間で再オープンにつなげた飼育職員 津崎さんが主人公となっている。震災後の困難な状況にあっても、目標意識を強く抱き、あきらめずに生き物の命と向き合い続けた津崎さんたちの情熱が、約四か月というスピードでの再オープンにつながった。職員の献身的な姿から、希望をもつことのすばらしさ、困難を克服する人間の強さに共感していくことで、子どもたちが目標を立て、希望と勇気を持ち、理想に向かって努力しようとする意欲を高めることが期待できる資料である。

指導にあたって、展開前段では、東日本大震災による水族館を取り巻く状況を確認する。水族館の危機的状況の中にあっても、津崎さんたちのように行動することができるかどうか、自分を津崎さんに重ねて考えることで、子ども一人一人の内面を表出させていく。その際、「心のめもり」を使って、自他の内面を視覚的にとらえやすくすることで、子ども自ら友だちと話し合い、多様な価値観に思いをめぐらせることができるようにしたい。さらに、資料を通して、目標や理想に近づくためには、どんなことが大切なのかを話し合う場を設けることにより、困難にもくじけずに目標や理想に向かって努力することが大切であると、子ども自身の力で気づくことができるようにしたい。展開後段では、展開前段で子どもたちが大切にしたいと考えるであろう「困難にもくじけずに目標や理想に向かう」ことについて、自分の内面や生活を見つめさせることにより、目標や理想に向かって力強く進んでいこうとする意欲を高めていきたい。終末では、中学生からのメッセージを読み、身近な先輩の経験にふれることで、これからの生活への見通しや希望を抱かせたい。

4 本時のねらい

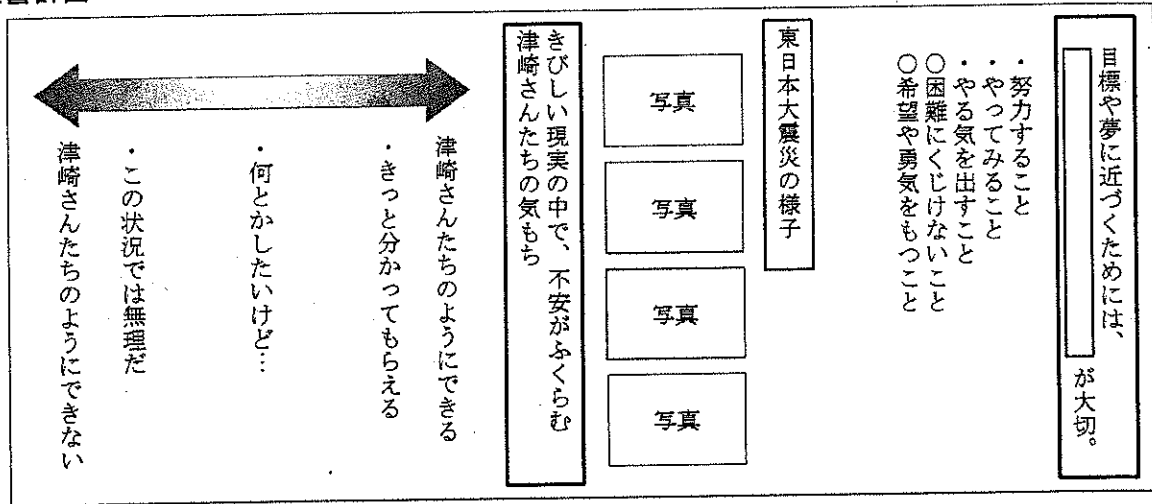
目標や理想に近づくためには、どんなことが大切なのか話し合うことを通して、希望や勇気をもって努力し続けていくことが大切であると気づき、困難にもくじけずに目標や理想に向かって努力しようとする態度を育てる。

5 授業テーマにせまるための手立て

【手だて1】 心のめもりを用いることで、自分と津崎さんを重ね合わせられるようにする。

【手だて2】 子どもたちにとって身近な中学生からのメッセージを読むことで、本時の学びを自分事として受け入れやすくし、今後の生活への意欲を高められるようにする。

6 板書計画



7 学習過程

段階	学習活動・予想される反応	時間	○教師の支援	評価
導入	1 目標にしていることや理想とすることを発表し合い、本時の自分を見つめ直す視点をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 目標や夢に近づくためには、 が大切。 </div>	5分	○ はじめに、持久走や鼓笛活動等によどのような目標をもって取り組んでいるのかを発表させる。そして、価値に目を向け始めた子どもたちに、□に入る言葉を自由に考えさせることで、本時の学びを自分事としてとらえる素地をつくる。	
展開	2 資料を読んで話し合う。 (1) 東日本大震災後の状況を整理する。 ・自分たちで見守っていこう。 ・生き物にとってどうすることがいいのか。 (2) 厳しい現実の中で、不安がふくらむ津崎さんは、どんなことを考えていたか。 ・きっと分かってもらえるはず。 ・どうすればいいんだろう。 ・この状況では、無理だ。 3 今までの自分を振り返る。 (1) 自分を見つめ直す視点に立ち返り、目標や理想に近づくために大切にしたいことは何か話し合う。 ・困難にくじけない。 ・希望や勇気をもって取り組む。 (2) 「私たちの道徳 18-20 頁」を読んで、これまでの経験と本時の学びを統合させる。	20 12	○ 地震、津波、原発事故による水族館を取り巻く状況を、写真を提示しながら整理することで、水族館を取り巻く環境の危機的状況をおさえられるようにする。 ○ 水族館の危機的状況の中で、自分だったら津崎さんたちのように行動できるか考えていく。その際、「心のめもり」を使い、自分ならばどの気持ちが強いかを根拠をもって考えるようにする。その後、小集団で根拠をもとにして話し合わせることを通して、多様な価値観に思いめぐらせることができるようにする。 ○ 目標や理想に近づくために自分が大切だと感じていることを話し合う。その後、共通した考えを取り出すことで、「困難にくじけず、希望や勇気をもって取り組む」ことが大切であると気づくことができるようにする。 ○ 私たちの道徳の資料を読み、本時の学びとのつながりに気づくことができるようにする。	
終末	4 中学生からのメッセージを読む。	8	○ 目標や夢に向かう態度・ふるまいを意識して生活しようとする意欲を高められるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 希望や勇気をもって努力し続けていくことが大切であると気づき、困難にもくじけずに目標や理想に向かって努力しようとする意欲をもてたか。(記述、発表) </div>	

【県南地区】 鮫川村立鮫川小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学校名	鮫川村立鮫川小学校
所在地	東白川郡鮫川村赤坂中野字道少田86
校長名	芳賀なおみ
学校の教育目標	○自ら進んでねばり強く学習する子ども（知） ○思いやりがあり、助け合う子ども（徳） ○心身ともにたくましい子ども（体）
学級及び児童数	普通学級7 特別支援学級2 児童数 181名
道徳教育にかかる取組の概要	○道徳教育の全体計画や学級における道徳の指導計画の効果的な活用 ○道徳の時間における言語活動の充実について ○道徳教育と他の教育活動との関連

2 研究テーマ

豊かななかかわりの中で、自己を見つめ、共によりよく生きようとする子どもの育成
～道徳の時間における言語活動の充実を通して～

3 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

現代の社会は、科学技術の進歩・発展が人間の生活に多大の恩恵をもたらす一方で、それを活用する人間の側の問題から様々な影響も出てきているといわれる。特に今日の激しい社会においては、児童の自然な道徳性の発達を阻害している現象も指摘される。例えば、社会全体のモラルの低下、家庭や地域社会の教育機能の低下、社会体験・自然体験の不足、その他社会の変化に伴う様々な課題などである。学校における道徳教育は、豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に主体的に対応する「生きる力」を育む上で重要な役割を持っている。これからの社会では、次代を担う子ども自らが学ぶ意思と意欲を持ち、未来への夢や希望を抱きながら、自らを律しつつ自己責任を果たし、自分の利益だけでなく、社会や公共のために何ができるかを大切に考えようとする意欲や態度を育むことがより重要になってくる。

(2) 本校の教育目標の具現化から

本校の教育目標は、「心身ともに健康で、豊かな人間性と創造性に富み、たくましい実践力のある児童の育成」である。そして、めざす児童像として「自ら進んでねばり強く学習する子ども」「思いやりがあり、助け合う子ども」「心身ともにたくましい子ども」を掲げている。学習指導要領にある「生きる力」とは、変化の激しい社会において、人と協調しつつ、自立的に社会生活を送ることができるようになるために必要な人間としての実践的な力であり、豊かな人間性の重要な要素である。「豊かな人間性」とは、美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性や生命尊重の精神、思いやり、正義感など道徳的価値を大切にする心である。子どもたちが自己の生き方を見つめ、一人一人の中に、人間としてよりよく生きようとする力が育成されるように、道徳教育の一層の充実を図ることが教育目標の具現化につながると考える。

以上のことから、豊かななかかわりの中で、子ども自らが人間としての在り方や生き方を自覚できるようにしていくことが大切であり、自らの中によりよく生きようとする力があることに気づき、それを伸ばしていくこととする意欲を高めることが必要であることから、このテーマを設定した。

4 研究計画

月	日	曜	研究内容	備考(主な行事等)
4	20	月	全体会(研究内容の確認、授業者決定)	18日…授業参観
	28	火	研究推進委員会	21日…全国学力テスト

5	8 11	金 月	全体会（研究テーマについて） 各部会の話し合い、ブロック部会	16日…運動会 19～25日…家庭訪問
6	5 23 27 29	金 火 土 月	第1回研究授業事前研究会（3年） 第1回研究授業及び事後研究会（3年） 授業参観日（道徳一斉授業） 第2回研究授業事前研究会（5年）	27日…授業参観日 （道徳一斉授業）
7	13	月	第2回研究授業及び事後研究会（5年）	6～8日…英語体験宿泊学習（6年）
8	28	金	第3回研究授業事前研究会（1年）、 SUN3プラン授業（道徳公開）事前研究会 （4年）（6年2組）	20日…郡音楽祭
9	2 4 11 14 28	水 金 金 月 月	平成27年度計画訪問、第3回道徳授業（1年） 個人・ブロック研修 個人・ブロック研修 SUN3プラン授業研究会・道徳公開（4年）（6の2） 個人・ブロック研修	1日…水泳記録会（低） 3日…水泳記録会（中） 4日…水泳記録会（高） 18日…鼓笛パレード 24～25日…宿泊学習（4・5年）
10	5 26	月 月	個人・ブロック研修 個人・ブロック研修	9日…見学学習、修学旅行 31日…さめっ子フェスティバル
11	13 16	金 月	第4回研究授業事前研究会（2年）（6年1組） 第4回研究授業及び事後研究会（2年）（6年1組）	6日…マラソン記録会 10日…県学力テスト（5年）
12	14 18	月 金	全体会（研究の成果と課題の共有化） 第5回研究授業及び事後研究会（3年）	7～11日…個別懇談
1	15 25	金 月	全体会（研究のまとめの読み合わせ） 研究推進委員会（来年度の研究の方向性）	
3	11	金	全体会（来年度の研究及び実践の協議）	5日…授業参観 23日…卒業式

5 児童の実態及び地域の課題

本校の児童は、何事にも意欲的に取り組み、明るくて素直で活動的である。また、縦割り班活動等では、上級生が下級生の世話をよくし、優しく親切な児童が多い。仕事に対して真面目に取り組み、言われたことを誠実にやり遂げようとする児童が多いが、その反面、自分で考えて行動することができず、主体的に積極的に行動することが少ない。また、相手や場に応じた言葉遣いができず、時として、相手の心を傷つけているにもかかわらず、それに気づかなかつたり、自己中心的になったりする児童もいる。

鮫川村教育委員会は、「人は人によって人になる」という人間尊重の精神を基本理念として、豊かな自然と伝統を愛し、よく考え、明るく、豊かで活力に満ちた生活をし、文化の香り高い村づくりをする人材の育成を目指している。その重点施策の一つとして「豊かな人間性を育む学校教育の推進」を掲げている。保護者も地域の方々も子どもたちに愛情を注ぎ、みんなで子どもたちを大切にして、成長を見守っている。しかしながら、祖父母と一緒に暮らしている子どもが多い反面、父子家庭や母子家庭も少なくない。家庭での教育力が低下している傾向が出てきているのが現状である。したがって、地域の教育力を活用しながら、家庭との連携を図って道徳教育を推進していく必要がある。

6 道徳教育における校長の指導の方針……「資料1」

- (1) 思いやりや優しさを基盤とした望ましい人間関係の醸成を図り、自ら律しつつ他とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心、基本的な生活習慣や道徳性が日常生活に発揮されるよう配慮する。
- (2) 教育活動全体を通じて、各ブロックにおいて「基本的生活習慣」「尊敬・感謝」「公德心」を重点とした

道徳教育が実践できるように全体計画に改善を加え、道徳の時間では道徳的判断力を高め、心情を豊かにし、道徳教育の要として道徳的態度と実践意欲の向上を図れるよう指導計画の改善に努める。

- (3) 家庭や地域社会との協力体制を確立し豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (4) 人権教育との関連を図り、人権擁護委員による授業を年間通じて行う。

7 平成27年度 道徳教育の全体計画について……「資料2」

- (1) 児童の実態と発達段階を基に、ブロックごとに指導の重点を設定した。各ブロックともに4つの重点を掲げているが、その中でも最重点を1つにしぼった。特に、低学年「基本的生活習慣」、中学年「尊敬・感謝」、高学年「規則尊重・公德心」を最重点とした。

また、学校全体としては、教育目標から「思いやり・助け合い」に重点をおいた。

なお、教師や保護者の願いについては、1学期にアンケートをとり、それを分析して、全体計画に明示した。

- (2) 学校の教育活動全体において、豊かな体験活動を通して道徳的価値を深め、児童の内面に根ざした道徳の育成を図るように関連を明示する。

8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について……「資料3」

内容項目を基準にして、道徳の時間の副読本（東京書籍）の題材名を明示することで、各価値の年間の計画がわかるようにし、重点化を図った。年間指導計画（別葉）を学年ごとに作成し、道徳教育を各教科、特別活動、総合的な学習の時間等と関連づけながら推進した。平成30年度からの「特別の教科としての道徳」を見据えて、内容項目を新しい項目で見直した。

9 平成27年度 学級における指導計画について……「資料4」

「学級における道徳教育計画」を作成し、自分の学級の道徳性に関する児童の実態を分析し、そこから「めざす児童像」や「学年の重点目標」を設定した。また、日常における道徳的実践の重点事項を明示するとともに、具体的な指導の重点を学校生活のあらゆる場面ごとに設定して、各学期ごとに評価を行い、次の学期に生かせるようにした。

10 道徳教育推進教師の実践について

道徳教育を推進するにあたり道徳教育推進教師として、研修主任を兼務し、道徳の授業研究を中心に校内研修を進めてきた。また、「小学校学習指導要領解説 道徳編」に示される役割を基にして、実践を行った。さらに、研究テーマの「豊かなかかわり」の中で、「自己を見つめ」させるために、次の2つの視点により研究計画を進めるように立案した。

【視点1】……道徳の時間における言語活動の充実

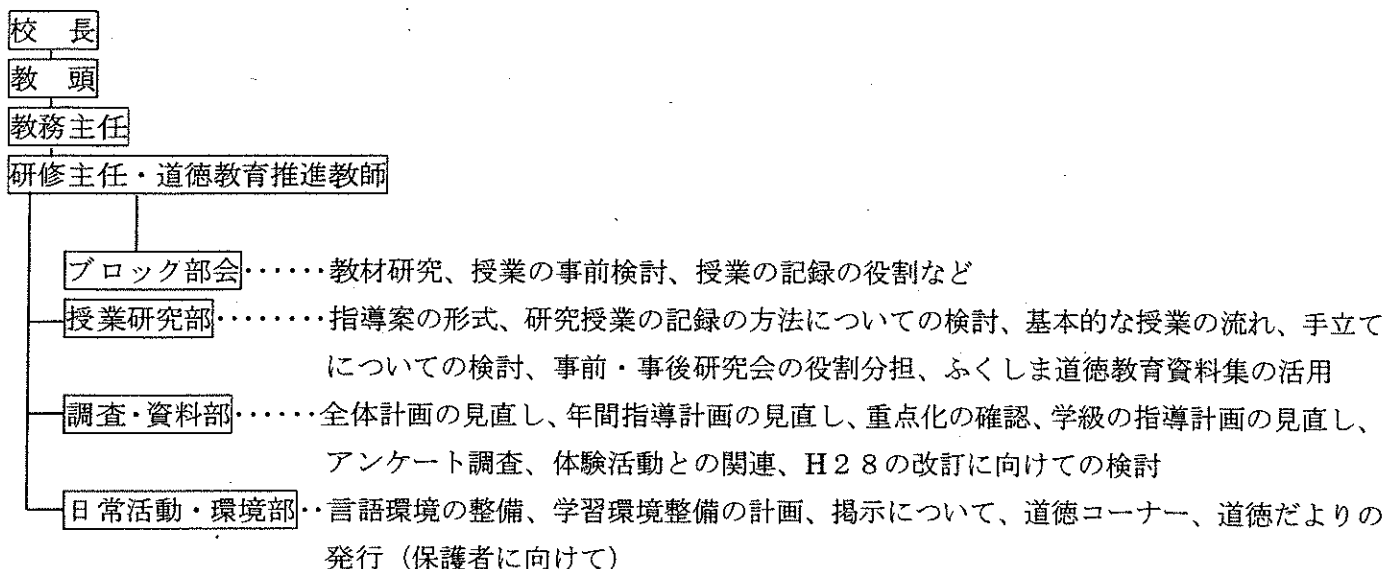
- ① 「自己を見つめさせる」指導の工夫として、心に響く教材や資料の活用と書く活動や表現活動等を生かした指導の工夫を図っていくことにより、児童一人一人が資料の内容と道徳的価値をつかみ、自分の考えをもつことができるようにする。
- ② 「豊かなかかわり」につなげる指導の工夫として、発問の工夫や話し合いの工夫をしていくことにより、自分とは異なった考えに接する中で考えを深めたり、日頃の経験を通して感じたり考えたりしたことを言葉を用いて発表し合うことができるようにする。

【視点2】……道徳教育と他の教育活動との関連

- ① 好ましい人間関係や生活習慣をつくる日常指導の工夫として、環境の整備や他の教育活動との関連を大切にする。特に、何でも言い合え、何でも認め合える学級経営を土台として「あいさつ・返事」など、人のかかわりにおける基本的生活習慣を中心に、規則的な行動が進んでできるような働きかけをしていくことが大切である。
- ② 「豊かなかかわり」につなげるために、家庭との連携や地域との連携を行っていく。家庭や地域社会との共通理解を深める工夫や道徳の時間への積極的な参加や協力を得る工夫など、家庭・地域と一体となって道徳性を高めるようにする。

<実践内容>

- (1) 「道徳教育の指導計画の作成」に関しては、前頁の7、8、9で示した通りである。
- (2) 「全教育活動における道徳教育の推進・充実」が図れるように道徳教育推進教師が中心となって実践した。
- 好ましい人間関係や生活習慣をつくる日常指導として、環境の整備を行った。環境の整備として、道徳コーナーの設置(校舎・教室)、掲示等の工夫、異学年交流、言語環境の整備などを行った。……「資料5」
 - 他の教育活動との関連として、道徳教育全体計画と年間指導計画(別葉)の見直しや学級の指導計画の作成と活用、読書指導との関連(「ふくしま道徳教育資料集」の活用)を図った。
- (3) 「道徳の時間の充実と指導体制」については、道徳教育推進教師が中心となって立案し研究を推進した。
- 各学級において年1回の研究授業を行い、事前研究会や事後研究会を通して研究主題に迫るための手立てと成果について検証し、日常の授業に生かすことができた。
 - 各研究部・各ブロックに分かれ、それぞれの部会で研究を進めることにより、全体の取り組みについて改善を図りながら進めることができた。研究組織は以下の通りである。



- (4) 「道徳用教材の整備・充実・活用」については、道徳教育推進教師が中心となって研究を推進した。
- 心に響く教材や資料の活用として、「ふくしま道徳教育資料集」、一枚絵、場面絵、紙芝居、音声や音楽を効果的に活用したり、ビデオなどの映像を活用したりした。板書の工夫、説話の工夫などを行ったりした。
 - 書く活動や表現活動等を生かした指導として、吹き出し型のワークシートを使ったり、役割演技や動作化の実施やペープサートを活用したりした。
- (5) 「道徳教育の情報提供や情報交換」や「道徳教育の充実」については、道徳教育推進教師が中心となって立案し、全体の掌握をした。
- 授業公開の時に、上越教育大学副学長の林泰成先生をお招きして、「これからの道徳教育」について講演をしていただくことにより、道徳教育に関する研修を深めることができた。
 - 仙台市で行われた道徳の公開授業を参観し、校内で伝達講習会を行った。
- (6) 「授業の公開など家庭や地域社会との連携」については、道徳教育推進教師が中心となって連携を図った。
- 授業参観日に全学年で道徳の授業を行ったり、県南域内を基に道徳の公開授業を実施したりした。
 - 家庭との連携として、「道徳便り」の発行をしたり、「学年便り」の活用を通しての家庭との連携を図ったりした。……「資料5」
 - 地域との連携として、ゲストティーチャー(人権擁護委員等)を活用したり、地域における体験活動を実施や「学校便り」やホームページで地域への発信したりすることができた。
- (7) 「道徳教育に関する評価」については、道徳教育推進教師が中心となって立案し、研究を推進した。
- 「道徳ふりかえりカード」を活用し、児童に学習の振り返りを行うようにした。
 - 7月と12月に「道徳の時間に関する意識調査」を実施し、指導に役立てることができた。

11 道徳の時間について

<研究授業、授業公開の実施>

実施日	内容	学年・主題名(題材名)	主な内容
6月23日(火)	第1回研究授業	3年「親切っていいな」	・ワークシートの工夫、「わたしたちの道徳」の活用、ペア学習 <指導助言> 県南教育事務所 渡辺貴生指導主事
6月27日(土)	授業参観日 (道徳一斉授業)	1年「うかんだ うかんだ」 2年「いそいでいても」 3年「一輪車にのれた」 4年「フィンガーボール」……保護者との話し合い 5年「星野君の二るい打」……ゲストティーチャー(スポ少の監督、保護者) 6年1組「言葉のおくりもの」 6年2組「言葉のおくりもの」	
7月13日(月)	第2回研究授業	5年「本当の友情とは」	・ワークシートの活用、葛藤場面の設定、効果音 <指導助言> 県南教育事務所 渡辺貴生指導主事
9月2日(水)	第3回研究授業	1年「やさしい気持ち」	・「わたしたちの道徳」活用、役割演技 <指導助言> 県南教育事務所 藤田篤指導主事
9月14日(月)	道徳公開授業 並びに講演会	※4年「感謝する心」 「資料6」	・「ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集」の活用 ・身近な人(生活を支える仕事)からの手紙 <指導助言> 県南教育事務所 渡辺貴生指導主事
		6年2組 「自分のよさを生かす」	・発問の工夫(揺さぶりのある発問) ・ゲストティーチャーの活用(口笛奏者) <指導助言> 県南教育事務所 渡辺貴生指導主事
		講演「これからの道徳教育」 講師: 上越教育大学副学長 林泰成先生 <講演の概要> ・何が変わるのか。 ・問題解決的な学習と道徳性の発達 ・道徳的行為に関する指導 ~モラルスキルトレーニング(MoST)の考え方~	
11月16日(月)	第4回研究授業	2年「やさしく親切に」	・ソーシャルスキルトレーニング、板書の工夫、ペープサート <指導助言> 県南教育事務所 渡辺貴生指導主事
		6年1組 「よりよい校風」	・「わたしたちの道徳」の活用、ビデオレターの活用、 ゲストティーチャーの活用(本校卒業生) <指導助言> 県南教育事務所 渡辺貴生指導主事
12月18日(金)	第5回研究授業	※3年 「資料7」 「相手の気持ちを考えて」	・「ふくしま道徳教育資料集 第Ⅰ集」の活用 紙芝居の活用、ワークシートの工夫、板書の工夫

12 成果と課題

(1) 道徳教育推進のための研究について

「視点1」……道徳の時間における言語活動の充実

- 心に響く教材や資料の活用として、一枚絵や場面絵は状況を視覚的にとらえるために有効であり、終末の段階では、ビデオレターや効果音CDを活用したことで、温かい気持ちや実践への意欲が育った。
- 板書の工夫においては、葛藤場面での活用や対比的な利用、児童の考えを分類整理、一枚絵の提示、ペープサートの活用など、構造的な板書をしたことが効果的であった。
- 吹き出し型ワークシートを活用し、自己を見つめさせる場を設定することで、友達と交流させることができた。また、動作化や役割演技を取り入れたりするなど、書く活動と表現活動等の言語活動が有効であった。
- 揺さぶりのある発問や自分の考えをもたせる発問を工夫したり、自分の考えを発言しやすいうようにグループやペアで話し合ったり、座席の配置の工夫やソーシャルスキルトレーニングを取り入れたりすることによって

児童の豊かなかかわりを深めることができた。

- 道徳教育の授業研究を通して、各担任が授業の流れや「価値への気づき」「自己を見つめる場の設定」等、道徳授業で大切なポイントについて共通理解を深め、自分の授業に生かそうとする意識を高めることができた。
- 9月の授業公開時に、上越教育大学副学長の林泰成先生より「これからの道徳教育」について、ご講演をいただいた。道徳授業のあり方について全職員で研修し、大変有意義であった。
- 様々な言語活動を取り入れる中で自己を見つめることや友達の考えにふれることができた。今後、揺さぶりの発問や葛藤場面の設定を通して、表現する力を養い、「考え議論する道徳」へと発展できるようにしていく。

「視点2」……道徳教育と他の教育活動との関連

- 道徳コーナーの設置や掲示物の工夫をしたり、異学年交流を積極的に行ったり、学校のきまりを各教室に掲示したりすることにより、好ましい人間関係や生活習慣をつくることができた。
- 児童の実態に即した重点事項を設定し、道徳教育全体計画と年間指導計画（別葉）の見直しや学級の指導計画の作成と活用をしたことにより、道徳教育と他の教育活動との関連が明確になり、道徳の時間の充実を図ることができた。
- 授業参観日に全学年で道徳の授業を行うとともに、道徳便りや学年便り・学校便り、ホームページで道徳教育に関する内容や体験活動での児童の様子を知らせたことで、家庭・地域との連携が図られ、豊かなかかわりをもつことができた。
- 口笛奏者の方や保護者の方をゲストティーチャーとしてお招きしたり、中学生からのビデオレターや生活を陰で支えている身近な人からの手紙を紹介したりしたことや授業以外にも体験活動の中で地域の方に話していただいたりする機会を多く設けたことにより、地域との連携も図ることができ、児童の言語活動の充実や豊かなかかわりをより深めることができた。
- 道徳の授業で学んだことを豊かな体験と結びつけるために、道徳教育全体計画の見直しや年間指導計画（別葉）を修正・改善しながらさらに有効に活用できるようにしたい。

(2) 児童の変容から

7月と12月に「道徳の時間に関する意識調査」を実施し、児童の道徳の時間に関する意識についての変容を捉えた。

- 「友達と仲良く助け合っていますか」「あいさつや言葉づかいなど、人との接し方に気をつけていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問において、「そう思う」と答えている児童が12%増えた。そのことは、道徳の授業の中で、自己を見つめる時間を設定したり、ペアやグループで話し合ったり、友達とのかかわりの中で価値を深めたことや、体験活動や縦割り班活動など、人とのかかわりの場を多く設定したことによる成果であると考えられる。
- 「木を折ったり動物を傷つけたりすることはいけないことだと思いますか」の質問において、「そう思う」と答えている児童が8%以上増えた。年間を通じて農業体験や身近な自然とのふれ合いなど自然とかかわる体験を設定して取り組んだ成果であると考えられる。
- 「学校のきまりを守っていますか」「学級活動では、仲良く話し合い楽しい生活にしようとしていますか」の質問において、「そう思う」と答えている児童が11%以上増えた。そのことは、行事や学級指導、係活動や委員会活動などの特別活動を通して、集団の中の自分の役割と責任を意識させるなど、他教科、他領域での取り組みの中で育まれた成果であると考えられる。
- 「『わたしたちの道徳』を読んだり、書き込んだりしていますか」の質問において、「そう思う」と答えている児童が7月よりも7%少なくなったことは、「わたしたちの道徳」を道徳の授業の中で活用できるように努力してきたが、活用する機会が限られていたことから、このような結果になったと思われる。朝の時間や放課後など、授業以外でも活用する場を共通理解する必要がある。

「資料1」

子どもたちの夢を大きく育てる学校

かしこく(知) やさしく(徳) たくましく(体) 子ども

めざす学校の姿

学校課題

- 1 確かな学力の向上
 - ・思考力・判断力・表現力の育成
- 2 人間関係形成能力の育成
 - ・コミュニケーション能力・自己表現力
- 3 体力・運動能力の向上
 - ・「柔軟性」「筋力」
 - ・日常的な運動量の減少傾向

学校経営の基本方針

- 1 「わかる」できる授業をめざした授業実践を展開し、基礎的・基本的な学習内容の定着と思考力・判断力・表現力の向上をめざした学習指導の充実と改善に努め、「確かな学力の向上」に努める。
- 2 児童にとって「心の居場所」「絆づくり」となる学校・学級経営を推進するとともに、互いに認め合い、高め合う人間関係づくりの中で「思いやり」や「困難に打ち勝つ力」等「豊かな心の育成」に努める。
- 3 体力の向上・保健・安全に努め、「健やかな体の育成」を推進するとともに、目標達成をめざして努力できるような児童を支援するとともに、安全に対する判断力・行動力を身につけさせる。
- 4 家庭・地域住民との連携を図りながら地域の教育力を積極的に生かし、「開かれた学校づくり」に取組む。

- 児童の笑顔と喜びがあふれる活力ある学校
- 安心して通える信頼感ある学校
- 地域の人々が愛着を持って集まる学校
- 職員が誇りをもちながら働く学校

- ◇めざす教師像◇
- ・わかりやすく美しい授業づくりを努め、学力を伸ばすことができる教師
 - ・どの子にも温かなまなざしをよこす教師
 - ・認め励まし個性を伸ばす教師
 - ・健康で明るく元気な教師
 - ・地域の良さを原動力にもとに学ぶ教師

自ら進んで粘り強く学習する子ども
1 確かな学力の向上

重点目標
自ら学ぶ意欲をもって課題解決に努め、基礎的・基本的学習内容を習得し、思考力を身に付けた子どもの育成

具体的実践内容

- 1 学び方や話し合いの仕方を身につけ、主体的に学習に取り組んで基礎的・基本的学習内容を確実に習得できるようにする。
 - ① 児童の笑顔に応じた「マイクラスプラン」の計画と日々の授業の改善・充実 (PDCAサイクル)
 - ② 問題解決的な学習の推進
 - ・導入方法の工夫
 - ・学習活動の工夫
 - ③ 多様な指導方法による個に応じた授業の工夫
 - ・T.Tを取り入れた指導
 - ④ 学び方や学習訓練などの基本的なまきまの徹底 (全学年で設けない指導の工夫)
 - ⑤ 日常指導の工夫 (家庭学習の励行と習慣化)
 - ⑥ 定着確認シート・フォローアップシート等の活用
- 2 各教科指導の中で言語活動を充実させ、豊かな感性を養い、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
 - ① 言語活動の工夫と充実 (説明する力・聴く力の育成)
 - ・関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりする活動を取り入れた指導
 - ② 活用力を育てる学習活動の充実
 - ・知的好奇心を高める導入・思考過程の共有化・振り返り

思いやりが助け合う子ども
2 豊かな心の育成

重点目標
相手の立場に立って考えることができ、だれよりも仲良く協力できる心豊かな子どもの育成

- 1 道徳の時間及び教育活動全般を通して道徳の判断・思いやり・生命の尊重(公徳)、規則の尊重などを養えるようにする。
 - ① 道徳の時間の改善充実 (授業公開(年一回))
 - ② 特に、「基本的な生活習慣」(意欲・感謝・礼儀)の重点化をプロシエの実践に即して)
 - ③ 自己判断・自己決定を通して正しく行動できるように目的の指導
 - ④ 朝の読書タイムや読書週間中
- 2 基本中の行動様式を身につけ、学級や部活動の中で一人一人の認め合い・励まし合いながら、何事にも誠意をもって取り組み、最後までやりぬくことと実践力を養う
 - ① 互いに認め、高め合う人間関係作り(児童・教員)での居場所の創出
 - ・学校生活(メンター)の実施
 - ・教育相談の充実
 - ② 規範意識の向上 (百善が先) あいさつ・礼儀・くつろぎの指導の徹底
 - ③ 地域や異学年単元の活動を通してのコミュニケーション力の向上
 - ④ 地域との連携での体験活動の充実

心身ともにたくましく強い子ども
3 健やかな体の育成

重点目標
生命を尊重し、健康安全に気を付けて体を鍛え、困難にめげず最後までやりぬく心身ともにたくましく強い子どもの育成

- 1 進んで運動に取り組み、体力の向上を図るとともに、何事も最後までやりぬく強い心も育てる。
 - ① 児童の取組に応じた体育科授業の改善充実
 - ② 全校的な取り組み、外部講師の積極的活用
 - ③ 運動身体づくりプログラムの実践と運動量と場の保障
 - ④ 目標達成に向けて粘り強く努力させる取り組み
 - ⑤ がんばるスタイルを、なわとび、持久走等の充実
- 2 健康安全についての正しい知識を持ち、進んで色々な運動に取り組むながら体力の向上を図り、健康で安全な生活を送るための生活習慣を育てる。
 - ① 本校の健康課題の改善のための指導の重点化と保健指導の改善
 - ② 関係機関との連携による食指導、性指導、道徳指導
 - ③ 健康安全な生活習慣の指導
 - ④ 清潔な生活 (早寝早起き朝ご飯) の推進
 - ⑤ 防災・防犯訓練と自己防衛力を高める指導
 - ⑥ 各教科、活動の中での防災教育
 - ⑦ 安全に対する判断力・行動力を身につけようとする指導の工夫
 - ⑧ 登校時の安全・日常の安全
 - ⑨ 自ら考え判断する力をよくもつ放射線教育

4 開かれた学校づくり

- 家庭及び地域への積極的な情報発信と受信に努める。
- 地域の人も、ことを学校の教育活動に積極的に活用する。
- 幼少・中の連携に努め、1・2年間の児童の成長を見通した教育を進める。
- 学校評価を適正に進め、保護者や地域住民との信頼関係を築くよう努力する。

- 豊かな人間性を育む
- ＝＝豊川小学校教育の基本＝＝
- 子どもが充実感をもって学校生活を過ごし、学びたいと思おうとする意欲を育てる「教育」の推進
- ① 確かな学力と学習意欲の向上・育成
 - ② 豊かな心の育成
 - ③ 体力作りの推進
 - ④ 地域の教育力を生かした活動の推進

平成27年度 道徳教育全体計画 「資料2」

岐川村立岐川小学校

日本国憲法
教育基本法
学習指導要領
の重点目標
・豊かな心をもちたくましく
生きる人間の育成

本校の教育目標
○自ら進んでねばり強く学習する子ども（知）
○思いやりがあり助け合う子ども（徳）
○心身ともにたくましい子ども（体）

本校の道徳教育の目標

生命を大切に、文化や社会の発展に貢献できるような主体性のある態度を身につけさせるとともに、生活上の諸問題について、自分でよく考え、正しく判断し、規範意識を高め、友達と助け合いながら粘り強く努力しようとする自分の内から心豊かにたくましく成長する子どもを育成する。

道徳教育の指導方針

- 学校の教育活動全体において、豊かな体験活動を通して道徳的価値を深め、児童の内面に根ざした道徳性の育成を図る。
- 学級経営をはじめとする教育活動全般において、教師と児童及び児童相互の望ましい人間関係を育む。
- 児童の生活に根ざした事例を具体的に指導し、道徳実践力を養う。
- 個性に応じた効果的な指導法の改善を図り、一人一人の児童の道徳性を高めていくようにする。
- 家庭や地域社会との連携を図り、基本的な生活習慣に関する指導を積み重ね、身につけさせる。
- 「わたしたちの道徳」を活用し、子ども達一人一人が自己と向き合う時間を重視する。

- 村の重点目標
安らぎとふれあいの村の一員としての自覚と誇りを育む
・あいさつができる
・思いやりの行動がとれる
・正しい言葉遣いができる
- 現代社会の要請
・自主的、主体的に生きて行く資質
・心豊かな人間の育成
・文化と伝統の尊重と国際理解の推進
- 教師、保護者の願い
・これまでの知識、経験を生かし、物事を解決する子ども
・自信をもって自分の考えを伝え、友達との考えも受け入れる子ども
・思いやりや奉仕の精神のある子ども
・善悪を正しく判断し、行動する子ども
- 児童の実態
・明るく素直で活動的である。
・自分で考えて行動することが苦手である。
・他人に対して優しさはあるが自分に対して甘い。
・基本的な生活習慣が身につけていない
・自己中心的である
・物事に意欲的に取り組むことができるが、最後までねばり強くやり遂げることが苦手である。
・自分で考えて行動したり、思いを伝えたりすることが苦手である

各学年の道徳教育の目標

低 学 年	中 学 年	高 学 年
◎健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがまましないで規則正しい生活をする。 1-1 ○気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて明るく接する。 2-1 ○身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。 3-2 ○約束やままりを守り、みんなが使う物を大切に。 4-1	○通ちは素直に改め、正直に明るく元気で生活する。 1-4 ◎生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもつて接する。 2-4 ○自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切に。 3-2 ○約束や社会のままりを守り、公德心をもつ。 4-1	○生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がける。 1-1 ○日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝しそれにこたえる。 2-5 ○生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 3-1 ◎公德心をもって法やままりを守り、自他の権利を大切に守る義務を果たす。 4-1

各教科、特別活動、その他の教育活動における道徳教育の指導方針

- 各教科、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間、その他の教育活動の目標や内容に含まれている道徳教育に関する面を押さえた指導を展開することにより、道徳教育が充実する。
- 各教科、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間、その他の教育活動の特質を踏まえた指導を充実し、それらの目標を達成することによって道徳教育の効果を高めることとなる。
- 各教科、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間、その他の教育活動において、それぞれの目標に応じた豊かな体験を組織し、その他の体験を通して児童の道徳性の変容を見逃さないように配慮する。

各教科における道徳教育の重点	
国語	・文学作品などを中心として、道徳的価値を養うとともに、よく聞く、よく話すといった学習活動を通して、粘り強く取り組む態度や相手を尊重する態度を培う。
社会	・社会の構成員としての人物に視点を当て、人物の働きを通して社会の仕組みなどを理解するとともに、人物への共感が深められるよう配慮する。
算数	・日常生活における諸々の事象を合理的に把握することを通して、見通しや筋道を立てて考え処理することができる態度や意欲を育てるよう努める。
理科	・主体的に自然に働きかけることにより、自ら課題解決しようとする態度を育てるとともに、自然を愛することのできる豊かな心情を培う。
音楽	・音楽の美しさを感じ取ることができるようになることを育てるため、合唱や合奏や鑑賞に力を入れた指導をすることにより、表現活動においては、主体性や意欲を育てるよう配慮する。
図工	・造形活動を通して、良く考える態度や粘り強さを身につけさせるとともに、それぞれの作品の持つ価値を知らせるとともに、作品を愛する心情を養う。
家庭	・家族の一員としての自覚を高めるとともに、家庭における自分の役割を果たそうとする態度を養う。
体育	・規則を守り、互いに仲良く活動させる。 ・協力、公正などの態度を育てるとともに、自己の最善を尽くして運動させる。
生活	・具体的な活動から、道徳実践を身につける。

道徳の時間の指導方針	
○	各学年の重点目標を踏まえ、一人一人の道徳的心情・判断力・意欲・態度を養う。
○	各学年の重点目標をもとに、各学年における重点内容項目を設定し、指導法工夫する。
○	児童の内面に根ざした道徳性を育成するため、個に応じた指導方法の工夫を図る。
○	各教科、特別活動、その他の教育活動における豊かな体験活動との関連を十分に図り、指導の方法を工夫する。

各学年の重点内容項目		
低 学 年	中 学 年	高 学 年
1 (1) 基本的な生活習慣	1 (4) 正直誠実・明朗	1 (1) 基本的な生活習慣
2 (1) 礼儀	2 (4) 尊敬・感謝	2 (5) 尊敬・感謝
3 (2) 自然愛・動物愛護	3 (2) 自然愛・動物愛護	3 (1) 生命尊重
4 (1) 規則尊重・公德心	4 (1) 規則尊重・公德心	4 (1) 規則尊重・公德心

特別活動における道徳教育の重点	
学級活動	・児童の自主的、実践的な活動を通して望ましい道徳的価値や意欲を育てるとともに、学校、学級生活への適応に関する指導を通して、道徳的判断力や態度、実践力の定着を図る。
児童会	・自主的な参加態度の育成や自治的な課題解決などにより、道徳的価値や実践意欲の向上を図る。
クラブ	・共通の興味、関心を追求する活動を通して、自主性、協力を養う。
学校行事	・勤労生産、奉仕活動などの体験を通して、勤労生産の尊さや意欲や奉仕の精神などを体得させる。

外国語活動
・外国人講師や外国語に堪能な地域の人々などの協力を得て、外国語にふれたり外国語文化に親しんだりする体験を充実させる。

総合的な学習の時間
・道徳教育で培われた道徳性を基礎として、体系的な学習活動などを通して「生きる力」として根づかせる。

生徒指導における指導の重点
○生徒指導の機能を働かせるとともに、児童の自己教育力を育て、個性の伸長を図る。 ・自己決定の場を与える。 ・自己存在感を与える。 ・人間的な触れ合いを重視する。

環境整備における指導の重点
○環境の美化に努め、勤労や奉仕の心養を促す。 ・教員作業の実施・校内外の清掃実施 ・JRC活動との関連
○創意活動との関連を図る。 ・学級園の花や野菜の栽培

家庭・地域との連携の方法
○道徳の授業を通して家庭との連携を図る。 ・授業録や授業内容を公開し、道徳教育の理解を深める。 ・道徳の授業内容を親子で考え合い、実践に結びつけるようにする。
○広報活動を通して地域との連携を図る。 ・PTA会報を学区内の全家庭に配布し、道徳教育の実践内容について知らせる。
○地域社会の諸活動に積極的に参加させる。 ・奉仕活動

その他の教育活動における重点	
創意	・個人、学年、学校全体のそれぞれの活動の中で、創意工夫しながら個性的により豊かな生活しようとする態度を育てる。
現職	・各教科の話し活動、聞く活動を通して、課題解決に努力する子どもを育てる。
保健	・心身の健康を保持増進する態度を育てる
安全	・日常生活において、安全のために必要な事柄を理解させ、進んでまわりを守り、安全に行動できる態度や能力を養う。
給食	・食事ができることに感謝の気持ちを持ち、助け合って準備や片付けをする態度を身につけさせる。
図書	・望ましい読書習慣を育成することにより、豊かな心情を養う。
清掃	・生活の場を自分達の手によって、美しく整えていこうとする態度を身につけさせる。

道徳教育における教科との関連

6年

「資料3」

内容項目	道徳科(東書版)	国語科	社会科	算数科	理科	音楽科	図画工作科	家庭科	体育科	学級活動	総合的な学習の時間	備考
(1) 善悪の判断、自律、自由と責任	修学旅行の夜 5									学級の組織を作ろう 4		
(2) 正直、誠実	手品師 9	笑うから楽しい 4										
(3) 節度、節制	お母さんお笑いね「すんまへん」でいい 10	時計の時間と心の時間 5			地球に生きる 2			考えようこれからの生活 2	病気の予防 6			
(4) 個性の伸長	あこがれのパティンエ 1	中学校へつなげよう 3										
(5) 希望と勇氣、努力と強い意志	心をつなぐ音色 2	4<資料>イーハトーワの夢 11	3人の武将と天下統一 11	7								
(6) 真理の探究	まんがに命を 3	自然に学ぶ暮らし 1	町人の文化と新しい学問 4	9								
(7) 親切、思いやり	思いすでの笑顔から心に届くはらけのうらみと 6	未来がよりよくあるために 1										
(8) 感謝	土石流の中で救われた命 7				地球と私たちの暮らし 4			考えようこれからの生活 3		卒業式に向けて 1	異学年交流(なかよし遠足) 5	修学旅行 10
(9) 礼儀	江戸しぐさ 4	(コラム)伝えたいことを伝える 2		5								
(10) 友情、信頼	言葉のおくりものばかじやん! 7											
(11) 相互理解、寛容	銀のしよく台 10	学級討論会をしよ 5										
(12) 規則の尊重	ピアノの音が…空さかんのゆくえ 6		子育て支援の願いを言葉にする政治/憲法精神の願いを表現する政治 9	12	いろいろな単位 1							
(13) 公正、公平、社会正義	田中正造 11		世界に歩み出した日本 10									
(14) 勤労、公共の精神	うちらネコの手*ボランティア 6		わたしたちのくらしと日本国憲法 1									
(15) 家族愛、家庭生活の充実	おばあちゃんのさがしもの 12	カレーライス 4										
(16) よりよい学校生活、集団生活の実現	せんぱいの心をうけついで 11											
(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	白神山地 11	ようこそ、わたし 2										
(18) 国際理解、国際貢献	白旗の少女 5	かなえられた願い 10	日本とつながりの深い国々 3	2								
(19) 生命の尊さ	命の重さはみな同じお母さんへの手紙 5	生きる 3	長く続いた戦争と人々の暮らし 3	11	動物のからだのばたらき 5							
(20) 自然愛護	森さんからのメッセージ 5	森、生き物はつながりの中 6			植物のからだのばたらき 6							
(21) 感動、畏敬の念	夜彦一光の旅 12	河産の屏風 2			太陽と月の形 11							
(22) よりよく生きる喜び	まぼろしの水鏡 12	海 2										

「資料4」

平成27年度 6学年1組 道徳教育指導計画

鯉川村立鯉川小学校 担任 []

<p>学年の道徳教育の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。(1-1) ○ 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。(2-3) ○ 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。(3-1) ◎ 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。(4-1)

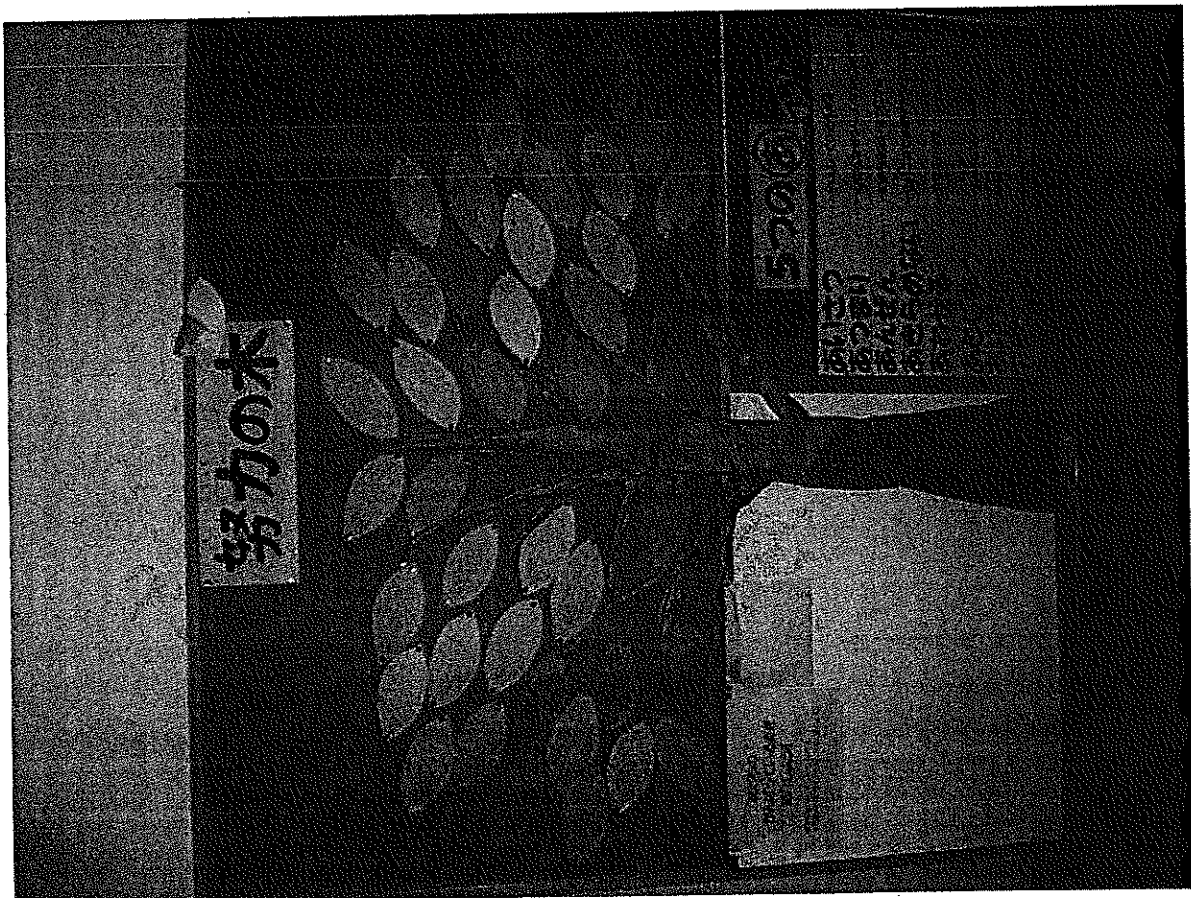
<p>学年の道徳性の実態</p> <p>男子 11名 女子 7名 計 18名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく元気で、男女の仲が良く、協調性がある。 ○ 最高学年として、責任を自覚して行動したり、下級生にやさしく接したりすることができる児童が多い。 ○ 決められたことをしっかりと行うことはできるが、自ら進んで行動できる児童が少ない。 ○ 周囲の児童に左右されてしまい、善悪の判断ができない児童がいる。

<p>めざす児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 思いやりの気持ちをもって、友達や下級生に接することができる児童 ○ 学校や学級のきまりをよく理解し、最後まで責任をもち、学校や誰かのために進んで行動できる児童
--

<p>学年の道徳教育重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の立場を考え、だれに対しても分け隔てなく思いやりをもち、みんなのことを考えて行動する。 ○ きまりを守り、よく考え自分で判断し、責任ある行動をとる。
--

<p>日常生活における道徳的実践の重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な体験活動を通して、実践への意欲を高め、目標に向かって最後までやり通す。
--

具体的な道徳的実践の指導の重点		評価(A・B・C)と反省		
		1 学期	2 学期	3 学期
1. 道徳の時間における指導	一人一人の思いや考えを大切にしながら、価値に気づかせるための発問の仕方を見直す。	①・B・C 身近な事と関連を切りながら考え、進めることで自分を振り返ることができた。	①・B・C	A・B・C
2. 各教科・特活における指導	実感を覚えられるように学習の展開を見直し、友達のおよきに気づけるようにグループ活動を多く設けたりする。	A・②・C 話し合いの場を多く設定することで友だちの考えの良さに気付くことができた。	①・B・C	A・B・C
3. 生徒指導における指導	好ましい人間関係を育て、自己決定の場を与えて、正しい行動がとれるようにする。	A・②・C	A・②・C	A・B・C
4. 学級生活における豊かな体験活動	学級活動や総合的な学習の時間等を通して、様々な体験活動に取り組ませる。	①・B・C 思存期体験や英語館前体験研修など、いろいろな体験ができた。	①・B・C そば打ち体験など、いろいろな体験をすることができた。	A・B・C
5. 学級環境の充実計画	互いのよさを認め合うことができる教室環境づくりに努める。	①・B・C 「今日のきりり」の発表、発表することで、互いを認め合うことができた。	①・B・C	A・B・C
6. 他学年との連携	自らの道徳的な成長を実感できるように、学校行事や縦割り班活動等での自己の心情を表現する機会を充実させる。	①・B・C 各行事や縦割り班活動、日常の様子、日記などから、最高学年として責任感や成長が見られた。	①・B・C	A・B・C
7. 家庭・地域社会との連携	保護者と教師が同じ視点に立ち、子ども達の道徳性を伸ばせるように心がける。	A・②・C	①・B・C	A・B・C



道徳コーナー 「努力の木」より

道徳便り

HZ7.10.23
No.1

今年度、道徳教育推進校の指定を受け、道徳教育の研究に取り組み始めて半年がたちました。これまでに、授業参観での道徳授業の公開、9月に行われた道徳授業研究会、各クラスで授業実践などをを行い、道徳についての研究を進めているところです。授業はもろろんことと日々の生活の中でも指導を行っています。

以前実施した道徳に関するアンケートの調査結果を見てみると、保護者が学校教育で力を入れてほしいと考えている道徳に関する項目として、「思いやり・親切」「友情・信頼」「相互理解・寛容」「よりよい学校生活・集団生活の充実」が挙げられています。家庭で力を入れている項目としては、「思いやり・親切」「礼儀」「節度節制」となっています。児童が課題にしていることは「家の手伝い・家族の協力」「善悪の判断」「きまりを守ること」でした。

これらのアンケート調査から保護者のみなさんが育てたいと願っている道徳に関する項目が明らかになっていきます。家庭と学校それぞれで道徳性を養う場があり、それぞれの場に応じて道徳性を養うことが大事だと考えます。保護者の願いを受けながら、学校教育の中で豊かな心の育成を目指して取り組んでいきます。

《学校全体の取り組み紹介》

- ① **あいさつ・返事・くつそろえ・言葉づかい**
3年生の立ち止まってお辞儀しながらのあいさつは、学校全体のお手本になっています。
- ② **オ…おはよう ア…あのがどう シ…失礼します ス…すみません**
職員室に入るとき「失礼します」のあいさつが上手なのは、1・2年生です。礼儀正しく行動しています。
- ③ **名前には「さん」をつけて呼ぼう**
学年があがるにつれ、名前を呼び捨てにしたり、あだ名をつけたりすることが多くなっています。相手を尊重する気持ちをもち、名前を呼びたいものです。



上記3点について教室に掲示し、いつでも確認できるようにしています。特に言葉づかいが乱れがちです。言葉づかいが優しくなると自然と気持ちも優しくなるものです。教職員が話す言葉もお手本になるよう心がけ、今後も児童への指導を続けていきますので、ご家庭においてもご理解とご指導をよろしくお願ひします。

「道徳便り」より

研究テーマ

豊かなかかわりの中で、自己を見つめ、共によりよく生きようとする子どもの育成
 ～道徳の時間における言語活動の充実を通して～

1 主題名 感謝する心 2-(4) 尊敬・感謝
 資料名 「がんばらやんばい」(出典：ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人は、直接的・間接的に多くの人々に支えられて生活している。しかし、あまり目につくことのない仕事などについては、その存在を認識する機会が少ないと言える。当たり前のように生活していると、陰で支えられていることを忘れ、感謝の気持ちさえもたなくなってしまうことがある。この時期の児童は、自分と他者との関わりを考える力がついてくる。そこで、社会生活を支えている人々の存在を再認識し、その人々の思いを理解することで、感謝の気持ちをさらに深めていくことが大事である。

(2) 児童の実態

本学級の児童(男子12名、女子9名、計21名)は、社会科の学習を通して消防士の仕事、水の管理をする仕事、ごみ処理の仕事について学び、多くの人々が自分たちの生活を支えていることに気づいてきている。一方で、児童は目につく事物に関心が向くことが多く、目に見えにくい部分に思いが及ばないことが実態として見られる。そのため、生活を支える人々に対する感謝の気持ちが深まっているとはいえない。日常的に触れ合っている人々だけでなく、陰で支える人々の思いも理解することによって、感謝する気持ちを深めたい。

(3) 資料について

本資料では、東日本大震災での給水活動が取り上げられている。主人公は、給水所に水くみに行くが、重い水を運ぶことに乗り気ではない。給水の列ではいらだつ人々の姿も見られる。しかし、水道局員との交流によって給水車が遠く離れた福岡県久留米市からやってきたことを知るようになる。主人公は、久留米市の水道局員の支えがあって水が確保できたことに気づき、水くみへも前向きになっていく。水道局員はどんな思いでやってきたのか、その思いを考えさせることによって、支えてくれる人に対する感謝の気持ちについて考えることのできる資料である。

3 学習指導計画 <関連価値 2-(2) 思いやり>

指導時期	主題	資料	内容
9月	感謝する心	がんばらやんばい	生活を支える人々に対する感謝の心
11月	尊敬・感謝の思い	だがし屋のおばあちゃん	高齢者に対する尊敬と感謝の思い

4 研究テーマに迫るための手立て

- 【手立て1】自分自身の生活を振り返って考えることができるようにこれまでの体験を想起させる。
- 【手立て2】本時の価値を確認できるように、生活を支える身近な人からの手紙を読む場を設ける。

5 本時の指導

(1) ねらい

生活を支えている人々の思いを理解し、感謝の気持ちをもとうとする態度を育てる。

(2) 指導過程

段階	学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 評価 ※ 研究テーマとの関連【手立て】
導入	1 資料への方向づけを図る。 ○ 震災から4年が経ちましたが、震災直後の生活でどんなことに困っていたか分かりますか。	5	○ 震災時の話題から、自分たちの生活を支えているものに目を向けさせ、資料への方向づけを図る。
展開	2 資料「がんばらやんばい」を読んで話し合う。 ① 「ぼく」が水くみに行くことに乗り気でないのはなぜだと思いますか。 ・ 水が重いから。 ・ 歩いて運ぶのは大変だから。 ・ 面倒だから。 ② 久留米市の水道局員は、どんな気持ちで水を運んできたと思いますか。 ・ 水がないと大変だ。 ・ 困っている人を助けたい。	20	○ 児童は震災時に断水、停電などは経験していないので、補足説明をすることによって、状況がつかめるようにする。 ○ 「ぼく」が水くみに乗り気でない理由を考え、自分本位な思いをもっていることに気づかせる。 ○ 久留米市の水道局員の思いを考えることによって、相手の思いを理解し、支えてくれる人がいることに対して感謝の気持ちがもてるようにする。

前 段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しでも役に立ちたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ 「ぼく」は久留米市の水道局員にどんなことを伝えようと思っているのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくたちのために遠いところから水を運んできてくれてありがとう。 ・ 当たり前に使っていた水だけど、もっと感謝して使いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに「ぼく」の思いを記入することで、生活を支える人に対する感謝の気持ちを表現できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>生活を支えてくれる人への感謝の気持ちについて考えることができたか。 (ワークシート・発言)</p> </div>
展 開 後 段	<p>3 生活を支えてくれている人々について考える。</p> <p>④ 生活を支えてくれている人はどんな人がいますか。その人たちに対してどう思いますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>下水処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちが汚した水をきれいにしてくれる人がいることを忘れないようにしたい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ごみ処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見えないところで仕事をしている人に感謝したい。 </div>	<p>15 ※ これまでの体験を想起し、自分の生活を支えてくれている人に対する思いをもつことができるようにする。【手立て1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身の生活を振り返り、ワークシートに記入することで、自分と生活を支える人との関わりを見つめ直せるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分たちの生活を支えてくれている人々に対して感謝の気持ちをもつことができたか。 (ワークシート・発言)</p> </div>
終 末	<p>4 地域でテレビのアンテナを点検する仕事をしている人からの手紙を読む。</p>	<p>5 ※ 身近な人の話を聞いて、生活を支えられていることを理解し、感謝の気持ちをもてるようにする。【手立て2】</p>

6 準備物……ワークシート、場面絵、写真、テレビアンテナを点検する人からの手紙、画像

7 成果と課題

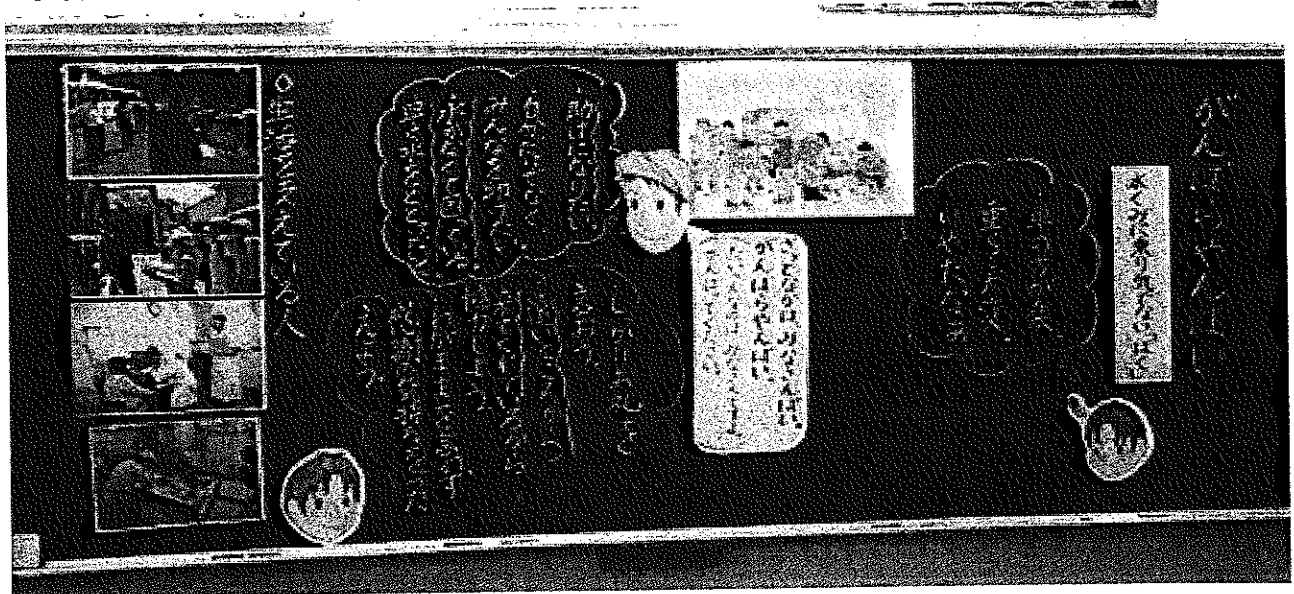
<「豊かなかがわり」につなげる指導の工夫>

- 社会科で学習したことを思い出させたり、児童が気づきにくい仕事を写真で紹介したりすることによって、生活を支える人々について想起し、自分の生活と結びつけて考えることができた。
- ワークシートに生活を支える人々に対する気持ちを書いたが、簡単な感謝の言葉にとどまっている児童が多かったため、もう少し具体的に仕事の内容にふれたほうが感謝の気持ちに深まったのではないかと考えられる。

<「自己を見つめさせる」指導の工夫>

- 陰で生活を支えている身近な人からの手紙を紹介したので、児童の関心を高めることができた。
- テレビのアンテナを整備する仕事の作業風景を見せ、仕事の苦勞などについても手紙で紹介したことにより、自分たちが知らないところで支えられていることを理解し、感謝の気持ちを持つことができた。
- 身近な人からの手紙であり、自分たちの知らないところで生活を支えている仕事だったので手紙を読んで終わりだったが、展開後段で取り扱うなどして、感謝の思いを深めるためにもっと効果的な活用ができるとよかった。

<実際の板書>



研究テーマ

豊かななかかわりの中で、自己を見つめ、共によりよく生きようとする子どもの育成
～道徳の時間における言語活動の充実を通して～

- 1 主題名 相手の気持ちを考えて 2-(2) 思いやり・親切
資料名 「クリスマスのおくりもの」(出典：ふくしま道徳教育資料集 第I集 「生きぬく・いのち」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人はひとりでは生きていけない。物理的・精神的に互いに助け合い、支え合いながら生きている。また、「情けは人の為ならず」という言葉があるように、相手の喜びや悲しみを共有することが結果的に自分自身の心を豊かにしていく。よりよく生きていくためには「思いやり」の心が必要不可欠である。

(2) 児童の実態

本学級の児童(男子20名 女子10名 計30名)は、とても元気で活発、そして素直である。しかし、言っていること・悪いことの判断をせずに、思ったことをすべて口に出してしまい、友達の心を傷つけてしまうことがしばしばある。また、教師が何らかの働きかけをしないと友達が困っていても自ら行動できないことがある。子どもたちには相手の気持ちを考えて思いやりのある言動ができるようになってほしい。

(3) 資料について

本資料は震災後の実際にあったクリスマスにまつわるエピソードである。県庁に京都の小学生・あかりさんが書いた手紙が届いた。被災した同年代の子どもたちへの思いやりの心がこめられている手紙を見た県庁職員たちは少女の純粋な心に感動する。やがて被災した小学校にサンタからのプレゼントが届く、という内容である。

相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に届けようとするあかりさんの姿から、相手の立場や思いを想像することが温かい人間関係を築くことを伝えたい。

3 学習指導計画 <関連価値 2-(2)思いやり・親切>

指導計画	主 題	資 料	内 容
6月	親切っていいな	やさしい人大さくせん(東書)	困っている人がいたら、助けたいと思う心
9月	温かな心	六べえじいとちよ(東書)	悲しんでいる人がいたら、気づかおうとする心
12月	相手の気持ちを考えて	クリスマスのおくりもの (ふくしま道徳教育資料集 第I集 「生きぬく・いのち」)	喜んでいる人がいたら、うれしく思える心

4 研究テーマに迫るための手立て

【手立て1】 児童の実態に合わせて紙芝居にすることで登場人物の心情を想像しやすくする。

【手立て2】 全体の中で話すのが苦手な児童でも、自分の考えを持って発言できるように吹き出し型ワークシートに考えを記入させる。

5 本時の指導

(1) ねらい

相手の立場や気持ちを考えて思いやりのある行動をしようとする態度を育てる。

(2) 指導過程

段階	学 習 活 動 (主な発問と予想される児童の反応)	時 間	○ 指導上の留意点 ※ 研究テーマとの関連【手立て】	評価
導 入	1 プレゼントをもらった経験など、日常生活を想起する。 2 東日本大震災の話聞く。	10	○ 誕生日やクリスマスは「自分がほしい物」をもらうことが多いことに気づかせる。 ○ 当時いわき市にいた教師の体験談等を、写真資料を使用しながら話す。 ○ 震災の恐怖ばかりに目がいかないよう資料や話の内容を考慮する。 ・原発事故も重なって、住んでいた場所から離れなくてはならない人たちがいた。	

展開前段	<p>3 資料「クリスマスのおくりもの」の紙芝居から、それぞれの登場人物の思いを考える。</p> <p>① サンタに手紙を書いたとき、あかりさんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害がなかった自分たちだけいい思いをするのは苦しい。 困っている人や悲しい思いをしている人に少しでも喜んでもらいたい。 <p>② サンタからの手紙と本をもらった小学生たちはどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 会ったことがない遠くの人でも自分たちを元気づけようとしてくれてうれしい。 <p>○ サンタから手紙をもらったあかりさんの気持ちをペアで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 喜んでもらえてよかった。 自分もうれしい気持ちになった。 	<p>20 ※ 児童の実態に合わせ、内容をより分かりやすくするために紙芝居で読み聞かせをする。【手立て1】</p> <p>※ 思いを表現しやすいよう、吹き出し型ワークシートに書き込ませる。【手立て2】</p> <p>○ 気持ちを想像しやすくするために、あかりさんからサンタへの手紙・サンタから小学生への手紙・サンタからあかりさんへの手紙をそれぞれ黒板に掲示する。</p> <p>○ 全体の中で話すのが苦手な児童が自分の考えを言えるよう、ペアで話し合いをさせる。</p> <p>○ 「人の喜びを自分のことのように喜べる心」「困っている人の助けになりたい」などと思う気持ちを「思いやり」ということを伝える。</p>
展開後段	<p>4 自分の経験を振り返る。</p> <p>③ みなさんは相手に対して思いやりのある行動をしたり、思いやりのある行動をしてもらったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ぼっちで遊んでいた友達に声を掛けてあげた。 友達が給食をこぼしてしまったとき、一緒に床を拭いてあげた。 転んでけがをした時に友達が駆け寄ってきてくれて保健室に連れて行ってってくれてうれしかった。 	<p>10 ○ 自分の経験を振り返らせることで、すぐにも思いやりのある行動ができることに気付かせる。</p> <p>○ 思いやりのある行動をしたり、思いやりのある行動をもらった経験を話をさせるだけでなく、どうしてその行動をとったのか、その時にどう思ったかというところまで聞くようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>思いやりのある心を持って行動しようとする意欲を高めているか。 (表情・ワークシート・発言など)</p> </div>
終末	<p>5 教師の説話を聞く。</p> <p>6 「わたしたちの道徳」(p.62～63)を読む。</p>	<p>5 ○ 「思いやり」についてのエピソードを話す。</p> <p>○ 「思いやり」の気持ちを表現する方法は様々であることを知らせ、今後の実践への意欲につなげる。</p>

6 準備物……紙芝居、写真、ワークシート、思い出の鉛筆（教師の説話で使用）、「わたしたちの道徳」

7 成果と課題

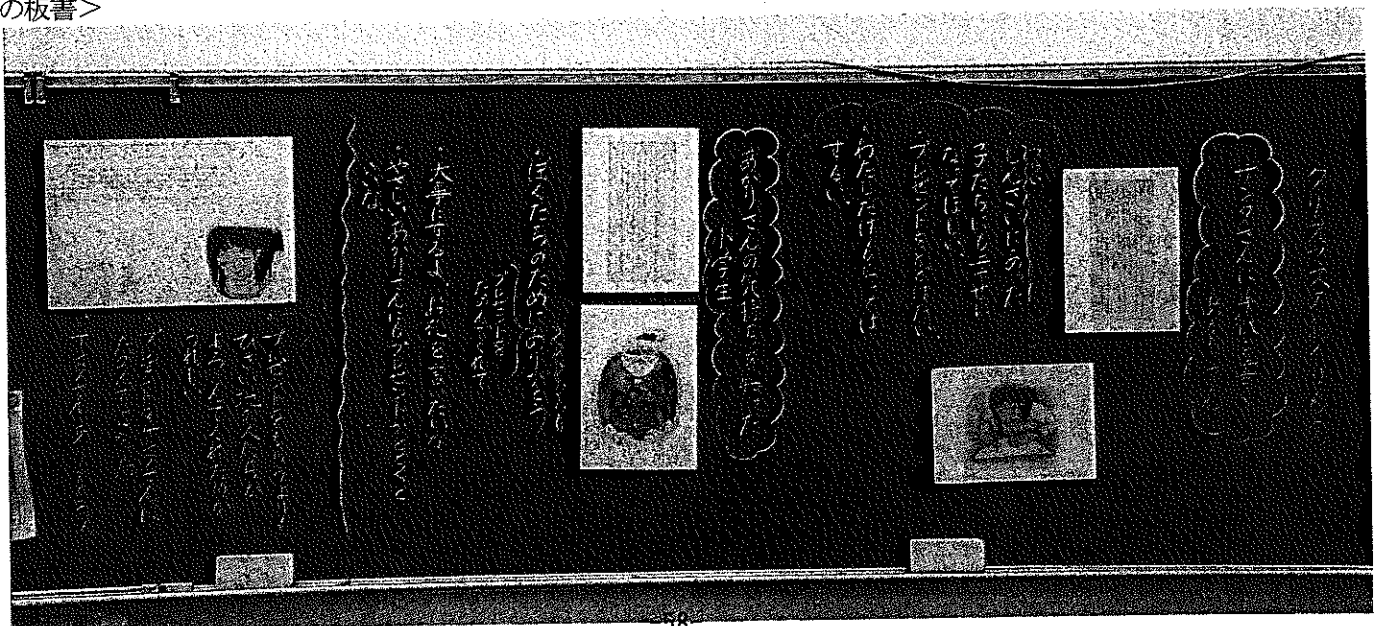
<心に響く教材や資料の活用>

- 紙芝居で話をしたため、児童はただの「読み取り」をするのではなく、登場人物の気持ちを自分で考えることに集中できた。また、話を聞きながら絵をじっくり見ることにより、人物の表情から気持ちについて豊かに想像することができた。

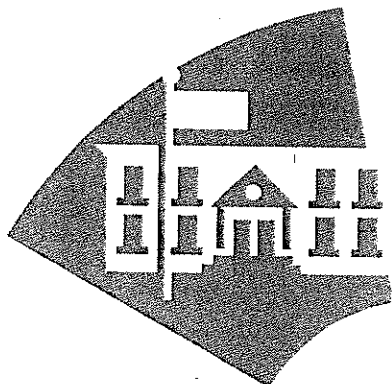
<書く活動や表現活動等を生かした指導>

- 「吹き出し型ワークシート」を活用したことにより、登場人物になりきって気持ちを書き込むことができた。
- 導入の時間が長くなってしまったため、全ての児童が自分の考えをしっかりと書く時間を確保することができなかった。

<実際の板書>



【会津地区】福島県立大沼高等学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学校名	福島県立大沼高等学校
所在地	福島県大沼郡会津美里町字法懂寺北甲3473番地
校長名	吉田 佳正
学校の教育目標	1 教育目標 (1) 健全な精神を育成する (2) 学力向上と進路実現を図る 2 校訓 「誠実」「明朗」「健康」
学級及び生徒数	9学級320名
道徳教育にかかる取組の概要	1 基本的な生活習慣を身に付け心身の健康の増進を図ることによって自律の精神を養う。 2 他の立場を尊重する精神を身に付ける。物事を多様な視点から見ることによってそれぞれの個性や立場を尊重する態度を養う。 3 生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重するとともに人間としての弱さを克服することによって生きる喜びを見いだす。 4 すべての人に対して公正、公平に接する姿勢を養うとともに勤労の尊さや意義を理解することによって公共の福祉と社会の発展に寄与する態度を養う。

2 研究テーマ

「道徳教育における多様で効果的な指導方法の工夫」

3 テーマ設定の理由

会津地区においては、平成26～28年度のテーマとして「道徳における指導体制の充実と多様な指導方法の工夫」を掲げている。本校においてもその趣旨に則り、学校教育全体を通じての道徳教育の指導体制を充実させるとともに、本校運営ビジョンの基本方針でもあるコミュニケーション能力の育成を中心とした道徳教育における効果的な指導方法の工夫を図りたいと考え、上記のテーマを設定した。

4 研究計画

- (1) 各教科、ホームルーム活動、学校行事等学校の教育活動全体を通じての取組
- (2) ゲストティーチャーを活用した道徳講話の実施
- (3) コミュニケーション能力の育成を図る道徳教育の実践

5 生徒の実態及び地域の課題

全日制普通科、各学年3学級の計9学級、全校生徒320名（男子150名、女子170名）である。地元の会津美里町出身の生徒が約4割を占め、隣の会津若松市その他出身の生徒が約6割を占めている。

地域の課題としては、進学や就職のために都市部に行ってしまった人材が地元に戻ってこないということが挙げられる。人材流出や人口減少によって地域の文化や産業の継承が難しくなっている面も見られる。本校の学校経営・運営ビジョンにおいては「個々の生き抜く力を育み地域社会を支える人材を育てる学校」を目指す学校像として掲げ、震災後の現状を踏まえながら、地域にあっては地域を支え、地域を離れても地域に貢献できる人材育成を目指している。

6 道徳教育における校長の指導方針（資料1）

- (1) 人間としての在り方生き方に関する教育を、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動などの学校の教育活動全体を通じて行う。
- (2) 「自他の生命を尊重する精神」「人権尊重の精神」「自律の精神」「社会連帯の精神」「義務を果たし責任を重んずる態度」などを備えた人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養い、道徳的実践力を高める。

7 平成27年度 道徳教育の全体計画について（資料2）

教育目標、道徳教育の重点目標を踏まえ、総合的な学習の時間、ホームルーム活動の時間、各教科及び特別活動等を通して道徳教育を実践することに配慮した。

8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別業」について（資料3）

年間を通して道徳教育にかかわる学校行事、体験活動、実践活動の時期等が一覧できるものを作成した。

9 平成27年度 学級における指導計画について（資料4）

各学級のホームルーム活動の年間計画に道徳教育の目標が達成できるようなテーマを設定した。

10 道徳教育推進教師等の実践について

(1) 教育活動全体を通しての実践

① 基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識の向上を図る。

- ・全職員による登校指導（6月、10月）を風紀委員の生徒及び保護者と一緒に行った。
- ・職員室への入退室時に、あいさつや言葉づかい、礼儀を身につけさせる指導を行った。
- ・全職員による服装指導や制服の着こなしセミナーを行い、自分自身の服装の着こなしについて考えさせた。
- ・マナーアップのための標語やポスターを募集し、優秀作品を校内等に掲示した。

② 地域行事・ボランティア活動への参加を奨励し、郷土愛と奉仕的精神の育成

- ・本郷茶会、御田植祭、大俵引きといった地域行事への参加を奨励し、地域の方々と一緒に活動することにより、郷土愛や奉仕的精神を養った。

③ 道徳教育との関わりを意識した各教科・科目の授業の実施

- ・11月5日（木）に授業公開を行い、教科指導における道徳教育について協議した。（資料5）

(2) 「ふくしま道徳教育資料集」の活用推進

- ・職員会議で各教科、ホームルーム活動等で資料集を活用してもらうように呼びかけた。また、年度始めの部顧問会で、第Ⅱ集の「部活動を通して、豊かな心を育てる」の部分を抜粋した資料を配布し、部活動における道徳教育の啓発を図った。

(3) 道徳講話の実施

① 目的

ゲストティーチャーによる道徳に関する講話を聞かせることによって、人間としての在り方を自覚させ、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成する。

② 期日 平成27年 6月25日（木）：1学年、2学年、3学年①

10月27日（火）：3学年②

③ 講師 1年生：長福寺 住職 星見 宏徳 氏

2年生：法幢寺 住職 高山 憲一 氏

3年生①：恵泉キリスト教会・会津チャペル 牧師 三留 謙一 氏

3年生②：龍興寺 住職 笥 憲海 氏

④ 内容 人としての在り方

⑤ その他

講話の内容については、特定の宗教または宗派等に偏ることのないように講師に配慮してもらったと同時に、文書によって保護者の理解を得るように努めた。

(4) 演劇ワークショップの実施

① 目的

ゲストティーチャーを活用した演劇のワークショップを通じて、問題解決型の体験的な学習を行い、コミュニケーションに係る具体的な動作を学ばせることによって、道徳的实践力を育む。

② 期日 平成27年10月27日（火）～29日（木）

③ 講師 不等辺演劇倶楽部 林 成彦 氏 他3名

④ 内容 演劇のワークショップを通じた道徳的实践力の育成（資料6）

10月27日（火）13：10～14：00に行われた授業を道徳教育地区別推進協議会の参加者に公開した。

(5) 道徳教育先進校の視察

- ①目的 道徳の先進的・先導的実践を行っている茨城県の高校の公開授業・研究協議会への参加を通して得られた成果を、自校の校内実践に生かす。
- ②期日 平成27年11月30日(月)
- ③場所 茨城県立石岡商業高校(茨城県石岡市)
- ④内容 公開授業 11:50~12:40
研究協議 13:10~14:30

(6) ゲストティーチャーを活用した校内研修の実施

- ①目的 道徳の先進的・先導的実践を行っている茨城県の高校の道徳推進教師から実践例等を聞き、研修した成果を、自校の校内実践に生かす。
- ②期日 平成27年12月17日(木) 14:00~15:00
- ③講師 長島 利行 氏(茨城県立水戸南高校教諭)
- ④内容 高等学校における道徳教育について、茨城県における「道徳」の授業実践について

(7) 道徳教育指導者養成研修(北海道・東北ブロック)への参加

- ①目的 研修への参加を通して、道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等に必要な知識等を修得し、自校の校内実践に生かす。
- ②期日 平成27年8月31日(月)~9月2日(水)
- ③場所 山形テルサ、山形市民会館(山形県山形市)
- ④内容 講義、演習等

11 道徳の時間について

ホームルーム活動等で「ふくしま道徳教育資料集」の資料を活用した道徳の授業を実践した。また、道徳教育の視点に基づいて各教科・科目の授業を展開した。(資料7)

12 成果と課題(○=成果、●=課題)

- 学校全体で道徳教育に取り組み、多様で効果的な指導方法の工夫について考えたことによって、道徳教育の様々な指導方法を深めることができた。
- 「ふくしま道徳教育資料集」を積極的に活用した授業に取り組むことができた。
- 生徒が地域行事に積極的に参加することによって、地域社会の一員としての自覚をもち、地域の伝統文化の理解を深め、郷土愛を育むことができた。
- 全学年でゲストティーチャーを活用した道徳講話を実施したが、人間としての在り方生き方について考えるきっかけとなり、道徳性の基盤を養うことができた。
- ゲストティーチャーを活用した演劇のワークショップを通じて、問題解決型の体験的な学習を行い、コミュニケーションに係る具体的な動作を学ばせることによって、道徳的実践力を育むことができた。
- 道徳教育の先進校からゲストティーチャーを招き、校内研修を実施した。全職員で道徳教育の意義等について共通理解を図ることができた。
- 先進校視察や道徳教育指導者養成研修の参加によって、道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等に関する知見を広げることができた。
- 各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動などの学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行っていくという意識が必要である。各教科・科目の指導においても道徳教育の視点をもって授業を展開していき、道徳教育を充実させていきたい。
- 小中学校でどのような道徳の授業が行われているか、その実態について知る必要がある。さらに、中学校における道徳教育との接続の視点から、高校における道徳教育を考えなくてはならない。
- 家庭や地域との共通理解を図りつつ、道徳教育をどのように推進していくかが今後の課題である。

平成27年度 学校経営・運営ビジョン 福島県立大沼高等学校

目指す学校像

個々の生きぬく力を育み地域社会を支える人材を育てる学校

生きぬく力と社会への貢献

学校は「学び」の場であり、卒業後にどのような進路を選んだとしても、学校での「学び」が、将来にわたって「生きぬく力」の基礎となしてほしいと考えます。生徒の皆さんは、本校での学習や部活動等とおして、コミュニケーション能力を高め健全な精神を育てるとともに、学ぶ力や課題を見つけ解決する力を身につけてほしいと思います。

震災後の福島の現状を踏まえながら、地域にあっては地域を支え、地域を離れても地域に貢献できる人材育成を目指します。

校長 吉田 佳正

教育目標

- 1 健全な精神を育成する
- 2 学力向上と進路実現を図る

〈 実践目標 〉

Ⅰ 健全な精神の涵養

- 基本的生活習慣の確立
- 規範意識の向上
- 部活動・生徒会活動の奨励
- 生徒相談の充実
- LHR活動の活性化
- ボランティア活動の奨励
- 食育・健康教育の充実
- いじめ防止対策の強化
- 学年と各部署の連携の強化

- 地域・家庭との連携
- PTA行事の活性化
 - 適切な情報提供
 - 地域行事等への参加促進
 - 信頼関係の構築
 - 不祥事の防止

Ⅱ 学力向上と進路実現

- 授業の質の向上
- 家庭学習習慣の定着化
- 労働観・職業観の育成
- 適切な進路情報の提供
- 進路希望に応じた指導
- 進路相談・個別指導の充実
- 資格・検定取得の奨励と指導の充実
- 学年と各部署の連携の強化

コミュニケーション能力の育成

- 良好な人間関係を構築する力の育成
- 道徳教育の充実
- 体験的学習の場の提供
- 聴く力・話す力・読む力の育成
- プレゼンテーション能力の育成
- あいさつ・言葉づかい・礼儀の指導

- 授業 総合的な学習の時間
ホームルーム活動 生徒会活動
学校行事 部活動 読書
職業体験 ボランティア活動
等々

平成27年度大沼高等学校 道徳教育全体計画

福島県立大沼高等学校

校 訓		
誠 実	明 朗	健 康

学 校 教 育 目 標				
基本的な生活習慣の確立を図ります。	基礎学力の定着を図ります。	生徒のコミュニケーション能力を育成します。	進路実現のため進路指導を充実します。	家庭・地域社会との連携を図ります。

道 徳 教 育 重 点 目 標
<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣を身につけ心身の健康の増進を図ることによって自律の精神を養う。 2 他の立場を尊重する精神を身につける。物事を多様な視点から見ることによってそれぞれの個性や立場を尊重する態度を養う。 3 生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重するとともに人間としての弱さを克服することによって生きる喜びを見いだす。 4 すべての人に対して公正、公平に接する姿勢を養うとともに勤労の尊さや意義を理解することによって公共の福祉と社会の発展に寄与する態度を養う。

各 教 科 の 活 動	生 徒 指 導	進 路 指 導
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の特性に応じて目標を設定し、目標達成のための指導を通して道徳性を育むよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式・終業式及びその他の全校集会や学年集会において頭髪、服装指導を実施する。 ・登校指導を実施し遅刻及び頭髪や服装の指導を徹底する。 ・問題行動の予防と指導方法について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ等を通して社会の常識やコミュニケーション能力の大切さを学ばせる。 ・面接等を通して社会通念を認識させるとともに一般社会への興味関心を喚起する。

総 合 的 な 学 習 の 時 間
<p>社会に対する理解を深める活動とともに、地域と係わる様々な体験活動を通して自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や資質を養う。また、自己のあり方や、生き方を考えるとともに、それを学習や生活に生かし物事を総合的に見る力を養う。</p>

特 別 活 動		
<p>心身の調和のとれた発達、個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的な態度を育てる。また、人間としてのあり方についての自覚を深め、様々な集団での他との関わりにおいて自己を生かす能力を養う。</p>		
ホ ー ム ル ー ム 活 動	生 徒 会 活 動	学 校 行 事
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の役割を自覚し、責任を持って諸問題の解決にあたることのできる健全な生活態度を育む。 ・面談を通して、生徒理解に努めるとともに、生徒自身の自己理解を深めさせるよう指導する。 ・自己のあり方や進路について考えを深めさせる機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を越えた集団活動を通して、生徒一人一人の個性や能力を伸長するとともに、協力してよりよい集団生活を築こうとする態度を養う。 ・文化的行事・体育的行事等を年間を通じて適切に配置する。 ・行事のあり方についての工夫と研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を促進し、生徒一人一人の集団への所属感を育成する。 ・集団生活のあり方や公共道徳、環境美化についての考えを深めることのできる体験的な行事について工夫する。 ・学校行事を公開し、地域との連携を図る。

平成27年度 道徳教育の全体計画別葉

月	全体	学年(学級)	その他
4	始業式・入学式 対面式 部活動紹介 面接週間 登校指導	交通安全教室(1年) 着こなしセミナー(1年) 図書館オリエンテーション(1年)	
5	強歩大会 登校指導 面接週間 芸術鑑賞教室 ソーロック指導	薬物乱用防止教室(1年)	高体連地区大会 地域行事(ふれあい茶会)への参加
6	服装指導 防火講話 面接週間 e-ネット安心講座 道徳講話 インターンシップ		高体連県大会 県総体地区大会
7	登校指導 校内スポーツ大会 終業式 体験入学		県総体県大会 生徒自己評価 読書感想文 地域行事(御田植祭)への参加
8	始業式 服装指導	就職指導(3年)	
9	蜂苑祭 生徒会役員選挙	修学旅行(2年) 遠足(1・3年) 就職指導(3年)	
10	服装指導 生徒会新役員認証式 進路講演会	演劇ワークショップ(2年) 道徳講話(3年)	
11	登校指導 防火避難訓練		
12	登校指導 終業式		
1	始業式 服装指導		地域行事(大俵引き)への参加
2	登校指導 服装指導 賞状授与式		
3	卒業式 終業式		

平成27年度 ホームルーム年間指導計画

月	1学年	2学年	3学年
4	高校生としての心構え HR組織作り	2年生としての心構え HR組織作り	3年生としての心構え HR組織作り
5	望ましい集団生活 進路を考える 中間考査の反省	進路を考える 学習することの意義 中間考査の反省	進路を考える 中間考査の反省
6	規範意識を身につける 健康・安全を考える	規範意識を身につける 他人の心を思いやる	規範意識を身につける 社会について考える
7	1学期の反省 夏休みの過ごし方	1学期の反省 夏休みの過ごし方	1学期のまとめ 夏休みの過ごし方
8	2学期の心構え 文化祭に向けて	2学期の心構え 文化祭に向けて	2学期の心構え 文化祭に向けて
9	文化祭の反省 芸術に親しむ	文化祭の反省 修学旅行について	文化祭の反省 面接指導
10	コミュニケーションのあり方について	コミュニケーションのあり方について	コミュニケーションのあり方について
11	期末考査に向けて 先人の生き方を知る	期末考査に向けて 先人の生き方を知る	期末考査に向けて 先人の生き方を知る
12	2学期の反省 冬休みの計画	2学期の反省 冬休みの計画	2学期の反省 冬休みの計画
1	冬休みの反省 今年の抱負	冬休みの反省 今年の抱負	自宅学習中の心構え 今年の抱負
2	常識について	感謝の心を育む	卒業式に向けて
3	今年度の反省 中堅学年としての心構え	今年度の反省 最高学年としての心構え	

平成27年度 授業公開について

福島県立大沼高等学校

1 趣旨

会津美里町内の小・中・高等学校の教職員が連携を深めながら、教科指導における道德教育について研究協議を行い、道德教育の充実を図る。

2 参加予定者 会津美里町各小中学校教員 町教育委員 学校評議員
保護者(希望者) 本校職員

3 期日 平成27年11月5日(木) ※ふくしま教育週間中(11/1~7)

4 日程

~12:10 1~4校時 短縮45分授業
12:10~12:50 昼休み
12:50~13:05 清掃
13:10~14:00 6校時目 LHR
14:10~15:00 5校時目の授業【授業公開】
15:00~15:05 SHR
15:15~16:05 研究協議 : 会議室

5 公開授業

クラス	教科名	科目名	担当者
1年1組	理科	生物基礎	佐々木寛太
1年2組	数学	数学I	柳沼貴史/上遠野晋一
1年3組	国語	国語総合(古典)	三留悠生
2年1組	数学	数学II	阿部 恩
2年2組	理科	生物/化学	菅原宏理/星真由美
2年3組	英語	コミュニケーション英語II	舟田宗夫/佐藤一智
3年1組	保健体育	体育	下村保伸
3年2組	保健体育	体育	星早苗/菊地大志
3年3組	公民	政治経済	土田幸良

6 研究協議について

(1) 協議題: 教科指導における道德教育について

(2) 次第

①授業についての意見交換

②教科指導における道德教育についての意見交換

(3) 場所 会議室

(4) 進行 教務部

7 指導案について

※様式…別紙(A4版1枚)のとおり。

※公開する授業と道德教育とのかかわりを書く。

「第2学年演劇ワークショップ」実施要項

福島県立大沼高等学校

1 実施の目的等

本校の運営ビジョンの基本方針でもあるコミュニケーション能力の育成を目的として、他者とコミュニケーションを図り、相手の価値観を想像し、相手の心を動かすことが求められる演劇ワークショップを実施する。課題解決のためにグループで話し合いをする中で、生徒同士がお互いの他者性に気づき、自己理解を深め、他者につながる力（コミュニケーション能力）を養う学習活動である。

他者との関わりにおいて、他者と対話し、主体的に行動ができるということは、道徳的実践力の育成につながるものであり、その意味においてこのワークショップを道徳教育の一環としてとらえたい。

- 2 期日：平成27年10月27日（火）4, 5, 6校時（1回目）
 10月28日（水）2, 3, 4校時（2回目）
 10月29日（木）2, 3, 4校時（3回目）
 ※各クラス、計3回の実施となる。

3 場所：格技場

4 講師：不等辺演劇倶楽部 林 成彦 氏 他3名 計4名

5 活動の内容

回	学習内容・学習活動	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、ウォーミングアップ ・「イスに座って本を読んでいるXを90秒以内にイスから立たせる」という課題について考える。 ・4人でグループを組む。 ・15分間の作戦会議で役割分担と設定を決め、グループ内で練習を行う。 ・本番と同じ条件でリハーサルをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台の上はフィクションの世界であり、場所・時間・人物については自由に設定させる。 ・Xは俳優であり、どんな役柄でも引き受ける。（例えば、「お母さん」と呼びかければ、Xは母親役になる。）ただし、Xは本を読みたくてイスに座っているので、簡単にはイスから立ってくれない。 ・4人の役割は以下の通りである。 A…グループのリーダー B…出演する人、話すことができる。 C…出演する人、話すことができない。 D…練習の時にXの代わりにイスに座る人 ・90秒以内にXを立たせることができたら成功とする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループずつXと共演する。 ・講評を聞く。 ・コメントと講評、自己の振り返り、他グループの上演を見て気づいたことなどをふまえて、もう一度グループで作戦会議を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ終わるごとに講師がコメントし、全グループ終了後にXから講評を言う
3	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担と設定を考え直し、全グループが本番を行う。 ・終了後、グループで感想を話し合い、ワークショップ全体のまとめを行う。 	

6 その他

※「総合学習」計3時間の扱いとする。

※27日（火）に本校で道徳教育地区別推進協議会が実施される。

5校時の授業を会津管内の小中高の教員等約50名が参観する。

国語科 (現代文B) 学習指導案	
福島県立大沼高等学校 普通科 2年 平成27年5月22日 (金) 第3時限 場所: 2の3 指導者: 本田一弘	
単元名 (題材名)	評論1 「身銭」を切るコミュニケーション (内田樹)
単元 (題材) の目標	<p>【国語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述に即して筆者の主張を読み取る。 ・現代のコミュニケーションの在り方に対する問題意識を高める。 <p>【道德教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に配慮しながら、自分の考えや気持ちを素直に伝え、円滑なコミュニケーションを図る。
取り上げる 言語活動	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方などを工夫して話すこと。
単元 (題材) 設定の 理由	<p>(1) 教材観</p> <p>本単元は、文章読解や演習を通じて、日常生活を営むうえで必要不可欠なコミュニケーションの問題について、考えを深めさせることを目的とする。様々な場面で経験するコミュニケーション不調の原因が、他責的なメタ・コミュニケーションにあることを指摘した内田樹の『「身銭」を切るコミュニケーション』を読解した後に、アサーション・トレーニングの演習を行い、コミュニケーションのあり方を体験的に学ばせたいと考えて、本単元を設定した。</p> <p>(2) 生徒観</p> <p>全体的に落ち着いている。主体的に発言する生徒は見られないものの、授業に対しては前向きに取り組み、発問や課題にも真剣に向きあう姿勢が見られる。</p> <p>(3) 指導観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を大切に、気づきを活動に生かすために、ワークシートに自己の思いや考えを書かせ、自己の理解や変容を確認させる。 ・ロールプレイによる言語活動では、主体的に取り組むことができる雰囲気を作る。そのうえで互いの意見や考えを交換して、さまざまな考えや視点に気づかせる。また、話合いが活性化していないペアに対して、その要因を観察しながら支援する。 ・文章中のコミュニケーション不調を自分自身の問題として考察し、さらには今後の在り方・生き方に反映させるために、他者とのかわりに関する身近な話題を参照して考えさせる。
指導計画	全4時間扱い。内田樹の評論『「身銭」を切るコミュニケーション』を3時間読解した後で、本授業(4/4)を行う。
評価の方針	<p>評価1 関心・意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3通りの対処法がどのような特徴や違いを持っているのかをよく知ろうとする意欲が見られたか。 <p>評価2 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3通りの対処法がどのような特徴や違いを持っているのかが分かったか。 <p>評価3 思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3通りの対処法を比較して、自分と相手にとってより良いコミュニケーションについて考えることができたか。

◇本時のねらい

ロールプレイを通して、相手の気持ちを考えながら自分の言いたいことを伝える話し方や、より良いコミュニケーションのあり方について体験的に学ぶ。

◇生徒に示す本時のねらい

アサーション ～相手の気持ちを大切にしながら、自分の気持ちをきちんと伝える～

◇指導過程

段階	学習内容・活動	時間 (分)	◇指導上の留意点 ◆評価規準
導入	1 本時のねらいを理解する。 ・自分も相手も大切にする話し方をよく知るための学習であることを理解する。	5	◇現代文の授業で学習したコミュニケーション不調の例をふりかえり、自分と相手の両方を大切にする話し方について学習することが本時のねらいであることを確認させる。 ◆自分と相手にとってより良いコミュニケーションのあり方について知ろうとする意欲が見られたか。
展開	2 教師の説明を聞く。 3 シミュレーションにおける3通りの対処の仕方を見て、感じたことや気づいたことについて話し合い、それぞれの特徴をとらえる。 4 ロールプレイを通して体験する。 ・2人1組になって、アサーショントレーニング1及び2をする。 ・2人1組でふりかえる。	35	◇3通りの対処の仕方を説明する。 ・受身的 ・攻撃的 ・主体的 ◆3通りの対処法がどのような特徴や違いを持っているかについて分かったか。 ◇生徒を指名して、シミュレーションを行わせる。 ◇ワークシートに自分の思いや考えを書せ、自己の理解や変容を確認させる。 ◇役割を替え、両方を体験させる。
まとめ	5 本時の活動をふりかえる。 ・授業をふりかえり、気づいたこと・考えたことをワークシートに記入する。 ・全体でふりかえる。	10	◇日常生活において、自分も相手も大切にする話し方を活用していくように促す。 ◆自分と相手にとってより良いコミュニケーションのあり方について考えることができたか。

資料 ワークシート、補助教材（高等学校国語科用教科書「精選現代文」東京書籍）

ワークシート

アサーショントレーニング1

あなたは、図書室で予約して、やっと借りることができた、みんなに人気のある本を読んでいました。まだ半分しか読んでいない時に、仲の良い友達がやってきて、「その本、貸して。」と言われました。あなたはどのように答えますか？

A 受身的

B 攻撃的

C 主体的

授業テーマ	人間愛
-------	-----

1 主題名 人間愛

2 資料名 もう一人の八重 ～日本のマザーテレサ「井深八重」～ (出典：「ふくしま道徳教育資料集Ⅱ集」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

温かい人間愛の精神。困難な状況にあっても自他を尊重する心情。

(2) 生徒の実態

高校2年生の時期は、思春期の混乱から脱し、自立した大人となるための自らの生活を顧みることができるようになってくる。また、人間としての在り方や生き方を主体的に考えるようになる時期でもあるので、温かい人間愛の精神や困難な状況にあっても自他を尊重する心情を育てたい。

(3) 資料について

本資料は、ハンセン病であると誤診されたものの、そのまま患者を収容した病院にとどまり、看護婦として患者の救済に尽力した井深八重(1898～1989)の伝記である。絶望的な状況におちいっても、その場所でできることを精一杯行い、多くの人々の希望となっていった八重の生涯を知ることができる資料である。

(4) 指導にあたって

大河ドラマで「八重の桜」が放送され、新島八重について広く知られるようになった。しかし、会津にゆかりのあるもう一人の八重、「井深八重」という人物については、あまり知られていない。ハンセン病患者の救済のために、無私の心でその生涯を捧げた井深八重について、人間愛にあふれたその生き方を知る機会とし、温かい人間愛の精神を考えさせたい。

前時にハンセン病に関する映像資料「未来への虹 ～ぼくのおじさんは、ハンセン病～」(平成17年度、法務省委託人権啓発DVD、アニメ)を見せて、ハンセン病に関する基礎的な知識を理解させておく。

4 本時のねらい

温かい人間愛の精神を深め、様々な状況にあっても自他を尊重する心情を育てる。

5 板書計画

病院に留まって働きたいと思った理由

手伝っていたときの心情

ハンセン病であると感じた時の心情

日本のマザーテレサ「井深八重」

もう一人の八重

授業テーマ	家族愛
-------	-----

1 主題名 家族愛

2 資料名 私の明日 (出典：「ふくしま道徳教育資料集Ⅱ集」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

卒業後の進路について考える力。

家族に対する敬愛の念と、よりよい信頼関係を築こうとする態度。

(2) 生徒の実態

高校生活も半分が過ぎ、進路についてより具体的に考え、実現にむけて努力が必要な時期である。自己の生き方について様々な悩みが生じる中で、家族からの助言などに耳を傾け、自己の生き方について考えを深め、自分と家族のかかわりや自分が家族の中で果たす役割を考えさせたい。

(3) 資料について

本資料は、震災後の原発事故で村全体が避難区域になり、農業に従事できなくなった祖父母の姿をみた主人公が、一度はゆらいだ農業への志を新たにし、祖父母や村のために改めて農学部へ進学しようとするものである。自己の生き方や家族とのかかわりについて考えることができる資料である。

(4) 指導にあたって

原発事故により、福島県全体において第一次産業の受けたダメージは非常に大きく、復旧・復興への道も厳しい。その中で、困難なことではあるが、あえて農業の復興のために進学するという選択をした主人公の気持ちを考え、働く意味を考えさせたい。また、その際に日頃自分を支えてくれる家族について考えを深めさせたい。

前時に働くことの意義について考えをまとめさせ、進路選択への意識を高めておく。

4 本時のねらい

困難な況にあっても、家族に対する敬愛の念を忘れず、自分の生き方を考える力を育てる。

5 板書計画

《 私の明日 》

- ◎ 主人公が祖母に「農家だけはやめなさい」といわれたときの心情
- ◎ 主人公が両親に進路を認めてもらったときの心情
- ◎ 主人公の進路に対する考え方のゆらぎや変化についてどう思うか。
- ◎ 主人公は、今後どのような生き方をしていくか。

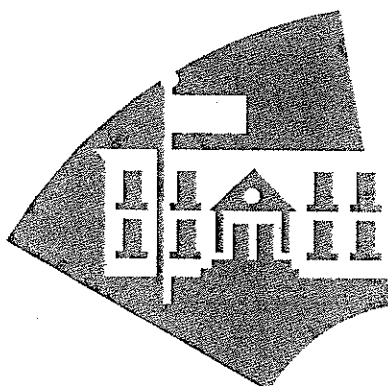
6 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	○ 教師の支援 評価
導入	1. 自分自身の進路選択のあり方（働くこと）についてどのように考えているか振り返る。 2. 各自で黙読をする。	10	
展開	3. 主人公の心情等について考え、ワークシートに記入する。 ①主人公が祖母に「農家だけはやめなさい」といわれたときの心情はどのようなものか。 ②主人公が両親に進路を認めてもらったときの心情。 ③主人公の進路に対する考え方のゆらぎや変化についてどう思うか。 ④主人公は、今後どのような生き方をしていくか。 4. 自分の考えを発表する。 5. 他の考えを聞き、話し合う。共感できる考えをまとめる。	30	○ワークシートをまとめることで、自分の考えを整理する。 ○他の考えをしっかりと聞くように促す。 ○様々な考えを聞き、自分の生き方を考えるヒントとするように伝える。
終末	6. 自己の進路に対する考えをまとめるとともに、進路実現に向けて家族の支えがあることや自身が家族内で果たす役割があることを確認する。 7. 本時の授業を振り返る。	10	○進路選択において、家族の支えは必要なものであり、また進路選択は家族とのつながりを考える、良い機会であることを伝える。

7 成果と課題

- 何を重視して働くかということに対して、前時に考えをまとめていたので主人公の気持ちを考える際に比較的にスムーズにまとめられていたようである。また、自分の進路選択が家族に無関係でないことを知り、家族との関係、家族内での自分の役割などを考えることができたようである。
- ワークシートにまとめた考えは④の内容を互いに発表した。他の内容についても発表する時間が得られれば良かった。

【南会津地区】只見町立只見小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学校名	南会津郡只見町立只見小学校
所在地	福島県南会津郡只見町大字只見字上ノ原1735-1
校長名	二瓶 悦子
学校の教育目標	思考力を高め、自主的に学習する児童の育成 心身ともにたくましく、健康な児童の育成 仲よく力を合わせ、よさを認め合う児童の育成 ＜めざす児童像＞ すすんで学ぶ子ども たくましい子ども 思いやりのある子ども
学級及び児童生徒数	5学級 53名 (内 5・6年複式学級)
道徳教育にかかる取組の概要	1 教職員の道徳教育に対する意識を高め、道徳の授業を要として学校教育全体を通して道徳教育を推進しながら、めざす児童像 (特に 思いやりのある子ども) の具現化を図る。 2 児童や保護者、教師のアンケートで評価の低かった「1 自分自身に関すること」を重点指導事項に掲げて授業実践を行う。 3 道徳の取組を地域や保護者に紹介するとともに、地域素材や人材の活用を図りながら道徳の授業の充実を図る。

2 研究テーマ

人とのかかわりの中で自己を見つめ、ともによりよく生きようとする児童の育成

3 テーマ設定の理由

本校では、長年、4F活動(力・歌・絵・花いっぱい)に取り組み、子どもたちに豊かな心の育成や粘り強く取り組む態度などを養ってきた。また、平成23年の東日本大震災そして新潟・福島豪雨以降、道徳教育にも力を入れ、地域の方をゲストティーチャーとしてお呼びし、主に郷土愛や家族愛を育んできた。

今年度初めに実施した道徳アンケートでは、4つの視点のうち、児童・保護者・教師共に「人との関わり」「自然や崇高なものとの関わり」「集団や社会との関わり」は比較的にできていた項目が多かったものの、「自分自身に関すること」において数値の低い項目が多かった。また、児童と教師や保護者とのギャップが多い項目も見られた。

普段の子どもたちの様子を見ると、困っている友達に優しく声をかけたり、畑の作物や花壇の花を大切に育てたりするなど、思いやりのある行動が随所に現れている。また、あいさつ運動などを通して、地域の方々にもあいさつできる子どもも多くなっている。しかしその反面、小さい時から同じ集団の中で生活し、自分と他者との関係を考えたり、自分自身を客観的に見つめたりすることができない子どもも見られる。

そこで、本年度は「自分自身に関すること」を中心とした授業研究を通し、「人とのかかわりの中で自己を見つめ、ともによりよく生きようとする児童の育成」を図っていきたいと考えた。

4 研究計画

月	研究の流れ	主な研究内容
4	・児童の実態把握	○児童・保護者・教師にアンケートを行う。
5	・現職推進委員会 ・現職教育全体会	○研究テーマの方向性を確認する。 ○研究計画・研究内容の確認、検討を行う。
6～	・授業実践	○授業実践を行う。(一人一実践)
11	・要請訪問	○上越教育大学大学院教授 早川裕隆 先生

	・道徳教育地区別推進協議会(9/18)	○研究の方向性や指導法についての協議, 助言をもとに今後の指導に生かす。
12・1	・実践のまとめ	○効果的な指導法について意見交換を行う。 ○研究のまとめを行う。
2	・別業の見直し ・研究方向の確認	○次年度の研究について協議する。

5 児童生徒の実態及び地域の課題

(1) 地域の課題とその取組

日本屈指の豪雪地帯である「只見町」は過疎化が進み、若者の町外流失を防ぐことが大きな課題となっている。町として保小中高の連携を行い、ESD教育を推進し、子どもたちに地域の自然や伝統文化の素晴らしさに気づかせ、地域を担う人材を育てることで課題の解決をめざしている。

また、昨年ブナと雪に代表される只見町特有の自然環境と、それを拠り所とする伝統的生活・文化が評価され、ユネスコエコパークに登録された。本校でも「只見学」を中核とした総合的な学習の時間に取り組むとともに、道徳の授業においても、地域の方をゲストティーチャーとして呼び出し、主に「郷土愛」を育む授業に力を入れて取り組んできた。

(2) 児童の実態

- 真面目で何事にも実直に取り組むことができる。
- 困っている友達に優しく声をかけたり、上級生が下級生に心配りをしたり、畑の作物や花壇の花を大切に育てたりと、思いやりの気持ちを行動に表すことができる。
- 少人数で保育所から一緒に生活し人間関係に大きな変化がないため、よりよく自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちをくみ取ったりするなど相互理解の必要性を感じていない児童もいる。
- 一部に、きまりを守ることやあいさつ・返事などの基本的な生活習慣が身につけていない児童がいる。
- 4月に実施した道徳アンケートでは、「主として自分自身に関する事」において数値の低い学年が多く見られた。また、児童の数値は高いが、保護者や教師の数値は低いといったギャップの見られる項目もあった。

6 道徳教育における校長の指導の方針

【資料1】

- (1) 道徳の時間を要として、学校教育全体を通して道徳教育を推進し、めざす児童像（特に、思いやりのある子ども）の具現化を図る。
- (2) 道徳教育推進教師を中心として全職員で現職教育に取り組み、道徳教育に対する教員一人一人の意識を高めるとともに、授業力の向上を図る。
- (3) 指導に当たっては、ねらいに応じて地域の特色を生かした題材を扱うとともに、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と連携して地域人材を活用するなど道徳教育の充実を図る。

7 平成27年度 道徳教育の全体計画について

【資料2】

学校教育目標を受け、本年度の道徳教育の重点目標を4点設定し、さらにはブロック別の重点目標を掲げ、「道徳教育の全体計画」を構築した。本計画では教科指導のみならず、総合的な学習の時間、特別活動、生徒指導、豊かな体験を通して、道徳教育の重点目標を達成しようとする指導方針を明らかにした。

8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別業」について

【資料3】

【資料7】

道徳の時間と各教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連が分かるように、学年ごとに作成した。

9 平成27年度 学級における指導計画について

【資料4】

学級における道徳の指導が効果的に行えるよう、学年の重点目標・児童の実態から、めざす学級・児童像を設定した。その具現化のために、道徳時間における具体的指導方針・生徒指導・各教科における道徳養育の視点、さらには年間の教育活動全体を通して道徳に取り組んでいくことの方針を明らかにした。

10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 道徳教育の指導計画の作成に関すること

① アンケート作成・実施

【資料6】

低・中・高学年に分けて教師・児童・保護者分のアンケートを作成した。4月と12月の2回アンケートを実施し、結果を集約した。

② 各学年における指導計画の作成

【資料4】

道徳部会で中心となって、児童や保護者、地域の実態、学校行事や教科・総合的な学習の体験活動等を考慮に入れた指導計画を検討するとともに、記載の仕方を提案した。

(2) 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること

○ 道徳の時間の指導と学校行事・総合的な学習の時間における体験活動との関連を意識した取組を明確にし、推進役となった。

理科	あたたかくなると	暑くなると	すずしくなると	涼しくなると	【資料8】
総合	1 只見の郷土料理を調べる計画を立てよう ふるさと発見	2 只見の郷土料理を調べよう(地域理解) ※「笹巻き」用の笹取	3 郷土料理を再現してみよう(地域理解) ◎「ざく菜」◎「さとう豆」	4 郷土料理を伝えよう(情報発信) ◎「笹巻き」	
学校行事	春の遠足 (自然・環境)	自然に親しむ会 (自然・環境)	学習発表会	校内入会式 管絃づくり (自然・環境)	
特別活動	放射線教育	只見の水害	放射線教育		
道徳	4-(4)愛敬心 4-(5)郷土愛	4-(5)生命尊重	4-(5)生命尊重	4-(5)生命尊重 4-(6)愛敬心	

<【資料8】道徳と教科・総合的な学習の時間・行事との関連を明確にしたカレンダー 4年生>

(3) 道徳の時間の充実と指導体制に関すること

① 研修主任との連携

研修主任と本校が求める道徳授業の構想を話合った。第1回の授業研究会では、道徳教育推進教師が授業を提供し、本校が求める道徳の授業の方向性を示した。

② 年8回の授業実践

授業研究会では、自ら建設的な発言をすることで、全教職員に道徳の授業改善・指導法の充実を促すリーダーとしての言動が見られた。

③ 別葉の活用を提案 【資料7】

作成した別葉の活用を図るため、別葉を拡大してクラフトボードに貼り、子どもの学習の跡が紹介できるように提案し、全学年で実践した。

(4) 道徳教育の研修の充実に関すること

① 地区別推進協議会での実践紹介

地区別推進協議会において、本校の取組をパワーポイントで紹介した。パワーポイント作成に当たっては、先生方からアドバイスを受け修正を重ねた。また、分かりやすい発表に向け、発表練習を重ねた。こうした道徳教育推進教師の姿は、先生方の意識を高めることに役立った。

② 伝達講習

3名の教員が道徳教育先進校で視察研修を行った。研修に参加した教員の研修報告をする機会を設け、本校の道徳教育に参考となる事項を明らかにした。

③ 小教研道徳部会での研修

南会津地区小教研道徳部会に所属し他校の先生と交流しながら自己研鑽に努めた。また、自分自身や地区の実践をまとめ、森合小学校での県大会に参加した。

11 道徳の時間について <別紙資料参照> 【資料5】

12 成果と課題

(1) 道徳の時間の充実について

① 教師サイドから

- 年間の指導計画に、年1～2回「ふくしま道徳資料第Ⅰ～Ⅲ集」を使って授業を行うことにより資料選択の幅が広がった。資料の活用にあたっては、授業のねらいに合ったものを選んで活用した。
- 教育研修センター指導主事 佐藤裕子先生の研究成果や発問構想シートを参考にしながら発問研究を行ってきた。資料を分析し授業のねらいを明確にすることで、場面発問とテーマ発問を明確にして指導過程を考えることができた。
- 発問の類別化することにより、児童が主人公に対して「共感させるのか」「分析的な視点で自分の考えをもたせるのか」を明確にして教師は問いを発することができた。
- 上越教育大学大学院教授 早川裕隆先生のご指導により、役割演技の取り組み方が分かった。今までは、資料に書かれた場面の再現に終始していたが、演じることにより課題が焦点化され、新たな役割関係を認知面だけでなく情意面も伴って理解させることができた。
- 児童と教材の出会い方で、紙芝居・パネルシアター・映像などを用いた資料提示の工夫により、児童に読み物資料に興味を持たせるとともに、共感的に考えようとする心情を高めることができた。
- 多様な表現活動として、グループ討論・役割演技・自分の考えを書く・話し合い活動を取り入れて授業を行うようになった。
- 板書構成の工夫が見られるようになった。挿絵を活用して場面を明確にしたり、対比的な板書構造により登場人物の気持ちの変化をとらえやすくしたりすることで、児童の考えを引き出すことができた。
- 別様（【資料7】）を拡大し、教室に掲示しておくことで教師・児童の双方にとってのシラバスとなり、年35時間の道徳の実施につながっている。
- 自分を振り返る時間を十分に取れないことがあった。授業における話し合い活動の焦点化することにより、振り返りの時間を確保し、道徳的実践力につなげていけるようにしたい。

② 児童サイドから

- 「道徳の時間が楽しい」と答える児童が増えた。授業の中で行う役割演技や意見の交流に意欲的に取り組むことができるようになった。クラスの中で認めてもらえるよさを味わい自己有用感を高めるとともに、自分の想いを気兼ねなく表現できるようになった。
- 友達によさにも気づき、認めることができるようになった。全校生で取組んでいる「思いやりの木」に友達によさを書いて伝える児童の姿が見られた。
- 道徳の学習と只見の「人・もの・こと」をつなぐことで、地域理解を深め、「郷土愛」「自然愛」を育むことができた。
- 児童の意見や考えが出されるようになってきたが、活発な話し合いの段階にまでは至っていないため、今後も国語科と関連させながら言語活動の充実に向けていく必要がある。

(2) 学校教育全体を通しての道徳教育の推進

- 人権や自然愛・郷土愛に関係する教科や単元・行事を関連付けたESDカレンダーを作成した。（【資料8】）これまで単発で終わっていた指導を関連させることで、道徳的価値のつながりを意識しながら、各活動のねらいを明確にして指導に当たることができた。
- 道徳的実践の場として栽培活動や地域学習を位置づけ、只見の「人・もの・こと」と関わりながら活動することで、道徳的心情を育むことができた。

(3) 学校・家庭・地域との連携を通しての道徳教育

- 全学年、授業参観の機会を通して保護者の方に道徳の授業を公開し、学校の取組について理解してもらうことができた。
- 各学年、年2回、地域人材を招聘した道徳の授業を行った。子どもたちは、地域の人々の願いや思いを知ること、郷土や自然を愛する心情を育てることができた。
- 道徳アンケートを4月と12月の2回実施した。道徳の授業参観や学校の取組を学校・学年通信等で紹介してきたこともあり、保護者の理解が進み、子どもたちの変容を的確にとらえていただくことができた。
- 今年、指導の重点である「1 自分自身に関すること」の項目で、4月と比べると12月の保護者の評価が低かった。この評価項目は、「他人や集団とのかかわり」や「自然や崇高なもののかかわり」などの他の項目と比較すると子どもの姿をもとに評価できるということもあり、厳しく見ていただけたことや、すぐには子どもの姿になって表れないことも原因かと思われる。今後、アンケートの結果から本校児童の課題を明らかにして、取り組む必要がある。

【資料1】

平成27年度 只見小学校
学校経営・運営ビジョン

只見町の願い

○教育理念

学び合う 共同体只見町

ゆつたり じっくり しっかりと
こころ豊かに自律し自立する人づくり

○「只見学」の推進

○保小中高の連携強化

保護者・教師の願い

○基礎・基本や活用力を身につけ学力向上を目指す児童

○豊かな心をもち、思いやりのある児童

○あきらめず粘り強く取り組む児童

○自主性や積極性をもって自己のよさを伸ばす児童

○明るく素直な態度で生活する児童

○社会的ルールやマナー・コミュニケーション力を身につけた児童

教育目標
思考力を高め、自主的に学習する児童の育成
心身ともにたくましく、健康な児童の育成
仲よく力を合わせ、よさを認め合う児童の育成

めざす児童像

すすんで学ぶ子ども
かがやく目 キラキラ

○基礎・基本の確実な定着と活用力の向上を図る。
○自主的な学習態度の育成を図る。
○様々な体験的活動を通じ、生きて働く学力を身に付けさせていく。

○授業づくりの工夫
4タイム(ひらめき、フレンド、学び合い、たいかめ)の実践
○自主的な学習態度の育成 家庭学習の工夫と習慣化
○総合的な学習の時間の充実
「只見愛」を育てる「只見学」の推進
○読書活動の充実
○特別支援教育の充実
○複式学級編制のよさを生かした指導
・学校が楽しい90% ・分かる、できる、楽しい授業90%
・各子平均85点以上 ・読書活動90%
・特別支援教育体制90% ・家庭学習実施率100%

たくましい子ども
げんき イキイキ

○健康の増進と体力・運動能力の向上を図る。
○自主的・自発的活動が進められるようにする。
○困難に立ち向かう強い心とねばり強く取り組むことができる意志を育てる。

○自己管理能力の向上 健康・安全意識の高揚と予防
○朝のマラソン、縄跳び、クロカン等自主的活動の奨励
○体力向上プログラムの活用
○四季の行事、集会、表現活動での主体的な運営
○感想や意見等の発表の場の設定
○食育や歯みがき指導の推進
○目標や夢をもった学校生活
・欠席者0・100日以上 ・むし歯治療率100%
・朝食摂取100% ・体力づくり実践90%

思いやりのある子ども
えがお ココロ

○感性を高め、思いやりのある行動がとれる児童を育てる。
○善悪を判断し、規範意識・節度を身に付け、生命を尊重する児童を育てる。
○友達と協力し、助け合って生活する態度を育てる。

○4F活動(力・歌・絵・花いっぱい)のより一層の推進
○縦割り班活動の充実 異学年交流の推進
○ルールとマナーの指導(家庭との連携) 90%
○よいことの奨励と称賛、ならぬことはならぬ指導
○道徳教育の推進
○ボランティア活動の推進(気づき、考え、実行する)
○あいさつの励行 100%
・いじめ、不登校0

教師像
○子供をよく理解し父母や同僚に信頼される教師
○心身ともに健康で前向きな教師
○資質の向上を目指し、自己研鑽に励む教師
○主体的に活動し、協調性のある教師
○高い倫理観と自覚を持つ教師

学校像
○基礎学力や活用力が向上し特色ある教育活動を推進する学校
○事故の絶無を図り、健康で安全に過ごせる学校
○児童・教師・保護者の心が通い合い、地域に開かれた学校
(コミュニティスクールの推進)
○持続可能な社会づくりの担い手 (ESD) を育む学校
(エネサコスクール)の推進)
○感性を育て、人間としての成長が実感できる学校



豊かな体験

進んで体験することにより、自分やまわりの人びとの良いところ、自然のすばらしさなどを実感することができるようにする。

- ・各教科の学習
- ・総合的学習
- ・人とのふれあい、地域との交流
- ・異年齢集団による各種の活動
- ・勤労生産活動や奉仕活動、創意
- ・宿泊体験学習、修学旅行、遠足、見学学習
- その他

学級・学校環境	家庭との連携	地域社会との連携	保育所及び中学校との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・言語環境を整え、豊かな情操を培う。 ・温かい人間関係を確立する。 ・動植物を育て自然のすばらしさに感動する心を培う。 ・道徳コーナーを設け、各学年の取組の交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業参観、学年懇談会、PTAの会合、家庭通信等を通じ、保護者との連携、協力を深め、保護者の願いをすいあげるとともに啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との交流を深め、郷土のよさに気付かせる。 ・地域の様々な行事に参加し、文化の理解と発展に努めようとする意欲を育てる。(地域人材の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を通して保育所、中学校の交流を深める。 ・入学を前にしての保育所および中学校との連絡協議会を充実させる。 ・小中連絡協議会で共通理解を深める。

【資料3】

平成27年度 只見小学校 道徳別業<3年生>

重点項目	領域														
	道徳	国語	社会	理科	音楽	体育	学級活動	月	月	月	月	月			
1 主として自分自身に関する事	① 筋度ある生活態度	よく考えて節度ある生活を 5 11			時刻と時間の求め方 4		進級の心構えと決まり 4 自転車の安全な乗り方 4 むし歯の予防 6 1学期の反省 7 2学期のめあてを決めよう 8 3学期のめあてを決めよう 1						総合的な学習 月		
	② 不とう不屈・努力	やろうとめめたことは最後まで 7 11					こんにちばりこーダー 6 鉄棒運動 6 音のスケッチ 11							外国の文化をしよう 年間	
	③ 勇気	正しいことは勇気をもって 10 自分をしようかいよう 4													
	④ 正直誠実・明朗	正直に明るく心で 6 1													
	⑤ 個性伸長	自分のよいところをのぼして 1 1													
	2 主として他人や社会に関する事	① 礼儀	だれに対しても真心をもって 4 1												
		② 思いやり・親切	相手を思いやり親切に 6 9 3												
		③ 信頼友情	友達とたがいに理解し合って 5 12												
		④ 尊敬・感謝	そんな思いと感謝の気持ちをもち 10 2												
	3 主として自然や崇高な事	① 生命尊重	命あるものを大切に 9 11												
		② 自然愛・動物愛護	自然や動物植物を大切に 6 11												
		③ 敬けん	美しいものを感じて 8 2												
社会のままりを守って 4 5 9 10 12															
4 主として団や社会との関わり		① 規則尊重・公徳心	家族みんなで協力し合って 12 3												
		② 勤労・社会への奉仕	ほかにかかって楽しい学校・学習 5 7												
	③ 家庭愛	きょうとを愛する心をもつて 7 12													
	④ 愛校心	ほかにかかって楽しい学校・学習 5 7													
	⑤ 郷土愛	きょうとを愛する心をもつて 7 12													
	⑥ 愛国心	伝とうと文化を大切に 12 6													

重点項目	道徳			領域			教科											
	項目	月	月	国語	社会	算数	理科	音楽	体育	月	学級活動	月	総合的な学習					
1 主として自分自身に関する事	◎ 節度ある生活態度	よく考え、節度ある生活を	4				物のあたままり方	1				時間の使い方を工夫しよう	11					
		やうと決め、ことばは最後まで	7									自転車の安全な乗り方	4					
		◎ 不とう不屈・努力	4										歯のほたらき	6				
			7										1学期がんばったね会	7				
			2										2学期のあてを泳がよう	8				
			10										3学期のあてを泳がよう	1				
	(3) 勇氣	正しいことは勇気をもって	10					生き物の1年生を振り返って	6	音のスケッチ	3							
		◎ 正直に明るく	11															
		正直に明るい心で	3															
		◎ 正直誠実・明朗	9															
			12															
			2															
2 主として他人や周りの人との関わり	(1) 礼儀	なれに対して勇気をもって	2															
		◎ 思いやり・親切	6															
		相手の思いやり親切に	10															
			5															
			9															
			12															
	(2) 信頼友情	自分によいことをおぼえて	9															
		◎ 尊敬・感謝	2															
		大事なことを忘れずに聞く	2															
			5															
			10															
			12															
3 主として自然や自然物に関する事	(1) 生命尊重	命あるものを大切に	12															
		◎ 自然愛・動物愛護	1															
		自然や動物を大切に	3															
			5															
			9															
			10															
	(2) 敬けん	美しいものを感じて	6															
		◎ 規則尊重・公徳心	5															
		社会のきまりを守って	10															
			1															
			6															
			11															
4 主として集団や社会との関わり	(1) 規則尊重・公徳心	家族みんなで協力して	12															
		◎ 勤労・社会への奉仕	1															
		家族みんなで協力して	1															
			5															
			11															
			5															
	(2) 郷土愛	きょう土を愛する心をもって	11															
		◎ 愛校心	3															
		きょう土を愛する心をもって	3															
			10															
			3															
			7															
(3) 愛国心	伝統や文化を大切に	3																
	◎ 愛校心	5																
	家族みんなで協力して	5																
		11																
		3																
		11																

道徳教育の学級における指導計画

【資料4】

第4学年

学年の重点目標	めざす学級・児童像	児童の実態
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のよさを感じ、伸ばそうと努力を重ねる子どもの育成を図る。 ○ 思いやりをもち、だれとでも平等に接し行動できる子どもの育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の目標を持ち、主体的に活動し最後までやり遂げる子ども ○ 思いやりのある態度で、誰とでも助け合って生活できる子ども ○ 自然を大切にしようとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女仲よく、助け合えるクラスである。 ○ 子どもたちの規範意識は高く、決まりや約束事を守って生活している。 ○ 自己中心的に物事を考える児童がいるため、場に応じた行動や人との関わりを教えていく必要がある。

道徳の時間における具体的指導方針	生徒指導における道徳教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の素直な気持ちを引き出し、自分を振る時間を大切にさせながら、道徳的な心情を高め、道徳的な態度を育てる。 <p>〔題材の設定〕 他教科との関連を持たせながら、児童の生活実態に応じたもの。 〔事前の準備〕 アンケートや観察などにより、児童の実態をとらえる。 〔指導の段階〕 導入、展開前段、展開後段、終末の各段階を踏み、十分に価値を高めることができるよう工夫する。</p> <p>① 視聴覚機器の活用 ② 役割演技、自由討論</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的行動様式をはじめとする道徳実践力をつけるようにする。 ○ 相手の立場を考え理解し、互いに助け合って生活していこうとする態度を育てる。 ○ 物事を正しくとらえ、次へ生かそうとする態度を育てる。

各教科及び特別活動における道徳教育の概要	基本的生活に関する指導計画
<p>〔国語〕 文章から内容を正しくとらえ、物事を深く感じ取る心情を育てる。</p> <p>〔社会〕 社会的なものの見方、考え方を育てる。</p> <p>〔算数〕 話し合いの中で、合理的に考える能力を養う。</p> <p>〔理科〕 動植物愛護の精神を養う。</p> <p>〔音楽〕 各種の表現活動を通して、感動する心を育て豊かな情操を育てる。</p> <p>〔図工〕 互いに協力して運動する活動を通して、互いに認め合える心を育てる。</p> <p>〔体育〕 互いに協力して運動する活動を通して、互いに認め合える心を育てる。</p> <p>〔特活〕 集団の中、自分の仕事や役割に責任を持つ態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一日のめあての周知徹底を図る。 ○ 児童の生活場面の具体的な行動に留意し、問題を把握して適切な指導にあたる。 ○ 自分の意志・考えを正しく伝えられるような話し方の指導の徹底を図る。 ○ 生活班の活動を徹底させ、目的を持って行動し、協力できるよう話し合いを適宜位置づける。

	豊かな体験活動	教育環境の整備	他学年 学級 地域社会との連携	反省
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童自らが計画し、実践できる体験活動を取り入れるようにする。 ○ 活動後の感想を作文にまとめたり、話し合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに信頼し、自由に話し合える人間関係を築きあげる。 ○ 教室の整理整頓に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同学年、ブロックで活動する機会を増やし、連携を深める。 ○ 学年だよりを中心に家庭との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの児童がクラスの中で自分の意見を伝えることを楽しんでいる。クラスにおける自己有用感を味わうことができている。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始業式 ・ 新入生を迎える会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期のめあての掲示 ・ 1学期の係活動の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観、懇談会 ・ 新入生を迎える会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期末の授業参観で、道徳の授業を公開し、保護者の方の理解を求めた。授業も計画通りに進められている。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校探検 ・ 運動会 ・ 畑・野菜づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係活動コーナーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校探検 ・ 愛校作業 ・ 教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4年生として学校における役割を意識させるとともに、相応しい行動力を身につけさせようとする取組んでいるが、まだ、十分ではない。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春の遠足 ・ 水墨画体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習用具、ロッカーの整理整頓 ・ 清掃の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新体力テスト ・ 愛校活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身に関することの指導の充実を図っていく必要がある。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール学習 ・ セタ集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かさたて、下足箱の清掃 ・ 学期末大掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観 ・ 地区子ども会 ・ 夏休みプール開放 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内水泳記録会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期のめあて提示 ・ 夏休み作品提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みプール開放 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方を講師に迎えた道徳の授業を2回行った。児童は、地域の方の思いを知ることで、只見にあるものを大切にしていきたいという思いをもつことができた。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然に親しむ会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期の係活動の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町祭礼 ・ 自然に親しむ会 ・ 交通安全パレード 	<ul style="list-style-type: none"> また、各種行事のねらいを伝えると共に、児童に目標を持たせてから取組ませてきたことで、道徳的な価値を意識し、行動することができた。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ マラソン大会 ・ 読書感想文・作文コンクール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書感想文、作文の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛校活動 ・ 学習発表会 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三世代交流学級 ・ 町小中音楽祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画作品の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談 	
12		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期末の大掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区子ども会 	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内書き初め展 ・ 全校スキー教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3学期のめあての掲示 ・ 3学期の係活動の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校スキー教室 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内スキー大会 ・ 雪像づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生送る会の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内スキー大会 ・ 授業参観、懇談会 ・ 町雪まつり 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鼓笛引継ぎ式 ・ 卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の整理 ・ 学年末の大掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生送る会・鼓笛演奏 ・ 授業参観 ・ 卒業式 	

平成27年9月18日(金) 5校時
指導者 玉川 裕子 場所 2年教室

授業テーマ

役割演技やワークシートの活用により、自分の考えを持たせたり自己との対話を促したりすることで、よいことを進んで行おうとする態度を育てる授業

- 1 主題名 よいと思うことはすすんで 1-(3) 善悪の判断・勇気
- 2 資料名 ぼんたとかんた(「わたしたちの道徳 小学校1・2年」文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、内容項目1-(3)「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う」ことをねらいとしている。価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、人としてやってよいこと、社会通念としてしてはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期からきちんと身につけることが大切である。しかし、小学校の低学年の段階では、まだ集団生活に不慣れであるために、引っ込み思案になることが多い。時には、悪いことと知りつつも周囲に流されてしまったり、自分の弱さに負けてしまったりすることも往々にある。そこで、児童一人一人に人間としてやってはならないことを判断できる力を養うと共に、よいと思ったことは恐れずに勇気をもって行おうとする心情を育てる必要がある。

(2) 児童について

素直で人なつこい児童が多い。アンケート結果を見ると、「よいと思うことを進んでしているか」という問いに対して、「そう思う」が4名、「どちらかといえばそう思う」が4名という結果が出た。ほとんどの児童はきまりや約束の大切さを理解し、守ろうと努めている。しかし、中には周囲の迷惑を考えずに自分勝手なことをしてしまったり、友達がしているからといってよく自分で考えずにまねをし、きまりを破ってしまったりする児童が見られる。また、物事の善し悪しをよく考え、誤った行動をとっている友達に対しては進んで注意する姿も見られるが、よくないことと分かっているにもかかわらず、注意した後の相手の言動や反応を気にしてしまい、必要な一言が言えない児童もいる。自分の失敗については、気付いていても知らんぷりをしたり、素直に相手に謝らなかつたりという姿も垣間見られる。

(3) 資料について

秘密基地を見つけたかんたが、一緒に遊ぼうとぼんたを誘う。ぼんたは、断ったものの遊びたい気持ちもあり迷ってしまうが、立ち入り禁止の場所であると思慮深く考え、自ら判断して思い止まる。かんたも、弱い心の自分を見つめ直し、適切な行動をするという内容である。児童はぼんたやかんたの言動に共感しながら、自らの生活をふり返り、よく考えて行動することの大切さを考えることができると思われる。特に、かんたが秘密基地に向かって裏山に入ったことで一人になったぼんたや、一人で考えた後大きな声ではっきりと自分の考えを述べたぼんたの姿に共感し、考えを話したり友達の意見に耳を傾けたりすることを通して、主題に迫ることができるであろう。また、よいことかどうか判断して行動に移すときには、蛮勇ではない本当の勇気が必要であることや、自分でよく考えてよいことをした時のすがすがしい気持ちについても気付かせたい。

(4) 指導に当たって

【(1) 道徳の時間の充実】

①資料への効果的な出会わせ方

- ・事前にとったアンケートを導入で提示し、勇気をもって行動できなかった経験を共有させる。
- ・子どもたちの経験と似通った状況の資料を用いることで、ねらいとする道徳的価値について深く考えることができるようにする。

②資料分析と発問研究

- ・場面発問の類別を明確にすることで、登場人物の考え方や心情に共感したり批判的に考えたりしながら自分なりの思いや考えをもてるようにする。

④表現活動の工夫

- ・役割演技を通して、子どもたちの考えが内面から語られ、実感的に深められるようにする。

⑤効果的な板書

- ・相違点、類似点を明確にして、児童の発言を類型化して板書を工夫し、自他の考えを比べられるようにする。

⑥振り返りの場の工夫

- ・ワークシートを用いて自分の行動を振り返りながら道徳的価値に対する思いや考えを深めさせるとともに、称賛することで価値付けする。

【(2) 道徳授業を支える環境づくり】

- ・教室内に道徳コーナーを設け、これまでの道徳教育の足跡を残すことで、振り返りができるようにする。
- ・花壇や畑作りに力を入れ、児童の道徳性を育てる。

4 指導計画

段 階	学習の場	内 容
事前指導	学校生活全般 道徳 国語	○ 児童同士や教師とのかかわりの中で、よいことを進んでできているか見取る。 ○ 「おれたものさし」 1 - (3) 善悪の判断・勇気 正しい行動を愛し、それを行おうとする心情を育てる。 ○ 「スイミー」 困難を乗り越えて、それを知恵と勇気で自分の生き方に生かしていこうとするスイミーの姿を読み取る。
本 時	道徳	○ 「ぼんたとかんた」 1 - (3) 善悪の判断・勇気 よいことと悪いことの区別をし、よいことを進んで行おうとする態度を育てる。
事後指導	学校生活全般 学級活動	○ 児童同士や教師とのかかわりの中で、よいことを進んでできているか見取る。 ○ よいことを進んでできているかできているか振り返る機会を設定する。

5 本時の指導




(1) 本時のねらい

- 一時の楽しさや友だちへの遠慮のために、正しいと思うことをしないより、自分で本当によいと思ったことをすることの方が、お互いにすがすがしい気持ちになれることを理解する。

(2) 準備

資料、挿絵、ワークシート

(3) 授業の実際

段階	学習活動・内容	T：主な発問 C：児童の反応	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1 アンケートの結果を見ながら、経験について考える。	T：この前アンケートを取りました。その結果がこれです。 C：あっ、これは〇〇ちゃんかな。 C：ほくも同じようなことがあったな。 T：みんな、いけないことだと分かっているのに、やってしまったことがあったようですね。	3	○事前に行ったアンケートを紹介することで、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開前段階	<p>2 資料を読んで、ぼんたの思いを読み取る。</p> <p>①一人ぼっちになったぼんたの気持ちを考える。</p>  <p>②「行かないよ。」と大きな声で言った時のぼんたの気持ちを考える。</p>  <p>③ にっこり笑ってうなずいた時のぼんたの気持ちを考える。</p> 	<p>T：一人になったぼんたは、どんなことをじっと考えていたのでしょうか。 (A場面発問ーア共感的な発問)</p> <p>C：危ないことに巻き込まれるかもしれないから嫌だ。 C：少し行ってみたい気もするな。</p> <p>T：大きな声ではっきりと「行かないよ。」と言った時のぼんたの気持ちを考えましょう。 (A場面発問ーイ共感的な発問)</p> <p>C：友達でも、いけないことは言わなければならない。 C：よくないことをして遊んでも楽しくないから行かない。</p> <p>T：にっこり笑ってうなずいた時、ぼんたはどんな気持ちだったのでしょうか。 (A場面発問ーイ共感的な発問)</p> <p>C：かんたが戻って来てくれてよかった。 C：危ない目に遭わなくてよかった。</p>	27	<p>○二人が仲良しであることをおさえた上で発問する。</p> <p>○ワークシートをもとに意図的に指名することで、児童が持つ多様な価値観を引き出すようにする。</p> <p>○ぼんたの気持ちを発表させた後で役割演技に取り組みせ、二人のやりとりから正しいことを選択した時のすがすがしい気持ちに気付かせる。</p>

④ 仲良くふらんに揺られている二人を役割演技する。

T: Aくんがぼんた、Bさんがかんと役になってもらいます。「行かないよ。」のところ、自分のやりたいぼんたをやってみて。あなたは、自分のやりたいかんとをやってみて。

ぼんた: 行かないよ! だって危ないから。

かんと: どうしたの?

ぼんた: ぼくは、裏山は危ないから行かないよ。

T: みんな、ぼんたくんはどんな顔で「行かないよ。」って言ってたかな。

C: 行かないよっていう感じ。

T: それってどんな感じ?

C: こわい顔だった。

T: いつものぼんたよりこわい顔に見えたんだ。

目をつぶって必死だったね。なんで必死だった?

C: 早く戻ってきてほしかった。

T: かんとくん、秘密基地って魅力的じゃない。ぼんたくんに止められて嫌じゃなかった?

かんと: ぼんたくんが行かないなら、ぼくも行かない。ぼんたくんがかわいそうだから。

T: でも最初行っちゃったよね。先生だったらいくら大の仲良しでも行っちゃうと思うな。

かんと: 自分だけ得するのは嫌。

T: 大の仲良しのぼんたくんに止められたから、かんとくんは行くのを止めたのかな。

C: 行きたかったけど、友達の言うことは聞かなくて。

C: 自分でも考えた。

T: 「にっこり笑った」って書いてあるけど、どうして笑ったのかな。

C: 戻ってきてくれた。

C: 危ない目に遭わなくてよかった。

T: ブランコに乗ってにこにこ笑顔の二人がどんなお話しをしたのかやってみて。

(A場面発問ーア共感的な発問)

ぼんた: 秘密基地ってどんなところ?

かんと: 豊かな場所。

ぼんた: かんとくんはどういうところが好きだった?

かんと: 中の方だよ。これからは裏山に行かないよ。

ぼんた: 今度は、みんなが分かりやすいところに見たら?

かんと: それじゃ秘密基地じゃなくなっちゃうよ。



展開後段

3 よいことを進んでできた経験について考える。



T: あなたは、ぼんたのように、正しいことを進んでできたことはありますか、その時どんな気持ちでしたか。

C: 友達とけんかをしてしまった時、すぐに謝ったらすっきりした。

C: 進んでごみ拾いをした。教室がきれいになると勉強する時も気持ちがいいと思った。

10

○具体的な生活場面で自分を見つめワークシートにまとめさせることで、よいと思ったことを勇気をもって行ったことを称賛し、価値付けする。

※これまでの自分を振り返り、進んでよいことをする大切さを感じている。

終末

4 教師の説話を聞く。

5

○教師の経験について話を聞くことで、道徳的価値をあたためる。

6 板書計画

1 今までにいけないことと分かっているのに、やってしまった経験はありますか。それはどんなことですか。
 ・授業中におしやべりをしてしまった。
 ・こみが落ちていたのに、気づかないふりをした。

ぼんたとかんた

挿絵

一人になったぼんた

- ・大のなかよし
- ・いつものそんたである。

「行かないよ。」

- ・友達でも、いけないことは言わなければならぬ。
- ・よくないことをしてあそんでもたのしくないから行かない。

にっこりわらってうなずいたぼんた

- ・かんたがわかってくれてよかった。
- ・わるいことをしませんでした。
- ・すっきりした。

4 教師の説話を聞く。
 ・教師の経験について話を聞く。

2 「ぼんたとかんた」を読む。

○一人になったぼんたは、どんなことを考えていたのでしょうか。

○大きな声ではっきりと「行かないよ。」と言った時のぼんたの気持ちを考えましょう。

○にっこり笑ってうなずいた時、ぼんたはどんな気持ちだったのでしょうか。

3 よいところを選んでできた経験について考える。

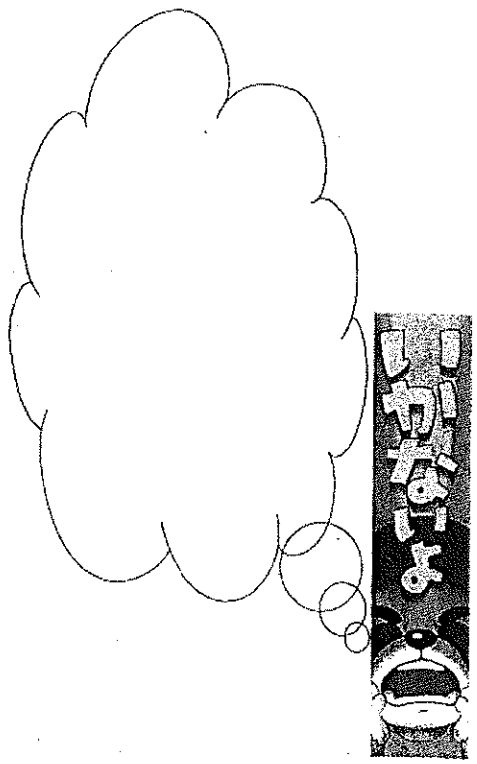
○よいと思つて、進んでできたこと、ありますか。その時どんな気持ちでしたか。

7 ワークシート

ぼんたとかんた (よいと思うことはすすんで)

名前 ()

① 大きな声ではっきりと「行かないよ。」と言ったときのぼんたの気持ちを考えてよう。



◎ よいと思うことがすすんでできたことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。

.....

.....

.....

.....

.....

平成27年度道徳教育地区別推進協議会 事後研究会記録

1 授業者自評

- ・ 大勢の前で緊張しながらも児童たちはよく考えていた。
- ・ 役割演技については教師が無理に引っ張ってしまった部分があった。
- ・ 2年生の発達段階に考慮して、テーマ発問を用いず、場面発問のみで行った。
- ・ 指導案では、役割演技は最後のブランコの場面のみだったが、十分深まっていなかったため、「いけないよ！」の場面でも役割演技を行った。
- ・ これまでもワークシートを使って振り返りを行っていたが、メタ認知が弱いために書けない児童に対しては、支援員についてもらっている。

2 質疑応答・協議

- 授業最初に提案したアンケートは、今後どのように生かすのか。
 - ・ アンケートは、学校生活の中での振り返りや、「僕も無理やりやったことがある」など資料の振り返りに使えればいいと思っている。
- 台本を与えて「どう思うかな？」と投げかけることで、意見が広がりすぎず2年生の本当の気持ちが出てきたのではないか。
 - ・ 劇ではなく、役割演技なので「こう言ったらぼんたはこう思う」と考えながら演技すればいいと考えている。
- 中心場面をブランコに乗っている場面にしたが、「善悪の判断」ならば「いけないよ！」の場面になるのではないか。
 - ・ ぼんたの気持ちだけでなくかんだの気持ちについても考えさせたいため、このような指導案になった。
- 振り返りで書いたことは他の児童と共有しないのか。ワークシートの生かし方は。
 - ・ ワークシートは自己の振り返りに使うので、発表して共有することはない。
- 「よいことと悪いことの区別」だが、行ってはいけない場所の板書が無かった。事前研ではどのような話し合いが行われたのか。
 - ・ 「よいことと悪いことの区別」よりも本時のねらい（「一時の楽しさや友だちへの遠慮のために、正しいと思うことをしないより、自分で本当によいと思ったことをすることの方が、お互いにすがすがしい気持ちになれることを理解する」）に変更した。いいことをするといい気持ちになると感じさせたかった。
- ※ 【早川先生のお話】道徳科指導要領参照。「いけないから行ってはだめ」ではなく、いいことをしたすがすがしさを感じさせたい。観念として理解させるのではなく、実感として理解させることに、玉川先生は今回重点を置いた。

3 ご指導

〈講師：上越教育大学大学院教授 早川 裕隆先生〉

- 授業後、大きなため息をついている児童がいた。一生懸命考えていた。
- 「いけないよ！」の役割演技でのおっかない顔の理由の吟味が無かったのは残念。「ぼんたがかんたを変えた」という事実を子どもたちに感じさせる発達段階以上のレベルで揺さぶっていた。
- 「自分だったらこのような流れで授業を考える」という視点で授業を参観することが大切。

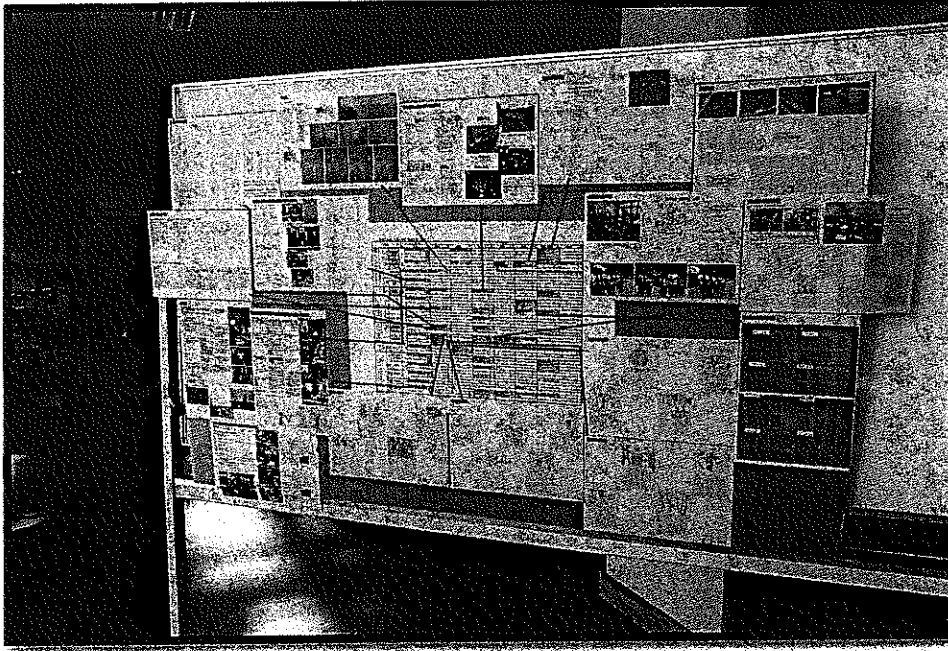
〈講師：県教育研修センター指導主事 佐藤裕子先生〉

- ぼんたとかんだ2人を主人公と考えた場合、誰の生き方が変わったのか→かんだ。
中心場面→だままって考えているところ。ここで見えない気持ちの変化があった。
- かんだの「へいきへいき」は人間の弱さ。これを感じさせるために、どうして平気と言ったのか考えさせる。
- かんだがきっぱりと「いけない」と言ったが、どうしてか考えさせる。これが、テーマ発問。
- 主人公以外の行動として、ぼんたが「いけないよ！」といったのは何故か考えさせる。

	NO	質問	6年			5年			4年			3年			2年			1年		
			児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師
主として自分自身に関すること	1	自分の生活を見直し、より良い生活しようとしていますか。	3.7	3.4	2.5	3.0	2.3	2.5	2.8	3.1	2.5	3.5	3.0	3.0	2.9	2.6	3.0	3.7	2.8	3.5
	2	自分で立てた目標に向かって、ねばり強くやろうとしていますか。	3.9	3.6	3.0	3.5	2.4	3.5	3.3	3.1	3.0	3.8	2.9	3.0	3.4	2.8	3.5	3.7	3.3	3.5
	3	よいと思うことを進んでおこなうことができますか。	3.7	3.4	3.0	3.1	2.9	3.5	3.0	2.9	3.5	3.8	3.0	3.0	3.3	3.2	3.5	3.8	3.3	3.5
	4	自分の間違いを素直にみとめて、正しい気持ちで生活していますか。	3.4	3.9	3.5	3.1	3.7	3.5	2.9	2.9	3.0	3.5	3.0	3.5	2.8	3.4	3.5	3.6	3.3	3.5
	5	より良い生活しようと、工夫していますか。	3.6	3.3	2.5	3.5	3.1	3.0	3.2	2.7	3.0	3.7	2.9	3.0						
	6	自分の長所を生かし、伸ばそうとしていますか。	4.0	3.3	3.0	3.1	2.9	3.5												
主として人とのかわりに関すること	7	時と場をわきまえて、礼儀正しくしていますか。	3.9	3.1	2.5	3.4	3.3	3.0	3.9	3.3	2.5	3.4	3.3	3.5	3.3	2.8	3.0	4.0	3.0	3.5
	8	身近にいる人に親切にしていますか。	3.6	3.7	3.0	3.3	3.1	3.5	3.1	3.3	2.5	3.2	3.4	3.5	3.4	3.2	3.0	3.5	3.7	3.5
	9	友達となかよく助け合いながら生活していますか。	3.9	3.7	3.5	3.5	3.7	3.5	3.7	3.2	3.0	3.9	3.6	3.0	3.4	3.6	3.0	3.6	3.8	3.5
	10	広い心で、自分と違う意見や立場を大切にします。	3.6	3.3	3.5	3.4	2.9	3.5												
	11	お世話になっている人たちに感謝していますか。	4.0	3.3	3.5	3.6	3.1	3.0	3.9	3.3	3.0	4.0	3.4	3.5	3.6	2.6	3.5	4.0	3.5	3.0
主として自然や風景に関すること	12	命を大切にしていますか。	3.9	3.7	3.0	3.8	3.4	3.5	4.0	3.6	3.0	4.0	3.5	3.0	4.0	3.0	4.0	4.0	3.5	3.5
	13	只見の自然を大切にしていますか。	3.6	3.4	3.0	3.8	3.3	4.0	4.0	3.5	3.0	4.0	3.4	3.5	4.0	3.6	4.0	3.9	3.5	3.5
	14	美しい物を見ると感動しますか。	3.1	3.6	2.5	2.8	3.4	3.5	3.6	3.3	3.0	4.0	3.4	3.5	3.3	3.0	3.0	3.7	3.7	3.5
主として集団や社会とのかわりに関すること	15	約束や決まりを守り、みんなが使うものを大切にしていますか。	3.6	3.3	3.0	3.4	3.0	3.5	3.2	3.0	3.0	3.7	3.0	3.0	4.0	3.2	4.0	4.0	3.2	3.5
	16	だれに対しても分けへだてなく関わることができますか。	4.0	3.6	3.5	3.4	3.1	3.5												
	17	グループ活動では、進んで取り組むことができますか。	3.7	3.7	3.5	3.4	3.4	3.5												
	18	係や委員会活動を進んでしていますか。	3.6	3.3	3.0	3.5	3.1	4.0	3.6	3.1	3.0	3.5	2.8	3.5	3.3	2.6	3.5	3.8	3.2	3.5
	19	お家の人のために、進んでお手伝いをしていますか。	3.4	3.7	3.0	3.3	3.4	3.5	3.3	3.3	3.0	3.9	2.9	3.5	3.4	3.0	3.0	3.4	3.3	3.5
	20	先生の話をよく聞き、より良い学校にしようと行動していますか。	3.6	3.7	3.0	3.4	3.4	3.5	4.0	3.3	3.0	4.0	3.8	3.5	3.0	3.6	3.5	4.0	3.8	3.5
	21	只見町のいいところが言えますか。	3.6	3.6	3.0	3.8	3.3	3.5	4.0	3.3	3.5	4.0	3.1	3.5	3.8	3.0	3.5	3.9	3.2	3.0
	22	外国の人々に関心がありますか。	3.4	3.7	3.0	3.1	3.0	4.0	3.8	2.8	2.5	4.0	3.1	3.0						
色つきの個数			0	0	4	1	5	1	2	4	4	0	4	0	2	5	0	0	1	0

	NO	質問	6年			5年			4年			3年			2年			1年		
			児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師
主として自分自身に関すること	1	自分の生活を見直し、より良い生活しようとしていますか。	3.6	3.0	4.0	3.4	2.6	3.5	3.3	3.0	3.0	3.3	2.5	2.5	3.4	3.3	3.0	3.6	3.0	3.5
	2	自分で立てた目標に向かって、ねばり強くやろうとしていますか。	3.6	3.7	3.5	3.5	3.1	3.5	3.6	3.1	3.0	3.9	2.5	3.5	3.4	2.8	3.0	3.7	2.9	4.0
	3	よいと思うことを進んでおこなうことができますか。	3.6	3.7	4.0	3.4	3.1	4.0	3.5	3.2	3.5	3.4	2.7	3.0	3.6	3.3	3.0	3.6	2.7	2.5
	4	自分の間違いを素直にみとめて、正しい気持ちで生活していますか。	3.4	3.5	3.5	3.0	3.1	4.0	3.3	2.9	3.0	3.8	2.8	2.5	3.1	2.9	3.0	3.5	3.0	3.0
	5	より良い生活しようと、工夫していますか。	3.9	3.2	4.0	3.5	2.3	3.0	3.5	3.2	3.5	3.7	3.0	4.0						
	6	自分の長所を生かし、伸ばそうとしていますか。	3.6	3.8	4.0	3.6	2.8	3.0												
主として人とのかわりに関すること	7	時と場をわきまえて、礼儀正しくしていますか。	3.3	3.8	3.0	3.4	2.9	3.5	3.4	3.1	3.5	3.5	2.4	3.0	3.3	4.0	3.8	2.6	2.5	
	8	身近にいる人に親切にしていますか。	4.0	3.8	3.0	3.8	3.3	3.5	3.1	3.1	3.0	3.3	3.2	3.0	3.8	3.4	3.0	3.8	3.0	2.5
	9	友達となかよく助け合いながら生活していますか。	4.0	3.5	3.5	3.9	3.7	4.0	3.8	3.4	3.0	4.0	3.4	3.0	3.1	3.6	3.0	3.8	3.1	3.5
	10	広い心で、自分と違う意見や立場を大切にします。	3.3	3.5	3.0	3.6	3.0	3.5												
	11	お世話になっている人たちに感謝していますか。	4.0	3.7	3.5	3.8	3.1	3.5	4.0	3.5	3.5	4.0	3.3	3.0	3.9	3.1	3.0	3.9	3.0	3.0
主として自然や風景に関すること	12	命を大切にしていますか。	4.0	3.8	4.0	3.9	4.0	3.5	4.0	3.8	4.0	4.0	3.7	3.5	3.9	3.6	3.0	4.0	3.6	4.0
	13	只見の自然を大切にしていますか。	4.0	3.7	3.5	3.9	3.7	3.5	3.9	3.5	3.5	4.0	3.3	3.5	3.9	3.5	4.0	4.0	3.0	4.0
	14	美しい物を見ると感動しますか。	3.4	3.7	3.0	3.1	3.4	4.0	3.9	3.7	4.0	3.8	3.6	3.0	3.6	3.4	3.0	3.8	3.4	3.5
主として集団や社会とのかわりに関すること	15	約束や決まりを守り、みんなが使うものを大切にしていますか。	4.0	3.5	3.0	3.6	3.0	3.0	3.6	3.3	3.5	3.9	2.9	3.5	3.6	3.4	3.0	3.8	2.8	2.5
	16	だれに対しても分けへだてなく関わることができますか。	4.0	3.7	4.0	3.8	3.3	3.5												
	17	グループ活動では、進んで取り組むことができますか。	3.9	3.8	4.0	3.6	3.1	3.5												
	18	係や委員会活動を進んでしていますか。	4.0	4.0	3.5	3.9	3.4	4.0	3.8	3.7	4.0	3.7	3.3	3.5	3.4	3.5	4.0	3.9	2.8	3.0
	19	お家の人のために、進んでお手伝いをしていますか。	3.6	3.6	3.0	3.4	2.6	3.0	3.1	3.1	3.0	3.5	2.5	2.5	3.4	3.0	3.0	3.6	2.7	3.0
	20	先生の話をよく聞き、より良い学校にしようと行動していますか。	4.0	3.5	3.5	3.4	2.8	3.0	3.7	3.2	4.0	3.9	3.2	3.0	3.4	3.3	3.0	3.9	3.3	3.0
	21	只見町のいいところが言えますか。	4.0	3.8	4.0	3.9	3.3	4.0	3.9	3.4	4.0	4.0	3.3	3.5	3.9	3.0	4.0	3.9	3.4	4.0
	22	外国の人々に関心がありますか。	4.0	3.7	3.0	3.1	3.2	3.0	3.1	2.7	3.0	2.8	3.0	3.0						
色つきの個数			0	0	0	0	6	0	0	2	0	1	7	3	0	2	0	0	6	4

【資料7】別葉の活用



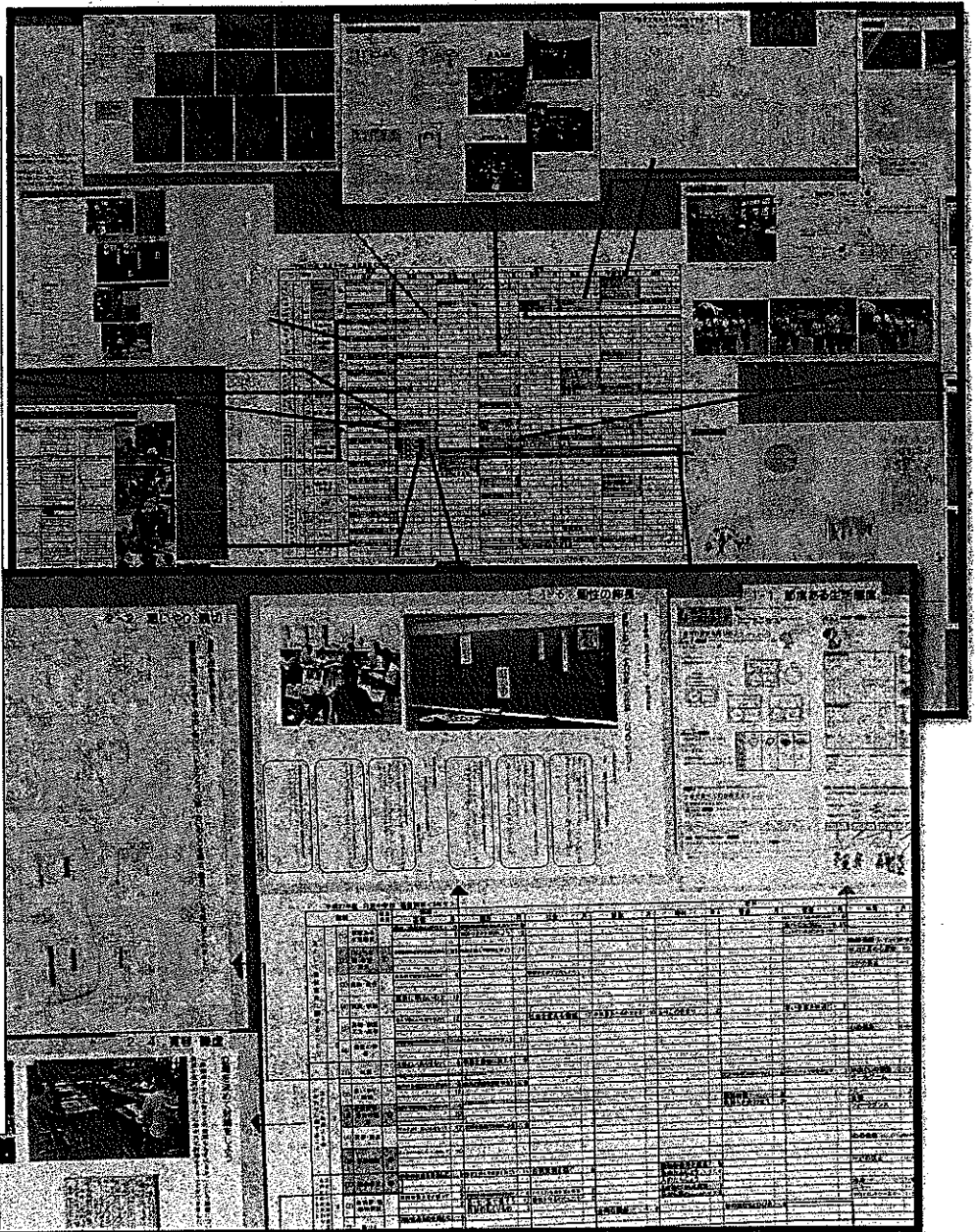
＜掲示の仕方＞

クラフトボードの中央に「別様」を貼り付けた。

クラフトボードを活用することにより、必要に応じて掲示したり、場所を移動して掲示したりすることができるため、常掲的な掲示とならず、新鮮味を保つことができた。

＜別葉の活用＞

- ① アンケートの結果から、本校の重点指導事項を明確にし、その項目を着色した。
- ② 授業が終わると題材名に色を染めた。これにより、教師にも、子どもたちにとっても、「次の道徳は何をやるのか」が分かり、「別様」をシラバス的に活用することができた。
- ③ 子どもたちの学びの跡＜ワークシート等＞を掲示することで、友達と意見を交換する機会となったり、新たな考え方に気づいたりすることができた。



～人にやさしい 自然にやさしい 地球にやさしい～ 「持続可能なより良い未来づくり」を 人権・自然環境・国際理解 の視点でとらえ直す 【資料8】

ESD (持続可能な発展のための教育) カレンダー 第2学年

只見町立只見小学校

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	春がいっぱい			夏がいっぱい			秋がいっぱい		冬がいっぱい			
生活	春だ 今日から	生きものなかよし大作せん	きれいにさいてね たくさんさいてね (花壇づくり) おいしくさだて わたしの野さい (栽培活動)				みんなであつちまらめしほつ もつとなかよしまらちんけん	収穫祭	団子さしをしよう	収穫を味わおう		
学校行事		香の運足 (自然・環境)		香の運足 (自然・環境)		自然に親しむ会 (自然・環境)	学習発表会			校内スキー記録会 雪像づくり (自然・環境)		
特別活動		放射線教育	只見の水香	放射線教育								
道徳	4-4)愛校心			3-2)自然環境の価値を高めよう		3-2)自然環境の価値を高めよう	4-5)郷土愛	放射線教育 3-3)生命の尊重 3-3)生命の尊重 4-5)郷土愛	3-5)家族愛	3-5)家族愛	3-5)生命の尊重	
体育										スキー(自然・環境)		

※ 生活科を中心に、「自然・環境」「人権」に関わることを横断的に関連させながら取り組んでいく。

授業テーマ	くじけそうになりながらも前向きに努力する主人公の思いを考えさせることを通して、やろうと決めたことを最後までやり遂げようとする気持ちを育てる授業
-------	---

- 1 主題名 やろうと決めたことは最後まで 1—(2) 不とう不屈・努力
- 2 資料名 たいこの音 (ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集 郷土愛 ふくしまの未来へ)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

自分に課せられた課題だけでなく、更なる高みを目指して目標を立て、失敗や困難にくじけずに粘り強くやり遂げることは大切なことである。また、その過程を通して達成感や満足感を得ることは、自身の成長に欠かせない体験となる。不とう不屈の精神で努力し続けることの大切さを育んでいきたい。

(2) 児童の実態

児童は、一日のめあてや学年の目標に向かって取組んでいこうと互いに声をかけ合っている。アンケートでは、全員が「がんばることは大切だ」と回答し、「なぜそう思うか」の問いに対し、「達成感があってうれしい」「できるようになると力がつくから」など、努力する必要性を感じている。しかし、興味があまりもてないことには、自分が何をすべきかは分かっている、苦手なことから逃げようとしていたり、失敗するとすぐに諦めてしまったりする姿が見られる。

(3) 資料について

主人公のよしこが友達に誘われて「お囃子」の練習に参加する。主人公は初体験で出した太鼓の音が快く響いて楽しさを感じはじめる。うれしさや期待感で心が踊っていくが、練習が進むにつれて挫折感を味わうことになる。挫けそうになった時、指導者の一言で自分を見つめ直し前向きに努力を続けていこうと決意する話である。

(4) 指導にあたって

よしこの気持ちの変化を取り上げ、挫けそうくじけそうになってもあきらめずに努力していこうとする姿に共感させ主題に迫らせたい。また、児童に自分でやろうと決めたことや自分の役割をたとえつらくてもがんばってやり遂げると、充実感や喜びを味わうことができることにも気づかせたい。

○ 資料分析と発問研究

- ・ 場面発問の類別を通して、発問内容の意図を明確に持ち、登場人物の気持ちの変化に気づかせる。

○ 効果的な板書

- ・ 登場人物の気持ちの変化やそれに反応した児童の発言が見えるよう可視化する。

○ 振り返りの場の工夫

- ・ 児童が、今、頑張っていること、取組んでいることのアンケート結果を導入で提示する。資料を用いて価値について学習した後で、自分の取組みを振り返り努力してよかった経験を発表し、今後のはげみになるようにする。

4 本時のねらい

やろうと決めたことを、目標をもってくじけずにやり遂げようとする気持ちを育む。

5 板書計画

心情絵 (曲線)

挿絵

・ うまくなった、が
・ んぼろう
・ みんなにきかせた
い

挿絵

・ リズムを合わせよ
・ うとばかり
・ どんな音が出てい
るんだらう

○ たいこの前に正ざした
わたしは・・・

○ 「はっとした」わたし
・ 友だちにさそわれてやっ
た。
・ しかたなく

○ よしこはおはやしのたいこ
を・・・

たいこの音

6 指導過程

段階	学習内容	主な発問・予想される児童の反応	時間	○指導上の注意点 ※評価
導入	1 友達が今、努力していることについて知る。	○今、がんばっていることは、こんなことだったね。 ・スポ少 ・体育 ・勉強 ・読書	3	○事前にとったアンケートの結果を伝え、資料のつなぎとする。
展開前段	2 資料を読んで「よしこ」の気持ちを考える。 ① 太鼓を始めた頃の気持ちを考える。 ② かべにぶつかった時の気持ちを考える。 ③ 指導者に声をかけられた時の気持ちを考える。 ④ やる気になったよしこの気持ちを考える。	○指導者の大竹さんに「がんばれよ。」と声をかけられた時、よしこは、どんな気持ちだったかな。 ・がんばるぞ。 ・しっかりたたくぞ。 ○太鼓をたたかせてもらえるようになった時、よしこはどんな気持ちだったかな。 ・これで太鼓をたたけるぞ。 ・みんなと息を合わせるぞ。 ○よしこは、なぜ涙を流したのだろう。 ・私だけリズムが合わない。 ・たくさん練習したのに。 ・もうこれ以上続けたくない。 ○「はっとしたわたし」はこの時、 <u>どんなことを考えていたでしょう。</u> ・楽しく練習していた時のことを忘れていた。 ・今、自分が叩いている太鼓はどんな音を出しているのだろう。 ・リズムを合わせようとばかりしていた。 ○太鼓の前に正座し、しっかりと前を向いたわたしは、どんなことを考えていたかな。 ・うまくなっている。これからもがんばろう。 ・みんなに見せたい。	30	○よしこの行動を短冊で確認し板書構成に生かし、よしこの浮き沈みによる気持ちの変化を押さえる。 ○場面毎のよしこの行動とその気持ちを確認し、中心発問を考えるきっかけとする。 ○主人公のよしこが変容した部分を中心発問とし、よしこの気持ちをしっかりと考えさせるためワークシートを用いる。 ※自分で決めたことをあきらめずに努力して、成し遂げることが大切であることを理解することができたか。
展開後段	3 今までの経験から努力してよかったことを話し合う。	○今までの振り返って、努力してよかったと思ったことは何ですか。 ・できなかった鉄棒の技ができるようになった。 ・ボールを上手に捕れるようになった。 ・本をたくさん読むことで、すらすらと読めるようになった。	10	○今までの自分を振り返らせ、努力することのよさを価値付けすることで、これからの生き方や考え方に役立てることができるようにする。
終末	4 担任の説話を聞く。		2	○担任が目標を立てて、努力した話を紹介する。

7 成果と課題

- 主人公の気持ちを心情絵（曲線）で視覚的に表すことにより、児童は的確に心情をとらえ、本時のねらいにせまることができた。
- 資料文が長いこと事前に資料を読ませておいたが、場面確認と内容理解のため、一問一答の場面発問が多くなってしまった。
- 登場人物の気持ちを考える場面では、机の配置を工夫したり、教師がつなぎ役になったりするなどの話しやすい雰囲気作りが十分ではなかった。

授業テーマ	主人公の気持ちが共感できるようにロールプレイをさせたり、見て感じ取ったりさせながら、ねらいとする価値に気づかせ、今後の実践意欲を高めることができる授業
-------	---

- 1 主題名 希望をもつところ 1－（2）希望・勇気・不撓不屈
- 2 資料名 きぼうの水族館～アクアマリンふくしま～（ふくしま道徳資料第1集 生きぬく・いのち）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値

目標を実現するためには、困難に耐え、粘り強くやり通そうとすることが大切である。

高学年になると、自主的に計画を立てて学習や生活を進めることができるようになってくる反面、少し困難な問題に直面したり、失敗したりすると意欲を無くしくじけてしまうことがある。また、他者の目が気になり、心ならずもごまかしたり、自分への言い訳として自分を甘やかしてしまう理屈を考えたりすることもある。

困難に最後まで立ちむかい、乗り越えたときの達成感は何事にもかえられないものである。最後まであきらめず、勇気をもって困難に立ち向かい続けようとする心情を育てていきたい。

（2）児童の実態

保育所から一緒に生活し、互いの個性について理解し認め合うことができる児童たちである。

事前アンケートから、「目標に向かって粘り強くやろうとしているか」の問いでは、児童（3.9/4）、保護者（3.6/4）と高評価である。学校生活の中で、興味のあることややらなければならないことに対しては実行することができる。しかし、係活動や苦手な教科の学習など、つらいことや困難なことに出会うと、ある程度「がんばろう」とするが途中であきらめてしまったり、妥協してしまったりとやり通すことができないこともある。

（3）資料について

平成23年の東日本大震災発生後、アクアマリンふくしまでは、ライフラインが復旧しないために多くの生き物たちが命を落としていく。さらに原発事故のニュースが入ってくる。そんな中、津崎さんたち飼育職員はあきらめずに、手をつくし、全国の水族館からの協力を得ることができた。津波により施設や周辺は大きな被害を受けたが、職員の強い熱意と周りの協力によりわずか四ヶ月で再オープンにつなげることができた。

職員の献身的な姿から、希望をもつことのすばらしさや困難なことを克服しようとする人間の強さについて自らの考えを深めることができる資料である。

（4）指導にあたって

○ 中心発問を生かす工夫

- ・ テーマ発問を取り入れ、ねらいとする「希望をもち、困難に立ち向かう」ことを自分との関わりで考えたり、友達の考えと比較したりすることにより道徳的価値の理解を深める。

○ 表現活動の工夫

- ・ 震災後の困難な状況の中で何とか生き物を救おうと手をつくす場面を想定し、ロールプレイをさせる。演じた感想やその様子を見て感じたことを話し合いながら、ねらいとする道徳的価値について共感させる。

○ 効果的な板書

- ・ アクアマリンふくしまの震災直後と現在の様子について資料を提示することで、職員が希望をもって幾多の困難に立ち向かい、乗り越えていったことをとらえさせる。
- ・ テーマ発問等重要な発問は、短冊にし掲示する。

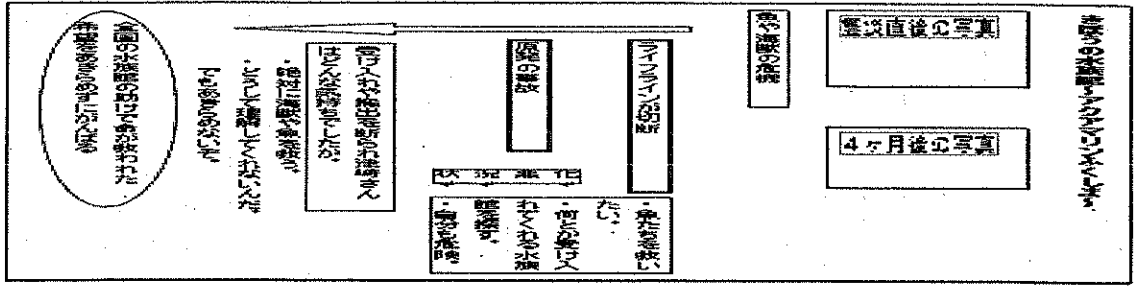
○ 振り返りの場の工夫

- ・ 「私たちの道徳」の「希望と勇気をもってくじけずに」を活用し、自分の目標を実現させるために、今できることは何か考えさせる。

4 本時のねらい

自分の立てた目標を達成するために、困難にくじけず、最後まで粘り強くやりとげようとする意欲を高める。

5 板書計画

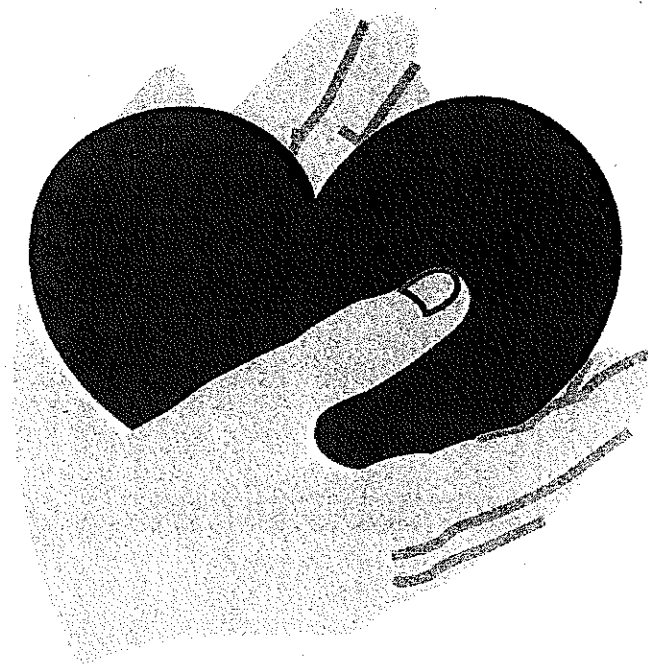


6 学習過程

	学習活動	主な発問 予想される児童の反応	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	<p>1 現在、自分ががんばっていることをについて発表する。</p> <p>2 アクアマリンふくしまの写真震災直後と再オープンした時の映像資料を提示する。</p>	<p>○目標をきめてがんばっていることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剣道の練習を毎朝続ける。 ・家庭学習を70分続ける。 ・マラソンを達成する。 <p>○震災から4ヶ月の間にどのようなことがあり、再オープンすることができたのか、考えていきましょう。</p>	5	<p>○小さなことでも、努力していることがあれば認める。</p> <p>○自分の経験が想起できない児童には1学期のめあてを思い出させる。</p> <p>○震災関連の写真には配慮しながら提示する。</p>
展開前段	<p>3 資料の前半を読み話し合う。(P10～P12L11)</p> <p>①津波の被害により水族館の機能が働かない様子を考える。</p> <p>②原発事故後、どこへ助けを求めても断られた時の津崎さんの気持ちを考える。</p> <p>4 資料の後半を読み話し合う。(P12L12～P13)</p> <p>○5日後から、ようやく海獣を引き、受けてもらえるようになったときの津崎さんの気持ちを考える。</p>	<p>○震災後、ライフラインが分断されるなかで津崎さんは、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚たちを何とか救いたい。 ・早く受け入れる水族館を探したい。 ・余震もあり自分も危険だ。 <p>○全国の水族館に電話をかける津崎さんと相手の水族館との会話をロールプレイしよう。</p> <p>○受け入れや搬送を断られて津崎さんはどんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対に海獣や魚を救う。 ・どうして理解してくれないんだ。でもあきらめないぞ。 <p>○資料の結末を読み、どんな感想を持ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強くお願いしてよかったです。魚たちの命を救えることができた。 ・あきらめなかったから再オープンすることができた。 	25	<p>○地震、そして津波の被害やライフライン切断と状況が悪化していくことをとらえさせる。</p> <p>○津崎さん役を児童、相手の水族館側を担当が役割演技をする。</p> <p>○その様子を見た感想について児童同士で話し合いながら、道徳的価値を理解させていく。</p> <p>○ワークシートに記入させてから感想を交流させるようにする。ねらいとする道徳的価値にふれられている児童を紹介する。</p>
展開後段	<p>5 「私たちの道徳」の「希望と勇気をもってくじけずに」について考える。</p>	<p>○「希望と勇気をもってくじけずに」から自分の目標を実現させるために、今していることは何か書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳の目標を達成できるようにあきらめない。 ・委員会活動の仕事では誰かのためになると思って取り組んでいく。 	10	<p>○目標に向かっていま取り組んでいることやがんばりたいことについて記入させる。</p> <p>※自分が取り組んでいることに対して、あきらめずに取り組もうとする意欲をもつことができたか。</p>
終末	<p>6 「ふくしま子ども夢宣言」作文を聞く。</p>		5	<p>○最後までやりとげられた時には充実感があり、努力は無駄ではないことを伝える。</p>

7 成果と課題

- 県版道徳資料集は、身近なこととしてとらえることができ、勇気を持って行動すれば困難を乗り越えられるという本時の価値に迫ることができた。
- 教師がロールプレイに入り、ねらいに迫る言葉かけをすることで葛藤部分を深めることができた。
- 展開後段で、今後の決意表明ではなく「今までの自分を振り返る」とすると児童は考えやすい。



【相双地区】相馬市立中村第一中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	相馬市立中村第一中学校
所 在 地	相馬市中村字本町132番地の1
校 長 名	島 義 一
学校の教育目標	“自ら学び、個性を伸ばす生徒” “心身共に健康でたくましい生徒” “思いやりを持ち責任を果たす生徒”
学級及び児童生徒数	普通学級13 特別支援学級2 生徒数 434名
道徳教育にかかる 取組の概要	道徳の時間の学習をさらに充実させることにより、生徒は道徳的価値を主体的に捉えて自分の生き方を見つめ、やがて道徳的実践力が高まっていくと考え、次の視点から道徳教育を実践する。 ①道徳教育の充実 ②豊かな心の醸成 ③より良い人間関係の育成 ④目標設定と実現への支援 ⑤専門家の活用 ⑥授業公開等の発信

2 研究テーマ

研究主題 『自他のよさを認め、お互いを大切にして、より良く生きようとする生徒の育成』
研究副主題 「魅力ある道徳の時間の授業づくり」

3 テーマ設定の理由

本校では、“自ら学び、個性を伸ばす生徒” “心身共に健康でたくましい生徒” “思いやりを持ち責任を果たす生徒” を教育目標に掲げ、知・徳・体の調和を目指した生徒を育てることを目標にしている。

また、福島県教育委員会より道徳教育推進校の指定を受け、本校の道徳教育の方針を定めるため、道徳教育の全体計画及び学級における指導計画、別業、年間指導計画を整備した。

道徳意識調査（平成27年7月実施）の結果を見ると、特に「自分には、良いところがあると思いますか」との質問項目について、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と否定的に答えた生徒の割合が多かった。自分の良さを気づかせる場面や自他を尊重し合うことのできる活動を、道徳の時間の中に設定し、生徒の心情を育てていく必要がある。さらに、震災における心の不安定さ、復興においてたくさんの人々の支えを受け止めている生徒の実態を踏まえて、生命の尊重・感謝の気持ちの醸成に重点をおいて指導を行うことが重要な課題であると考えた。

そこで、本校の道徳教育では、道徳の学習を資料の提示や発問などを工夫し、さらに充実させることにより、生徒は道徳的価値を主体的に捉えて自分の生き方を見つめ、やがて道徳的実践力が高まっていくものと考え、本主題を設定した。

【道徳教育を推進する上の重点】

- 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
- 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやり・感謝の心を持つ。

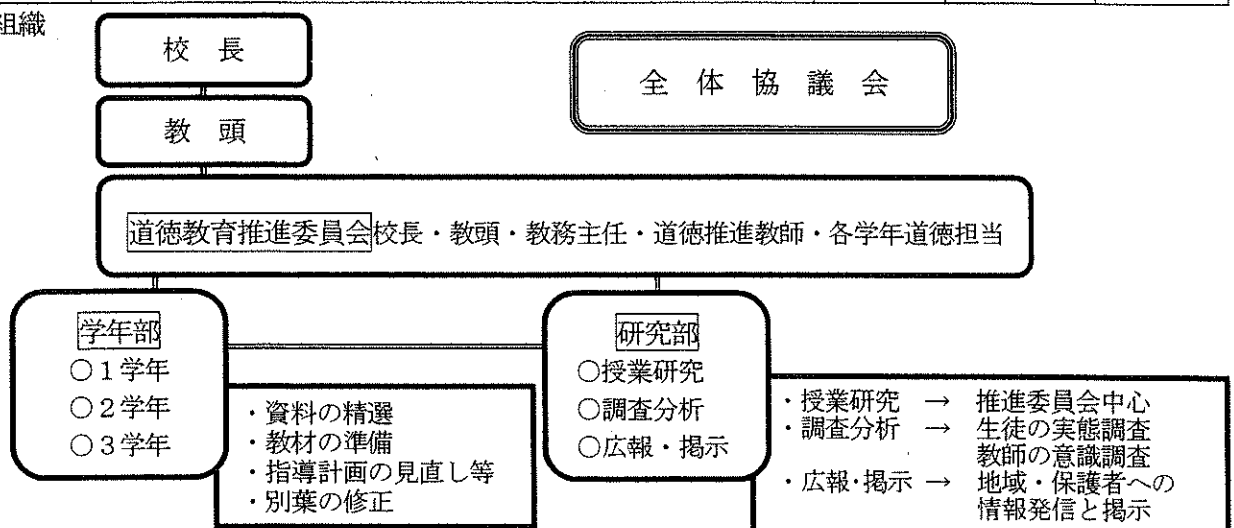
【重点内容項目】

- 2－（2）人間愛・思いやり 2－（6）尊敬・感謝

4 研究計画（主な内容）

月	研究推進計画（授業研究部）	学年部	調査分析部	広報部
4月	○職員会議（道徳教育推進について）			
5月	○被害者に優しい講演会（講師：相馬警察署員）		・HyperQU アンケート実施	
6月	○職員会議（研究の方向性） ○道徳教育全体計画、学級における指導計画及び別葉、 年間指導計画の修正	・全体計画見直し ・別葉の修正		・掲示計画
7月	○道徳意識調査実施と分析		・意識調査と分析	
7月15日	○授業研究会（本多） （指導助言者：市教委主幹兼指導主事 渡邊 義人 様）	・授業研究会		
7月25日	○実施計画書提出			
夏期休業	○1学期研究実践のまとめ ○授業学習会、授業研究会に向けた指導案作成 ○道徳教育研修会（新地町教育委員会主催） （講師：文部科学省教科調査官 赤堀 博行 氏）		・HyperQU アンケート分析	
8月28日	○命を大切にす講演会（講師：東京農業大学 川嶋 舟 氏）			
9月18日	○授業研究会（要請訪問）（坂本） （指導助言者：相双教育事務所指導主事 小林 正和 様） （指導助言者：市教委主幹兼指導主事 渡邊 義人 様）	・授業研究会		
10月	○公開授業準備	・公開授業準備		
11月5日	○公開授業・研究協議（佐久間） （指導助言者：上越教育大学大学院 早川 裕隆 様）	・公開授業研究と 協議、指導助言		
12月15日	○授業研究会（本多） （指導助言者：市教委主幹兼指導主事 渡邊 義人 様）	・授業研究会		
12月22日	○道徳意識調査実施・分析		・意識調査 → 変更の把握	
1月	○道徳講演会（報徳仕法の教え：ゲストティーチャー） ○研修の成果と課題の確認、研究のまとめ・発表 ○報告書の提出			
年間	○道徳資料の精選 ○年間指導計画の改善・修正 ○各教科、総合的な学習の時間、学校行事など 特別活動等における道徳教育の実践	・道徳授業づくり ・学年道徳 ・講演会運営	・事前事後研究会の記 録	・道徳通信発行

○研究組織



5 児童生徒の実態及び地域の課題

(1) 生徒の実態

本校の生徒たちは、明るく素直で、基本的な生活習慣がしっかりと身に付いている生徒が多く見られる。生徒は近隣の3つの小学校から入学してくるが、中には震災後居住地の変更を余儀なくされた生徒も少なからずいる。

震災後、生徒たちは大きなストレスを抱えながら生活を送ってきた。その中では、まとまり合う雰囲気が見られるが、時に相手の気持ちを考えないことや自分勝手な言動が見られることもあり、周囲の雰囲気を悪くすることもある。また、長期にわたる多くの人々による支援や復興活動に支えながら生徒たちは、育ってきている。これらのことから、生命の尊重を基盤にして、他の人への感謝や他者への思いやりを身に付けさせ、将来の生き方についての考えを深めさせる指導の充実を図りたい。

(2) 地域の課題

震災・放射線被害の心配によって、生徒同様に保護者・地域住民も大きなストレスを抱えている。一方で、除染や復興による生活・農業・水産業をはじめとする生活・産業基盤の回復が進んでいる。そのため、作業用車両が多く往来する中を通学する生徒も多数おり、登下校の安全指導を徹底しているところである。

また、学校評価アンケートの中にも、多くの保護者が学校に生き生きとした教育を期待する声が大い。その中では学力向上とともに、困難に負けない強い心と広い心で思いやりを持つなど心の成長を期する声も多いことから、道徳教育の充実は今後の学校教育を進める上でも重要な課題である。

6 道徳教育における校長の指導の方針（資料1）

本校では教育目標に“自ら学び、個性を伸ばす生徒”“心身共に健康でたくましい生徒”“思いやりを持ち責任を果たす生徒”を設定して、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に努めているところである。

道徳教育の推進にあたっては、豊かな人間性や社会性を育成するため、震災以降の生徒の実態を踏まえて、生命の尊重・感謝の気持ちの醸成を中心に、学校教育全体を通して次の点に重点をおいて道徳教育を行っている。

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| ①道徳教育の充実 | ○生き方を振り返る道徳の時間の指導を充実させる。 |
| ②豊かな心の醸成 | ○目的を明確にした体験的な活動を充実させる。 |
| ③より良い人間関係の育成 | ○他の人格や意見を尊重する態度を育成する。 |
| ④目標設定と実現への支援 | ○様々な領域での目標実現のための方法を助言し励ます。 |
| ⑤専門家の活用 | ○生徒向け、指導者向けに専門的な見地から指導をいただく。 |
| ⑥授業公開等の発信 | ○保護者や地域に向けて道徳の授業の公開し、広く情報を発信する。 |

- (1) 道徳教育推進教師を中心として教職員の研修意欲を高め、全教師の参画、分担、協力の下に道徳教育の一層の充実を図る。
- (2) 道徳教育推進教師を中心とした協力体制を構築するにあたっては、道徳教育推進委員会（校長、教頭、教務主任、研修主任、道徳教育推進教師、学年道徳担当教員）を組織し、全教師が協力して取り組む。
- (3) 校長、教頭等が道徳の時間に積極的に参加し、教職員の意識の高揚を図りながら、道徳の時間の充実を推進する。

7 平成27年度 道徳教育の全体計画について（資料2）

教育目標の具現化のため、生徒の実態や保護者の願い、地域の実態を取り入れて、「御仕法の教え」と今年度の重点価値をふまえ、各学年の目標を設定し道徳の時間の指導方針を明らかにした。本計画では、全教育活動で道徳教育の推進を図るため、各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を示し、さらに地域・家庭との連携を図り、一層の道徳教育の深化を図るとともに、必要に応じて修正し、次年度に生かす。

8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別業」について (資料3)

道徳教育を学校教育全体から見直し、以下のそれぞれの視点から価値項目との関連を明確にし、計画的に指導を展開していきたいと考え作成した。

- 「私たちの道徳」、「ふくしま道徳資料集Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、副読本(明日をひらく・東京書籍)の活用
- 各教科の領域、特別活動、総合的な学習の時間の領域との関連
- 地域・家庭との連携の内容

9 平成27年度 学級における指導計画について (資料4)

学級における道徳の時間の指導方針について、より深く道徳的価値を主体的に捉え自分の生き方を見つめさせるために、以下の視点を考慮し作成した。

- 学級の生徒の道徳性の実態把握、Hyper-QU アンケートによる学級集団の把握、保護者の願いなどから目指す生徒像を明らかにし、道徳の時間の重点項目や指導方針を明らかにした。
- 各教科、特別活動、総合的な学習の時間、日常における豊かな体験活動、生徒指導の視点から道徳教育への視点を明らかにした。

10 道徳教育推進教師の実践について

道徳教育の目標を達成するために、校長のリーダーシップのもと、指導体制の見直しを図った。

(1) 道徳の時間の充実と指導体制に関すること

- 魅力的な授業への改善を図るため、「効果的な資料提示」「発問の工夫」「指導過程の工夫」「構造的な板書」「学習形態の工夫」などの視点を提案した。
- 道徳授業研究会をのべ4回計画・実施(下記11参照)した。事後研究会では、参観した授業をもとにして、指導方法の改善・充実に向けた話し合いをした。
- 「道徳教育地区別推進協議会」において、本校の道徳実践の発表をした。

(2) 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること

- 各教科、道徳の時間の指導と学校行事・総合的な学習の時間における体験活動との関連を意識した取組の推進役となった。

(3) 道徳教育の指導計画の作成に関すること

- 生徒や保護者、地域の実態、学校行事や総合的な学習の時間の体験活動等を考慮に入れた全体計画の作成を進めた。
- 学級の道徳の時間の指導計画作成のアドバイス役として取り組んだ。

(4) 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること

- 「私たちの道徳」や「ふくしま道徳教育資料集」を使った授業を実践し、他の教職員に指導の方向性を示した。

(5) 道徳教育の研修の充実に関すること

- 研修会に参加して得られたことなどを資料にまとめ、その成果を教職員間で共有できるようにすることで、道徳の時間の指導に対する意識や指導力の向上に努めた。

・「これからの道徳教育」 講師：文部科学省教科調査官 赤堀 博行氏 (8月28日)

・中教研道徳部会 主題研修報告会(宮城中)、県大会(郡山二中)、地区二次研(中村二中)

11 道徳の時間について

本年度、以下の授業を公開し、協議や指導助言をいただいた。

7月15日	3年1組「手渡されたパン」	感謝の心 2-(6)	ふくしま道徳教育資料集Ⅱ
9月18日	2年4組「命のおにぎり」	思いやり 2-(2)	ふくしま道徳教育資料集Ⅲ
11月5日	2年4組「家路」	感謝の心 2-(6)	ふくしま道徳教育資料集Ⅱ
12月15日	3年1組「裏庭のでできごと」	誠実な行動 1-(3)	明日をひらく(東京書籍)

1.2 成果と課題 【 ○成果 ●課題 】

(1) 道徳の時間の充実について

- 「魅力的な授業づくり」に向けた指導法の改善をめざし、4回の研究授業や授業参観、研究協議などを通して、指導技術を身に付け、意図的・計画的に授業を組み立てることができるようになった。
- 「ふくしま道徳教育資料集」を積極的に活用した授業実践が行われた。
- 効果的な資料提示をするために、事前アンケートの実施、関連資料の提示、資料の分段提示など、工夫を凝らした授業づくりが行われた。資料選定にあたっては、「感動資料」、「葛藤資料」、「知見資料」、「批判的な資料」などの中から、生徒が魅力を感じられる資料を選定して使用するようになった。
- 発問として「共感的な内容」や「葛藤する内容」、「主体的な自覚を促す発問」などを意図的にすることにより、生徒の心を揺さぶり、お互いに意見を述べ合える充実した授業になった。また、多くの授業でテーマ発問も取り入れられるようになり、授業の質的改善が見られた。
- 今まで、資料を読み、場面を想像しながら道徳的価値について考えさせる授業が多かった。しかし、実践を積み重ねていくうちに、資料を通して「自分のことを深く考える」「他の人と意見や考えを交流する」など、授業への積極的な姿勢が見られるようになった。特に、グループでの話し合いを中核とした授業では、どの生徒もより活発に授業に臨み、自分の考えを深めることができた。これらの変容は、生徒対象に行った道徳に関する意識調査の結果からも見て取れる。
 - まだまだ授業改善へ向けての余地は大きく、更なる指導力の向上を目指していく必要がある。
 - 生徒が意見や考えを自由に発表できるようになってきたが、より深まりのある話し合いや討論まで至らなかった時もある。今後も教師による切り返しや問い直しなどの補助的な発問等の研修を進め、学び合いの授業を充実させていく必要がある。
 - ねらいにそった教材、資料の準備やゲストティチャー、地域の人材協力など、より一層充実させる必要がある。

(2) 全教育活動における道徳教育の推進、充実について

- 道徳の全体計画や別葉、学級の指導計画等を作成し、それらの関連を考慮した指導が行われるようになった。
- 別葉の作成・活用により、道徳的価値の指導が道徳の時間のみならず、各授業や学級活動、総合的な学習の時間など、あらゆる時間で教職員の意識の向上につながった。また、生徒に関する情報交換などが職員室内で広がり、学級や学年を越えて道徳教育に生かされる機会が増えた。
- 生徒の道徳的な価値について深く考えることができるようになったが、道徳の時間で醸成された道徳性が、必ずしも日頃の道徳実践に結びついているとは言いがたい。今後さらに学校教育全体における道徳教育を推し進めていきたい。

(3) 家庭や地域社会との連携について

- 道徳教育における家庭や地域社会との連携を推進するために、「道徳通信」を通して情報発信をした。その中で、本校の道徳教育で使用する資料や授業での様子を随時紹介した。
- 保護者へ道徳の時間の授業公開をしたことで、学校での道徳教育の一端を知ってもらうことができた。また、参観後に記入していただいた感想アンケートを通して、保護者の学校に対する思いを知ることができ、授業公開の大切さを改めて認識できた。
- 家庭（保護者）への情報公開は実施できたが、地域全体に学校での取り組みを知っていただく機会を持てなかった。今後は、地区の生徒健全育成に関わる諸団体とも連携や協力を模索していきたい。
- 学校からの一方的な情報公開や発信が多かった。今後、家庭や地域との双方向の情報交換が必要になってくる。発信だけではなく、家庭や地域の声を学校における道徳教育に生かしていくのが課題である。

平成27年 中一中 アピール

【学校経営の方針】生徒一人一人が誇り高く輝き、気品と活気あふれる中村一中
～生命の尊重を基盤として～

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------------------|
| 1 | 気品と活気あふれる学校 | ⇒ | 希望に燃え、充実感に満ちた学校生活 |
| 2 | 誇り高く輝く生徒の育成 | ⇒ | 確かな学力、人格の尊重、体力・健康の維持・向上 |
| 3 | モラルの維持 | ⇒ | 高い倫理観と信頼を裏切らない強い決意 |

教育
目標

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 自ら学び個性を伸ばす生徒 |
| 2 | 心身共に健康でたくましい生徒 |
| 3 | 思いやりを持ち責任を果たす生徒 |

重点目標「目標に向かって行動する生徒」

活用する力の育成をめざした授業に努めます。

- 一人一人の個性や能力に応じたきめ細かな学習指導に努めます。
- 知識や技能を生かし、自ら思考・判断し、表現する力を育てます。

主体的な家庭学習の習慣づくりに努めます。

- 毎日2時間以上の家庭学習を目指します。
- 個性や能力に応じた家庭学習の仕方を身に付けさせます。

豊かな心をはぐくみ、実践する力を育てます。

- 報徳の訓えを生かした学校づくりに努めます。
- 夢や目標を持たせるとともに、確実に実現していく力を育てます。

生涯体育の基礎を養います。

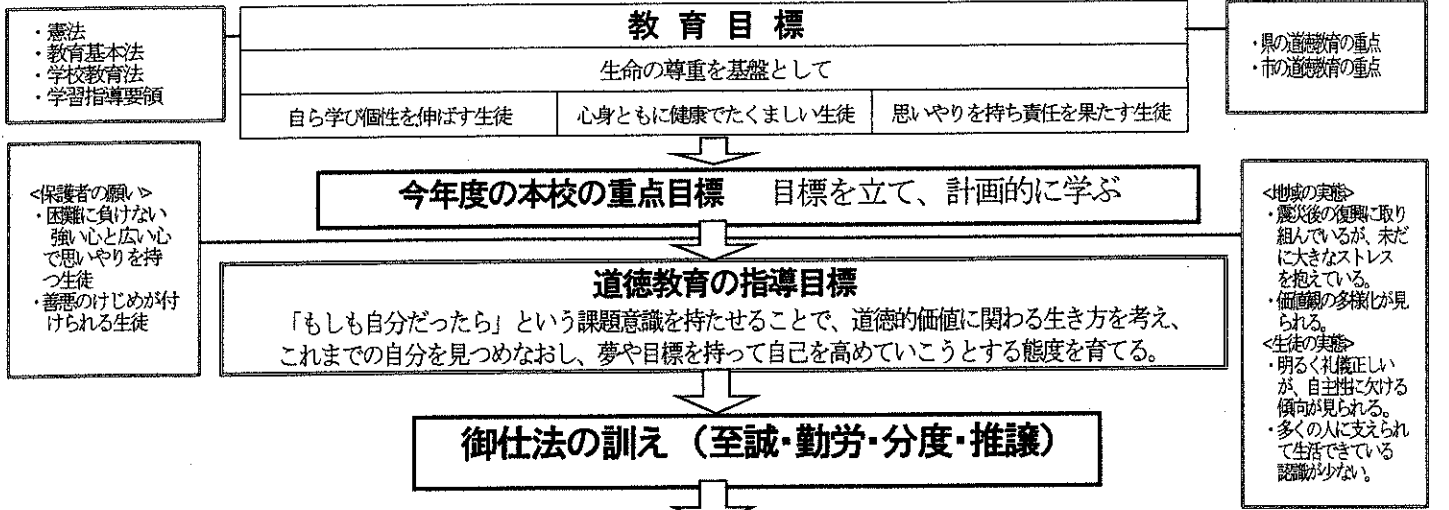
- 新体力テストの結果を踏まえ、体力の向上に努めます。
- 部活動を通し、心身の向上に努めます。
- 放射線への理解を深めるとともに、その対応に努めます。

小・中・高の連携の充実を図り、学力向上を目指します。

- 小学校での既習事項を生かした授業を工夫し、分かる授業の実践に努めます。
- 高校での学習内容を見通した授業を実践し、高校の先生とT・Tの授業を実施します。

平成27年度 道徳教育全体計画

相馬市立中村第一中学校



今年度の重点価値

2 - (2) 「人間愛・思いやり」 2 - (6) 「感謝・報恩」

学年目標	学年	指導目標
学年目標	第1学年	①望ましい生活習慣を身につけ、節度と調和のある生活をするとともに、自主的、自律的に行動できるようにする。 ②自然を愛し、環境の保全に努め、美的情操を深め、感動できる人になるようにする。 ③生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を大切にできるようにする。 ④集団の一員としての自覚を深め、協力し合って集団生活の向上に努めるようにする。 ⑤勤労の精神を重んじ、社会への奉仕の気持ちを深め、進んでボランティア活動に参加するようにする。 ⑥世界の中の日本人としての自覚を持って、国際社会に貢献できる人になるようにする。
	第2学年	①中堅学年として自主的自律的に行動するとともに、個性を伸ばして充実した生き方を求めるようにする。 ②他の人々に対して敬愛の念を深め、思いやりの心や感謝の気持ちを持って生活するようにする。 ③相手の個性や立場を尊重するとともに、男女は協力して互いに高め合うようにする。 ④自然とのかかわりを深めるとともに、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するようにする。 ⑤勤労の尊さについて理解するとともに、社会への奉仕と公共の福祉のために尽くすようにする。 ⑥国際社会の一員としての自覚を深め、世界の平和と人類の幸福に役立つ人になるようにする。
	第3学年	①最高学年としての自覚を深め、自律の精神を重んじ、協力してよい校風を樹立するように努める。 ②より高い目標を立て、希望と勇気を持って着実にやりぬく強い意志を持つようにする。 ③思いやりを持ち温かい人間愛の精神を深めるとともに、謙虚に他に感謝の気持ちを持って接する広い心を持つようにする。 ④自然を愛し、生命に対する畏敬の念を深め、人間として強く生きること喜びを見いだすようにする。 ⑤社会への奉仕の気持ちを深め、公共の福祉と差別や偏見のない社会の実現に努めるようにする。 ⑥日本人としての自覚を持って国を愛するとともに、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする。

《各教科における道徳指導》

【国語】教材文が持つテーマについて教師の説話や関連資料によって道徳的思考判断力を育てる。
【社会】日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。
【数学】事象を数理的に考察し、筋道立てて考え、表現することでお互いの良さを認め、高め合う雰囲気育成につとめる。
【理科】生命の仕組みを知り、生命を尊重する心、自然を愛護し環境を保護しようとする心を育てる。
【英語】国際社会で活躍する姿を紹介することで日本人としての自覚を深め、国際感覚や貢献の精神を養う。
【音楽】わが国の自然や四季の美しさ、文化や日本語のもつ美しさを味わえる共通教材から、道徳的心情を育成する。
【美術】日本の伝統的な美術のよさや、それらを育んだ先人の知恵や努力について理解を深め、郷土や国を愛する心を育てる。
【保健】スポーツを通し、礼儀・挨拶を学び、協力の中で適切な人間関係を気づいたりすることで、社会性を高める。
【技家】仕事に積極的に関わり生産する喜びを味わわせる。家庭生活に必要な知識や技能を身に付ける。

《道徳の時間の指導》

- 学校の教育活動全体で行う道徳教育を、補充・深化・統合し、道徳的価値の大切さに自ら気づくことができるようにする。
- 「私たちの道徳」や「ふくしま道徳資料集」を活用し、一人一人が道徳性を高められるようにする。
- 自分の心情や判断を表現する場を設け、自分とは異なる道徳的価値に接することで、自らの考えを深められるようにする。
- 自他の良さを認め、お互いを思いやりを持って大切にして、感謝の気持ちを持ってより良く生きようとする態度を育てる。
- 報徳仕法の訓えをいかした地域教材を活用し、郷土を愛するとともに規範意識の高揚に努める。

《教科外の領域における道徳指導》

道徳性を豊かに育てる実践指導の場面として、生徒の自発的・自立的な活動を通して自主性と規律・信頼関係を資質を養う。

【特別活動における道徳指導】

- 生徒会活動
望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 学級活動
集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
- 学校行事
集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

【総合的な学習の時間における指導】

自ら課題を発見し、その解決のための方法を見出し、課題を解決する態度を育てる。

【生徒指導における指導】

教師と生徒同士の望ましい人間関係を基盤にして、自己実現を図る態度を育てる。

地域・家庭との連携

生徒の行動を通して得られた家庭や地域の実態を確かめ、学校の教育目標や道徳目標に照らして、家庭に働きかけを行う。学校・家庭・地域が連携し、一貫した教育理念を持つようにする。

平成27年度 学級の道徳指導計画 中村第一中学校2年4組

学年における道徳教育の目標

- ①中堅学年として自主的自律的に行動するとともに、個性を伸ばして充実した生き方を求めるようにする。
- ②他の人々に対して敬愛の念を深め、思いやりの心や感謝の気持ちを持って生活するようにする。
- ③相手の個性や立場を尊重するとともに、男女は協力して互いに高め合うようにする。
- ④自然とのかかわりを深めるとともに、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するようにする。
- ⑤勤労の尊さについて理解するとともに、社会への奉仕と公共の福祉のために尽くすようにする。
- ⑥国際社会の一員としての自覚を深め、世界の平和と人類の幸福に役立つ人になるようにする。

学級生徒の道徳性の実態

- ・他人を思いやる言動や行動を取れる生徒が多い一方で、「してもらって当たり前」というスタンスの生徒も多い。

Q-Uアンケートによる学級の実態

- ・感謝の気持ちの表現する方法に課題がある生徒が多い

保護者の願い

- ・生涯の友となる悠人を見つけ、豊かに感情交流できるような人間関係、他人をリスペクトできるような態度を身に付けること。

めさず学級像 (学級目標)

- ・目標の達成のために、最後まで粘り強く集中して取り組むことのできる生徒。
- ・男女仲良く、お互いに思いやりを持って行動できる生徒。
- ・命の尊さを理解し、心身の健康に努める生徒

特別活動

- 学級活動
 - ・学級生活を基盤とし、集団の中で役割や責任を果たし、集団の一員としての望ましい資質や態度を養う。
- 生徒会活動
 - ・生徒会行事の体験を通して、集団生活の改善を図ろうとする意欲や、主体的に活動しようとする態度を育てる。
- 学校行事
 - ・教科指導では体験できない諸行事の体験を通して、豊かな心情・協調性・自主性を養うとともに、道徳的実践の方法を習得させる。

総合的な学習の時間

- ・学級の目標と関連した各自の課題づくりを促す。
- ・「私たちの道徳」を課題づくりや、課題追究の際の参考として活用する。

学級における道徳教育の重点目標

- ・感謝や思いやりの気持ちを持ち、それを行動で表現できる生徒を育てる。
- ・仲間や家族、存在を認め、助け合える態度を育てる。

学級経営の基本方針

- ・自己実現のための基本的な生活態度や学習態度を身に付けさせる。
- ・他者の存在を認め、広い人間関係を構築するため、係活動をはじめ行事、授業などの場で協働できるような場面を多く設ける。

道徳の時間の指導方針

- ◇他人の考え方や価値観を尊重し、他者を受容できる心や態度を育むため、発表・交流を工夫する。
- ◇考えの受容や自分の考えを客観視できるよう、自己に置き換えて考える活動を組織する。

- ◇読み物資料を教材の中心としながら、「私たちの道徳」・県の道徳資料を道徳的価値の自覚を促すために有効に活用する。

***方法例**

- ・資料の導入に生かす
- ・生徒の体験を交えるときに生かす
- ・学習ノートの一環として生かす

- ◇年間時間のうち学級の道徳の重点目標にそった時間を複数設ける。

◇重点項目

- 2- (2) 思いやり
- 2- (6) 尊敬・感謝

各教科	
国語	言語活動の学習を通して相手の気持ちを理解し、自己表現できる能力を育てる。
社会	日本の国土や歴史への理解を深め、国際社会での国の在り方や、人の生き方を考える
数学	自分の考えを理論的に組み立てられるような整理能力を養う。
理科	自然に対する認識を新たにし、生命の神秘を知ることでその尊さを学ぶ。
英語	諸外国の文化や考え方を知り、国際理解のためのコミュニケーション能力を養う。
音楽	情操を豊かにし日本の伝統音楽に自国のよさを感じる。
美術	美しいものに感動する純粋な気持ちを養う。
保健体育	心身相関の観点から健康な体づくりと心体の結びつきを考察する。
技術	ものを作り出す喜びの中から創意の楽しさを学ぶ。

日常における豊かな体験活動に関わる道徳教育の視点

- ・朝の会・帰りの会で道徳的価値にかかわりのあるような話し合いを促す。この際「私たちの道徳」活用を促進する。
- ・身近な地域や生徒同士のエピソードなどを集め、思いやりや感謝につながる道徳的価値を深める。

生徒指導に関わる道徳教育の視点

- ・価値観の違いをお互いに理解し、お互いに認め感謝し合う、思いやりを持った温かい人間関係を培う。
- ・自らを反省し、過ちを認め、同じ失敗を繰り返さない生徒を育成する。
- ・自分の生き方を見つめる場を設定し工夫することにより、道徳的実践力を高めていく。

相馬市立中村第一中学校 第2学年4組 道徳学習指導案

日時：9月18日（金）5校時

場所：2年4組教室

授業者：教諭 坂本 拓大

研究主題

『自他のよさを認め、お互いを大切にしていより良く生きようとする生徒の育成』

研究副主題

『魅力ある道徳の時間の授業づくり』

- 1 主題名 中心価値 2－（2）思いやり
関連価値 2－（6）感謝の心
- 2 資料名 「命のおにぎり」（ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ）

3 主題設定の理由

1) 価値観

中学校時代は思春期に入り、自分が他人にどう見られるかという自意識や、他の力を借りず自分で物事を成し遂げようとする自立心が高まる時期である。そのため、親をはじめとする周囲の大人の存在をつい疎ましく思い、遠ざけようとする。また、周囲の人々からの思いやりや気遣い、善意などに対して、素直に感謝の言葉を伝えられないことが多くみられるようになる。

本時では、思いやり・人間愛[2－（2）]を中心価値とし、自分を支えてくれる周囲の人たちに対して親切にし、いたわり、励ますことのできる態度の尊さに気づかせたい。そして、これから大人になっていく自分たちが、思いやりをもって家族や友人など他者を支える立場に成長していこうとする態度を育てたい。

2) 生徒観（平成27年5月実施のhyperQUの実態を踏まえて）

hyperQUによると、本学級は「まとまりのある親和的な集団」とされた。学校生活満足群にプロットされる生徒が92%であり、日々の活動では仲間と協力しながら積極的に取り組むことができる。日常生活の中でも困っている仲間を助けることが自然にできる生徒が多い。また授業においても、学習課題に対し意欲的に取り組んだり、交流する場面では積極的に自分の考えを述べたりすることのできる生徒が多い。

しかし一方で、学級内での交友グループが固定化されており、その人間関係の外で新たに人間関係を築くことが難しい生徒も見受けられる。したがって学校生活満足群にプロットされる生徒でも、実際は学校生活が自分の所属するグループ内で完結してしまっているのではないかと推測する。よって、他者とかかわりを深め、自ら積極的に人間関係を構築する力を身につけさせたいと考える。

3) 資料観、及び震災との関連

本資料は、主人公の少年が東日本を襲った雪害により父と一緒に国道での渋滞に巻き込まれたときの経験をもとにしている。そのとき仮設住宅住民の方からおにぎりの差し入れを受け、後日父親と新聞記事を読んだことで、人は誰かを支え、同時に支えられていることを自覚していく姿を描いた資料である。

人間は一人で生きていくことはできず、周囲の人々の思いやりや善意などに支えられて生活している。本資料は、私たちが多くの人たちに支えられて生活していること、どんなときでもお互いに助け合って生きていくことの大切さ、他者から支えられていることに対して感謝する気持ち、そしてそれを行動に表すことの大切さを改めて考えることのできる資料である。

4 本時

1) 本時のねらい

仲間と意見を交流する活動を通して、人は他者からの善意や思いやり、支えによって生活していることに気づき、身のまわりの人を思いやり、そして行動しようとする態度を育てる。

2) 参観の視点

○主発問や価値に迫る発問についてじっくり考える時間を確保するために書く活動を精選したことは、授業全体の構成として、より価値に迫るうえで有効であったか。

○仲間と交流する活動を設定したことは、報恩謝徳の価値に気づかせるうえで有効であったか。

5 指導過程

過程	学習活動	時間 形態	主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1 資料を見て授業への関心を高める。	5 一斉	○資料のなかで、主人公はどんな気持ちでいるかを意識させる。	○資料を見せることで興味関心を高め、本時の学習の方向性をとらえさせる。
展開 I	2 資料を読み、自分の考えをもつ。 (1) 渋滞に巻き込まれて何も食べられず朝を迎えたときのぼくの気持ちについて考える。 (2) 仮設住宅の方が差し入れをしてくれたときのぼくの気持ちについて考えをまとめる。 (3) 新聞記事を見たあとのぼくの気持ちについて考えをまとめる。	25 一斉	○渋滞に巻き込まれ身動きが取れなくなったとき、「ぼく」はどんな気持ちだったのだろうか。 ・家までたどり着けないのではないかと不安な気持ち。 ・空腹で不安な気持ちが強くなった。 ○仮設住宅の方はどのような気持ちで差し入れを行ったのだろうか。 ・困っている人たちを助けたかった。 ・恩返しをしたかった。 ○あのおにぎりが「どおりでおいしかった」のはなぜだろうか。 ・空腹を満たしてくれたから。 ・雪の中で一生懸命にぼくたちのことを思って差し入れしてくれた思いやりを感じたから。 ・震災時の恩返しという飯舘村の人々の気持ちがわかったから。	○教師の範読をしっかりと聞かせる。 ○書く活動を精選することで、考える時間を確保する。 ○お互いの考えを発表させることにより、他の意見を認めるきっかけにしたい。 ○机間支援のなかで、いくつかの意見を発表させる。 ○以前の発問と関連・対比させることで、主発問の価値「思いやり」につなげたい。
展開 II	3 思いやりとして自分の気持ちを行動に移すことの大切さについて考える。 (1) 個人で考える。 (2) グループで交流する。 (3) 学級で交流する。 (4) 宮沢章二の言葉を聞く。	15 個人 班 全体 一斉	◎「思い」と「思いやり」は何が違うのでしょうか。 ・「思い」は自分の中だけでの考えだが、「思いやり」は相手があつての自分の考え。 ・「思い」は考えているだけだが、「思いやり」は行動や言動などで相手に届くもの。	○展開 I の発問を踏まえて考えさせる。 ○「思いやり」が大切な理由を補助発問で考えさせる。 ◇周囲の支えに対して感謝の気持ちを行動で表すことを大切にすることが見えるか。(発表・ワーク)
終末	4 本時の感想を書く。	5 一斉	○本時の授業の感想、また授業を通して自分の生活で今後いかしたいと思ったことを書こう。	○自分自身を振り返らせ、支えてくれる人たちへの思いやりの姿勢の大切さに気づかせたい。

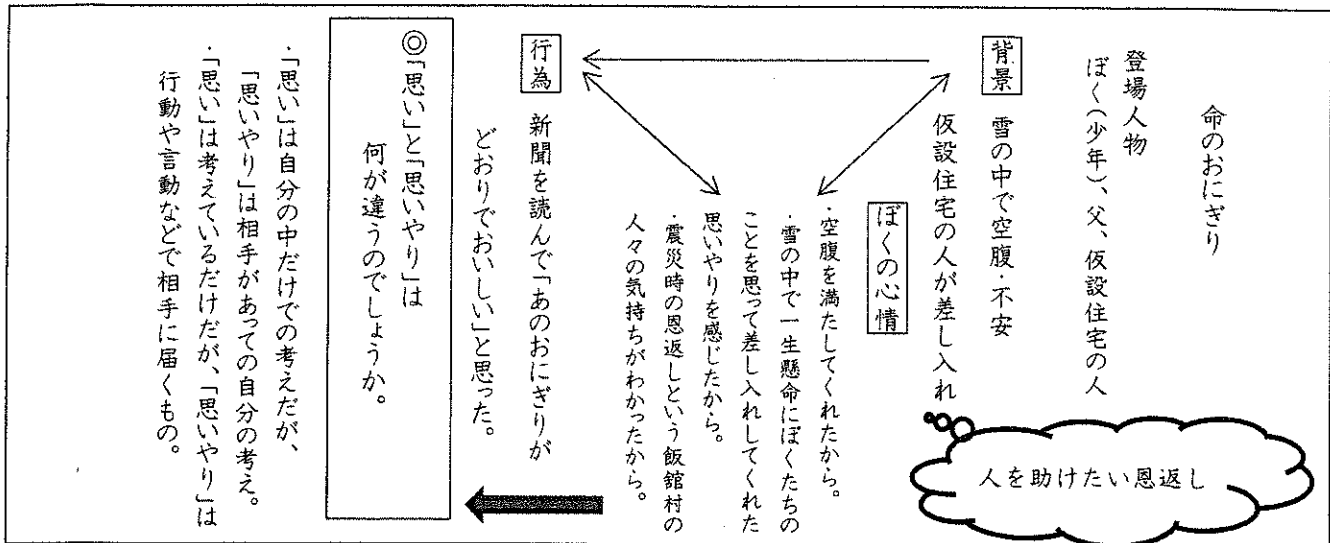
6 準備物、資料等

○映像資料

<https://www.youtube.com/watch?v=SZRYmPtIZgk>

<https://www.youtube.com/watch?v=p3kOhdBy39E&index=2&list=LLhEKhyGSWwxu1r0jm8PliZw>

ワークシート、TV、付箋、紙板書



8 研究協議記録

○成果 ●課題

- 思いやりや感謝に気づくことができる内容であった。
- テーマ発問の時、意見がたくさん出るような“しかけ”がグループ活動としてできていた。
- “思いやり”とはどうか、話し合いが良くてきた。(・・・はいいけど、・・・はだめ、という理由付けができた。)
- 生徒の発言を丁寧に取り上げ、理解や共感が広がっていた。
- 話し合いの活動かうまくつながり、内容の広がりを感じられた。
- 班毎の意見をホワイトボードにまとめた活用が、それぞれの意見の比較ができていて良かった。
- 前半(場面についての)各問の発問が、もっと精選してあれば良かった。グループ活動が活発化するし、生徒の意見の出し具合がさらに良くなる。
- それぞれが“言葉”についての思いを話し合うことで、道徳的価値が進化する。そのためにも“思いやり”を深く考えさせたい。その投げかけ方、“しかけ”の工夫が必要。
- まとめを、どのように心情的に余韻を残せるか、今後の課題ではないか。
- この時間に学んだことを、次に(別の機会に)どう活かせるのが課題。

<ご指導>

- ◎ 相双教育事務所指導主事 小林 正和 様より
 - ・ 知徳体のうち、“徳”が“知”“体”を牽引する。心が動かなければ、“知”も“体”も向上しない。道徳教育を学校の教育活動全体を通して行う理由はここにある。
 - ・ 道徳の時間の授業は、子どもの道徳性のステージを上げることが重要である。
 - ・ “思いやり”という道徳的価値を、小学校との関連付けにより考える。“思い”が“思いやり”になり、“人間愛”につながる。甘やかすことでもお節介でもない。この価値に到達することが、本時のポイントでもあった。
 - ・ 書く活動は重要だが、本時のワークシートは書く回数が多かったのもう少し絞るとよい。
 - ・ 板書計画をしっかりと立て、大事なところは黒板の中心に書くなどの工夫をするとよい。
- ◎ 市教委主幹兼指導主事 渡邊 義人 様より
 - ・ 道徳意識調査より、自尊感情の低さが伺える。学校生活の中で自分自身の存在感を感じられる場面や、まわりの人から感謝される場面など、他者から認められる経験を積み重ねていくと、相手の立場や良さを考える“思いやり”が育っていく。
 - ・ hyper-QUの分析から、望ましい体験等を通して、望ましい学級集団づくりをすることも授業づくりには重要である。学級集団の満足度から、新たな課題をチェックしている。
 - ・ 課題(テーマ)を達成するために、テーマ発問による話し合い活動から“議論する道徳”を目指すことも重要である。展開部に重点が置けるようにする。
 - ・ “魅力的”にするには“しかけ”が重要である。教師が投げかけたテーマ発問(二つのケース)について、もっともっと生徒が話し合いをすることができれば、さらに道徳的価値に迫ることができる。
 - ・ 導入～展開がまとめに直結するような流れが大切である。

相馬市立中村第一中学校 第2学年4組 道徳学習指導案

日時：平成27年11月5日（木）第5校時

場所：2年4組教室 授業者：教諭 佐久間 貴洋

研究主題

『自他のよさを認め、お互いを大切にしていより良く生きようとする生徒の育成』

研究副主題

『魅力ある道徳の時間の授業づくり』

- 1 主題名 中心価値 2－（6）感謝の心
 関連価値 2－（2）思いやり
- 2 資料名 「家路」（ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集 敬愛・つながる思い）
- 3 主題設定の理由

（1） 価値観

中学時代は思春期に入り、自分が他人にどう見られるかという自意識や、他の力を借りず自分で物事を成し遂げようとする自立心が高まる時期である。そのため、親をはじめとする周囲の大人の存在をついつい疎ましく思い、遠ざけようとし、周囲の人たちからの思いやりや気遣い、善意などに対して、素直に感謝の言葉を伝えられないことが多くみられるようになる。

本時では、感謝の心[2－（6）]を中心価値とし、自分を支えてくれる周囲の人たちに対して感謝の気持ちを素直に表すことができる態度の尊さに気づかせたい。また、これから大人になっていく生徒たちが、思いやりをもって家族や友人など他者を支える立場に成長していこうとする態度を育てたい。

（2） 生徒観

本学級は男子15名、女子21名の計36名からなる学級である。5月に実施したhyper-QUによると、「まとまりのある親和的な集団」とされた。92%の生徒が学校生活を意欲的に行い「かかわり」「配慮」などのソーシャルスキルも良好であるとされ（学校生活満足群）、授業において学習課題に対し意欲的に取り組むことができるだけでなく、日々の活動でも仲間と協力しながら取り組むことができる。また、ソーシャルスキルでは「かかわり」「配慮」の両方の得点が高くバランスがとれており、困っている仲間を助けることが自然とできる生徒が多い。しかし助けてもらったことで「ありがとう」と言える生徒が多くないのも現状である。一方、人間関係では「親和的な集団」とされつつも、実際は学級内での交友グループがある程度固定化されており、そのグループ外で新たに人間関係を築くことが難しい生徒も見受けられる。

よって、他者とのかかわりを深め、自らより積極的に人間関係を構築する力を身につけさせたいと考える。そのためには、「やってもらって当たり前」という姿勢ではなく、まわりの人の行為に対して感謝の心をもつことが、人間関係構築のきっかけとなると信じている。

（3） 資料観

本資料は、震災直後の混乱した東京で、通信や交通手段が絶たれた状態の中、帰宅困難者となった主人公が苦労してたどり着いた宇都宮駅で同じように実家を目指す人々と知り合い、タクシーで家路について経験をもとにしている。その経験から同じ目的をもった人たちと助け合い、協力し合いながら、様々なことへの感謝の気持ちがあふれてくる主人公の姿を描いている。

人間は一人で生きていくことはできず、周囲の人たちの思いやりや善意などに支えられて生活している。本資料は、私たちが多くの人たちに支えられて生活していること、どんなときでもお互いに助け合うことの大切さ、他者から支えられていることに対して感謝の気持ちを改めて考えることのできる資料である。

（4） 指導観

本単元は話し合い活動を十分に確保し、価値の深化に迫るため2時間扱いとした。第1時には、資料をもとに場面発問を中心として生徒の意識を醸成し、感謝の心に気付かせる。そのことを踏まえたうえで、第2時ではテーマ発問を中心としてグループでの話し合い活動を通して価値の深化を目指していく。この中で事前に実施した、生徒の考える「価値」についてのアンケートの結果をふまえ、「気づき」「深化」への個別的な支援をしていく。またテーマについて話し合う中でお互いに尊重し承認し合うことで感謝の心やそれを素直に表現する態度や方法を身に付けさせる。そして十分に自分の思いを素直に表現できる時間として、生徒にとって魅力ある授業としていきたい。

4 学習の流れ（本時 2/2）

テーマ	学習活動	・教師の支援 ◎おもな発問
1. 資料との出会い・価値への気づき	・親切にされたり恩を受けたりした経験を思い出す。 ・資料を読み、自分の考えをもつ。	・経験をペアやグループで共有する。 ・通読せず、場面に分けて考える。
2. 資料の価値の深化・自己への還元	・前時の資料の内容を確認する。 ・資料を読み、自分の考えをもつ。 ・報恩謝徳のためにはどうすればよいか話し合う。 ・ほんとうの「恩返し」とはどんなことを指すのか、考えを深める。	・事前に自分の経験についてアンケートを書かせ、パワーポイントで提示する。 ◎「恩返し」のためにあなたはどんなことをしたいですか。 ・自己に置きかえて感謝について考えさせる。

5 本時

(1) 本時のねらい

資料から読み取った感謝の心という道徳的価値をもとに報恩謝徳について仲間と議論する活動を通して、他者への感謝の気持ちをもって生きていこうとする態度を育てる。

(2) 授業における工夫 — (研究副主題『魅力ある道徳の時間の授業づくり』との関連)

- ・手だて ア 事前にアンケートをとり、その結果や内容を授業に生かす。
- ・手だて イ 中心価値について自己に置き換えて考え、仲間と議論する場面を設ける

(3) 指導過程

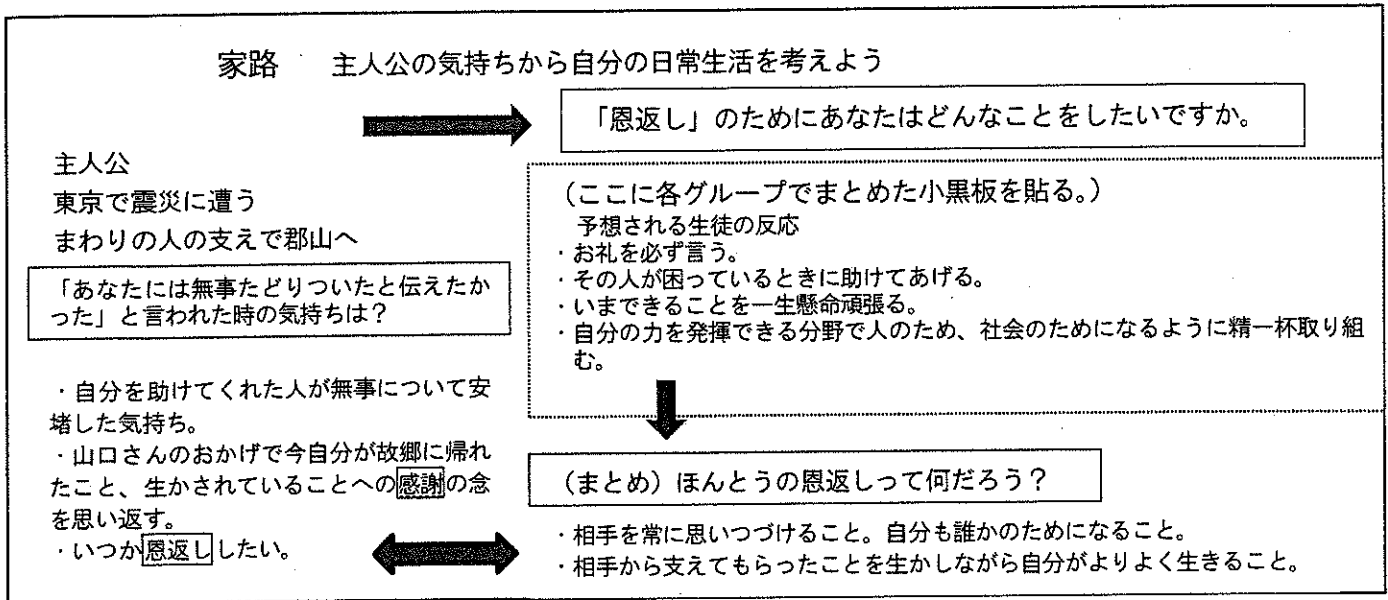
過程	学習活動	時間 形態	主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1 アンケートの結果を聞き、授業への関心を高める。 …手だてア	5分 一斉	○アンケートの結果を発表し、自分がしてもらってうれしかったこと、ありがたかったことを共有する。	○前時に読みとった内容を思い出し、本時の学習の方向性をとらえさせる。
	2 前回までの資料の内容をクイズ形式で確認する。			
展開 I	3 資料の P60 11 行目～最後の場面を読み、自分の考えをもつ。	10分 一斉	○山口さんから「あなたには無事にたどりついたと伝えたかった」と言われたとき、私はどんな気持ちだったのだろうか。 ・自分を助けてくれた人が無事について安堵した気持ち。 ・山口さんのおかげで今自分が故郷に帰れたこと、生かされていることへの感謝の念を思い返す。	○教師の範読をしっかりと聞かせる。 ○机間支援のなかで、いくつかの意見を発表させる。 ○「～おかげ」というフレーズを用いて書いている生徒をとりあげたい。
	4 感謝の気持ちを相手に伝え、それに報いるためには(報恩謝徳) どうすればよいか考える。…手だてイ (1) 個人で考える。 (2) 意見を発表し合う。 (3) 共感できるものをあげ、その理由について話し合う。 (4) 班の意見を学級の中で発表する。	25分 個人 班 班 全体	◎「恩返し」のためにあなたはどんなことをしたいですか。 【個人で予想される考え】 ・お礼を必ず言う。 ・その人が困っているときに助けてあげる。 ・今できることを一生懸命頑張る。 ・自分の力を発揮できる分野で人のため、社会のためになるように精一杯取り組む。 【話し合いの中で予想される考え】 恩返しは、 ・1度で終わりではない。 ・恩返しする相手が分かる/分からないときがある。 ・今、十分なことができないときは将来にわたってしていく。	○展開 I の発問を踏まえて、揺さぶりをかけながら考えさせる。 ○机間支援の中で、今できる/できないこと、相手が分かる/分からないこと、という視点を問いかける。 ○議論を通して、恩返しはしてもらった分をしてくれた相手に返す、という価値から、生徒自らの気づきにより能動的に深化させたい(価値のステージをあげる)。 ◇周囲の支えに対して感謝の気持ちをもって生きていこうとする姿勢が見えるか。(発表・ワーク)
終末	5 「恩返し」について自分の考えをまとめる。	10分 一斉	○ほんとうの「恩返し」とはどんなことを言うのだろうか。 ・してもらっただけのことを返すこと。 ・相手を常に思いつづけること。	○自分自身を振り返らせ、支えてくれる人たちへの感謝の気持ちを表す態度の大切さに気づかせたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・相手から支えてもらったことを生かしながら自分がよりよく生きること。 ・自分も誰かのためになること。 	
--	--	---	--

(5) 準備物、資料等

ワークシート、TV、紙板書、小黒板（ホワイトボード）

(3) 板書計画



6 成果と課題 ○成果 ●課題

- 「ふくしま道徳教育資料集」を積極的に活用し、生徒とともに道徳的価値を探った。
- 資料を分段していたため、本時は、話の筋をモニターを用いて再確認した後に話し合いに移った。そのため、生徒にとって共感的に考えることができた。
- 発問に対し、生徒たちが十分考え、文章に表す時間が確保されて良かった。
- お互いの考えを深められるように、グループでの話し合いの結果をホワイトボードを使って黒板に掲示した。グループごとの考えの違いにも気づかせることができ、生徒の道徳的価値の深まりにつながった。
- 生徒たちの考えやグループの発表に、問い直しや切り返し、さらに生徒の考えを深める場面があっても良かった。

<ご指導> 上越教育大学院 教授 早川 裕隆 様より

- ◎ 全校体制による道徳教育の実践が見られた。
- ◎ 生徒や地域の実態に合っている。(ふくしま道徳教育資料集の活用)
- ◎ 問題解決型の授業展開が見られた。教師の切り返しなど、工夫された授業であった。
 - ・ 中心価値は“感謝”であったが、主発問は“恩返し”であったので、つながりを明確にする。
 - ・ 主題に関して、小学校では、親切・思いやり、感謝である。中学校になるとまとまって、思いやりや感謝となる。一人一人がかけがえのない存在であることを認識することや、感謝や思いやりを素直に伝えようとする心を育てることが大切である。
 - ・ 複数時間に分けた“道徳の時間”に関して、道徳的価値を前時で深め、本時では人間としての生き方を深める授業であった。前時の(山口さんの)「ありがとう。あなたにだけは伝えなかった」という言葉を、主人公はどう受け取ったかという発問で、多様な感じ方を共有し、価値を追求する場面があっても良かった。
 - ・ 問題解決的な学習活動は、行為や行動が目的ではない。「明確なテーマ」、「協同による探求」、「学びの振り返り(価値の深化)」などをキーワードに、今後も研究していくとよい。

【いわき地区】いわき市立小川中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	いわき市立小川中学校																																																																											
所 在 地	福島県いわき市小川町上平字竹ノ内6 3 番地																																																																											
校 長 名	佐藤 正則																																																																											
学校の教育目標	「燦たる未来」 自主 感性 敬愛 ① 確かな学力を修得し、自己実現に向け主体的に努力する生徒の育成 ② 感動し学び取れる、豊かな心と瑞々しい感性をもつ生徒の育成 ③ 思いやりのある礼儀正しい生徒の育成 ④ 心身の健康のため、強い意志をもって主体的に活動できる生徒の育成																																																																											
学級及び児童生徒数	8学級（普通学級7、特別支援学級1） 174名 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">1年</th> <th colspan="3">2年</th> <th colspan="3">3年</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1組</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>26</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2組</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3組</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>23</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4組</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>41</td> <td>30</td> <td>71</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>54</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>49</td> <td>174</td> </tr> </tbody> </table>		1年			2年			3年			計	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	1組	13	10	23	12	14	26	14	11	25		2組	14	10	24	12	15	27	14	10	24		3組	13	10	23								4組	1		1		1	1					計	41	30	71	24	30	54	28	21	49	174
	1年			2年			3年			計																																																																		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計																																																																			
1組	13	10	23	12	14	26	14	11	25																																																																			
2組	14	10	24	12	15	27	14	10	24																																																																			
3組	13	10	23																																																																									
4組	1		1		1	1																																																																						
計	41	30	71	24	30	54	28	21	49	174																																																																		
道徳教育にかかる取組の概要	(1) 生徒の実態をとらえ、教育目標具現化の視点から研究計画を立案、実践研究を図る。 (2) 生徒一人一人の確かな変容をめざし、実践記録の積み上げの充実を図る。 (3) 道徳性の育成を中心として、様々な指導方法を研究し道徳授業に生かす実践研究を図り、教師の授業力を高める。 (4) 道徳教育を学校全体で行うために、全体計画及び別葉、年間指導計画を整備する。																																																																											

2 研究テーマ

ふるさとを愛し、ふくじまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか。
 ～郷土に根ざした資料活用の工夫と道徳授業に生かす指導方法の工夫～

3 テーマ設定の理由

小川町という地域に関心・愛着があり、小川町の地域を誇りに思っている生徒が多い。自分の生まれ育ったふるさとを再認識し、さらに大切に思い、ふるさとの未来を拓くことのできる生徒を郷土資料の活用という観点から育成したいと考える。また、道徳教育にあたる全教師が道徳の授業力を高めるために、道徳的価値の特質をより深く、より人間的に理解する力を身につけるために資料分析の研究を中心に行う。さらに、生徒個人個人の内省化を図るため、多様な指導方法を道徳授業の中に取り入れる研究を行うことで、生徒が自己の生き方を考える一助になると考えた。このことは指導者の授業力向上を通して生徒の内面に強くせまれると考えられる。

4 研究計画

月	主な実践計画	備 考
4月	○研究計画の検討、研究組織確立 ○道徳アンケート調査 ○研究主題、副主題について	
5月	○現職教育全体会（平成27年度研修計画の取り組みについて）	・ 県中教研主題研修会 ・ 市中教研主題研修会
6月	○資料分析の方法と指導案づくり「各学級道徳の授業を中心として」	
7月	○授業参観「全学級（7学級）一斉道徳授業公開」（7/13）	・ 市中教研道徳部会
9月	○校内授業研究会・・・要請訪問（9/7）	

	○道徳教育研究発表会 さいたま市立原山中学校 (9/16)	
10月	○市中教研道徳部会授業力向上研修会 (10/6) ○県中教研道徳部会 県中県南大会 郡山二中 (10/7) ○上越教育大学 早川先生による模擬授業・研修会 (10/13)	・県中教研授業公開 (郡山二中)
11月	○市中教研道徳部会 授業公開 小川中 (11/6) 2分科会発表	・市中教研授業公開 (小川中)
1月	○全体研修会 (反省と次年度に向けて) ○報告書の提出 (1/25) ○道徳アンケート調査	
2月	○全体研修会 (平成27年度 研究集録の作成)	

5 児童生徒の実態及び地域の課題

やらされて行く生徒が多く、目標や課題を持って粘り強く取り組む生徒が少ない。継続して行くことや困難や課題にぶつかると安易な方向に逃げる生徒も多い。また、人の意見に左右される生徒もおり、主体性を持って自分の意見をはっきりと言える生徒を育成したいと考えている。反面、山間部のためたいへん素直な生徒も多く、あいさつや時間を守るなど基本的な生活に関しては多くの生徒が守ろうと努力し、遅刻者ゼロ運動などに積極的に取り組んでいる。奉仕的な精神も生徒会を中心に委員会活動が活発に行われ、一生懸命活動している。保護者・地域社会も積極的に学校教育活動に参加し理解してくれる地域である。今年度は小川郷駅開業100周年ということもあり、地域をあげて小川町の活性化に向けて取り組んでいる。

6 道徳教育における校長の指導の方針

本校は「自主・感性・敬愛」を教育目標として、次の4点を重視している。

- 1 確かな学力を修得し、自己実現に向け主体的に努力する生徒の育成
- 2 感動し学びとれる、豊かな心と瑞々しい感性を持つ生徒
- 3 思いやりのある礼儀正しい生徒の育成
- 4 心身の健康のため、強い意志をもって主体的に活動できる生徒の育成

社会の変化にしなやかに対応できる確かな学力と瑞々しい感性を持った生徒の育成に務めている。

道徳教育推進にあたっては、校長としては、これを「目標、誇り、感謝」を柱とする「志」を持った生徒の育成として進めている。また、今年度、推進校として指定されたことにより、平成31年度からの「道徳科」への移行を先取りして進めている。そのため、今年度は特に次の3つを重点とした。

- 1 これまでの道徳の時間との違いを明らかにして、道徳科のねらいや目的を理解させること
- 2 様々な指導法にチャレンジさせ、豊かな指導法を身に付けさせること
- 3 確実に道徳の時間の指導を行わせること

7 平成27年度 道徳教育の全体計画について

学校教育目標を受け、道徳アンケートなどから道徳の重点目標を設定し、さらに学年別の重点目標を掲げて「道徳教育全体目標」を作成した。(別紙資料1)

8 平成27年度 道徳教育の全体計画の「別業」について

道徳の時間と各教科、特別活動、教科外活動、地域家庭との連携との関係がわかるように学年ごとに作成した。(別紙資料2)

9 平成27年度 学級における指導計画について

各学級の学級目標、学級経営の方針、生徒の実態、道徳教育の基本方針、道徳の時間の指導方針が明確になるようにして、担任の視点から計画を作成した。

10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 道徳教育の指導計画作成に関して

- ・学校が組織として、道徳教育が進められるように道徳教育推進教師が全職員に協力を促して役割分担を行い実際に活用できる具体性のある全体計画、年間指導計画、別業の作成に努めた。

(2) 道徳教育の情報提供や情報交換に関して

- ・福島県中学校教育研究協議会、いわき市中学校研究協議会やさいたま市立原山中学校、道徳教育推進研究全国大会など先進校の研究実践の取組に参加し、多様な指導方法や道徳の教科化に向けた話を聞き、伝達講習を行って教師自身の道徳教育に対する意識の向上に努めた。

(3) 道徳教育の研修の充実に関して

- ・道徳教育における全教師の指導力の向上を目的に様々な研修会を実施した。資料分析の方法、道徳指導案の書き方、道徳授業の展開、様々な道徳授業の指導法（上越教育大学 早川先生による模擬授業）などに取り組み教師の授業力向上に努めた。

(4) 道徳の授業公開、研究会の推進や家庭、地域社会との連携に関して

- ・全校一斉道徳の授業参観や市中教研における授業公開、研究授業など、どの学級も最低1回の地域への授業公開をする取り組みの推進に努めた。

(5) 道徳の時間の充実、教材の整備活用に関して

- ・活用できる資料の提供や郷土資料（國府田敬三郎さん）の開発実践を中心に行った。

1.1 道徳の時間について

公開した授業の実践について

7/13	授業参観	1学年（3学級）「すれちがい」役割演技
		2学年（2学級）「さとうきび畑」
		3学年（2学級）「自立へのステップ」
9/7	授業研究会	1年2組 2年1組 3年1組 「それでも僕は桃を買う」話し合い活動
10/6	〃	2年2組 1年1組 「水道部隊の軌跡」ロールプレイ
10/13	上越大学教育大学 早川先生	3年1組 「おばあちゃんのさがしもの」ロールプレイモデル授業
11/6	公開授業	1年1組 「それでも僕は桃を買う」（別紙指導案1）
		2年1組 「水道部隊の軌跡」（別紙指導案2）

1.2 成果と課題【○成果 ●課題】

(1) 教師の道徳教育における授業力の向上について

- 多くの資料分析の研修を通して、道徳の時間における授業力＝読み物資料を分析する力を高めることができるようになり、資料の持つ道徳的価値の特質をより深く理解できるようになった。共通した指導案の書き方や資料分析方法の研究から資料の持つ価値理解ができるようになると生徒への発問の流れがわかり、ねらいとする価値にせまり、ぶれることのない授業づくりができるようになった。
- 道徳授業への実践意欲が高まり、授業実践や研究実践も多くなり資料も蓄積されるようになった。35時間の完全実施を目標に様々な指導法に挑戦することができお互いの授業力の向上につながった。
- 授業の中での意志決定や気持ちの変容について、氏名札を利用させたり、多様な意見に触れさせるために班で黙読をしながら回し読みをさせたりするなど授業に工夫をもたせることができた。
- ロールプレイ、役割演技、班による話し合い活動やモラルスキルを用いた指導法など多様な授業実践を行ったが、活動が停滞する場面があった。道徳授業の実践は、互いの多様な感じ方や考え方に接することにより、自己の考え方を深めたり判断したり、表現したりする力が育まれるものと思われる。しかし生徒の経験不足や語彙力に乏しい場合、自分の考えや気持ちを正しく伝えられないで終わることもあった。今後は、様々な場面（学校全体を通じた道徳教育）を通じて言語活動（考える、書く、話す）の深まりがさらに必要だと考える。
- 教師間で意識の差が若干あり、取り組み方に差が出てしまった。教材や資料の準備、資料の整備の充実がしっかり行われておらず、視聴覚教材など読み物資料以外を利用した道徳の時間の実践に工夫が足りなかった。

(2) 郷土資料を活用した授業の実践について

- 郷土資料「ふくしま道徳資料第三集 郷土愛 ふくしまの未来へ」を積極的に活用実践することができた。また、小学校で利用した読み物資料を再度見直すことで、生徒が同じ資料から改めて成長した時の自分の気持ちの変化や考えの深まりに気づくきっかけとなりよかった。（はしのうえのおおかみ、國府田敬三郎さんの資料）

(3) 道徳科の新内容項目に即した、道徳教育全体計画と別業の作成について（「別紙資料1」「別紙資料2」）

- 全教師が参加して、道徳教育全体計画と別業を整備した。新内容項目に即した全体計画及び別業を各学年ごとに作成した。各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの、特別活動、道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期、家庭や地域社会との連携のための活動など一覧できるようにした。年間を通して具体的に活用しやすいものにするための工夫を行った。

(4) アンケート結果からわかること

○年2回(4月調査、1月調査)のアンケートを実施し、生徒の変化の様子から道徳の重点項目を見つけることができた。日常生活に関する道徳アンケートから、本校の生徒は、ほとんどの価値項目の質問で「いつもしている」「だいたいしている」の肯定的価値観が高い項目が多く、道徳的価値観が高い生徒が多くいると判断される。

- ・特に高い価値観を示した項目→礼儀2-(1)、友情信頼2-(3)、生命尊重3-(2)、公德心4-(3)
- ・やや低い価値観を示した項目→自己の向上1-(5)、役割と責任自覚4-(1)、勤労・奉仕4-(5)

○年度初めに重点指導内容項目を決めて道徳の時間を中心に実践した結果、2回目の調査では重点指導内容項目の数字が良くなった。これは道徳の時間における実践により生徒の道徳的価値観が高まったことを示している。道徳の時間は、生徒の道徳性を高める方法としては有効であると思われる。

○道徳教育は学校全体を通じて行うものであり、今年度は校長先生のリーダーシップのもと道徳の時間に限らず、学校だよりなどで地域や家庭に情報の公開を行い、生徒一人一人を称賛したり、短学活の時間を利用して各学級すべてにおいて、いいところ探し、今日のできごとで感謝したことなどを文章にしてノートに書き取る実践を継続させた。その結果、自己肯定感が高まり自分自身に自信を持つ生徒が多くなり、アンケート結果からもその成果が出ていることがわかった。さらに学校全体では無遅刻運動200日を達成したり、駅伝や吹奏楽の上位大会進出など生徒にとって自信がもてる結果が数多くあった。道徳教育の実践の積み重ねが豊かな人間形成へとつながることがわかった。

(5) 「ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集 郷土愛 ふくしまの未来へ」の授業実践について

「それでも、僕は桃を買う」から

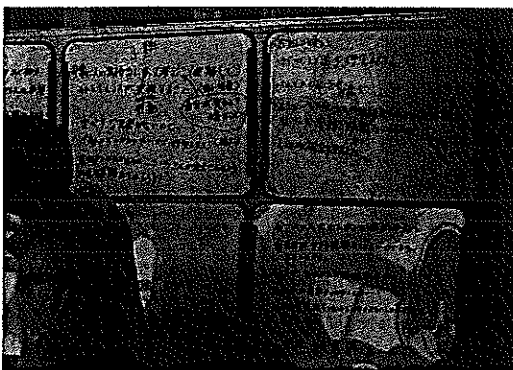
○この資料は生徒の人権作文で、僕(作者)の意見が反映されやすいので、資料を分断して考えさせることにより、自分の考えや意見を引き出せた。導入において価値への方向付けや資料にスムーズに入るためにパワーポイントを利用し時間短縮を行うことができた。視聴覚機器を利用することで集中させることができた。展開後段において、自分ができることを具体的に考えさせるためにお互いの意見の回し読みを行い、時間短縮をねらえた。班長から良い意見を発表してもらった。学級全員が意見の共有を図れたことはよかった。終末でメッセージ性の強いビデオを作成することにより、心に温かい気持ち(勇気)をもたせることができてよかった。

●3学年すべてで行ったが1年生にとっては、難しい資料だった。補助発問の工夫が必要だった。ワークシートは中心発問のみであとはメモ程度にして話し合い活動を中心にした展開にできる資料である。

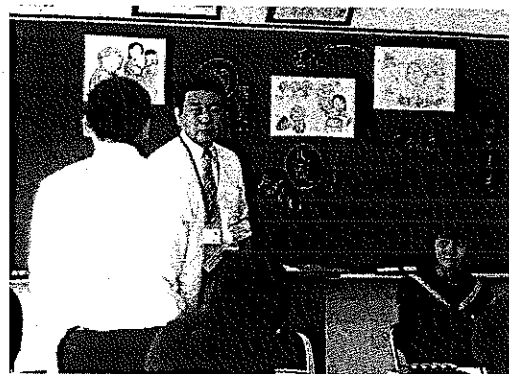
「水道部隊の軌跡」から

○導入でアンケート結果を知らせ、ねらいとする価値への方向付けができた。

○ロールプレイを行うことで生徒がその配役の気持ちや考えに深く入ることができてよかった。中心発問に時間をかけて生徒たちの考える時間を増やすことができた。終末は余韻を残して終わった。



ホワイトボードを使った話し合い



早川先生によるロールプレイの実践

第1学年1組 道徳学習指導案

平成27年 11月6日(金) 第5校時 1年1組教室 授業者 高橋 博幸

- 1 主題名 「差別偏見のない社会」 中心価値 4-(3) 公正公平
- 2 資料名 「それでも僕は桃を買う」 ふくしま道徳資料第Ⅲ集 郷土愛 ふくしまの未来へ
- 3 主題設定の理由

(1) 価値観

公正・公平にするとは、私心にとらわれて事実をゆがめることや、偏ったものの見方・考え方を避け社会的な平等が図られるように振る舞うことである。人はよりよく生きたいという願いから、差別や偏見のない社会にしたいと思う気持ちが強くなる。よりよい社会を実現するためには正義を愛する心が不可欠であり、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢や力を合わせて積極的に差別や偏見をなくす努力が必要である。

(2) 資料観

本資料は、全国人権作文コンテストで内閣総理大臣賞となった中学3年生の作文である。中国生まれで日本育ちの筆者は、夏休みの家族旅行の際、福島県の磐越自動車道のサービスエリアで福島産という理由で桃を買おうとしない親子に出会う。そのことをきっかけに「黙れ。中国人。」という言葉が投げつけられ差別された経験を思い出す。筆者は「他の人をよく知ろうとする姿勢」「他の人を思いやる想像力」が偏見や差別をなくす鍵だと考える。いつかきっと互いを慈しみ合う世界になることを信じて福島の桃を買った。筆者の体験が書かれている作文をもとに身近に差別や偏見が存在していることに気付かせ、自分ができることを考えさせ差別や偏見のない社会を作り上げる思いを考えさせるには有効な資料である。

(3) 指導観

自己中心的な考え方から脱却して公のことで自分とのかかわりや社会の中における自分の立場に目を向け、社会をよりよくしていこうとする気持ちを大切にすることが必要である。「見てみぬふりする」「避けて通る」という消極的な姿勢ではなく、不正を憎み不正な言動を断固として否定する気持ちが育つように指導することが大切である。この世からあらゆる差別や偏見をなくし正義が通り公正で公平な明るい社会の実現に努めるよう指導する必要がある。そのため、本資料を通して一人一人が偏見や差別のない社会を作り上げていこうとする思いを膨らませていきたい。

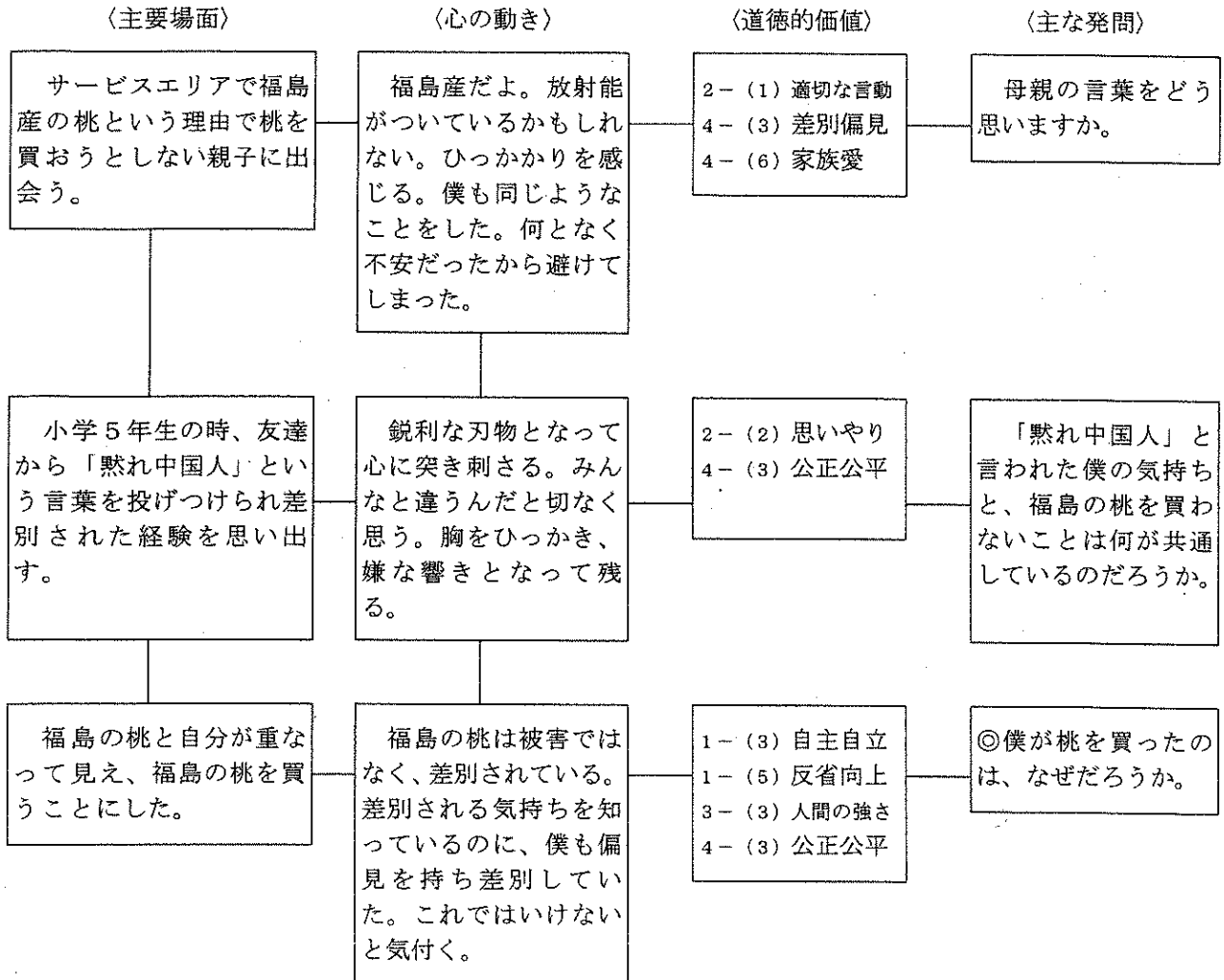
(4) 生徒の実態

- 4-(3) アンケート質問事項(事前と事後に同じアンケートを実施し変容を知る)
- ・不正や差別は許されないと思う・・・許されない(23) 許される(0) どちらともいえない(0)
 - ・自分が差別やいじめを受けたらどうしますか・・・差別した人とけんかする(2)
差別した人にやめろという(4)
我慢する(4) 誰かに相談する(13)
 - ・差別をしている人を見てどんな気持ちになりますか。
 - ・友達が差別やいじめを受けたらどうしますか・・・差別している人とけんかする(0)
差別している人にやめろという(5)
何もしない(0) 誰かに相談する(8)
友達の相談に乗る(10) その他(0)

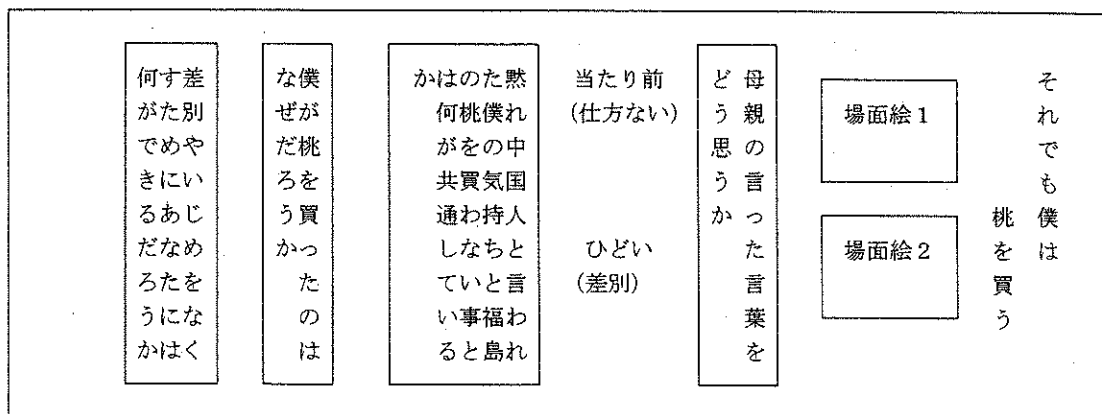
アンケートから不正や差別は許されないと思う生徒は多い。しかし、自分や友達が差別やいじめを受けたらという質問では、相談する生徒は多いが行動を起こして声をあげる生徒が少ない。生徒の中には相手の気持ちを考えずに平気で差別的発言をしたり、中には差別を受けた生徒もいる。また、多くの意見や考えに左右される生徒や自己中心的な考え方や行動をとったりする生徒もいる。差別やいじめを許さないという声や行動を起こす姿勢がとれるようにしていきたい。

- 4 準備物 筆記用具、資料、場面把握時の絵、板書カード、テレビ、パソコン、道徳ワークシート、
- 5 ねらい 根拠のない決めつけや偏見は、悲しみや怒りを覚え、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢がよりよい社会につながり、それを作り上げていこうとする態度を育てる。

6 資料分析図



7 板書計画



8 学習過程

	学 習 活 動	時間	形態	○主な発問	◇予想される反応	・指導上の留意点 □評価
導 入	1 東日本大震災直後の風評被害について話を聞く。	5	一斉	○ 二つの新聞記事を読んでどう思うか発表しよう。 放射能が移ると言われた事例。 席が離された事例。	◇ ひどい。差別だ。言われる気持ちになってほしい。	・ 資料への導入を図るとともに、風評被害を受けた人の気持ちにも簡単に触れる。
展 開	2 資料を読んで考える。 (1) 母親の言った言葉の理由について考える。	10	一斉	○ 母親の言葉をどう思いますか。 補助・・当たり前の行動をとる人が多いのにひっかかりを感じた僕をどう思う。	◇ 放射能で不安な気持ちになるのは母親の立場としては当たり前。仕方ない。 ひどい。差別。お店の人に失礼。営業妨害。	・ 売っている商品は検査を行い安全な商品であることにも触れる。 ・ 意見が偏った場合、他方の考えを話し価値葛藤場面とする。 ・ 根拠のない決めつけであることに気付かせる。
	(2) 勝手な決めつけは怒りや悲しみにつながることを考える。	10	個別	○ 「黙れ中国人」と言われた僕の気持ちと福島の桃を買わないこととは何が共通しているだろうか。	◇ 何も知らないのに傷をつく言葉をかけた。差別的な発言。勝手な決めつけ。	・ その時の僕の気持ちにも触れる。
	(3) 桃を買うことにした気持ちと行動について考える。	10	個別	◎ 僕が桃を買ったのはなぜだろうか。 補助・・差別という嫌な思いをしているのに桃を買った僕をどう思う。	◇ 差別した反省からもう差別しないという強い思いから。間違った考えを正すため。正義感から。差別した人と自分が同じになるから。	・ 「避けて通ること」や「知らないふりをすることが多い」のに桃を買った僕の行動に共感させる。 ・ 行動を起こすことで僕がどんな気持ちになったかも想像させる。
	3 今までの自分を振り返る。	10	グループ	○ 差別やいじめをなくすためにあなたには何ができるだろうか。(具体的に書く)	◇ 思いやりを持って接する。差別やいじめがあったら声を上げてなくす。自分から進んで話し理解する。	□ ワークシートに自分の考えを持てたか。 ・ グループの中で黙読しながら回し読みを行い、お互いの考えを交換し合うようにさせる。
終 末	4 資料の後半部分を読み聞かせる。 5 本時のまとめをする。 福島を応援するTOKIOのCMを見る。	5	個別	・ 福島に恩返しのために無償で応援し行動してくれる人もいる。		・ 僕(筆者)の考えを伝える。 ・ 一人一人のちっぽけな力でも集まれば、社会が動く小さな行動でも大きく動くことを話す。 ・ 余韻をのこして終わる。

第2学年1組 道徳学習指導案

平成27年 11月6日(金) 第5校時 2年1組教室 指導者 佐々木護

1 主題名 「勤労・社会への奉仕」 中心価値 4－(5) 勤労の意義・奉仕の精神

2 資料名 「水道部隊の軌跡」ふくしま道徳資料第Ⅲ集 郷土愛 ふくしまの未来へ

3 主題設定の理由

(1) 価値観

仕事を滞りなく進めるために大切なことは、日々積み重ねてきた技術とそれに伴って培われた自信である。しかし予想を上回る困難に対しては、困っている人の役に立たなくてはならないという奉仕の精神がその困難を乗り越える大きな力となる。

(2) 資料観

東日本大震災時、水道局の事務所長である主人公は大規模な断水と原子力発電所の事故という経験したことの無い困難に直面する。水道局員たちは、見通しの立たない状況の中、限界を感じながらも全力で復旧作業に従事する。未曾有の困難を乗り越えさせたのは仲間との連携や多くの人の協力、地道な作業の積み重ね、水を求めるたくさんの人の期待に応える強い精神であった。仕事にひたむきに取り組むことの大切さと、仕事を通して人の役に立つ奉仕の精神を教えてくれる資料である。

(3) 指導観

勤労の意義や尊さに触れることで、仕事や役割についての大切さと大変さに気づかせ、考えを深めさせる。また困っている人や自分たちの仕事を必要としている人の役に立ちたいという精神が、働くことの力になることに気づかせたい。この授業を通して、仕事に取り組む意識を深めさせ、将来就きたい仕事かどのように他の人に役立つのかを考えさせたい。

(4) 生徒の実態

- ・ 4－(5) アンケート質問事項(事前に行い生徒の仕事に対する意識を把握する)

将来なりたい仕事はありますか。・・・ある22人、ない4人

職業を選ぶ場合どの理由を重視しますか。

1位に選んだ理由の上位項目・・・働く時間がきちんとしていて、自分の生活を楽しむことのできる職業(7人)

自分の個性や能力を活かせる職業(6人)

2位に選んだ理由の上位項目・・・世の中の人々のためにつくせる職業(8人)

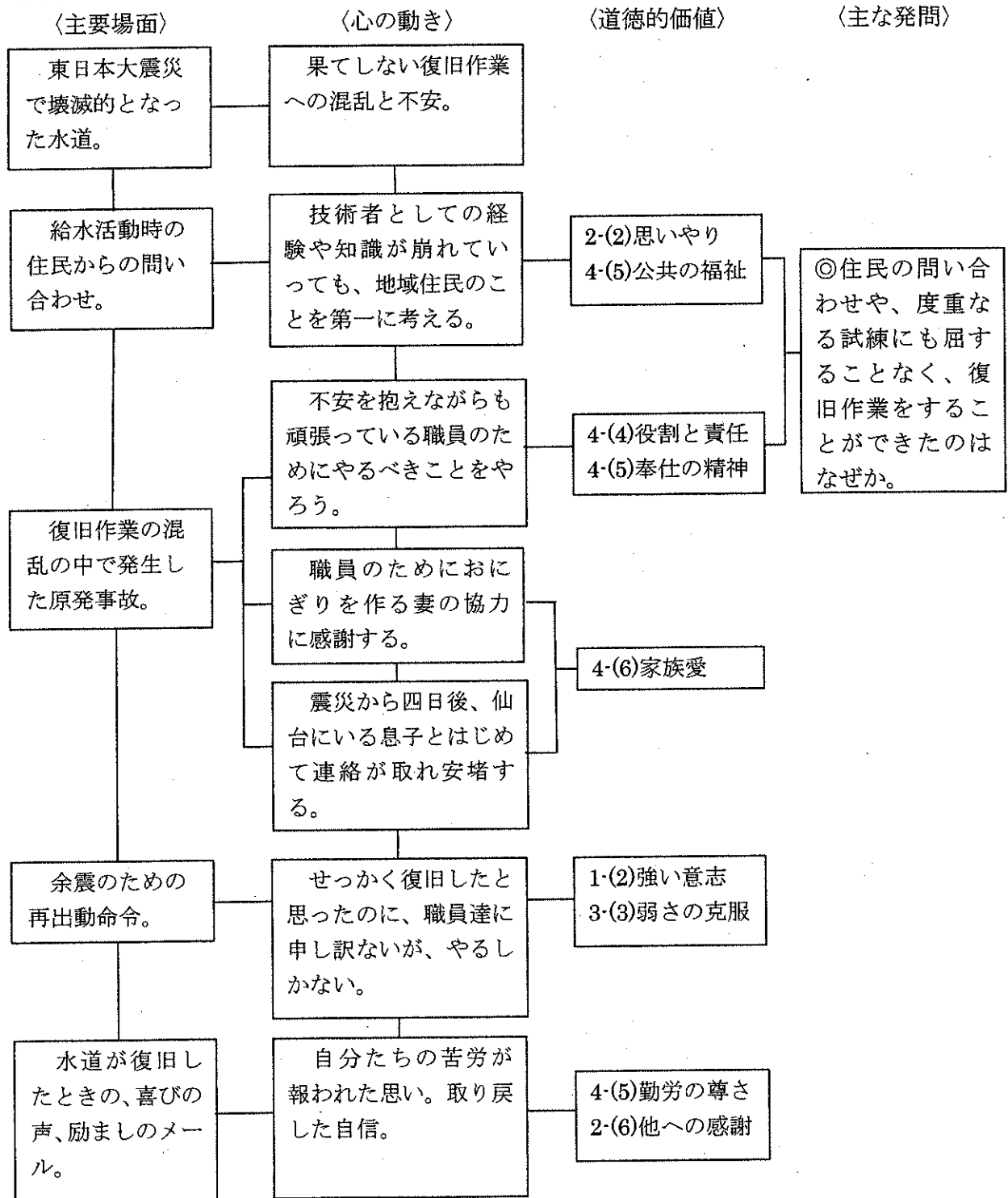
働く時間がきちんとしていて、自分の生活を楽しむことのできる職業(5人)

中学2年生のこの時期、将来について漠然とではあるが働くことに対する関心はある。自分が仕事を選ぶ理由としては、自分個人の特技を活かしたり生活を楽しむことを優先させたりと現実的な考えを持っている。そのような生徒の中にも、世の中の人々のために働くことを希望する生徒も見られる。本資料を通して、自分が考えていること以外にも働くことの意味や喜びがあることに考えを及ばせたい。

4 準備物 筆記用具、読み物資料、場面把握時の資料、道徳プリント、ロールプレイ原稿

5 ねらい どのような困難な状況下でも、仕事に対する真摯な姿勢と他者に対する奉仕の気持ちが重要であることに気づかせ、将来の仕事が他の人とどのように関わっているのかを考える態度を育てる。

6 分析図



7 事前学習

- (1) ライフライン（特に水道）について、仕組み復旧の仕方を学ぶ。
- (2) 資料を読み、断水時にどのような問い合わせが水道局にあるか考える。

8 学習過程

段階	学習活動	時間	形態	○主な発問	◇予想される反応	・指導上の留意点 □評価
導入	1 アンケート結果から仕事を選択する理由を確認する。	5	一斉		◇ 本時の授業内容について、考えをめぐらせる。	・ どのような理由から仕事を選んでよいことに留意させる。
展開	2 事前学習で読んだ資料「水道部隊の軌跡」を振り返り、水道局の人たちが直面した事故について考える。	10	一斉	○ どれくらいの被害があったのだろうか。	◇ 事前学習を振り返り、未曾有のできごとだったことを改めて実感する。	・ 工事現場の写真や資料を提示して参照させる。
	(1) 住民からの問い合わせに対応する所長の気持ちについて話し合う。	10	選抜 一斉	○ 所長はどのような気持ちで住民に対応したのだろうか。	◇ 「きれそうになる」「逃げ出したくなる」など、所長のつらさを実感する。	□ ロールプレイングを通して所長の気持ちと地域住民のつらさに気づくことができたか。 ・ それぞれの役割を把握する時間を確保する。 (実際の職員の受け答えを参考にさせる)
	(2) 原子力発電所の事故や一ヶ月後の余震に対して所長や水道局員がとった行動について考える。	10	一斉	◎ 住民の問い合わせや、度重なる試練にも屈することなく、復旧作業をすることができたのはなぜか。	◇ 「仕事だから」という言葉でまとめてしまう。 ◇ 日頃培った技術だけでなく、奉仕の精神や仲間との連帯感があることに気づく。	・ なぜ「仕事だから」やらなければいけないのかを考えさせる。 □ 仕事以外のことで復旧作業の支えになったことに気づくことができたか。
	3 自分が将来就きたい仕事について願みる。	10	一斉	○ 自分の将来就きたい仕事がどのように他の人に役だっているのか考えて見よう。	◇ 他の人に役立っていることが認識でき、仕事への意識が変化する。	□ 自分が考えている仕事がどのように役立っているかを見つめ直すことができたか。
終末	4 ライフライン以外にも人々を励ました職業の例を挙げ、仕事について考えを深める。	5	個別		◇ 地道な仕事の積み重ねと他の人との関わり の大切さを知る。	・ 勤労・奉仕、公共の福祉が特別なことではないことに気づかせる。

9 板書計画

<p>自分の将来就きたい仕事ができるように他の人に役だっているのか考えて見よう。</p>	<p>他の人々のために役立つ仕事、働く人 ○ やなせたかし…人々に希望と勇気を 与えていた。 ○ パン屋さん …いつかお客さんに恩返しをしたい。</p>	<p>住民の問い合わせや、度重なる試練にも屈することなく、復旧作業をすることができたのはなぜか。</p>	<p>水道部隊の軌跡</p> <p>所長はどのような気持ちで住民の問い合わせに対応したのだろうか。</p> <p>次々と降りかかる試練</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 原子力発電所の爆発 ・ 応援部隊の派遣中止 ・ 工事業者の避難 <p>● 四月十一日の余震</p>
--	--	--	---

教育目標 「燦たる未来」	① 自主	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら判断し行動できる生徒を育成する。 ・意欲的に学ぶ生徒を育成する。 ・学力、体力の向上に努力する生徒を育成する。
	② 感性	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいもの、優れたものに接して、感動し学び取れる豊かな心をもつ生徒を育成する。 ・豊かな感受性を身につけた生徒を育成する。
	③ 敬愛	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい品性を持つ生徒を育成する。 ・思いやりがあり、共に学び、共に活動できる生徒を育成する。 ・他人を敬い、礼儀正しい生徒を育成する。 ・母校や郷土を大切にしている生徒を育成する。

道徳教育の目標
<ol style="list-style-type: none"> (1) 自ら判断し、粘り強く最後までやり通そうとする実践意欲の育成を図る。 (2) 豊かな感性を身につけ、美しいものの優れたものに接し、感動し、学びとれる心の育成を図る。 (3) 人間愛の精神を深め、自分を取り巻く人々に対し、思いやりの心をもって接する態度の育成を図る

道徳教育の基本方針
<ol style="list-style-type: none"> (1) 道徳の時間と各教科等との相互の連携を図りながら、学校教育全体を通して行うことを基本とする。 (2) 道徳の時間における指導では、生徒の実態、興味や関心に応じた資料、教材を活用し、個に応じた指導の在り方を考え、道徳的実践力の育成を図る。 (3) 教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深める中で、道徳性の育成に努める。 (4) 家庭や地域社会との連携を図り、日常生活における基本的な生活習慣から道徳的実践の指導に努める。

道徳教育の重点目標						
<ol style="list-style-type: none"> (1) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ態度の育成を図る。 (2) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ態度の育成を図る。 (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きる喜びを見いだす態度の育成を図る。 (4) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって公共の福祉と社会の発展に努める態度の育成を図る。 						
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">重点指導内容</td> <td style="width: 30%;">A 4 希望、勇気、克己と強い意志</td> <td style="width: 30%;">B 9 相互理解、寛容</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 13 勤労</td> <td>D 22 よりよく生きる喜び</td> </tr> </table>	重点指導内容	A 4 希望、勇気、克己と強い意志	B 9 相互理解、寛容		C 13 勤労	D 22 よりよく生きる喜び
重点指導内容	A 4 希望、勇気、克己と強い意志	B 9 相互理解、寛容				
	C 13 勤労	D 22 よりよく生きる喜び				

学年における道徳教育の重点目標		
第1学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣を身につけることの大切さを自覚し自らを律し生活を正す ・助け合いの精神を重んじ、生活を支えている人への感謝の気持ちをもつ。 ・身近な自然との触れ合い、生命のつながりを自覚して、生命を尊重する心を持つ。 ・人間として最低限の規範意識を身につけ積極的な社会参画の自覚を深める。 <p>A 2 節度、節制 B 6 思いやり、感謝 C 13 勤労 D 19 生命の尊さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が決めた目標をめざし、自分を見つめ自己の向上を図る。 ・人間尊重の精神を基盤に、他者に対して思いやりと寛容の心をもって接する。 ・心の弱さや醜さを克服して、自分に恥じない生き方をする。 ・人間として最低限の規範意識を身につけ積極的な社会参画の自覚を深める。 <p>A 4 希望、勇気、強い意志 B 9 相互理解、寛容 C 13 勤労 D 22 よりよく生きる喜び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より高い目標に向かって粘り強く取り組み理想の実現をめざす。 ・人間尊重の精神を基盤に、他者に対して思いやりと寛容の心をもって接する。 ・身近な自然との触れ合い、生命のつながりを自覚して、生命を尊重する心を持つ。 ・父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。 <p>A 1 自主、自立、自由と責任 B 9 相互理解、寛容 C 14 家族愛、家庭生活の充実 D 21 感動、畏敬の念</p>

学級における道徳教育の基本方針	『道徳の時間』の指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の道徳性の実現の的確な把握に努め、道徳の時間の方針の明確化を図る。 (2) 道徳の時間の特徴に即した指導を通し、人間としてのより良い生き方の指導の実践を行う。 (3) 生徒の発達段階や個に応じた指導方法の工夫を図り、生徒の内面的自覚を深める工夫をする。 (4) 他学年・学級および家庭・地域社会との関連を図る。 (5) 学級担任の特性を生かした指導の実践を行う。 (6) 東日本大震災後の人と人との絆づくり、思いやりの精神をもち将来の自分や地域の復興に向かう態度を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の感じ方、考え方を平素のまま導き、これを思考対象として望ましい方向へ洞察できるようにする。 (2) 主体的、客観的に具体的事象に即し、問題解決を行う思考過程の指導を行う。 (3) 問題事象に関わる人間の欲求や感情を共感的に把握できる指導過程の工夫をする。 (4) 生徒一人ひとりの既成的感じ方、考え方をより望ましい方向へ導く話し合い活動の設定をする。 (5) 学級における教師および生徒の人間関係の望ましい在り方を基礎とした指導をする。

【資料 2-1】 いわき市立小川中学校 道徳教育 全体計画 別集 【第 1 学年】

学校教育目標		「輝たるる未来」 自主 感性 敬愛														
重点内容項目		各 科														
内容価値項目	道徳の時間 道しるべ	月	定番資料	学級活動	特別活動	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	英語	
1	1 自由と責任	10	一番星										情報 材料加工	5 4	生活	6
2	2 節度、節制	12	真実の出来事	暮らさ方								体育全 体感	4 12	食生活	2	
3	3 個性の伸長	4	博士の母からの手紙	学習計画作成 自分を知る	専門委員会			4 9			変化の 姿	ダンス		昼食 生活		
4	4 希望と勇気	1	スミス田蔵三郎	学習目標 作り方	入学式 始業式	桜守三						ダンス				
5	5 克己の探究	2	國府田蔵三郎	生き方	卒業式 始業式			3				ダンス				
6	6 思いやり、感謝	5	はしのうえのおおかみ	友達を知 る	卒業式 中体連選手 社行会	少年の思 い出	1 12					ダンス				
7	7 礼儀	12	足るを知る									ダンス				
8	8 友情、信頼	9	エレンの友達	合唱コン クール	中体連選手 社行会							ダンス				
9	9 相互理解、寛容	11	マキオの決心	男女の違 い								ダンス				
10	10 遵法精神	7	どらめ									ダンス				
11	11 公正、公平	6	見分以下を求めろ									ダンス				
12	12 社会の精神	5	海軍の精神									ダンス				
13	13 勤労	3	まだ事は上がらない	職業とは								ダンス				
14	14 家庭の充実	10	高嶺を前にして									ダンス				
15	15 集団生活の充実	4	帽子はどどに消えた	昇進 委員会	生徒会総会 立会演説会							ダンス				
16	16 郷土の愛	6	故郷を思って	故郷の 基礎知識	総合学習	少年の思 い出	1 12					ダンス				
17	17 我々の誇り	6	アンドロイドの夜			京界	10 6					ダンス				
18	18 国際親善	12	白い坂、赤いれ、黄色い			世界地 理	12 12					ダンス				
19	19 生命の尊さ	7	剪髪少年の浮城									ダンス				
20	20 自然愛護	5	自然に抱かれてこそ									ダンス				
21	21 感動、畏敬の念											ダンス				
22	22 喜び	2	一片のパン									ダンス				

「資料 2-2」 いわき市立小川中学校 道徳教育 全体計画 別業 【第 2 学年】

「輝たる未来」 自主 感性 敬愛

内容価値項目	道徳の時間 通しるべ	月	定番資料	学級活動	特別活動	教科																		
						国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	英語									
1 自由と責任	家庭のできごと	6																						
2 節度、節制	僕のためだけ	4		健康で安全な生活																				
3 個性の伸長	自身を将来に輝かせる	11		学習の個性を自らの個性に	専門委員会																			
4 希望と意思	体れも強くなった	5		希望目標	入学式																			
5 真摯の探究	打ち込むことの大切	3		見守る																				
6 思いやり、感謝	スマイルと真心はタダ	5		仲間関係を大切にする	卒業式 中体連選手 壮行会																			
7 礼儀	ごあいさつのすすめ	4																						
8 友情、信頼	甲子園でアレートがたい	8		合唱コンク	中体連選手 壮行会																			
9 相互理解、寛容	日々の生活の中で育つ私	9		異文化への理解																				
10 遵法精神	守りたいものは	1																						
11 公正正義	自然な身の振る舞い	5																						
12 社会参画	小さな一歩	1		将来をデザインする																				
13 勤労	仕事で学ぶこと	11		職業について																				
14 家庭生活の充実	母の反響	9																						
15 集団生活の充実	伝統の存続	6		井筒織作の伝説	井筒織作 伝説研究会 創立会																			
16 郷土の伝統と文化を愛する態度	桑の都	12		放射線の影響																				
17 我が国の伝統と文化を愛する態度	石の命を大切に	12																						
18 国際親善	大使になった父親	5																						
19 生命の尊さ	狂気を抱いた	7																						
20 自然愛護	見えざるものへの努力	9																						
21 感動、畏敬の念	水たまりの日本画	10																						
22 よりよき生き	あるがままの自分で	6		僕い 輝色のシャープペン																				

【資料2-3】 いわき市立小川中学校 道徳教育 全体計画 別葉 【第3学年】

学校教育目標		「輝たる未来」 自主 感性 敬愛													
重点内容項目		各 科													
内容価値項目	道徳の時間 通しるべ	月	定番資料	学級活動	特別活動	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	英語
1. 自立と責任	自立へのステップ	5				わたしを 愛おまない	2 人権	9					情報		
2. 節度、節制	やればできる 一歩しかない人生一歩しかない人生	4		心身ともに 健康やかに			経済	11				6 生活習慣	情報		
3. 個性の伸長	夏の日々に 夏の日々に	3		学習計画作成 自分を知る	専門委員会		民主政 治	10	4 9		人物画	1 12	情報		
4. 個性の伸長	夏の日々に 夏の日々に	2		学習目標 自分を知る	入学式 始業式	故郷						4 9	情報		
5. 克己の探究	手紙拝啓十五の君へ	5	手紙拝啓十五の君へ	学習目標 自分を知る	卒業式 中体連選手 社行会							4 9	情報		2
6. 思いやり、感謝	二枚のはがき 勇者は泣かぬ	7		友達を知る									情報		
7. 礼儀	日本の心とも言えるもの	11											情報		
8. 友情、信頼	白雲の軌跡 好きと愛すること	10		合唱コンク ール	中体連選手 社行会							11	情報		
9. 相互理解、寛容	短い鉛筆	6		男女の違 い			男女参 画	7				1	情報		
10. 遵法精神 公徳心	フーリガン	1	二冊の手紙 江戸しくも心のマナー			高瀬舟		7							
11. 公正正義 社会正義	梅雨に入った日	3	卒業文集の最後の二行				天権	8					情報		
12. 社会参画 公共の精神	親と縁の落單	2					人権	9					情報		
13. 勤労	一房のぶどう	9		職業とは											
14. 家庭の充実	最後まで輝いて	12	一冊のノート				現代社	6							
15. 集団生活の充実	ナイフとパス 純粋の誇り	5		夏祭りの 準備	生徒会 立会 立会					10		5			
16. 郷土の愛	舌鼓を越えてショパン	10		放駒の 戦		故郷				3					
17. 郷土の愛	舌鼓を越えてショパン	8													
18. 郷土の愛	舌鼓を越えてショパン	10				古典世 待				13					
19. 生命の尊さ	いのちある日を精一杯に	6				生命は							情報		8
20. 自然愛護	南洋のキラ	9											情報		
21. 感動、畏敬の念	薄墨の桜	4													
22. よりよき生き 喜び	小さな出来事	12	足袋の季節			握手						1	情報		

「資料2-4」 道徳教育 全体計画 別業 特色ある教育活動や豊かな体験活動における道徳教育の指導の内容及び時期（教育課程外）

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 学年	入学式A4 (希望、勇気) 始業式A4 (希望、勇気) 生徒会総会C15 (役割と責任の自覚) 発育測定A2 (心身の健康) 対面式B7 (礼儀)	スポーツ大会 B8、C15 (友情、集団向上) 中体連壮行会 B6 (感謝)	中体連 C15 (愛校心) クリューン作戦 C12 (公共の精神)	終業式A3 (反省と向上)	始業式A4 (希望、勇気)	総合全日活動 生徒会役員選挙演説会 C15 (愛校心)	クリューン作戦 C12 (公共の精神) 生徒会総会 C15 (役割と責任の自覚)		終業式A3 (反省と向上)	始業式A4 (希望、勇気)	生徒会役員選挙演説会 C15 (愛校心)	修了式A4 (希望、勇気) 卒業式B6 (感謝)
2 学年	入学式A4 (希望、勇気) 始業式A4 (希望、勇気) 生徒会総会C15 (役割と責任の自覚) 発育測定A2 (心身の健康) 対面式B7 (礼儀)	スポーツ大会 B8、C15 (友情、集団向上) 中体連壮行会 B6 (感謝)	中体連 C15 (愛校心) クリューン作戦 C12 (公共の精神)	終業式A3 (反省と向上)	始業式A4 (希望、勇気)	総合全日活動 生徒会役員選挙演説会 C15 (愛校心)	クリューン作戦 C12 (公共の精神) 生徒会総会 C15 (役割と責任の自覚) 進路説明会 A4 (希望)		終業式A3 (反省と向上)	始業式A4 (希望、勇気)	生徒会役員選挙演説会 C15 (愛校心)	修了式A4 (希望、勇気) 卒業式B6 (感謝)
3 学年	入学式A4 (希望、勇気) 始業式A4 (希望、勇気) 生徒会総会C15 (役割と責任の自覚) 発育測定A2 (心身の健康) 対面式B7 (礼儀)	スポーツ大会 B8、C15 (友情、集団向上) 中体連壮行会 B6 (感謝)	中体連 C15 (愛校心) クリューン作戦 C12 (公共の精神)	終業式A3 (反省と向上)	始業式A4 (希望、勇気)	総合全日活動 生徒会役員選挙演説会 C15 (愛校心)	クリューン作戦 C12 (公共の精神) 生徒会総会 C15 (役割と責任の自覚) 進路説明会 A4 (希望)		終業式A3 (反省と向上) 面接練習 (礼儀)	始業式A4 (希望、勇気)	生徒会役員選挙演説会 C15 (愛校心)	修了式A4 (希望、勇気) 卒業式B6 (感謝)

「資料2-5」

道徳教育 全体計画 別業 家庭地域との連携

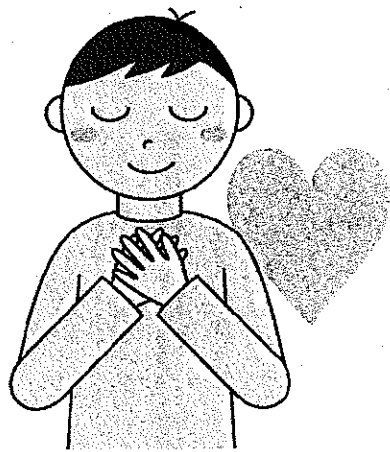
授業参観日、校内研修、公開授業研究会で(計4回)道徳の授業公開を行う。

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 学年	交通安全教室 C10、D19 PTA総会 情報モラル講座 (教育講演会) C10、C11	避難訓練 D19 小中連携協議会		薬物乱用教室 D19 授業参観 (全校道徳授業)		道徳事前研究会 C11	道徳事前研究会 C11	避難訓練 D19 道徳授業公開 C11 三者教育相談 A4	防犯教室 D19			
2 学年	交通安全教室 C10、D19 PTA総会 情報モラル講座 (教育講演会) C10、C11	避難訓練 D19 小中連携協議会		薬物乱用教室 D19 授業参観 (全校道徳授業)		道徳事前研究会 C13	道徳事前研究会 C13	避難訓練 D19 道徳授業公開 C11 三者教育相談 A4	防犯教室 D19			
3 学年	交通安全教室 C10、D19 PTA総会 情報モラル講座 (教育講演会) C10、C11	避難訓練 D19 小中連携協議会		薬物乱用教室 D19 授業参観 (全校道徳授業)		道徳事前研究会 B6	道徳事前研究会 B6	避難訓練 D19 道徳授業公開 C13 三者教育相談 A4	防犯教室 D19			

道徳教育 全体計画 評価計画

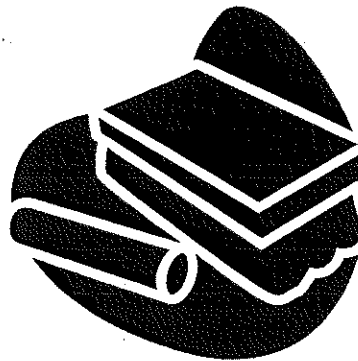
学年及び学校全体で、計画の実施状況や効果の程度を学期ごとに評価を行う。年1回生徒・保護者・教員に対して道徳アンケートを実施する。

	1 学期	2 学期	3 学期
道徳の時間の指導	道徳の時間の生徒の様子や資料をポートフォリオ化した評価の一つにする。	道徳の時間の生徒の様子や資料をポートフォリオ化した評価の一つにする。	授業における生徒の様子や効果的な資料について検討し来年度に向けまどめを行う。
道徳教育の推進体制	道徳教育推進教師を中心に年間指導計画を基に実施状況を確認する。	道徳教育推進教師を中心に年間指導計画を基に実施状況を確認する。	道徳教育推進教師を中心に年間指導計画を基に実施状況を確認し次年度へ反映させる。
各教科における道徳教育	道徳教育推進教師を中心に学年会等で各教科との連携を図る。	道徳教育推進教師を中心に学年会等で各教科との連携を図る。	道徳教育推進教師を中心に学年会等で各教科との連携を図る。
特色ある教育活動や豊かな体験活動における道徳教育	活動後に感想をとるなど取り組みの評価を行う。	活動後に感想をとるなど取り組みの評価を行う。	活動後に感想をとるなど取り組みの評価を行う。
学級経営	生活ノート(3.6.5)や二者面談(教育相談)日頃の発言態度等を通して心情について把握し評価を行う。(通知表生活行動面所見)	生活ノート(3.6.5)や二者面談(教育相談)日頃の発言態度等を通して心情について把握し評価を行う。(通知表生活行動面所見)	生活ノート(3.6.5)や二者面談(教育相談)日頃の発言態度等を通して心情について把握し評価を行う。(通知表生活行動面所見)



【資料】

- 「ふくしま道徳教育推進プラン」
- 道徳教育推進校の役割について
- 道徳教育実施状況調査
- 道徳だより「道徳のかけ橋」第6～8号



【課題】

学習指導要領に基づき、今後は、学校の道徳教育の充実に加え、保護者、地域を巻き込んだ道徳教育の推進が求められている。

【目的】

大震災等を経験した本県だからこそ、子どもたちに「命の大切さ」「家族や地域の絆」「他人への思いやり」「郷土を愛する心」等を育むため、学校の道徳教育の充実を図るとともに、保護者、地域を巻き込んだ道徳教育を推進していく。

**道徳教育
リーフレットの
作成・配布**

- ◆ 学校だけでなく、保護者や地域を巻き込んだ道徳教育の充実に向けリーフレットを配布し、県教育委員会や学校の取組を広く発信する。
- 年2回配布
- 教職員・保護者等を対象

**「モラル・エッセイ」
コンテスト**

- ◆ 県民参加型の道徳教育を推進するため、心温まるエッセイを募集し、道徳教育の資料として活用する。
- 年1回開催



福島県道徳教育推進協議会

- ◆ 福島県の道徳教育の充実を図るため、本事業の実施を含め、本県の課題を明らかにしながら必要な指導助言を行う。
- 年2回開催(5月・2月)
- 構成員 学識経験者、学校関係者(小・中教研道徳部長、高等学校代表)、県教委、教育事務所、教育センター、担当指導主事等

地区別推進協議会

- ◆ 学校、家庭・地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための協議を行い、成果を普及する。
- 参加対象
 - 各地区の小中高特別支援学校の道徳教育推進教師等
 - 保護者、地域住民、関係機関等
- 各地区1回開催
- 内容
 - 「道徳の時間」の授業研究会
 - 学識経験者等の講義・演習
 - 推進校の実践報告等
 - 地区の実態に応じた協議等



推進校による実践研究

- ◆ 学校、児童生徒等の実態を踏まえ、道徳教育に関するテーマを設定し、実践研究を行う。
- 研究内容
 - 研究テーマの設定
 - 全体計画・年間計画等の検討
 - 道徳教育推進教師の役割の検討
 - 道徳の時間の授業公開
 - ふくしま道徳教育資料集の活用
 - 先進校等への視察
 - 成果報告と普及への協力
 - 地区別推進協議会での実践発表等



**ゲストティーチャー
の派遣**

- ◆ 教室、職員室にゲストティーチャー(外部講師)を派遣し道徳教育の充実を図る。
- ゲストティーチャーとともに授業を行う。ゲストティーチャーから道徳教育に関する講演等を聞く。

教員の指導力向上

- ◆ 教員の道徳教育に関する指導力向上を図る。
- 授業力向上に向けた研修
 - 道徳中央研修
 - 道徳教育実践講座
 - 教育セミナー
 - 道徳たより

ふくしま道徳教育資料集の配布・活用

- ◆ 福島県ならではの教育を進めるため、「生きぬく」のち「敬愛・つながる思い」「郷土愛・ふくしまの未来へ」の全3集を配布し、活用促進を図る。
- 県内小中全学網へ配布 ■ 活用例の紹介



道徳教育推進校の役割について

福島県教育委員会

福島県では、平成24年度から地域に根ざした道徳教育推進校を設定しています。推進校は次のような活動を行います。

- 1 推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究の推進をする。
 - 2 推進校は、ゲストティーチャー（教室GT）を活用して、児童生徒に魅力的な「道徳の時間」を提供する。
 - 3 推進校は、ゲストティーチャー（職員室GT）とともに、校内研修会を開催し職員研修の機会を確保する。
 - 4 推進校は、域内の各学校へ道徳教育を公開し、推進校として道徳教育に関する情報を発信する。
 - 5 推進校は、自校の取組を依頼された様式に従って義務教育課へ報告する。
- なお、ゲストティーチャーへの申請、経費にかかる事務手続きは県教育委員会（各教育事務所）が行います。

実践研究内容

- 研究テーマの設定・・・学校における今年度の重点を核として1年間のテーマを設定。
- 校長の指導の方針の明確化・・・年度当初に「指導の方針」を周知したときの資料を提出。
- 全体計画・年間指導計画の提出・・・年度初めと教育課程の編成後に改訂したものをセットで提出。
- 道徳教育推進教師の実践報告・・・年間を通じて道徳教育推進教師として取り組んだ事例を報告。
- 道徳の時間の授業公開・・・保護者や地域への公開授業を開催。
- ふくしま道徳教育資料集の活用・・・実践例を紹介。
- 地区別推進協議会等での実践発表・・・地区別推進協議会で中間報告。
- 1年間の成果の報告と普及への協力・・・道徳教育推進校報告書の作成。

- 1年間の研究推進校です。県内7地区に1校ずつ、小・中・高等学校の中から推進校を設定します。
- 推進校の実践した研究成果は「道徳教育推進校報告書」にまとめ、県内の広く発信します。
- 推進校の関係者は、県道徳教育推進協議会に出席（年2回）し、他地区の推進校と情報交換しながら1年間の研究推進を行います。

さらに、県教育委員会が魅力的なゲストチャーチャーを派遣します。

道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

■ 推進校へゲストティーチャーを派遣

① 教室（道徳の時間）にゲストティーチャーを派遣する。

- 県教育委員会が各小・中学校の「道徳の時間」及び高等学校の「ホームルーム活動の時間」に魅力的な人材を派遣して、一緒に道徳の授業を行う。授業の実施過程において、道徳教育推進教師としての役割や道徳教育についてのあり方や高等学校における道徳教育の方策等を実践レベルで提案することを目的とする。

② 職員室（校内研修）にゲストティーチャーを派遣する。

- 県教育委員会が道徳教育に係る教員研修を希望する学校の職員室へ講師を派遣する。全職員で道徳教育を推進するために、学識経験者や道徳教育実践者を交えて、校内研修の充実を図る。

道徳だより
道徳のかけ橋

第6号～8号



道徳のかけ橋

平成27年10月6日発行
第 6 号
福 島 県 教 育 庁
義 務 教 育 課

「特別の教科 道徳」

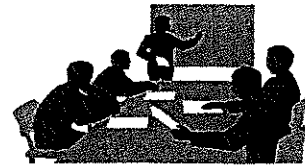
道徳の新たな枠組みによる教科化をめぐる一連の審議等を経て、今年3月27日に学校教育法施行規則が改正され、今までの「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」(以下「道徳科」)とすることと、学習指導要領の一部改正の告示が公示されました。

また、同日、文部科学省事務次官名で、公示とともに道徳科の移行措置等についても通知がありました。

そこで、今回は、小学校では平成30年(中学校では平成31年^(注1))から施行される道徳科について、これまでの経緯を中心に考えていきたいと思います。



これまでの経緯



H12.12.22

教育改革国民会議報告

—教育を変える17の提案—

人間性豊かな日本人を育成する

学校は道徳を教えることをためらわない

学校は、子どもの社会的自立を促す場であり、社会性育成を重視し、自由と規律のバランスの回復を図ることが重要である。

H19.6.19

経済財政改革の基本方針2007

～「美しい国」へのシナリオ～

心と体の調和のとれた人間形成

すべての子どもたちに高い規範意識を身に付けさせる取組

徳育を教科化し、現在の「道徳の時間」よりも指導内容、教材を充実させる。

H20.1.31

教育再生会議

～教育再生の実効性の担保のために～
心身ともに健やかな徳のある人間を育てる

徳育を「教科」として充実させ、自分を見つめ、他を思いやり、感性豊かな心を育てるとともに人間として必要な規範意識を学校でしっかり身に付けさせる。

H25.2.26

教育再生実行会議

いじめ問題等への対応について(第一次提言)
いじめの問題が深刻な事態にある今こそ、制度の改革だけでなく、本質的な問題解決に向かって歩み出さなければなりません。

道徳教育の重要性を改めて認識し、その抜本的な充実を図るとともに、新たな枠組みによって教科化し、より良く生きるための基盤となる力を育てることが求められます。

H25.12.26

道徳教育の充実に関する懇談会

今後の道徳教育の改善・充実方策について
現行学習指導要領の考え方は、今後とも重要であり、引き続き維持していくことが適当であるが、今なお多くの課題が存在している。

道徳教育の改善を図るため、道徳の時間を「特別の教科 道徳」(仮称)として新たに位置付けることが適当と考える。

本懇談会で指摘された課題

- ・ 歴史的経緯に影響され、道徳教育そのものを忌避しがちな風潮がある。
- ・ 道徳教育の目指す理念が関係者に共有されていない。
- ・ 道徳の時間に何を学んだか印象に残るものになっていない。
- ・ 他教科に比べて軽んじられているのではないか。

H26.2.17 中央教育審議会へ諮問

H26.10.21 答申 ※「道徳のかけ橋第3号」参照

(注1) ここでの小学校は小学校及び特別支援学校小学部を、中学校は中学校及び特別支援学校中学部を指す。

H27.3.27

学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定、小学校学習指導要領の一部を改正する告示、中学校学習指導要領の一部を改正する告示及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示の公示並びに移行措置等について(通知)

H27.7.3

学習指導要領解説
小(中)学校 総則編
小(中)学校 特別の教科 道徳編
HPに掲載

「特別の教科 道徳」

具体的なポイント

- 道徳科に検定教科書を導入^(注2)
- 内容について、いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善
- 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫^(注3)
- 数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握^(注4)

「考え、議論する」道徳科への転換により、児童生徒の道徳性を育む

「特別の教科 道徳」 Q & A



道徳の教科化は、ここ数年で急速に進められたのではなく、じっくりと検討を重ねられてきたことがわかりました。そこで、移行措置について教えてください。

今年3月27日に出された文部科学省の通知「2 移行措置の概要」には、小(中)学校の教育課程の編成及び指導について、小学校及び中学校学習指導要領の各規定に関わらず、その全部または一部について、改正後の小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の各規定によることができることとあります。

また、「3 留意事項等 (2)」には例として指導方法の工夫を取り上げ、その実施に向けて積極的に取り組むことが望まれるとの記述があります。



平成28年度の教育課程には「道徳科」と記載するのでしょうか。

教育課程上の位置付けは今まで通り「道徳」です。「道徳科」としての位置付けは平成30年(中学校は31年)からになるので、注意してくださいね。



道徳科の特質を生かした学習指導過程や指導方法を工夫する際、必要なことは何ですか。

読み物教材の登場人物の心情理解を指導の中心にする「読み物道徳」から、問題解決型の学習や体験的な学習を通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び実践へと結びつけ、更に習慣化していく指導へと転換する必要があります。



(注5)

(注2) 平成27年9月30日 道徳の教科化に伴い改正した教科書検定基準等を告示。改正された検定基準は、小学校は平成28年度、中学校は29年度に実施される検定から用いられる。

(注3) 文部科学省は、専門家会議を設置し、具体的な教育実践を踏まえながら、問題解決的な学習を全国の一つ一つの教室でいかに展開するかという観点から教師用指導資料を作成、配付する。

(注4) 文部科学省において、「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」を設置し、今年6月15日より道徳教育の評価の在り方や指導要録の具体的な改善策等について検討が進められている。

(注5) 初等教育資料9月号臨時増刊より

道徳のかけ橋

平成27年12月3日発行
第 7 号
福 島 県 教 育 庁 課
義 務 教 育 課

「特別の教科 道徳」



これまで、わかりにくいと指摘されてきた「道徳教育」の目標と「道徳の時間」の目標でしたが、この度の学習指導要領の改正でとてもわかりやすく整理されました。

道徳教育に関すること

「第1章 総則」へ

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童（生徒）の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己（人間として）の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

※（ ）内は、中学校

道徳科に関すること

「第3章 特別の教科 道徳」へ

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため**、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**^{*1}

*1 これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。（小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 P19、同 中学校 P17より）

最終的には、どちらも「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」が目標である

内容について



今まで示していた四つの視点は基本的に引き継ぎますが、内容項目をAからDまでのまとまりで示し、その順序は、児童生徒にとっての対象の広がり即して、今までの「3」と「4」を入れ替えました。

1. 主として自分自身に関すること
2. 主として他の人とのかかわりに関すること
3. 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること

- A. 主として自分自身に関すること
- B. 主として人との関わりに関すること
- C. 主として集団や社会との関わりに関すること
- D. 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

なお、内容項目に記されている番号は、小学校内においても、小学校と中学校においても対応していません。指導案等に記入する場合は、「親切、思いやり」（小学校）や「思いやり、感謝」（中学校）などの、「第2節 内容項目の指導の観点」（学習指導要領解説 特別の教科 道徳編）に付記された内容を端的に表す言葉を使用します。

「特別の教科 道徳」Q & A



「特別の教科 道徳」の実施に向け学校ではどんなことを行えばよいのでしょうか。



はい。各学校においては、次の6つのことをお願いします。

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

- ① 学校の道徳教育の目標を明確化
- ② 学校の重点内容項目の明確化と重点内容項目に関わる具体的な指導の機会と時期の明確化
- ③ 学校の道徳教育の全体計画及び別葉の作成
- ④ 道徳の授業の確実な実施
- ⑤ 道徳の授業における児童生徒の学習状況の把握
- ⑥ 家庭や地域社会との連携

道徳の教科化を見すえた授業をするために



道徳の教科化を見すえて授業をするとき、どんなことに気を付ければよいのですか。



授業では、子どもたちが道徳的価値に関わる考え方や感じ方を交流することで自己を見つめ、自己（人間として）^{*2}の生き方についての考えを深めることが大切です。

*2 ()内は、中学校

そのためには、教師と子どもたちの信頼関係や子どもたち相互の人間関係を育て、一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中でのつくり出すことが大切です。そこで、今回は、10月に行われた福島県小学校教育研究協議会での授業を紹介します。

平成27年度 福島県小学校教育研究協議会
道徳研究部会 福島地区大会
福島市立森合小学校1年1組
菅野朱美先生の授業から見てきたこと

- ◆ 主題名 相手の気持ち 親切、思いやり
- ◆ 教材名 にじいろのさかな ～しましまをたすける～

(マークス・フィスター作 『にじいろのさかな』講談社)



授業が始まる前から、1年1組の教室には、子どもたちの明るい笑顔と元気な声があふれていました。とは言っても騒々しさは全くなく、これから学びに向かうという学習の構えがしっかりとできていたのです。

授業の始めから終わりまで、子どもたちは自分の考えを自分の言葉で表現していました。次から次へと手が挙がり、一人一人がそれぞれ違った表現で、自分の考えを、友達と先生に一生懸命伝えていました。話している友達の顔を見ながら話を聞いている子が多く、発言はどんどんつながっていきました。

その間、菅野先生は、子どもたちに温かいまなざしを向け、終始笑顔で子どもたちの声を受けとめていました。なんでも言える安心感、受容し認めてもらえる喜び、自分の考えを聞いてそれにしっかり応えてくれる友達。

授業は学級経営と深く関わっており、教師と子どもたちそれぞれの信頼関係に基づく温かい人間関係が基盤になること、そしてこのことが心の交流につながり指導の効果を発揮することを再確認した45分でした。

道徳のかけ橋

平成28年3月16日発行
第8号
福島県教育庁課
義務教育

「道徳教育推進状況調査結果」



2学期末に実施した道徳教育推進状況調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。自校の道徳教育の充実に向けて参考にしてください。

福島県道徳教育実施状況調査(概要)

平成27年12月22日現在

調査項目	回答	小学校	中学校	全体
ふくしま道徳教育資料集活用の有無	活用した。(活用予定も含む)	86.5%	81.4%	84.9%
	これから活用する予定である。	13.5%	18.6%	15.1%
	活用する予定はない。	0.0%	0.0%	0.0%
ふくしま道徳教育資料集活用場面(複数回答)	道徳の時間に活用した。	98.5%	96.4%	97.8%
	道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	21.2%	7.2%	16.6%
	家庭で活用した。	4.0%	2.7%	3.6%
	その他(3.11震災追悼日に活用予定等)	0.2%	2.7%	1.0%
ふくしま道徳教育資料集に取められた「資料」の活用の仕方(複数回答)	そのまま活用した。	91.6%	86.4%	89.9%
	部分的に活用した。	32.0%	26.2%	30.1%
	改作して活用した。	1.5%	7.7%	3.6%
道徳の授業参観(公開授業・保護者向け授業参観)	実施した。(今年度中の実施予定を含む)	99.8%	89.1%	95.7%
	実施する予定はない。	0.2%	10.9%	3.7%
	その他(次年度予定等)	0.0%	1.8%	0.6%
家庭や地域社会との連携による道徳の指導(複数回答)	保護者が授業に参加した。	41.3%	11.8%	31.6%
	地域の人々が授業に参加した。	14.8%	6.3%	12.0%
	保護者や地域の人々以外(ゲストティーチャー)を招き実施した。	22.5%	21.7%	22.3%
	実施する予定はない。	23.0%	48.9%	31.5%
	その他(保護者の手紙を活用等)	8.4%	13.1%	9.9%
「私たちの道徳」の活用状況(複数回答)	道徳の時間に活用した。	99.1%	98.6%	99.0%
	道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	49.9%	16.7%	39.0%
	家庭に持ち帰らせた。	50.1%	29.9%	43.5%
「私たちの道徳 活用のための指導資料」の活用状況(複数回答)	全学級に配当している。	89.8%	86.4%	88.7%
	活用している。(過半数以上)	47.5%	38.9%	44.7%
	活用していない。	2.4%	2.3%	2.4%
道徳教育全体計画の「別業」作成状況	作成した。(今年度作成予定を含む)	97.6%	92.7%	96.0%
	作成する予定はない。	1.1%	2.3%	1.5%
	その他(活用予定等)	1.3%	5.0%	2.5%
道徳教育全体計画の「別業」活用の有無	成果や課題などを記入して活用している。	13.5%	6.3%	11.2%
	記入はしていないが確認をするなどして活用。	65.1%	64.3%	64.8%
	活用していない。	18.5%	26.7%	21.2%
	その他(今後活用する予定)	2.9%	2.7%	2.8%
道徳教育の全体計画に「いじめ防止対策推進法」を関係法令として位置付けている(明示)	明示している。	42.8%	36.7%	40.8%
	明示していない。	57.2%	63.3%	59.2%
道徳の時間の指導体制(複数回答)	校長先生が参加した。	37.7%	17.2%	31.0%
	教頭先生が参加した。	28.3%	14.0%	23.6%
	担任以外の教職員が参加した。	41.5%	69.2%	50.6%

「ふくしま道徳教育資料集」と「私たちの道徳」は、昨年度よりも活用する学校が増えました。また、道徳の時間に校長先生や教頭先生、保護者、地域の人々が参加する学校もみられ、様々な連携を図るとともに指導体制を工夫している様子がうかがえます。

「私たちの道徳 活用のための指導資料」の活用は過半数に満たない状況ですが、活用例も載っておりますのでご活用ください。

～ 道徳教育全体計画の別葉について ～

今回実施した福島県道徳教育実施状況調査によると、ほとんどの学校で道徳教育全体計画の別葉*1を作成しており、道徳教育への意識が高いことがうかがえました。

別葉は、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容・時期・家庭や地域社会との連携の方法等を示したものです。

この別葉は、各学校が重要内容項目と位置付けたものを中心に作成していくことで、学校教育全体のいつ、どこで、どの内容項目を指導するのが明らかになります。これら各教科等における道徳教育を「道徳の時間」の授業で計画的、発展的に補充、深化、統合することで、効果的な指導が期待できます。

別葉の作成にあたっては網羅的になることは避け、各学校の道徳教育の目標を明確化し自校の重点内容項目に沿って焦点化させていくことが大切であるとともに、その活用を図ることが重要です。

別葉を目に見える場所におき（個人で・または学年で）、内容項目をチェックする（色付けする）ことから始めてみてはいかがでしょうか。



「道徳のとびら」を発行しています！



今年度、小・中学生のお子さんをもつ保護者と教職員の皆様を対象にした道徳教育リーフレット「道徳のとびら」を発行しました。

このリーフレットでは、学校での道徳教育の様子や教科化に向けた動向などをわかりやすくお知らせしています。

道徳教育を進める上で、学校・家庭・地域社会との連携は大切です。本リーフレットで県内の道徳教育について周知していくことで、保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら、学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちの豊かな心を育てていくことをめざしています。

ふくしま道徳教育資料集【補訂版】配布！

平成24年から作成が始まった「ふくしま道徳教育資料集」は、毎年1集ずつ発行し、昨年には第3集とともに全3集を発行しました。

この度、改正学習指導要領に準拠した「補訂版」が完成し、県内の小中・高等学校の全学級に配布したところです。

本資料集の作成にあたっては、これまで多くの作成委員の方々が検討を重ねてきました。道徳教育はもとより、震災の記録集、そして、震災後の本県の実情を伝える資料にもなるものです。

これまで各学校1冊の配布でしたが、今年度、全学級に配布しましたので、本資料集の更なる活用をお願いします。

なお、各学校には、学級数に加えて10部ほどお届けしました。図書室等に置いていただき、読み物としてご活用ください。本資料集に収められた数々の教材*2を読んだあとに、胸にわきおこるものがあることと思います。

また、本資料集は、県内はもとより、全国46の自治体及び都道府県立図書館、全国の各市町村教育委員会にもお届けしています。震災を経験した福島子どもだからこそ、思いやりのある心豊かでたくましい人間に成長してほしいという思いを込めた福島ならではの道徳教育を全国に発信しています。

平成24年より本資料集の作成に関わられた多くの皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



ふくしま道徳教育資料集 全3集



*1別葉 現行の学習指導要領解説(「第4章 道徳の指導計画」の「第2節 道徳教育の全体計画」の「2 全体計画の内容」)

*2教材 道徳の教材については、これまで「資料」と表記していたものも含め、改正学習指導要領では全て「教材」と表記しております。

なお、「ふくしま道徳教育資料集」(下線部)は固有名詞であることから、教材集ではなく資料集とし、名称変更は行っておりません。



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

平成28年3月17日 印刷
平成28年3月31日 発行

福島県教育委員会
